

CONFIGURATION MANUAL

Version 15.3 - December 2017











免責事項

本マニュアルは、オリジナルマニュアルXT3_configman_15.3.pdfの理解の補助用に作成されています。 本マニュアルの内容は、予告なく変更することがあります。

本マニュアルは、正確/最新/信頼できるように注意を払い作成しておりますが、株式会社フォトロンは本マニュア ルの内容/品質については如何なる保証も行っておらず、間違い/エラーおよびそれらが原因となり発生した損失 や損害については一切責任を負いません。

著作権

本マニュアルは、XT3_configman_15.3.pdfの日本語翻訳版です。 本マニュアルの著作権は、株式会社フォトロンに帰属します。

商標

すべての製品およびブランド名は、EVS、または、各所有者の商標または登録商標です。

改良要求

本マニュアルの内容に間違いがあれば、株式会社フォトロンまでご連絡下さい。 より良いマニュアル作成のために、ご協力お願いします。





目次

目次		-005
新着情	報	-009
1. 序文		-011
	1.1. EVSサーバー設定の序文	-011
	1.2. マニュアル序文	-014
	1.3. EVSサーバーの起動	-015
	1.4. Webベースインターフェースへのアクセス	-016
2. Multic	cam Setup	-017
	2.1. ユーザーインターフェース概要	-017
	2.1.1. Setupエリア概要	-017
	2.1.2. ナビゲーションとコマンド	-020
	2.2. コンフィグライン	-022
	2.2.1. 各章の内容	-022
	2.2.2. コンフィグの起動	-022
	2.2.3. コンフィグラインの編集	-024
	2.2.4. コンフィグラインの名前変更	-025
	2.2.5. コンフィグラインのインポートとエクスポート	-026
	2.2.6. コンフィグラフインの位置の変更	-029
	2.2.7. コンフィグラインのコピー/ペースト/削除	-030
	2.3. サーバーパラメータ	-031
	2.3.1. 章の内容	-031
	2.3.2. サーバーのFacility Name (固有名)の割り当て	-031
	2.3.3. パスワード保護を有効/無効にする	-032
	2.3.4. サーバーPC LAN接続の設定	-034
	2.3.5. サーバー日付と時間の設定	-035
	2.3.6. サーバーRaidの設定	-036
	2.4. ライセンスとメンテナンス	-038
	2.4.1. オプションコード管理の概要	-038
	2.4.2. Options Codes Managementウィンドウ	-039
	2.4.3. ライセンスコードの入力と削除	-041
	2.5. サーバーメンテナンス	-043
	2.5.1. 章の内容	-043
	2.5.2. Re(b)oot:EVSサーバーのリブート	-043
	2.5.3. (H)ardware check: ハードウェアチェック	-044
	2.5.4. (C)lear video disks:クリアビデオディスク	-048
	2.5.5. Clear only record trains:レコードトレインのクリア	-050
	2.5.6. Import/export (k)eyword files:キーワードファイルのインポート/エクスポート	-052
	2.5.7. E(x)port log files: ログファイルのエクスポート	-053

V	
055	

3.	サポートしているコンフィグ	-055
	3.1. 一般的な原則	-055
	3.1.1. サポートしているコンフィグについて	-055
	3.1.2. RECORDとPLAYチャンネルについて	-056
	3.1.3. 拡張コンフィグについて	-058
	3.1.4. チャンネル割り当ての原則	-059
	3.2. SD/HD標準コンフィグ	-063
	3.2.1. SD/HDコンフィグ (4U)	-063
	3.2.2. SD/HDコンフィグ (6U)	-067
	3.3. SLSMコンフィグ	-071
	3.3.1. スーパーモーションコンフィグの一般的な情報	-071
	3.3.2. SLSMコンフィグ (4U)	-073
	3.3.3. SLSMコンフィグ (6U)	-087
	3.4. 3Dコンフィグ	-107
	3.4.1. 3Dコンフィグの一般情報	-107
	3.4.2. 3D標準コンフィグ (4U)	-108
	3.4.3. 3D標準コンフィグ (6U)	-109
	3.4.4. 3D SLSMのチャンネル割り当て原則	-111
	3.4.5. 3D SLSMコンフィグ (4U)	-112
	3.4.6. 3D SLSMコンフィグ (6U)	-114
	3.5. 1080pコンフィグ	-117
	3.5.1. 1080pコンフィグの一般情報	-117
	3.5.2. 1080p標準コンフィグ (4U)	-119
	3.5.3. 1080p標準コンフィグ (6U)	-121
	3.5.4. 1080p SLSMのチャンネル割り当て原則	-124
	3.5.5. 1080p SLSMコンフィグ (4U)	-125
	3.5.6. 1080p SLSMコンフィグ(6U)	-132
	3.6. UHD-4Kコンフィグ	-141
	3.6.1. UHD-4Kコンフィグの一般情報	-141
	3.6.2. UHD-4Kコンフィグ(4U)	-143
	3.6.3. UHD-4Kコンフィグ(6U)	-144
	3.6.4. UHD-4K SLSMコンフィグ(6U)	-146

4. Multicamコンフィグ	-149
4.1. ユーザーインターフェース概要	-149
4.1.1. 序文	-149
4.1.2. Multicam Configurationウィンドウ概要	-151
4.1.3. Multicam Configurationウィンドウ内の画面操作と編集	-154
4.1.4. LSMリモコンのSetupメニュー概要	-156
4.1.5. LSMリモコンのSetupメニューの参照と編集	-157
4.1.6. アプリケーションのリブートが必要な時	-158
4.2. Serverタブ	-159
4.2.1. 概要	-159
4.2.2. ビデオコーデックとリファレンス	-160
4.2.3. Phase Definition (位相調整)設定	-179
4.2.4. Interpolation(補間)設定	-180
4.2.5. PC LAN設定	-181

GURATION MANUAL XT3 Server 15.3	Issue 15.3.C – December 2017	=V5
4.3. Channelsタブ		-182
4.3.1. 概要		-182
4.3.2. Channels		-184
4.3.3. オーディオ		-205
4.3.4. タイムコードとデータ挿入		-228
4.4. Networkタブ		-235
4.4.1. 概要		-235
4.4.2. SDTI設定		-236
4.4.3. Gigabit Connection		-238
4.4.4. Gigabit IP Configuration		-240
4.4.5. Gigabit Prioritization設定		-242
4.5. Monitoringタブ		-244
4.5.1. 概要		-244
4.5.2. Multiviewer設定		-245
4.5.3. OSD設定		-250
4.5.4. Monitoring設定		-252
4.5.5. OSD表示設定		-254
4.6. Protocolタブ		-255
4.6.1 概要		-255
4.6.2. RS422 Protocols設定		-257
4.6.3. クリップ識別子		-258
4.6.4. Sony BVW設定		-259
4.6.5. EditRec		-260
4.6.6. Tally機能		-266
4.6.7. Tally/UMD設定		-268
4.6.8. RS422 VarID設定		-270
4.7. GPIタブ		-273
4.7.1. 概要		-273
4.7.2. GPI Settings		-274
4.7.3. Tally Playlist設定		-278
4.8. Operationタブ		-280
4.8.1. 概要		-280
4.8.2. OSD設定		-284
4.8.3. Audio meters OSD設定		-286
4.8.4. Clips設定		-287
4.8.5. Playlist設定		-292
4.8.6. Timeline設定		-297
4.8.7. Protection設定		-298
4.8.8. Keywords設定		-300
4.8.9. Push設定		-302
4.8.10. Audio設定		-305
4.8.11. EVS controller設定		-307
4.8.12. Hypermotion管理		-312
4.8.13. Hypermotion controller設定		-314
4.8.14. Special effects設定		-316
4.8.15. Split Screen機能		-319

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3	Issue 15.3.C – December 2017	EVE
		-321
5.1. サーバーモニタリング		-321
5.1.1. SERVER MONITORINGウインド	つの概要	-321
5.1.2. General Informationウインドウ		-321
5.1.3. Raid and Disk Statusウィンドウ		-323
5.1.4. Timecode Statusウインドウ		-326
5.1.5. Timecode Monitoringウインドウ		-328
5.1.6. Log Management		-329
5.2. SDTI Network Monitoring		-331
5.2.1. SDTI Network Monitoringウィンド	ウ概要	-331
5.2.2. SDTI Networkスキーマ		-331
5.2.3. ハードウェアエラーカウンタ		-333
5.2.4. XNet Networkよりサーバーを切	断する	-333
5.3. プロトコルズ		-334
5.3.1. 概要		-334
5.3.2. Sony BVW75		-335
5.3.3. XTENDD35		-338
5.3.4. Odetics		-339
5.3.5. VDCP		-340
6. Truck Managerプラグイン		-343

k Manager ノ ノツ イ ン	-343
6.1. 序文	-343
6.2. プラグイン概要	-344
6.3. コンテキストメニュー	-345
6.4. Configurationエリア	-346
6.5. Serverエリア	-347
6.6. Channelsエリア	-350
6.7. Networkエリア	-355





このマニュアル内では、バージョン15.03の新機能と更新機能に、NEW!マークを付けています。





1. 序文

1.1. EVSサーバー設定の序文

コンフィグモジュール

Multicam Setupアプリケーションは、EVSサーバー上の設定とメンテナンス操作用に使用します。 また、どのアプリケーションを起動するかの選択にも使用します。 EVSサーバーは、各種専用アプリケーションで動作します(ビデオサーバー、スローモーション、・・・)。 コンフィグモジュールは、このセクション内で説明されるラインに沿って、開発されています。

1つのユーザーインターフェースへの統一

サーバーは、1つのユーザーインターフェースから、全て設定できます。

ユーザーインターフェースは、以下を含んでいます:

● 1つのページ上にあるセットアップセクションは、2つのメインエリアを持ち、ここでコンフィグラインと、よく使われるメンテナンスコマンドへのアクセスが可能です:

		SOFTWARE	SUPPORT <u>CONFIGURATION</u>
Multica	m Setup 15.01 XT3-6U SN: 249	40 A024940 HWEdition: 4.20 Not running	
Configura	tion lines		Tools
Number	Name	Command	Import configuration lines
1	LSM 8IN 4OUT	□ / × >	Export configuration lines
2	SPOTBOX 6IN 4OUT		Assign server facility name
3			Options codes management
4			Clear video disks
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
161	Custom	— / × ▶	
Selected	configuration summary	Server information	
AVID DN	HD 120 121Mb	Genlock	
1080i 50.0	00Hz 8 monos	TC	
Multicam	LSM 8in 4out	PC LAN: 10.129.59.20	
SDTI 1 AI	DL XT3 Master		
Mulsetup is	running Multicam 15.01 HWEdition:4.20		
EVS BROA	DCAST EQUIPMENT ALL RIGHTS RESERVED 2016		



● 各コンフィグライン用のConfigurationセクションです。

全ての設定パラメータに簡単にアクセスできる、7つのタブで構成されています:

	MULTICAM SOFTWARE	SUPPORT	CONFIGURATION
Configuration XT3_	. Spotbox 4IN 4OUT Not running Advanced mode		
1. Server 2. Channels	3. Network 4. Monitoring 5. Protocols 6. GPI 7. Operation		
Field rate:	50.00Hz ×		
Resolution:	10801 • Aspect ratio: 16:9	v	
Sync PC time to TC:	✓ every 00h15		
Genlock:	Blackburst v Valid Studio v		
Codec Intra			
In Use:	✓		
Codec:	Mjpeg Standard (HD) 🗸		
Bitrate (Mbps):	100		
Horizontal res.:	1920 pixels 🗸		
Proxy			
In Use:			
Codec:	Mjpeg		
Bitrate (Mbps):	3		
 ⊢ Phase definition	The codec used for the playout is the Mjpeg Standard (HD)		
SD:	0 Half pixels (37ns ; -12000 -> 15000)		
HD to SD SDI:	0 Half pixels (13.5ns ; -1000 -> 1000)		
- Interpolation			
• Vertical intern •			
Four lines:			
PC LAN			
IP address:	10.129.59.20		
Subnet mask:	255 . 255 . 255 . 0		
Default gateway:	10.129.59.1		
Apply Cancel Quit			
Mulsetup is running Multicam 14.			
NS BROADCAST EQUIPMENT ALL RIGHTS RESERVED 2016			

シンプルなユーザーインターフェース

ユーザーインターフェースは、以下のため、シンプルでクリアです:

● Basicとadvancedパラメータに区分け

一般的に使用するほとんどのパラメータはbasicモードで表示され、より詳細なパラメータは隠れており、advanced モードに切り替えると表示されます。

● 表示パラメータのフィルタリング

パラメータは、サーバーの筐体の種類/ビデオ規格/オプションコードに適応しているときのみ、表示されます。

サーバー動作中にパラメータ変更可能

ほとんどのパラメータ変更は、サーバー動作中に、実行でき、反映されます。

簡単なオーディオ設定

オーディオ設定は、以下が可能なため、オープンで簡単に設定できます:

- サーバー動作中に、オーディオパラメータの変更が可能。
- エンベデッド/デジタル/MADIオーディオ出力それぞれに個別の設定が可能。
- LSMリモコンから、直接、オーディオモニタリング設定が可能。



サーバー/Web/LSMリモコンから設定可能

EVSサーバーは、以下の3つのツールのいずれかを使って設定可能です:

- サーバーベースアプリケーション(VGA)は、セットアップとコンフィグ用の全ての設定とコマンドを備えています。
- Webベースインターフェースは、サーバーベースアプリケーションと同等で、エンジニアが、リモートから EVSサーバーを設定できます。
- LSMリモコンは、以下を持っています:
- ほとんどの一般的に使用するテクニカル設定にアクセスできるTechnical Setupメニュー
- オペレーション設定のみを提供するOperational Setupメニュー

以下のテーブルは、各ユーザーインターフェース内で使用可能な機能の概要です:

	EVSサーバ設定		
	Setupウィンドウ Configurationウィンドウ		onウィンドウ
		Technical設定	Operational設定
サーバーベース	Yes	Yes	Yes
アプリケーション		(タブ1~6)	(タブ7)
Webベース	Yes	Yes	Yes
インターフェース	(一部のツールコマンドを除く)	(タブ1~6)	(タブ7)
LSMリモコン	No	Yes	Yes
		(Technical Setup F0)	(Setupメニュー SHIFT+D)



1.2. マニュアル序文

ドキュメント化されたユーザーインターフェース

このマニュアルは、Multicamの設定に使用する全てのユーザーインターフェースを扱っています:

- サーバーベースアプリケーション、Webベースインターフェース、LSMリモコン。
- 一方では、操作と編集コマンドの情報、ユーザーインターフェースに固有は、別々のセクションで明確に説明しています。
- 他方では、設定パラメータの参照情報と説明は、全てのユーザーインターフェースに有効な共通セクション内で 説明しています。

概要では、各ユーザーインターフェース内で、パラメーターが使用可能か?どこにあるか?を示しています。



WEBベースインターフェースは、少し変更されています。 このマニュアル内では、スクリーンショットは、まだ、更新されていません。

マニュアル構成

このマニュアルは、2つのセクションで構成されています:

- Multicam Setupウィンドウ専用のセクション、主な機能は:
- コンフィグラインとその管理方法
- サーバー管理とメンテナンスに関連する機能
- Multicam Configurationウィンドウ(7つのタブで構成される)専用のセクション、ここで、各コンフィグライン用に設定で きる全てのサーバー設定パラメータについて説明しています。

以下を含んでいます:

- パラメータの説明
- 設定に必要なサーバに関連する情報



1.3. EVSサーバーの起動

序文

EVSサーバーの電源を入れると、最初のステップはPCブートシーケンスで、ビデオI/Oボードのブートが続き、最後 にMulticam Setupアプリケーションが起動します。

はじめてEVSサーバーを起動する時

EVSサーバーをはじめて使用する前に、以下のタスクを実行しなければなりません:

● EVSサーバーが動作するコンフィグラインを決めます。

● 必要な各コンフィグラインのパラメータを設定します。

このステップでは、とりわけ、選択コンフィグラインのチャンネル構成、オーディオとビデオパラメータを設定します。

初期設定後のEVSサーバーの収録開始

初期設定後、コンフィグラインを選択し、ENTERを押し、サーバーを選択コンフィグで起動します。 EVSサーバーは指定コンフィグで起動すると同時に、Loop Recordingプロセスを開始します。

1.4. Webベースインターフェースへのアクセス

前提

EVSサーバーが起動すると、EVSサーバーと同じネットワーク範囲上のどのコンピュータからでも、Multicam Setup アプリケーションのWebベースインターフェースにアクセスできます。 どのブラウザからでも、Webベースインターフェースを開くことができます。

Multicam Webホームページへのアクセス方法

ブラウザ内にWebベースインターフェースのホームページを開くには、EVSサーバーのPC LANのIPアドレス: http://<PCLAN IP アドレス> を入力します。 例: http://10.129.59.80

Multicam Webホームページは、以下へのアクセスを提供します:

- コンフィグとテクニカルリファレンスマニュアル。
- EVS Server ConfigurationアプリケーションをダウンロードするQRコード (Google PlayまたはApple store)

Multicam Web Setupウィンドウへのアクセス方法

EVSサーバーのMulticam Setupウィンドウを開くには、URLを入力します: http://<PCLAN IP アドレス>/cfgweb/



2. Multicam Setup

2.1. ユーザーインターフェース概要

2.1.1. Setupエリア概要

概要

Multicam Setupウィンドウは、Multicam Setupアプリケーションが起動したら、最初に開くウィンドウです。 これは、EVSサーバーが起動したら表示されますが、まだ、指定コンフィグで収録開始していません。 Multicam Setupウィンドウでは、以下が可能です:

- 各コンフィグラインの参照と管理。
- EVSサーバーの管理とメンテナンスタスクの実行。
- EVSサーバーと選択コンフィグラインの概要情報の参照。

これは、サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのMulticam Setupアプリケーションの両方にあります。

WebベースインターフェースではToolsメニューが少ないコマンドを提供している以外は、両方のユーザーインターフェースは、同じ機能を持っています。

ユーザーインターフェース

Multicam Setupウィンドウには、以下のハイライトされた6つのエリアがあります。

これらのエリアは、Webベースインターフェースとサーバーベースアプリケーション両方内に、同じ情報を持っています。

以下のスクリーンショットは、サーバーベースアプリケーションのMulticam Setupウィンドウです:



CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3

Issue 15.3.C - December 2017



」 以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のMulticam Setupウィンドウです:

		1 2 VARE	SUPPORT	3 CONFIGURATION
Multican	n Setup 15.01 XT3-6U SN: 24940 A024	940 HWEdition: 4.20 Not running		
Configurati	on lines		Toc	ls
Number	Name	Command		Import configuration lines
1	LSM 8IN 4OUT	□ / × ▶		Export configuration lines
2	SPOTBOX 6IN 4OUT	- / × >		Assign server facility name
3		- 🖉 🗶 🕨		Options codes management
4		- 🖉 🗶 🕨		Clear video disks
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11		- / × >		
12		— / ×)		
13		X > >		
14		X × >		
15				
161	Custom			
Selected co	nfiguration summary	Server information		
	ingulaton summary	Conjock		
1080i 50.00	Hz 8 monos	TC		
Multicam LS	SM 8in 4out	PC LAN: 10.129.59.20		
SDTI 1 ADL	. XT3 Master			
Mulsetup is r	unnin, Multicam 15.01 HWEdition:4.20			
EVS BROAD	CI 4 JIPMENT ALL RIGHTS RESERVED 2016 5) 6		≣∨⊆



エリア説明

以下のテーブルでは、Multicam Setupウィンドウの各部分を説明しています:

#	エリア名	説明
1.	タイトルバー	タイトルバーでは、以下の情報を表示しています:
		● Multicamバージョン
		● 筐体タイプ
		● サーバーシリアル番号
		● サーバー所有者名(もし、登録していれば)
		● ハードウェアエディション
2.	Configuration lines	EVSサーバーが起動可能な全てのコンフィグを表示します:
	(コンフィグライン)	● 1台のEVSサーバーで、16コンフィグラインが使用可能です。
		コンフィグラインに名前が付いていなくても、デフォルトのコンフィグが設定され
		ています。
		● 各コンフィグラインは、全ての設定パラメータを含んでおり、EVSサーバーの
		コンフィグを柔軟に設定することができます。
3.	Tools (ツール)	このエリアは、サーバー管理とメンテナンス用の主なコマンドを提供します。
4.	Configuration Summary	このエリアは、Configuration Linesエリアで選択したコンフィグラインのサーバーパラメ
	(コンフィグサマリ)	ータのサマリを表示します。
		サマリは、以下の情報を表示します:
		1. コーデックタイプ - ビットレート - ビデオ規格 (各コーデック用)
		2. ベースコンフィグ - IN/OUT数 - オーディオ数
		3. SDTI番号 - サーバー名 - サーバータイプ
5.	タスクバー	タスクバー(サーバーベースアプリケーション)は、ウィンドウ内の主な動作のコマンド
		を表示します。
5'.	ステータスバー	ステータスバー(Webベースインターフェース)は、以下を表示します:
		● Multicam Setupアプリケーションステータス
		● 最後に更新した日付と時間
		● Refresh(更新)ボタン
6.	Server information	このエリアは、EVSサーバーの以下の情報を表示します:
	(サーバー情報)	● genlockステータス(OKまたはbad)
		● タイムコードとタイムコードステータス(OKまたはbad)
		● PC LAN(DHCPオフ)またはDHCP(DHCPオン)のIPアドレス
		● PC LAN接続のステータス(UpまたはDown)



2.1.2. ナビゲーションとコマンド

サーバーベースアプリケーション内

一般ナビゲーション

以下のテーブルでは、Multicam Setupウィンドウ内をナビゲートする一般的なコマンドを示します:

コマンド説明	コマンドキー
カーソルを、Toolsメニューの最初のアイテムに移動	F9
カーソルを、最初のコンフィグラインに移動	ESC
編集可能アイテムリストの中を下に移動	ТАВ
(コンフィグラインとToolsコマンド)	
編集可能アイテムリストの中を上に移動	SHIFT+TAB
コマンドの要約を提供するHelpウインドウを表示	F1

コンフィグライン

Configuration Lineエリア内で、コンフィグラインを選択すると、ハイライトされます。

コンフィグライン管理用の主要なコマンドは、以下です:

コマンド説明	コマンドキー
コンフィグラインリスト内を上に移動	上矢印(↑)
コンフィグラインリスト内を下に移動	下矢印(↓)
選択したコンフィグラインでサーバーを起動	コンフィグラインを選択+ENTER
選択したコンフィグラインの設定を編集するために、	F8
Configurationウィンドウに入る	
コンフィグラインの名前変更	CTRL+F1
コンフィグラインの削除	CTRL + DELETE

Toolsメニュー

コマンド説明	コマンドキー
ツールコマンドを選択	ショートカットキーを押す
	(コマンド名内の角括弧[]内)
ツールコマンドの呼出し	コマンドを選択+ENTER

Issue 15.3.C - December 2017



Webベースインターフェース内



Webベースインターフェース内で変更を確認するには、ステータスバー内のRefreshボタン 🎦 をクリックして、定期的 にページを更新して下さい。

コンフィグライン

コマンド説明	コマンドアイコン
コンフィグラインの名前変更	x
コンフィグラインに関連した設定を編集するために、	/
Configurationウィンドウに入る	
コンフィグラインの削除	×
対応するコンフィグラインでサーバーを起動	

Toolsメニュー

Toolsコマンドを呼び出すには、Toolsメニュー内のコマンドをクリックするのみです。 これにより、対応するウインドウが開きます。



2.2. コンフィグライン

2.2.1. 各章の内容

以下のテーブルで、このセクションのトピックを示し、記載されている機能がWebベースインターフェース/サーバーベースアプリケーションから可能かを示します。

内容	章	サーバーベース	Webベース
		アプリケーション	インターフェース
コンフィグの起動	2.2.2	Yes	Yes
コンフィグラインの編集	2.2.3	Yes	Yes
コンフィグラインの名前変更	2.2.4	Yes	Yes
コンフィグラインのインポートとエクスポート	2.2.5	Yes	Yes (1つずつ)
コンフィグラフインの位置の変更	2.2.6	Yes	Yes (間接的に)
コンフィグラインのコピー/ペースト/削除	2.2.7	Yes	Yes (間接的に)

2.2.2. コンフィグの起動

序文

EVSサーバーが初期化されたら、デフォルトでMulticam Setupウインドウが開き、オペレータが目的のコンフィグラインを選択し起動するまで、そのままです。

Multicamは、ビデオ信号を、同時に複数のエッセンスにエンコードでき、全てのアクティブエッセンス内のビデオ素 材へのシームレスなアクセスを保証します。

そのため、EVSサーバーにインジェストされた素材は、可能な限り、全てのアクティブエッセンスで、サーバー内に保持されます。

このため、コンフィグラインで起動したときに、いくつかの制限やチェックが適用されます。

互換マルチエッセンスコンフィグ

同じSDTIネットワーク上で、以下を持つことは許可されていません

● 混在したマルチエッセンスコンフィグのEVSサーバー; または

● マルチエッセンスコンフィグをサポートしているEVSサーバーとサポートしていないサーバーの組み合わせ

このような状況下では、EVSサーバー起動時に、以下のようなメッセージが表示されます:

"Incompatible multi-codec configuration on the network"



選択肢としては:

- Multicam Setupウインドウに戻り、他のEVSサーバーと互換のコンフィグラインを選択する。
- スタンドアロンモードで作業する。 このモードでは、他のEVSサーバーのコンテンツは参照不可、他のEVSサーバーへのコンテンツ転送も不可と なります。

マルチエッセンスコンフィグの変更

EVSサーバー上で、目的のエッセンスでビデオ素材を使用可能にするには、以下の状況では、起動前にクリップを消去する必要があります:

- Multicam 11.XX から Multicam 12.XXへアップグレードした後
- 別のマルチエッセンスコンフィグへ変更の場合

コンフィグラインを手動で起動する方法

サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内で、コンフィグラインを起動するには、以下を行います

1. コンフィグラインのリスト内で上矢印(↑)/下矢印(↓)キーを押し、起動したいコンフィグラインがハイライトされる まで移動します。

2. ENTERキーを押します。

Webベースインターフェース内

Webベースインターフェース内でコンフィグラインを起動する場合には、コンフィグライン横のLaunchアイコン クリックします。

自動起動

自動起動を設定すると、Multicam Setupウィンドウが5秒間開いたままであれば、設定したコンフィグラインが自動的に 起動します。

自動起動を設定するには、Multicam Setupメニュー内の目的のコンフィグライン上で、F7を押します。 すると、このコンフィグラインは黒色でハイライトされ(緑色ではなくなる)、自動起動が設定されたことが分かりま す。

これで、次回EVSサーバー起動時に、目的のコンフィグラインが自動的に起動します。

起動するコンフィグラインを変更したい時には、Multicam Setupウィンドウ表示の5秒以内に、キーボード上の↑または↓を押し、自動起動のコンフィグラインからカーソルを移動させます。

すると、Multicam Setupウィンドウが開いたままの状態になり、別のコンフィグラインを選択できます。



2.2.3. コンフィグラインの編集

コンフィグラインの編集方法

序文

オペレータは、編集したいコンフィグラインを選択し、編集が可能です。 1台のEVSサーバーに、16コンフィグラインが設定可能です。 コンフィグラインに名前が付いていなくても、全てのコンフィグラインにデフォルトコンフィグが設定されています。 各コンフィグラインは、全ての設定パラメータを持ち、EVSサーバーの設定を柔軟に行なうことができます。

サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内で、コンフィグラインを編集するには、以下を行います

1. 上矢印(↑)または下矢印(↓)キーを押し、コンフィグラインのリスト上で編集したいラインをハイライトします。 2. F8を押します。

Configurationウィンドウが、開きます。

3. 設定変更後、ALT+A を押すと、変更内容が反映されます。

4. ESCボタンを押し、Setup ウインドウに戻ります。

Webベースインターフェース内

Webベースインターフェース内で、コンフィグラインを編集するには、以下を行います。

1. 編集したい コンフィグラインのEditアイコン Z をクリックします。 Configurationウィンドウが、開きます。

2. 設定変更後、Applyボタンをクリックし、変更を有効にします。 Quitを押し、Setup ウインドウに戻ります。

無効なコンフィグ

サーバーベースアプリケーション内では、無効なコンフィグを簡単に検知できます:

● コンフィグラインが無効になった場合、 ◆ がコンフィグライン脇に表示されます。

(サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース両方とも)

2. Config XSense _ _ _ _ _ zt.t 2

● オペレータが、サーバーベースアプリケーションでコンフィグラインを編集するためにF8を押すと、そのラインは無効との表示がポップアップ形式で表示されます。

Config XSense

オペレータがこのメッセージを確認すると、無効なパラメータを含むページが、無効なパラメータが選択された形で表示されます。



2.2.4. コンフィグラインの名前変更

序文

EVSサーバーの出荷時に、コンフィグラインにはデフォルトの名前が割り当てられています。 以下の通り、変更が可能です。

サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内では、以下を行います:
1. 上矢印(↑)もしくは下矢印(↓)を押し、名前変更したいコンフィグラインを選択します。
2. CTRL+F1を押します。
コンフィグラインがピンク色に表示され、カーソルが最初の文字で点滅します。
3. 以下を考慮して、コンフィグラインに新しい名前を入力します:
〇 スペースバーでは、選択した文字を消去できます。

○ 左矢印(←)と右矢印(→)キーでは、ライン上でカーソルを移動させます。

4. ENTERを押し、新しい名前を有効にします。

新しい名前がコンフィグラインに割り当てられ、全ユーザーインターフェースに反映されます。

Webベースインターフェース内

Webベースインターフェース内では、以下を行います:

1. 名前変更したいコンフィグライン横の Rename ボタン 🌄をクリックします。

2. Rename ダイアログボックス内で、新しいコンフィグ名を入力します。

3. OKをクリックします。

新しい名前がコンフィグラインに割り当てられ、全ユーザーインターフェースに反映されます。



2.2.5. コンフィグラインのインポートとエクスポート

コンフィグラインのエクスポート方法

注意

このセクションのスクリーンショットは、コンフィグ名の一例で、お持ちのEVSサーバーには該当しない場合があります。

サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内で、コンフィグラインをエクスポートする場合には、以下を行います:

1. Multicam Setup ウインドウで、Pを押し、Export Configuration Lines コマンドを実行します。

Export Configuration Linesウインドウが開きます:

- 左枠の表示では、エクスポートするコンフィグラインを選択します。
- O 右枠の表示では、エクスポートフォルダを作成する、USBキーまたはローカルドライブを選択します。
 C: /LSMCE/DATA/SETUP/USER、またはサブフォルダ。

EXPORT CON	FICURATION FILES
SERVER CONFIGURATION LINES	Copy configuration lines in new folder XINewADL-121025
[X] 1. Spothox 41N 40UT [2. [3. [4. [4. [4. [5.] Spothox 41N 40UT [1 6. [7 7. [7 8. [7 9. [1 8. [1 12. [1 13. [1 14. [1 15. [1 15.] [Select where new folder is created CCLSMCFLORTANSETUP-USER HewNDL-121024
Palase lines to summer and destination	ENTED From a set

- 2. 必要に応じて、コンフィグラインがエクスポートされるフォルダ名の変更を行ないます:
- デフォルトでは、フォルダ名(右上端に表示)は、以下のパターンに従います:

<server facility name_current date>

日付は、YYMMDD形式です。

- エクスポートするフォルダ名を変更するには、名前を入力します。 この手順は、どの時点でも行なうことが可能です。
- 3. 必要に応じて、左枠のエクスポートするコンフィグラインの選択を変更します:
 - デフォルトでは、×印が全てのコンフィグラインの前に表示されており、全て選択されていることを意味しています。
 - 選択を外すには、上矢印(↑)または下矢印(↓)キーで目的のラインをハイライトさせ、SPACEパーを押します。

×印が外れ、選択が外れたラインは、薄いグレーで表示されます。

- 4. TABを押し、右枠にカーソルを移動します。
- 5. 必要に応じ、exportフォルダが作成される場所を変更します:
- O デフォルトでは、エクスポートフォルダは、USBキーのルート、またはローカルドライブフォルダに作成され ます。

ローカルドライブフォルダ: C: /LSMCE/DATA/SETUP/USER

- エクスポートフォルダが作成されるフォルダを変更するには、目的のフォルダをハイライトさせます。
 最後にハイライトされたフォルダが、選択フォルダとして設定されます。
- 6. エクスポートのプロセスを開始するには、ENTERを押します。
- 選択ラインがエクスポートされると(linファイルとして)、エクスポートを確認するメッセージが表示されます。
 OKボタンをクリックし、メッセージを確認します。

Issue 15.3.C - December 2017



Webベースインターフェース内

1 注意

Webベースインターフェース内では、コンフィグラインを1つずつ順番にエクスポートする事のみ可能です。

Webベースインターフェース内で、コンフィグラインをエクスポートするには、以下を行います: 1. Multicam Setupウインドウより、ToolsメニューのExport configuration linesをクリックします。

Export configuration linesウインドウが開きます:

Export conf	xport configuration lines		
Number	Name	Command	
1	SPOTBOX IPDP 2REC 4 PLAY	Export	
2	LSM 1REC 1PLAY	Export	
3	LSM 1REC 2PLAY	Export	
4	LSM 2REC 2PLAY	Export	
5	LSM 2REC 4PLAY	Export	
6	LSM 3REC 1PLAY	Export	
7	LSM 3REC 2PLAY	Export	
8	LSM 3REC 3PLAY	Export	
9	LSM 4REC 2PLAY	Export	
10		Export	
11	SLSM 1PLAY	Export	
12	SLSM 2PLAY	Export	
13	SLSM+1REC 2PLAY	Export	
14	SLSM+2REC 1PLAY	Export	
15		Export	
16	SPOTBOX	Export	

2. エクスポートしたいコンフィグライン横の、Exportをクリックします。

3. File Downloadダイアログボックス内で、Saveをクリックします。

4. エクスポートファイル(Jinファイル)を保存する場所を選択し、必要に応じ、ファイル名を変更します。

5. Saveをクリックします。

エクスポートファイルが、指定した場所に保存されます。

複数のコンフィグラインをエクスポートしたい場合、この操作を、エクスポートしたいコンフィグライン全てに行います。

コンフィグラインのインポート方法



EVSサーバーがパスワードプロテクトされている場合、パスワードを解除して下さい。 解除しない場合、オペレーションコンフィグのみインポートされます。

- Multicam Setupウィンドウで、M を押し、Import Configuration Linesコマンドを呼び出します。
 Inport Configuration Filesウィンドウが開きます:
 - 左枠で、インポートするコンフィグファイルが含まれるフォルダを選択します。
 - 右枠で、インポートするコンフィグラインを選択をします。

IMPORT CONFICUR	ATION FILES
Local drive	SERVER CONFIGURATION LINES
Local drive IGALSHCENDATANSETUPNUSER (8) NovnDL-121824 (2)	ERVER CONFIGURATION LINES [X] 1. Spotbox 41N 40UT 2. 4. [X] 5. Spotbox 41N 40UT 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16.

 5. 左枠で、上矢印(↑)または下矢印(↑)キーで、インポートするコンフィグファイルを含むフォルダをハイライト させます。

フォルダを選択すると、右枠には、以下が表示されます

○ インポートされるラインの前に、×印が表示されます。

ラインはエクスポートファイル内と同様に、同じ場所に、同じファイル名でインポートされます。

- 4. TABを押し、右枠にフォーカスを移動させます。
- 5. 必要に応じ、インポートが不要なラインの選択を外します:
- デフォルトでは、linファイル内にある全てのコンフィグラインは、EVSサーバーにインポートされます。
- O コンフィグラインを選択から外すには、上矢印(↑)または下矢印(↓)キーを押し不必要なラインを ハイライトさせ、SPACEバーを押します。

選択を外したコンフィグラインは、薄いグレーで表示され、×印が外れます。

6. ENTERを押し、インポートするコンフィグラインの選択を確定します。

警告メッセージで、どのコンフィグラインがインポートされるか通知され、次の画面では、どの設定を置きかえるか選択できます。

- 7. Yes'を右矢印(→)で選択し、ENTERを押します。
- 8. Select settings to replsceウィンドウ内で、インポートしたい設定タイプを選択します:
 - a. SPACEBARを押し、設定タイプを選択もしくは選択から外します。
 - b. TABを押し、次の設定タイプに移動します。
- c. インポートしたい全ての設定タイプに対し、上記を繰り返します。
- 9. ENTERを押し、インポートプロセスを開始します。

Issue 15.3.C - December 2017



Webベースインターフェース内

1 注意

Webベースインターフェース内では、コンフィグラインを1つずつ順番にインポートする事のみ可能です。

Webベースインターフェースで、コンフィグラインをインポートするには、以下を行います:

1. Multicam Setupウインドウより、Toolsメニュー内のImport configuration linesをクリックします。

	Import configuration lineウインド	うか	開きます。
	Import configuration lines	×	
	R:\ADL\Screenshots\Cfg00001.lin Select		
	Select the line to be replaced by the imported file		
	● 1 : SPOTBOX IPDP 2REC 4 PLAY		
	O 2 : LSM 4REC 2PLAY		
	○ 3 : LSM 1REC 2PLAY		
	O 4 : LSM 2REC 2PLAY		
	○ 5 : LSM 2REC 4PLAY		
	○ 6 : LSM 3REC 1PLAY		
	○ 7 : LSM 3REC 2PLAY		
	O 8 : LSM 3REC 3PLAY		
	O 9 : LSM 4REC 2PLAY		
	● 10:		
	O 11 : SLSM 1PLAY		
	O 12 : SLSM 2PLAY		
	● 13 : SLSM+1REC 2PLAY		
	O 14 : SLSM+2REC 1PLAY		
	● 15 :		
1	● 16 : SPOTBOX		

2. 上フィールド横のSelectをクリックし、インポートしたいコンフィグファイルを選択します。

3. 置き換えたいコンフィグラインを選択します。

4. Importをクリックします。

Import

コンフィグラインは、選択したコンフィグライン上に、元の名前でインポートされます。

2.2.6. コンフィグラフインの位置の変更

サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーションで、コンフィグラインを、リスト内で上下に移動するには、以下を行います:

1. 上矢印(↑)または下矢印(↓) キーを押し上下に移動し、必要なコンフィグがハイライト表示されるようにします。

2. 以下のいずれかを行います:

○ 選択ラインを上に移動するには、CTRL + 上矢印(↑)をクリックします。

○ 選択ラインを下に移動するには、CTRL+下矢印(↓)をクリックします。

Webベースインターフェース内

この機能は、Webベースインターフェースにはありません。 しかし、インポート/エクスポート機能を使い、ラインの位置を変更できます。



2.2.7. コンフィグラインのコピー/ペースト/削除

コンフィグラインをコピー/ペーストする方法

サーバーベースアプリケーション内



別の箇所にラインをコピーすると、選択した箇所のコンフィグは消去されます。

サーバーベースアプリケーションで、コンフィグをコピー/ペーストするには、以下を行います:

上矢印(↑)または下矢印(↓)キーで移動し、必要なコンフィグがハイライト表示されるようにします。
 CTRL+C を押し、ラインをクリップボードにコピーします。
 上矢印(↑)と下矢印(↓)キーで移動し、ラインをペーストしたい位置へ移動します。
 CTRL+Vを押し、コンフィグラインを選択した位置にペーストします。
 ENTER を押し、前のコンフィグラインを、新しいコンフィグラインに置き換えることを確定します。

Webベースインターフェース内

この機能は、Webベースインターフェースにはありません。 しかし、インポート/エクスポート機能を使い、ラインの位置を変更できます。

コンフィグラインの削除方法



コンフィグラインの削除時には、ラインは事前警告なしに削除されます。

サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーションで、コンフィグラインを削除するには、以下を行います: 1. 上矢印(↑)または下矢印(↓)キーで上下に移動し、必要なコンフィグを選択しハイライト表示します。 2. CTRL+DELを押し、ラインを削除します。 コンフィグラインが、直接消去されます。

Webベースインターフェース内

Webベースインターフェースでコンフィグラインを削除するには、削除したいコンフィグライン横のDeleteアイコン をクリックします。 コンフィグラインは、直接削除されます。

30



2.3. サーバーパラメータ

2.3.1. 章の内容

以下のテーブルで、この章のトピックを示し、各機能がWebベースインターフェースとサーバーベースアプリケーションそれぞれで対応可能か示します。

内容	章	サーバーベース	Webベース
		アプリケーション	インターフェース
サーバーのFacility Name (固有名)の割り当て	2.3.2	Yes	Yes
パスワード保護を有効/無効にする	2.3.3	Yes	No
サーバーPC LANアドレスの設定	2.3.4	Yes	No
サーバー日付と時間の設定	2.3.5	Yes	No
サーバーRaidの設定	2.3.6	Yes	No

2.3.2. サーバーのFacility Name (固有名)の割り当て

序文

EVSサーバーに、固有名を割り当てできます。 これにより、EVSサーバーを、シリアルの他に、固有名で識別できます。 この名前は、いかなるコンフィグとも無関係です。 サーバー固有名は、サーバーネット名とは異なります。 (サーバーネット名は、コンフィグパラメータ内で設定されコンフィグ毎に変える事が可能なため) サーバー固有名は、Multicam Setupウィンドウのタイトルバー/コンフィグウインドウ/OSD (on-screen display)に表示さ れます。



固有名を変更したら、ネットワークサービスの再起動が必要です。 数秒待てば、EVSサーバーに再接続できます。

名前付けルール

サーバー固有名は、PC LAN設定内のhostnameとしても使用されます。 このため、以下のホスト名形式のルールに従わなければなりません:

- 文字は、A-Z、a-z、-のみです。
- ホスト名は、数字またはハイフンで始めることはできません。
- ホスト名は、ハイフンで終わることはできません。
- ホスト名は、ピリオド(フルストップ)で分割できます。

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3



サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーションで、サーバー固有名を割り当てるには、以下を行います: 1. Multicam Setupウインドウで、Fを押し、Assign server facility nameコマンドを呼び出します。 以下のダイアログボックスが開きます:

Facility Name : ENTER : validate ESC : quit without saving

2. サーバー固有名を入力し、ENTERを押します。

もし、サーバー固有名が、ホスト名の名前付けルールに従っていなければ、警告が表示されます。

サーバー固有名が直接登録され、タイトルバーとOSDに表示されます。

Webベースインターフェース内

Webベースインターフェースで、サーバー固有名を割り当てるには、以下を行います

1. Multicam Setupウインドウより、Toolsメニューの中のAssign server facility nameをクリックします。 以下のダイアログボックスが開きます:

lity name		
ок	Cancel	
	lity name	lity name OK Cancel

2. サーバー固有名を入力し、OKを押します。

もし、サーバー固有名が、ホスト名の名前付けルールに従っていなければ、警告が表示されます。

サーバー固有名が直接登録され、タイトルバーとOSDに表示されます。

2.3.3. パスワード保護を有効/無効にする

EVSサーバーのパスワードを有効にする

序文

管理者は、EVSサーバーをパスワードで保護できます。 このパスワード保護は、許可されないユーザーがコンフィグを変更できないようにします。 なお、オペレーションコマンドの使用からは、保護しません。 パスワード保護は、サーバーベースアプリケーションから、有効/無効にすることができます。

パスワード保護により、ユーザーインターフェースに、以下のような影響があります

- サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェースいずれのアプリケーションでも、 コンフィグパラメータの変更適用にパスワードが要求されます。
- LSMリモコン上では、Technical Setupメニューは使用できません。



EVSサーバーでパスワードを有効にする方法

EVSサーバーで、パスワードを有効にするには、以下を行います

1. Multicam Setupウインドウで、W を押し、Enable passwordコマンドを呼び出します。

- 警告メッセージが、表示されます。
- 2. 警告メッセージを、確認して下さい。
 右矢印→キーを押しYes'を選択し、ENTERを押し、パスワード保護を有効にします。

パスワード保護機能は、全てのユーザーインターフェース内、全てのコンフィグライン上の全てのコンフィグパラメ ータに、直接、有効になります。

コンフィグパラメータの変更を有効にする

サーバーベースアプリケーション内

パスワード保護が有効になると、Multicam Configurationウィンドウ内の各コンフィグタブの上に、以下のメッセージが赤色で表示されます:

CONFIGURATION THE SERVER 2. CHANNELS F. INFLORE 4. HONITORING 5. PR Password will be required to Save changes Video and reference 50.000H: Field rate f. 50.000H: Resolution 108061

コンフィグパラメーターの変更を適用するには、コンフィグパラメータの変更を保存する初回に、パスワードの入力 を求められます。

Webベースインターフェース内

パスワード保護が有効になると、Multicam Configurationウインドウは完全に薄暗い色に変わり、鍵がかかったアイコン かウインドウの上に表示されます:

コンフィグパラメータの変更を適用するには、以下を行います:

1. ロックアイコン を、クリックします。

2. 表示されたダイアログボックス上で、パスワードを入力します。

3. OKを押します。

ロックされたアイコンが、鍵の開いたアイコン 🌆に変わり、パラメーターの変更が可能となりブラウザから保存できます。

EVSサーバーのパスワードを無効化する

パスワード保護が一旦有効になると、サーバーベースアプリケーションからのみ、以下の手順で無効化できます

Multicam Setupウインドウで、Wを押し、Enable passwordコマンドを呼び出します。
 以下の、パスワード保護を解除する警告メッセージが表示されます:



2. **右矢印(→)**キーを押し'Yes'を選択し、ENTERを押します。

3. 開いたダイアログボックス内にパスワードを入力して、ENTER を押し確定します:



Please enter the password : <Esc> : Cancel <Enter> : Ualidate

パスワード保護が、全てのユーザーインターフェースから解除されます。

2.3.4. サーバーPC LAN接続の設定

序文

EVSサーバーのH3XPボードの内部スイッチモジュールは、PC LANネットワーク上の多くの機能を提供します。 スイッチにより、サーバーは、PC LANの冗長性を提供でき、新たにDHCPプロトコルをサポートしました。

サーバーベースアプリケーション->Toolsエリア->Set LAN PC addressオプションから、PC LAN接続を設定できます。

以下のウィンドウは、Redundancy = ON、DHCP = OFFでのSet LAN PC addressダイアログボックスです:

PC Lan :	
Redundancy	ON
Hostname	Multicam
PC Lan #1	
DHCP	OFF
IP Address	010.129.110.021
Subnet Mask	255.255.254.000
Default Gateway	010.129.111.254
Enter : Apply c Esc : Exit wi	onfiguration thout saving

PC LAN接続の設定方法

1. Multicam Setupウインドウ内で、Lを押し、Set LAN PC addressコマンドを呼び出します。

以下のウインドウが開きます:

PC Lan :	
Redundancy	OFF
Hostname	Multicam
PC Lan #1	
DHCP	OFF
IP Address	010.129.110.021
Subnet Mask	255.255.254.000
Default Gateway	010.129.111.254
Enter : Apply configuration Esc : Exit without saving	

2. このウィンドウ内で、TABをクリックしてRedundancyフィールドを選択し、Spaceバーを押し、冗長性をオン/オフ します。

冗長性をONにすると、PC LAN #1がダウンしたら、PC LAN #2が自動的に交代します。

3. TABをクリックしてDHCPフィールドを選択し、Spaceバーを押し、DHCPをオン/オフします。

DHCPをオンにしたら、システム上のDHCPサーバーがPC LAN #1に、自動的にIP Address、Subnet Mask、 Default Gatewayを割り当てます。

ステップ5に移動します。

もし、DHCPがオフなら、手動で、IP Address、Subnet Mask、Default Gatewayを割り当てる必要があります。 ステップ4に移動します。

Issue 15.3.C – December 2017

4. TABをクリックして、IP Address、Subnet Mask、Default Gatewayフィールドを選択して、値を入力します。

5. ENTERを押し、PC LAN設定を適用します。

PC LAN設定は、デフォルトで、自動的に、全てのコンフィグラインに適用され、コンフィグラインの設定内では、読 み取り専用フィールドになります。 これは、Multicam Setupモジュールからのみ、設定できます。



Hostnameは、編集できません。

これは固有名と同じでなければならないため、Assign server facility nameオプション経由で固有名を編集して変更 できます(Multicam Setupモジュール内にあります)。 名前は、ホスト名形式に従わなければなりません。

2.3.5. サーバー日付と時間の設定

序文

Set Date and Timeコマンドでは、サーバーベースアプリケーションのMulticam Setupウインドウから、システム時間 と日付を調整できます。

このコマンドは、Webベースインターフェースにはありません。



収録開始後すぐには、システム日付と時間を表示するウインドウで、パラメーターの変更ができます。

サポートされているフォーマット

サポートされている日付のフォーマットは、DD-MM-YYYYで、以下は例です: ● 15-03-2011: 2011年3月15日

サポートされている時間のフォーマットは、hh:mm:ss で、以下は例です: ● 22:58:00: 22時58分00秒 (24時間表示)

有効でないフォーマットを入力すると、警告メッセージが表示されます。



システム日付と時間の設定方法

Multicam Setupアップウインドウから、システム日付と時間の設定を行なうには、以下を行います: 1. Multicamセットアップウインドウ内で、Tを押し、System date and timeコマンドを呼び出します。

以下のウィンドウが開きます: System Date & Time



2. このウインドウで、以下を入力します:

- O 日付を、DD/MM/YYYY形式で
- 時間を、hh:mm:ss形式で(24時間表示)
 TABで、フィールド間を移動します。
- 3. ENTERを押し、変更内容をシステムの日付と時間に反映します。

ここで入力した日付と時間は、収録を開始すると、自動的に反映されます。

2.3.6. サーバーRaidの設定

序文

EVSサーバーが起動すると、サーバーRaidが自動的に検知され、デフォルト設定に基づきビルドされます。 Raid Configurationウィンドウで、デフォルトのRaidコンフィグを確認/変更できます。 このウインドウは、サーバーベースアプリケーションからのみ使用可能です。



HDDは、EVSサーバー用に特別に設定されているため、EVS支給のHDDのみ使用可能です。

Raid Configurationウィンドウ概要

Raid Configurationウィンドウは、Multicam Setupウィンドウよりアクセス可能で、Rを押し、Toolsメニューから、Raid Configuration コマンドを呼び出します:



ウィンドウ上部の、Requested configurationエリアには、デフォルトのRaidコンフィグが表示されます。

このエリア内で、デフォルトのRaidコンフィグを変更できます。

詳細は、下部の編集可能なパラメータで確認できます。

Current Configurationエリアは、Raid Configurationウィンドウの下部にあり、Raidとディスクのステータス情報を提供します。
デフォルトのRaidコンフィグ

初回起動時、ソフトウェアが、以下の設定を使用して、RAIDをビルドします

- 内部と外部ストレージが検出されると、両方を使用します。
- (5+1)のRaid コンフィグ + 最大5 台のスペアのコンフィグを使用します。
 最初に、全てのRaidがビルドされます。
 残りのディスクは、スペアディスクとして使われます。
 Raidの構築は、内部のアレイから開始し、外部のアレイへ継続します。
 Raidは、複数のハードウェアアレイをまたがって作成可能です。

Request configuration

概要

Request configuration内では、デフォルトRaidコンフィグ内の以下のパラメータを変更できます:

- 内部/外部ストレージの使用
- スペアディスクの使用
- 使用するRaid数

これらのパラメータを変更するには、TABを押し目的のフィールドを選択し、SPACE BARで目的の数値を選択/ 必要な値を入力します。

フィールドの説明

以下のテーブルでは、Raid Configurationウィンドウ内のRequested configurationエリア内で編集可能なフィールドについて、説明しています。

フィールドは、表示されるシーケンスの中で記述しています。

TABキーを押して、選択可能です。

フィールド名	説明					
Storage type	利用するストレージタイプを指定します。					
	内部と外部の両方のストレージタイプが有効な場合、以下が有効です					
	Internal only					
	External + Internal					
	External only					
Number of raids	利用したいRaid数を指定します。					
	使用したいRaid数を、入力します。					
Raid configuration type	Raid コンフィグタイプを指定します。					
	ソフトウェアは、2つのRaidコンフィグを管理できます:					
	● (4+1): HDD5台のRaid					
	● (5+1): HDD6 台のRaid					

Current configuration

このエリアでは、EVSサーバーが収録中の、Raidのステータスの表示に使用されます。



2.4. ライセンスとメンテナンス

2.4.1. オプションコード管理の概要

序文

ソフトウェアアプリケーション/特定のソフトウェアオプションを起動するには、ソフトウェアだけでなくライセンスキー (Multicamでは、、ライセンスコード)も必要で、これは、オプション毎/システム毎に個別です。

ライセンスキーには、デモ目的の一定期間有効なテンポラリーライセンスと、無期限のパーマネントライセンスがあり ます。

ライセンスキーは、Options codes managementウィンドウから管理します。 このウインドウは、サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェース両方より使用可能です。

1 注意

テンポラリライセンスコードが失効する2週間前から、もしくは失効すると、システムは、Multicam Setupウィンドウが 開いた際、警告を出します。

Options Codes Managementウィンドウへのアクセス

サーバーベースアプリケーションでOptions codes management ウィンドウを開くには、Multicam Setup ウィンドウで、Oを押します。

WebベースインターフェースでOption codes managementウィンドウを開くには、Multicam SetupウィンドウからTools メニュー内のOptions code managementをクリックします。



2.4.2. Options Codes Managementウィンドウ

サーバーベースアプリケーション内

以下の通り、画面は3つのエリアに分かれていて、以下の情報を含みます:

Q		
0		Full options
2	Permanent	Authorize SD configurations
	Permanent	Authorize HD configurations
	Permanent	Authorize video configuration changes
	Permanent	Avid DNxHD(R) Codec
	Permanent	Apple ProRes 422 Codec
	Permanent	DVCPRO HD Codec
	Permanent	DVCPRO 50 Codec
	Permanent	Mjpeg Codec
	Permanent	IMX Codec
	Permanent	Mpeg2Intra Codec
	Permanent	AVC & XAVC Intra Codecs
	Permanent	XDCAM HD 50
	Permanent	LSM Hypermotion
		1000- Burt Link

エリア	説明					
上部	EVSサーバーに関するキー設定一覧:					
	● System ID: ハードウェアキーのIDコードで、ライセンスコードの計算に必要です。					
	● Serial number: サーバー本本のシリアル番号で、本体背面でも確認できます。					
	● User: ユーザー名は情報としてのラベルです。					
	● Chassis type: 本体のタイプ。					
	この値が間違っている場合には、システムの音声とビデオルーティングが正しく動作しません。					
	● PSU type: 本体に搭載されているPSUのタイプ:					
	Standard(標準)、もしくはhot swap(ホットスワップ)。					
	● Key date and time are: テンポラリライセンスの失効日時。					
	パーマネントライセンスが適用されると、無効になります。					
中部	サーバー筐体に適用されている、全てのコード。					
	表示内容は、コード番号 + ライセンスタイプ + コード名 です。					
	* ライセンスタイプは、permanent、demo、not granted					
下部	新しいライセンスコードを、手動で入力するエリアです。					
	ファイルから新しいライセンスコードをインポートするコマンドが、記載されています。					



Webベースインターフェース内

画面は、以下の情報を含む2つのエリアを表示しています:



エリア	説明
中部	サーバー筐体で有効 な全てのライセンスコードが表示されます。
	(ライセンスキーが適用され、有効なもの)
	各コード名の横には、コード番号が表示されています。
下部	新しいライセンスコードを手入力、もしくはライセンスコードファイルをアップロードするエリア。



2.4.3. ライセンスコードの入力と削除

序文

機能を有効にするため新しいライセンスコードをリクエストすると、EVSからは、以下のフォームでライセンスが発行 されます:

● 1つのxxxxx.CODファイル

● ライセンスコード

Option codes managementウィンドウ内で、手入力します。

ライセンスコードを入力すると、対応するオプション/機能は、収録開始時に自動的に有効になります。 サーバーをリブートする必要はありません。

COD ファイルから、ライセンスコードを入力する方法

サーバーベースアプリケーション内

新しいライセンスコードを、CODファイルで適用するには、以下のいずれかを行います: 1. CODファイルをUSBキーにコピーして、それをEVSサーバーのUSBポートに接続します。 2. Multicam Setupウィンドウから、Oを押し、Options codes managementウィンドウを開きます。 3. 同時に、ALT+Uキーを押します。

または、

1. 手動で、CODファイルを、EVSサーバーのC:¥ドライブにコピーします

2. Multicam Setupウィンドウから、Oを押し、Options codes managementウィンドウを開きます。

3. 同時に、ALT+Fキーを押します。

ライセンスコードが、COD ファイルより読み取られ、システムに適用されます。 コードに対応するラインの横に、ライセンスタイプ、有効期限、など、が表示されます。

Webベースインターフェース内

新しいライセンスコードを、CODファイルで適用するには、以下のいずれかを行います:

- 1. COD ファイルを、PCよりアクセス可能なドライブにコピーします。
- 2. Multicam Setupウィンドウから、Toolsメニュー内のOptions code managementをクリックし、 Options code managementウィンドウを開きます。
- 3. Browseボタンをクリックし、.CODファイルを選択し、Openをクリックします。
- 4. Submitをクリックします。

ライセンスコードは、ローカルファイルより読み込まれ、システムに尿疾れます。 新しいコードに対応するラインが、コードリストに追加されます。



キー番号で、ライセンスコードを入力する方法

サーバーベースアプリケーション内

新しいライセンスコードを、キー番号で入力するには、以下を行います: 1. Multicam Setupウィンドウから、Oを押し、Options codes managementウィンドウを開きます。 2. コードを、入力します。 自動的に、Validation Codeフィールド内に入力されます:

3. ENTERを押します。

コードに対応するラインの横に、ライセンスタイプ、有効期限、など、が表示されます。

Webベースインターフェース内

新しいライセンスコードを、キー番号で入力するには、以下を行います

1. Multicam Setupウィンドウから、Toolsメニュー内の**Options code management**をクリックして、 Options code managementウィンドウを開きます。

2. Add new codeグループボックスの最初のフィールド内に、コード番号を入力します:

Add	l new code	
Or:	File upload	Browse
	Submit	

3. Submitをクリックします。

新しいコードに対応するラインが、コードリストに追加されます。

ライセンスコードの削除方法

サーバーベースアプリケーションから、ライセンスコードの削除が可能です。 以下を行います:

1. 上矢印(↑)と下矢印(↓)キーを押しオプションリストの中で移動し、削除するオプションを選択します。

2. オプションを選択したら(白色でハイライトされます)、キーボード上で同時にCTRL+ DELETE を押します。

3. ENTERを押し、オプションの削除を適用します。



2.5. サーバーメンテナンス

2.5.1. 章の内容

以下のテーブルでは、この章のトピックを示しており、各機能がWebベースインターフェースとサーバーベースアプ リケーションで利用可能かを示しています。

内容	章	サーバーベース	Webベース
		アプリケーション	インターフェース
Re(b)oot:EVSサーバーのリブート	2.5.2.	Yes	No
(H)ardware check:ハードウェアチェック	2.5.3.	Yes	No
(C)lear video disks:クリアビデオディスク	2.5.4.	Yes	No
Clear only record trains:レコードトレインのクリア	2.5.5.	Yes	No
Import/export (k)eyword files :	2.5.6.	Yes	No
キーワードファイルのインポート/エクスポート			
E(x)port log files : ログファイルのエクスポート	2.5.7.	Yes	No

2.5.2. Re(b)oot: EVSサーバーのリブート

EVSサーバーが収録開始していない場合、Multicam SetupウィンドウからBを押し、右矢印(\rightarrow) と ENTER を押し、 確定します。

EVSサーバーが該当コンフィグで起動している場合、ClipもしくはPlaylistページ内にいる場合はALT+Qを押し、そして ENTERを押し、確定します。



2.5.3. (H)ardware check: ハードウェアチェック

ハードウェアチェックの概要

目的

- ハードウェアチェック中には、以下の処理が実施されます:
- EVSサーバーにインストールされているボードに関する情報の取得と確認
- ビデオディスクアレイに記録されたデータが有効かの確認
- ハードウェアチェックは、サーバーベースアプリケーションからのみ有効です。

チップ

ハードウェアチェックは、不良ディスク交換後の、ビデオとオーディオ情報のリビルドにも使用します。

プロセス

ハードウェアチェックは、サーバーのブートプロセスと同じステップとチェックを行います:

- MTPCチェック
- H3XPチェック
- Video Codecチェック
- GbEダウンロード
- Diskチェック
- Dataロード

Multicam Setupウィンドウ内で、Hを押し、ハードウェアチェックを起動すると、システムは自動的にテストプロセスを開始します。

BOOT.H3Xウィンドウ内に、次々にステップが表示されます。 テストプロセスは、H3XPボードの初期化で完了します。

ハードウェアチェックの最後に、ハードウェアのリビジョン情報が表示されます。 この情報は、bootwins.log内に記録されます。



ディスクエラーと切り離し

切り離し

ビデオレイドアレイの1つのディスクがエラーを起こした場合、Multicamは自動的に該当ディスクを切り離し、パリティディ スクを使い欠損しているデータをリビルドし、ビデオとオーディオデータブロックをアプリケーションに供給します。 オペレータは通常通り作業が継続でき、メッセージ"!Raid"が全てのモニタリング出力上に表示されます。

ディスクが切り離される度に、以下のメッセージが表示されます:

● 不良ディスクが、スペアディスクの場合:

"Warning: a spare disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity

please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS - RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

● 不良ディスクが、RAIDに含まれている場合:

Warning: a disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity

please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS - RAID configuration menu. [Enter]=Continue″

終了

Multicam終了時に、警告を表示し1つのディスクが切り離された事をオペレータに思い出させ、ビデオRAIDの修復に ハードウェアチェックを行うように導きます。 これは、スペアディスクが使用可能でも、表示されます:

● 不良ディスクがスペアディスクの場合:

"Warning: a spare disk has been disconnected. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift–F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

● 不良ディスクがRAIDに含まれている場合:

"Warning: a disk has been disconnected. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS - RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

EVS

再起動

MulticamをRAIDリビルドなしで再起動すると、bootwins中に、以下のような、ディスク種別に適応したメッセージが表示されます:

● スペアディスクに問題がないとき:

[Bad] SEAGATE ST9300603SS	3SE10H1J	0006	279GB 02 07
● スペアディスク全てに問題があり、RAIDが完了されなし	いとき:		
[Bad] SEAGATE ST9300603SS	3SE10H1J	0006	279GB 02 07
WARNING !!! Tray XX is missing 1 disk(s) to be complete			

そしてMulticamに入ると、別のスペアディスクが使用可能でも、別のメッセージが表示されます:

● 不良ディスクがスペアディスクの場合:

"Warning: a spare disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS - RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

● 不良ディスクがRAIDに含まれている場合:

"Warning: a disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

オペレータは、ENTERを押し、4 ディスク (コンフィグ"4+1")/5ディスク (コンフィグ "5+1")で通常操作を行う、または、 ソフトウェアを終了して、Multicam Setupウィンドウに戻りハードウェアチェック診断を行ないます。

リビルドプロセス

序文

XT3サーバーは、RAIDのリビルドを行なうことができます。 このプロセスは、Multicamアプリケーションが起動していないとき(オフライン-リビルドがより早く行なわれます)、 または、Multicamアプリケーション動作中(オンライン -リビルドは遅くなります) に行えます。

切り離しプロセス

ソフトウェアは、意図しない動きをするディスクを切り離します。

2つのオプションがあります:

- 切り離されたディスクを取り外し、サーバーを再起動する。
- Multicamアプリケーションを開始します。
 リビルドプロセスが自動的に開始されます。
- EVSメニューよりハードウェアチェックを開始、リビルドを起動します。
 プロセスは、オフラインで開始されます。
 オペレータは、リビルドが完了するまで待つ、または、キャンセル(延期)してMulticamアプリケーション
 を開始できます(この場合には、オンラインでリビルドは実行されます)。



ハードウェアチェック内でリビルドを開始して、強制的にディスクを再接続できます。 プロセスは、オフラインで行われます。 オペレータは、リビルドが完了するまで待つ、または、キャンセル(延期してMulticamアプリケーション を開始できます(この場合には、オンラインでリビルドは実行されます)。



リビルドプロセス中にエラーが検出されると、リビルド終了後にメッセージが表示され、RAIDが正しくリビルドされなかったことをオペレータに警告します。

この状態では、システムは4ディスク(4+1コンフィグ)/5ディスク(5+1コンフィグ)での動作を継続します。 5、6ディスクで起動したい場合には、ディスクを再交換し、再度リビルド/全クリップの消去を行ないます。

クリップ/トレインを再取得する必要がない場合には、RAIDのリビルドは必要はありません。 この場合には、ハードウェアチェック内で、このオプションを持つメッセージが表示されたら、'Clear All Clips'を 選択します。

RAIDアレイをリビルドしない/クリップを消去しない場合には、EVSサーバーは4、5ディスクのみで動作を続け、 Multicamアプリケーションの開始/終了時に警告が表示されます。

通常のオペレーションは 4、5ディスクで可能ですが、さらにもう1台のディスクが故障すると、システムは停止し全 てのビデオとオーディオデータは失われます。



デフォルトでは、オンラインリビルドプロセスは、ディスク帯或の10%を使用します。 変更したい場合には、EVSのサポートに問い合わせて下さい。



2.5.4. (C)lear video disks:クリアビデオディスク

序文

Clear video disks機能は、RAIDディスクアレイからのメディアの削除に使用します。 これは、Multicam Setupウィンドウから開いたClear video disksダイアログボックス内でアクセスできます:



選択したオプションにより、以下を削除します:

- 全てのビデオディスク上のクリップとレコードトレイン (Clear video disks)
- レコードトレインのみ (Clear only record trains)
- Intra クリップのみ (Clear only Intra clips)
- LongGOP クリップのみ (Clear only LongGOP clips)

いつ、何のために、クリア操作が要求されるか?



クリア操作が必要な場合には、Multicam内に、警告メッセージが表示されます。

下記の表は、クリア操作が必要な場合と、どのクリア操作が必要かを表しています:

クリア操作が必要なとき	クリア操作
一般的なメンテナンス	必要に応じて選択
レコードトレインメンテナンス	Clear only record trains
マルチエッセンスコンフィグ変更	Clear only record trains
Multicam14からMulticam12.05以下へのダウングレード	Clear video disks



マルチエッセンス変更に伴うクリア一操作

マルチエッセンスコンフィグを変更した時、下記の表に記載されている場合には、レコードトレインのクリア操作 (Clear only record trains)が必要になります。

何も表に指定されていない場合には、クリア操作は必要ありません。

Clear video disks/Clear only Intra clips /Clear only LongGOP clipsは必要に応じていつでも呼び出せますが、この場合には必要ありません。

オンエアコーデックのクリップを削除すると、Hi-Resクリップに関連したLo-Resクリップも消去されます。

	ターゲットコンフィグ										
Ŋ		Intra	Intra + LongGOP	LongGOP	LongGOP + Proxy	Intra+ Proxy					
ĺ	Intra		レコードトレイン		レコードトレイン	レコードトレイン					
Ę	Intra + LongGOP				レコードトレイン	レコードトレイン					
う	LongGOP		レコードトレイン		レコードトレイン	レコードトレイン					
グ	LongGOP + Proxy		レコードトレイン								
	Intra + Proxy		レコードトレイン		レコードトレイン						

サーバーベースアプリケーションでのクリップ/トレインのクリア方法

サーバーベースアプリケーションでクリアビデオディスクを行うには、以下を行います:

- 1. Multicam Setupウィンドウ内で、Cを押し、Clear Video Disksコマンドを呼び出します。
- 選択可能なオプションを選び、ENTERを押します。
 すると、確認メッセージが表示されます
- 3. 右矢印(→)、ENTERを押し、Yesを選択し、削除を確定します。 または、ENTERを押して削除をキャンセルします。



Clear Video Disksコマンド後に、サーバーが再起動されない限り、コマンドは、Undo Clear Video Disks At Next Start にトグルしています。

これは、Clear Video Disksのリクエストをキャンセルできるようにするためです。

Webベースインターフェースでのクリップ/トレインのクリア方法

Webベースインターフェースでクリアビデオディスクを行うには、以下を行います:

- 1. Multicam Setupウィンドウ内で、ToolsエリアからClear Video disksコマンドをクリックし、Clear Video Disksウィンドウを開きます。
- 2 選択可能なオプションを選択し、OKを押します。
 - 確認メッセージが表示されます。
- 3. Yes をクリックして削除を確定させる、または Noをクリックして削除をキャンセルします。



2.5.5. Clear only record trains: レコードトレインのクリア

レコードトレインフィールドカウンタが一杯になるのを防ぐ

レコードトレインは、カウンタを使い、サーバー内の記録された各フィールドを識別します。 このカウンタは、サーバーを連続して使用した時には、 2年8ヶ月: 50 Hz 2年3か月: 59.94 Hz で、オーバーフローします。

フィールドカウンタが限界に達すると、レコーダーとプレーヤーが停止します。

現在のファイルを閉じ、クリアビデオディスクすることなく/Multicamを終了することなく、新しいファイルを開始できます。

(以前のMulticamのバージョンでは、クリアビデオディスクが必要でした)

フィールドカウンタのリセット方法

Multicam Setupウィンドウからリセットするには、以下を行います:

- 1. Clear video disk ダイアログボックスに移動します。
- 2. Clear only record trainsを選択します。

Multicam Configurationウィンドウからリセットするには、以下を行います:

- 1. VGAで、SHIFT+F5を押し、Server Monitoringウィンドウを開きます。
- 2 General Informationページ (ページ1)で、Reset record train コマンドを選択します。

フィールドカウンタメンテナンスの影響

フィールドカウンタのメンテナンス中:

- プレーヤー: ローカルクリップ使用中 は、影響ありません。
- プレーヤー: リモート(XNet)サーバーからの素材を使用中は、影響ありません。
- リモートサーバー上での、フィールドカウンタメンテナンス中のサーバーのレコードトレインの再生は、 影響を受けます。

フィールドカウンタのメンテナンス実施後:

- 全てのトレインが消去されますが、クリップ/プレイリストは消去されません。
- Multicamは、メンテナンス操作前に起動していたレコーダーを再起動します。
- Multicamは、メンテナンス操作前に起動していたプレーヤーを再起動します。 各プレーヤーで利用中のレコードトレインは、変わりません。



自動事前警告

フィールドカウンタが限界に達するとレコーダーとプレーヤーが停止するため、事前に警告が自動的に発行されます:

- カウンターオーバーフローの、12 週前、8~4週前まで毎週、VGA上に警告が表示されます。
- 4週前から毎日VGA上に警告が表示され、全てのPGMのOSD画面上に"!Recⁿ警告が表示されます。
- 前日には、OSDの警告が点滅します。

フィールドカウンタのオーバーフロー

フィールドカウンタがオーバーフローになると

- Multicamは、レコーダーとプレーヤーを停止します。
- Multicam は、VGA/ OSD/LSM上にエラーメッセージを出します。
- オペレータは、ディスク上で使用可能な全ての素材で、クリップのブラウズ/作成が可能です。



2.5.6. Import/export (k)eyword files: キーワードファイルのインポート/エクスポート

序文

キーワードファイルは、8文字の名前を持つシンプルなテキストファイルで、拡張子は KWDです。 全てのキーワードファイルは、サーバーの C:¥LSMCE¥DATA¥KWDディレクトリに保存されなければなりません。 Multicamインストール時に、サンプルキーワードファイル (SAMPLE.KWD) が提起れます。

USBキーを使用して、キーワードファイルのインポート/エクスポートが可能です。 これは、サーバーベースアプリケーションでのみ行うことができます。

キーワードファイルのインポート方法

キーワードファイルをインポートするには、以下を行います

1. インポートしたいキーワードファイルを、USBキーに保存します。

そして、Multicam Setupウィンドウが開いた時に、USBポートに差込みます。

2. Multicam Setupウィンドウ内で、Kを押し、Import/export keyword fileコマンドを呼び出します。 以下のダイアログボックスが開きます:



3. 複数のキーワードファイルがUSBキーに保存されている場合、SPACEBARを押し、目的のファイルが左脇で選択 されるようにします。

4. ENTERを押し、キーワードファイルを、USB キーからEVSサーバーヘインポートします。

5. OKを押し、キーワードファイルがインポートされた際表示されるメッセージボックスを閉じます。

6. USB キーを取り外します。

Keyword ファイルのエクスポート方法

キーワードファイルをエクスポートするには、以下を行います

1. Multicam Setupウィンドウが開いた時に、USBキーをUSBポートに差込みます。

2. Multicam Setupウィンドウ内で、Kを押し、Import/export keyword fileコマンドを呼び出します。

以下のダイアログボックスが開きます:



3. ENTERを押し、キーワードファイルを、EVSサーバーからUSB キーヘエクスポートします。

4. OKを押し、キーワードファイルがエクスポートされた際表示されるメッセージボックスを閉じます。

5. USB キーを取り外します。



2.5.7. E(x)port log files: ログファイルのエクスポート

トラブル調査用のログファイル取得には、Multicam SetupウィンドウからXショートカットキーを押し、挿入したUSBキーにログファイルをエクスポートします。

Export log fileコマンドを呼び出すと、USBキーのルートフォルダ上に .zipファイルが作成されます。 これは、以下を含んでいます:

- EVSサーバーのC: ¥LSMCE¥DATAフォルダに保存されている全てのファイル
- コンフィグラインの設定を含むエクセルスプレッドシート

エクスポート後、メッセージボックスが表示されEVSサーバーのログを消してよいか確認されます。 Yesを選択すると、C: ¥LSMCE¥DATA¥LOGと、C: ¥LSMCE¥DATA¥DUMP フォルダのデータが消去されます。

ログファイルは、XNet Monitorからもエクスポートできます。





3. サポートしているコンフィグ

3.1. 一般的な原則

3.1.1. サポートしているコンフィグについて

一般性

EVSサーバーでサポートしている主なコンフィグは、下記のWebページで確認できます: http://www.evs.com/backpanel/index.html#

XT3サーバーは、下記のコンフィグタイプをサポートしています:

- SD/HD 標準とSLSMコンフィグ
- 3D 標準とSLSMコンフィグ
- 1080p 標準とSLSMコンフィグ
- UHD-4K 標準とSLSMコンフィグ

XT3 4Uサーバーでは、以下のコンフィグを使用できます:

- 4-チャンネルモード(ライセンスコードなし)
- XRecモード (7-チャンネルコンフィグ) (ライセンスコード 30)
- ChannelMaxモード(8-チャンネルコンフィグ)(ライセンスコード 34) または
- ChannelMax Spotboxモード (8-チャンネルコンフィグ) (ライセンスコード 35)

XT3 6Uサーバーでは、以下のコンフィグを使用できます:

- 6-チャンネルモード (ライセンスコードなし)(4-と6-チャンネルコンフィグ含む)
- XRecモード (8-チャンネルコンフィグ) (ライセンスコード 30)
- ChannelMaxモード (10-と12-チャンネルコンフィグ) (ライセンスコード 34) または
- ChannelMax Spotboxモード (10-と12-チャンネルコンフィグ) (ライセンスコード 35)

必要条件と制限事項

● 全てのSD/HDコンフィグで、PLAYチャンネルにMix on one channelを使用できます。 (Dual Play機能使用時のみ不可)

3.1.2. RECORDとPLAYチャンネルについて

RECORD、PLAYチャンネル数

コンフィグのRECORDとPLAYチャンネル数は、Channelsタブ内、Base設定内で設定します。

使用可能なRECORD、PLAYチャンネル数は、筐体、インストールされているライセンス、動作しているコンフィグにより異なります。

● Multicam LSM モード: EVSサーバーは、LSMリモコンで制御します。

● Spotbox/Serverモード: EVS サーバーは、業界標準プロトコルで制御されます。

以下のテーブルでは、両方のモードで使用可能なチャンネルの最小/最大数を示します:

	6	U	4	U	
	LSM	Spotbox	LSM	Spotbox	
最大 # チャンネル	12	12	8	8	
最小 # REC	1	0	1	0	
最大 #REC	10	12	6	8	
最小 #PLAY	1	0	1	0	
最大 #PLAY	6	6	6	6	



前記で記載されている制限により、以下のセクションで記載されているコンフィグのうち、Server/Spotboxまたは、 Multicam LSM/XSenseモードでのみ有効なものがあります。

クリップとレコードトレインの互換性

- クリップは、SuperLSMクリップを含み、全てのMulticamのコンフィグ間で互換です。
- レコードトレインは、LSMモード内でRECORDチャンネル(カメラ)が増えない限り、互換です。 例
 - O 1REC \rightarrow 2REC: レコードトレインは、失われます。
 - O 4REC \rightarrow 3REC: レコードトレインは、保持されます。
- レコードトレインは、Spotboxモードでは、常に保持されます。 (RECORDトレインの数の増減の影響は受けません)



Enhanced Playout(エンハンストプレイアウト)モード

intra-frameコーデックで動作しているEVSサーバー上で、V3Xコーデックモジュールの両方のデコーダは、一定条件下ではリプレイ中デコード処理のパフォーマンスを向上させる為に利用可能です。

このエンハンストプレイアウトモードは、チャンネル毎こ設定できます。

エンハンストプレイアウトモードが有効になると、ビデオが標準スピード

(100%:標準レコーダ、50%:SLSMx2、33%:SLSMx3、・・・)より速い速度で再生されるときに使用すると、効果的です。

エンハンストプレイアウトモードは、以下の条件が全て揃うと、自動的に有効になります:

- EVSサーバーが、フレーム-ベースコーデック(AVC-Intra、XAVC-Intra、MPEG2-Intra、DVCPro)で動作。
- 選択コンフィグにおいて、Mix on One Channel機能を使用可能。

Mix on One Channelパラメーターがオフ、Channelsタブ -> Mix on One Channel設定。



結果として、エンハンストプレイアウトモードは、Dual Playコンフィグでは、使用できません。



3.1.3. 拡張コンフィグについて

定義

拡張コンフィグは、V3Xモジュールのセカンダリリンクをそれぞれ独立したレコーダとして使用する、(以前の) XRecと ChannelMaxモード(4U)、または、8-チャンネルとChannelMaxモード(6U)に含まれるコンフィグです。

Multicam 14.02以降、EVSが提供する新しいサーバーでは、XRecモードは使用できません。

しかし、XRecで使用していた全てのコンフィグは、ChannelMaxライセンスコードで使用できます。

ChannelMaxライセンスを持つサーバーは、全ての非拡張とXRecコンフィグで動作します。

XRecライセンスを持つサーバーは、全ての非拡張コンフィグで動作します。

要件

8-チャンネルモード (XT3 6Uサーバー)、または、XRecモード (6-チャンネルコンフィグ) (XT3 4Uサーバー)では、 以下が必要です:

● ライセンスコード 30

ChannelMaxモードでは、以下が必要です:

- ライセンスコード 34 (Multicam LSMモード)、35 (Spotboxモード) (ChannelMaxコード)
- H3XP、A3X、HS-873ボード(6Uサーバー内蔵)
- A3Xボード (4Uサーバー内蔵)



3.1.4. チャンネル割り当ての原則

以下の原則は、全てのコンフィグに適用され、全てのXT3サーバーで有効です:

- 1つのコーデックモジュール内のコネクタは、PLAYまたはRECORDモードとしてのみ動作します。
- PLAYチャンネル (OUTコネクタ)は、常に左から右へ割り当てられます。



● RECORDチャンネル (INコネクタ)は、常に右から左に割り当てられます。



Issue 15.3.C - December 2017

- 1. この章のテーブル内に記載されているV3Xボードのprimary(プライマリ)リンクは、コーデックモジュールの上部の コネクターに該当します。
 - J8: IN用コネクタ
- J7: OUT用コネクタ(J6は、J7と同じです)



2. この章のテーブル内に記載されているV3Xボードのsecondary(セカンダリ)リンクは、コーデックモジュールの中、下部のコネクターに該当します。





8-チャンネルモードにおける接続の原則

8-チャンネルモードでは、以下の手順での配線が必要です:

- 1. PLAYチャンネルは、左から右へ。
- 2. RECORDチャンネルは右から左へプライマリリンクに配線し、左のコーデックモジュールで既こPLAYチャンネルで 使われているものは除きます。
- 3. 残りのRECORDチャンネルを右から左に、セカンダリリンクに配線します。

ChannelMaxモードにおける接続の原則

ChannelMaxモードでは、上記に加えて、以下の原則が適用されます:

● PLAYチャンネル用に使用されるコーデックモジュールの数は、RECORDチャンネルに最大バンド幅を許可 するため、できるだけ最小限にします。

標準とSLSM Dualコンフィグ

標準とSLSM (Dual)コンフィグは、以下の順番で接続します。

1. RECORDチャンネルを、右から左に配線します:

- 最初のRECORDチャンネルの半分を、プライマリリンクに接続します。
- 残りのRECORDチャンネルを、(プライマリリンクを使用している)セカンダリリンクに接続します。
- 2. PLAYチャンネルを、左から右へ配線します:
- 最初のPLAYチャンネルの半分を、プライマリリンクに接続します。
- 残りのPLAYチャンネルを、(プライマリリンクを使用している)セカンダリリンクに接続します。

SLSM 3Gコンフィグ

SLSM 3Gコンフィグは、以下の順番で接続します。

1.3G-SDIコネクタを、RECORDチャンネルのIN Aリンクに右から左に配線します。

2. RECORDチャンネルを右から左に配線します:

- 最初の残りのRECORDチャンネルの半分を、プライマリリンクに接続します。
- 残りのRECORDチャンネルを、(プライマリリンクを使用している)セカンダリリンクに接続します。
- 3. PLAYチャンネルを、左から右へ配線します:
 - 最初のPLAYチャンネルの半分を、プライマリリンクに接続します。
 - 残りのPLAYチャンネルを、(プライマリリンクを使用している)セカンダリリンクに接続します。





3.2. SD/HD標準コンフィグ

3.2.1. SD/HDコンフィグ (4U)

序文

以下のテーブルでは、SD/HD XT3 4U サーバーで可能なコンフィグとBNCのコネクタの配線を示しています。 7チャンネルモードコンフィグは、コーデックモジュールのセカンダリリンクを、独立したRECORDチャンネルとして使用 します。



'mix on one channel'オプションがPLAYチャンネルで有効化されると(Channelsタブ、ページ7)、 PLAYチャンネルのコーデックモジュールのセカンダリリンク(V3X ボードのJ3)は、 トランジション効果を出力する為に使われます。



レコーダなし、またはプレイヤーなしのHDベースコンフィグは、Spotbox/Serverモードでのみサポートされています。



Configurations in 4-Channel Mode

		IN4/OUT1		IN3/OUT2	2	IN2/OUT3	}	IN1/OUT4	
#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
1	0							IN1	
2	0					IN2		IN1	
3	0			IN3		IN2		IN1	
4	0	IN4		IN3		IN2		IN1	
1	1	OUT1	MIX1					IN1	
1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN1	
1	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN1	
2	1	OUT1	MIX1			IN2		IN1	
2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2		IN1	
3	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2		IN1	
0	1	OUT1	MIX1						
0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2				
0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3		
0	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4

Example in 4-Channel Mode (3IN + 1OUT)





Configurations in XRec Mode

		IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
0	6	OUT1	OUT5	OUT2	OUT6	OUT3		OUT4	
2	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN1	IN2
2	4	OUT1	OUT4	OUT2		OUT3		IN1	IN2
3	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2		IN1	IN3
3	3	OUT1	OUT3	OUT2		IN2		IN1	IN3
4	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2		IN1	IN4
4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2	IN4	IN1	IN3
4	3	OUT1	OUT3	OUT2		IN2	IN4	IN1	IN3
5	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2	IN5	IN1	IN4
6	0	IN4		IN3		IN2	IN6	IN1	IN5
6	1	OUT1	MIX1	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4

Example in XRec Mode (6IN + 1OUT)





Configurations in ChannelMax Mode

		IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4		
#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.							
8	0	IN4	IN8	IN3	IN7	IN2	IN6	IN1	IN5	
6	2	OUT1	OUT2	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4	
4	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2	IN4	IN1	IN3	
2	6	OUT1	OUT4	OUT2	OUT5	OUT3	OUT6	IN1	IN2	

1 注意

Dual Playコンフィグ 6 IN - 2 OUT、4 IN - 4 OUT (2つの独立PLAYチャンネルが、1つのコーデックモジュールの両 方のリンクに割り当てられる)では、標準mix機能 (PGM/PRVモード経由)は、コーデックモジュール1の1番目のリン クのみ (6 IN - 2 OUT)、コーデックモジュール1の1番目と2番目のリンク (4 IN - 4 OUT)です。

Example in ChannelMax Mode (4IN + 4OUT)





3.2.2. SD/HDコンフィグ(6U)

序文

以下のテーブルでは、SD/HD XT3 6Uサーバーで可能なコンフィグとBNCコネクターの配線を示しています。 8-チャンネルまたはChannelMaxモードコンフィグは、コーデックモジュールのセカンダリリンクを、独立したRECORDチャンネルとして使用します。



'mix on one channelオプションがPLAYチャンネルで有効化されると(Channelsタブ、ページ7)、 PLAYチャンネルのコーデックモジュールのセカンダリリンク(V3X ボードのJ3)は、 トランジション効果を出力する為に使われます。



レコーダなし、またはプレイヤーなしのHDベースコンフィグは、Spotbox/Serverモードでのみサポートされています。



Configurations in 6-Channel Mode

			IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6	
	#IN	#OUT	Prim.	Sec.										
			Ch.	Ch.										
Sp	1	0											IN1	
Sp	2	0									IN2		IN1	
Sp	3	0							IN3		IN2		IN1	
Sp	4	0					IN4		IN3		IN2		IN1	
Sp	5	0			IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	
Sp	6	0	IN6		IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	
	1	1	OUT1	MIX1									IN1	
	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2							IN1	
	1	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3					IN1	
	1	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4			IN1	
	1	5	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	OUT5	MIX5	IN1	
	2	1	OUT1	MIX1							IN2		IN1	
	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2					IN2		IN1	
	2	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3			IN2		IN1	
	2	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN2		IN1	
	3	1	OUT1	MIX1					IN3		IN2		IN1	
	3	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN3		IN2		IN1	
	3	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3		IN2		IN1	
	4	1	OUT1	MIX1			IN4		IN3		IN2		IN1	
	4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4		IN3		IN2		IN1	
	5	1	OUT1	MIX1	IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	
Sp	0	1	OUT1	MIX1										
Sp	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2								
Sp	0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3						
Sp	0	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4				
Sp	0	5	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	OUT5	MIX5		
Sp	0	6	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	OUT5	MIX5	OUT6	MIX6

頭に、Spが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでのみ有効です。

Example in 6-Channel Mode (4IN + 2OUT)





Configurations in 8-Channel Mode

			IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6	
	#IN	#OUT	Prim.	Sec.										
			Ch.	Ch.										
	2	5	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	OUT5	MIX5	IN1	IN2
	2	6	OUT1	OUT6	OUT2		OUT3		OUT4		OUT5		IN1	IN2
	3	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN2		IN1	IN3
	4	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3		IN2		IN1	IN4
	4	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN2	IN4	IN1	IN3
	5	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4		IN3		IN2		IN1	IN5
	5	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3		IN2	IN5	IN1	IN4
	6	1	OUT1	MIX1	IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	IN6
	6	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4		IN3		IN2	IN6	IN1	IN5
Sp	8	0	IN6		IN5		IN4		IN3		IN2	IN8	IN1	IN7

頭に、Spが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでのみ有効です。

Example in 8-Channel Mode (4IN + 4OUT)





Configurations in ChannelMax Mode

		IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6		
	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	6	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4
2LSM	6	6	OUT1	OUT4	OUT2	OUT5	OUT3	OUT6	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4
	8	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4	IN8	IN3	IN7	IN2	IN6	IN1	IN5
2LSM	8	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN4	IN8	IN3	IN7	IN2	IN6	IN1	IN5
	10	1	OUT1	MIX1	IN5	IN10	IN4	IN9	IN3	IN8	IN2	IN7	IN1	IN6
	10	2	OUT1	OUT2	IN5	IN10	IN4	IN9	IN3	IN8	IN2	IN7	IN1	IN6
Sp	12	0	IN6	IN12	IN5	IN11	IN4	IN10	IN3	IN9	IN2	IN8	IN1	IN7

頭に、**Sp**が付加されているコンフィグは、Spotboxモード(ライセンスコード 35 Channels Max Spotbox)でのみ有効で す。

頭に、2LSMが付加されているコンフィグは、Dual LSMモード(ライセンスコード 116)でも有効です。



Dual Playコンフィグ 10 IN - 2 OUT、8 IN - 4 OUT、6 IN - 6 OUT(コーデックモジュールの両方のリンクに2つの独立 したPLAYチャンネルが割り振られる)では、標準のMIX機能、PGM/PRVモード経由は、

コーデックモジュール1の最初のリンクのみ (10 IN - 2 OUT)、

コーデックモジュール1の最初と2番目のリンク (8 IN - 4 OUT と 6 IN - 6 OUT)で実行されます。

Example in ChannelMax Mode (10IN + 2OUT)





3.3. SLSMコンフィグ

3.3.1. スーパーモーションコンフィグの一般的な情報

コンセプト

スーパーモーションカメラは、2倍速~16倍速力メラの事を言い、標準カメラの2、3、4、6、8、10、16倍のフレームレート で収録します。

ハイパーモーションカメラは、スーパーモーションカメラとウルトラモーションカメラとは、以下の2点の違いがあります:

● スーパーモーションカメラのA/V素材は、連続してEVSサーバーに取り込まれますが、
 ハイパーモーションカメラのA/V素材は、カメラのバッファーに記録され、EVSサーバーにはオペレーターがハイパーモーションカメラにPLAYコマンドを送ると収録されます。

● スーパーモーションカメラのA/V素材は、EVSサーバーにそのフェーズごとに1本のRECORDチャンネルで 取り込まれますが、ハイパーモーションカメラのA/V素材は、1本のRECORDチャンネルより取り込まれます。

序文

スーパーモーションカメラの収録素材は、直接EVSサーバーに収録されます。 偶数フェーズ(2x、4x、6x、8x)のスーパーモーションカメラでは、3G-SDI接続1本のケーブルで2つのフェーズを送る)を使 用できます。

12フェーズを超えるコンフィグを使用すると、チャンネルのフルバンド幅を使用します。

カメラのフェーズ数が、EVSサーバー上で使用する物理RECORDチャンネル数を直接決定します。

● 2倍速カメラは、2つの物理RECORDチャンネルを使い(V3Xのプライマリもしくはセカンダリ)、3倍速カメラは、3つの物理RECORDチャンネルを使い、それ以降も同様です。

もし、コンフィグが12フェーズを超えるなら、チャンネルのバンド幅は制限されます。 これは、3G-SDI接続のみで可能です:

● 3G-SDI接続の2倍速は、1つの物理RECORDチャンネルのみを使用します。 (プライマリ、またはセカンダリチャンネル)

必要条件

SLSM 2x-3x-4x-6x-8x-10xコンフィグ

SLSM **2x-3x** コンフィグは、全ての SD コーデックでネイティブにサポートされています。 SLSM **2x-3x-4x-6x** コンフィグは、全ての HD コーデックでネイティブにサポートされています。 SLSM **8x と 10x** コンフィグは、Mpeg-2 Intraを除く、全ての HD コーデックでネイティブにサポートされています。 さらに、SLSM **10x** コンフィグは、720p と 1080i解像度でのみサポートされています。



これらのコンフィグは、以下の条件を満たせば、有効になります

- ライセンスコード 110 (Super Motion) が有効
- ベースコンフィグが、Multicam LSM



SLSM 6x と10xコンフィグは、ライセンスコード 26 (Umotion Only)でも、サポートされています。

3G SLSM 2x-4x-6x-8xコンフィグ

3G SLSM **2x、4x、6x** コンフィグは、全ての HD コーデックでネイティブにサポートされています。 3G SLSM **8x** コンフィグは、Mpeg-2 Intraを除く、全ての HD コーデックでネイティブにサポートされています。 SLSM **10x** コンフィグは、3Gでは使用できません。

これらのコンフィグは、以下の条件を満たせば、有効になります:

- ライセンスコード 110 (Super Motion) が有効
- ベースコンフィグが、Multicam LSM
- パラメータ 3G/Dual が No
- 解像度が、HD 720p または 1080i

注意

3G SLSM コンフィグは、SLSM設定内On 3G-SDIパラメータ経由で管理され、3G/Dual設定経由ではありません。 HDで使用するとき、標準HDと3G SLSMカメラを、同時に接続できます。

制限

Muliti-Essence(マルチエッセンス)

Multiessenceの Intra + LongGOPモードでのSLSMコンフィグでは、以下の制限があります:

- Intraコーデックは、全てのフェーズを収録します。
- LongGOPのコーデックは、(SLSMではない)通常のスピードのコンテンツをフェーズ 1から収録します。

拡張コンフィグ

コーデックモジュールの両方のリンクを使用する3Gコンフィグ(4フェーズ/コーデックモジュール)は、以下の制限付きで使用可能です:

- DNxHDコーデック
- 最大ビットレート 120Mbps : 50Hz(PAL)

130Mbps : 60Hz (NTSC)

エンハンストプレイアウトモード

intra-frameコーデックで起動しているEVSサーバーでは、V3Xコーデックモジュールの両方のチャンネルを特別な状態で 使用でき、リプレイ中のデコードのパフォーマンスを上げます。

このエンハンストプレイアウトモードは、チャンネル毎にコンフィグされ、SLSMコンフィグで使用可能です。


3.3.2. SLSMコンフィグ(4U)

序文

SLSM の原則

この章では、XT3 4Uサーバーで可能なマルチフェーズSLSM コンフィグについて説明します。 SLSMコンフィグでは、2、3、4、6倍速カメラのスーパーモーション収録は、1つの論理チャンネルと考慮されますが、2 、3、4、6本の物理チャンネルです。

3G SLSMコンフィグでは、2、6倍速カメラのスーパーモーション収録は、1つの論理チャンネルと考慮されます。 背面パネルは、それぞれ1本か3本のケーブルで、コーデックモジュールのプライマリーチャネルに接続されます。 V3X ボードでは、コーデックモジュールのプライマリとセカンダリチャネル両方を使います。

テーブルと例について

この章では、XT3 4Uで可能なSLSMコンフィグと、背面パネルの例について記載しています。

テーブルと例は、選択コンフィグにおけるBNCのコネクターの配線を示しています。

7チャンネルモードコンフィグは、コーデックモジュールのセカンダリリンクを、独立したRECORDチャンネルとして使用します。

これは、指定状態でのみ、使用可能です。



			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#IN SLSM 2x	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
4-チャ	ンネル・	モード	-				-			
1	0	0					IN1,2		IN1,1	
1	1	0			IN2		IN1,2		IN1,1	
1	2	0	IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
1	0	1	OUT1	MIX1			IN1,2		IN1,1	
1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,2		IN1,1	
1	1	1	OUT1	MIX1	IN2		IN1,2		IN1,1	
2	0	0	IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
XRecŦ	:K									
1	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1
3	0	1	OUT1	MIX1	IN2,1	IN3,2	IN1,2	IN3,1	IN1,1	IN2,2
Channe	Max T	ード								
1	2	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
1	4	2	OUT1	OUT2	IN2	IN5	IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
2	0	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1
2	2	2	OUT1	OUT2	IN2,1	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2,2
3	0	2	OUT1	OUT2	IN2,1	IN3,2	IN1,2	IN3,1	IN1,1	IN2,2

SLSM 2-Phase Configurations

Example in 4-Channel Mode (1IN SLSM 2x + 2OUT)





Example in XRec Mode (3IN SLSM 2x + 10UT)



Example in ChannelMax Mode (1IN SLSM 2x + 4IN + 2OUT)





SLSM 2-Phase Configurations on 3G

			IN4/OUT1		IN3/OUT2	2	IN2/OUT3	}	IN1/OUT4	1
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
SLSM										
3G 2x										
4-チャ	ンネル	モード							_	_
1	0	0							IN1, 1-2	
1	1	0					IN2		IN1, 1–2	
1	2	0			IN3		IN2		IN1, 1–2	
1	0	1	OUT1	MIX1					IN1,	
1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MDX2			I-2 IN1,	
1	1	1	OUT1	MIX1			IN2		1-2 IN1,	
2	0	0					IN2,		1-2 IN1,	
VDool	K*						1-2		1-2	
	- 1*	0	OUT1	MIV1		MIV2	TNI2		TNI1	
-		2			0012	IVILAZ	1112		1N1, 1-2	
1	2	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2		IN1, 1-2	
2	0	1	OUT1	MIX1			IN2, 1-2		IN1, 1-2	
2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2, 1-2		IN1, 1–2	
2	1	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2,		IN1,	
3	0	0			IN3,		I-2 IN2,		I-2 IN1,	
					1-2		1-2		1-2	
3	0	1	OUT1	MIX1	IN3, 1-2		IN2, 1-2		IN1, 1-2	
Channe	elMax T	ード								
1	2	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2	IN3	IN1, 1-2	
1	4	2	OUT1	OUT2	IN3	IN5	IN2	IN4	IN1, 1-2	
2	0	4	OUT1	OUT2			IN2,		IN1,	
2	2	2	OUT1	OUT2	IN3	IN4	IN2,		IN1,	
3	0	2	OUT1	OUT2	IN3,		I=2 IN2,		IN1,	



Example in 4-Channel Mode (1IN 3G SLSM 2x + 1IN + 1OUT)



Example in XRec Mode (3IN 3G SLSM 2x + 10UT)





Example in ChannelMax Mode (1IN 3G SLSM 2x + 4IN + 2OUT)





SLSM 3-Phase Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	ļ
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
3x										
4-チャ	ンネルヨ	E—K								
1	0	0			IN1,3		IN1,2		IN1,1	
1	1	0	IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
1	0	1	OUT1	MIX1	IN1,3		IN1,2		IN1,1	
XRecŦ	:K									
1	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,3
1	3	1	OUT1	MIX1	IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
2	0	1	OUT1	MIX1	IN1,3	IN2,3	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1
Channe	Max T	ード								
1	1	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,3
1	3	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
2	0	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN2,3	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1

Example in XRec Mode (1IN SLSM 3x + 3IN + 10UT)





Example in ChannelMax Mode (2IN SLSM 3x + 2OUT)





SLSM 4–Phase Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	ļ
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
4x										
4-チャ	ンネルー	モード								
1	0	0	IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
XRecŦ	:K									
1	0	1	OUT1	MIX1	IN1,3		IN1,2		IN1,1	IN1,4
1	1	1	OUT1	MIX1	IN1,3		IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,4
1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,2	IN1,4	IN1,1	IN1,3
Channe	elMax T	ード								
1	2	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,4

Example in XRec Mode (1IN SLSM 4x + 10UT)





Example in ChannelMax Mode (1IN SLSM 4x + 2IN + 2OUT)





SLSM 4-Phase Configurations on 3G

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3	;	IN1/OUT4	
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
3G 4x										
XRec T	:—ド					1				
1	0	1	OUT1	MIX1			IN1,		IN1,	
							3–4		1-2	
1	1	1	OUT1	MIX1	IN2		IN1,		IN1,	
							3–4		1-2	
1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,		IN1,	
							3-4		1-2	
Channe	elMax⊤	ード								
1	2	2	OUT1	OUT2	IN2	IN3	IN1,		IN1,	
							3-4		1-2	

Example in XRec Mode (1IN 3G SLSM 4x + 1IN + 1 OUT)





Example in ChannelMax Mode (1IN 3G SLSM 4x + 2IN + 2OUT)





SLSM 6-Phase Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2	2	IN2/OUT3		IN1/OUT4	ļ
#IN SLSM 6x	#IN #IN #OUT SLSM ôx KRecモード		Prim. Ch.	Sec. Ch.						
ox XRecモード										
1	0	1	OUT1	MIX1	IN1,3	IN1,6	IN1,2	IN1,5	IN1,1	IN1,4
Channe	」 い い い い い い い い い い い い い い い い い い い									
1	0	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN1,6	IN1,2	IN1,5	IN1,1	IN1,4

Example in XRec Mode (1IN SLSM 6x + 10UT MIX)



Example in ChannelMax Mode (1IN SLSM 6x + 2OUT)





SLSM 6-Phase Configurations on 3G

			IN4/OUT		IN3/OUT2	2	IN2/OUT3	3	IN1/OUT4	Ļ
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
3G 6x										
XRec T	:—ド									
1	0	1	OUT1	MIX1	IN1,		IN1,		IN1,	
					5-6		3–4		1-2	
Channe	Max T	ード								_
1	0	2	OUT1	OUT2	IN1,		IN1,		IN1,	
	5		5-6		3-4		1-2			

Example in XRec Mode (1IN 3G SLSM 6x + 10UT)



Example in ChannelMax Mode (1IN 3G SLSM 6x + 2OUT)





3.3.3. SLSMコンフィグ(6U)

序文

SLSM の原則

この章では、XT3 6Uサーバーで使用可能なマルチフェーズSLSMコンフィグについて説明します。

SLSMコンフィグでは、2、4、6、8倍速カメラの収録を1つの論理チャンネルと考慮しますが、物理的には2、4、6、8本の収録チャンネルに該当します。

3G SLSMコンフィグでは、2、4、6、8倍速カメラの収録を1つの論理チャンネルと考慮します。

背面パネルは、それぞれ1、2、3、4本の物理的なチャネルで、コーデックモジュールのプライマリチャネルに接続されます。

V3X ボード上では、コーデックモジュールのプライマリーとセカンダリチャネル両方を使います。

ウルトラモーションカメラでは、10倍速カメラのウルトラモーション収録を1つの論理チャンネルと考慮しますが、物理的には10本に該当します。

概要

この章では、XT3 6Uで可能なSLSMとU-Motionコンフィグと、背面パネルの例について記載しています。

テーブルと例は、選択されたコンフィグにおけるBNCのコネクターの配線を示しています。

XRecとChannelMaxモードコンフィグは、コーデックモジュールのセカンダリリンクを、独立したRECORDチャンネルとして使用します。

これは、提供されたコンフィグでのみ、使用可能です。



SLSM 2-Phase Configurations

				IN6/Ol	JT1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSN	Λ		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	2 x														
6-チャ	ンネル	୵モー⊦	:												
	1	0	0									IN1,2		IN1,1	
	1	1	0							IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	2	0					IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	3	0			IN4		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	4	0	IN5		IN4		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	0	1	OUT1	MIX1							IN1,2		IN1,1	
	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2					IN1,2		IN1,1	
	1	0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3			IN1,2		IN1,1	
	1	0	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN1,2		IN1,1	
	1	1	1	OUT1	MIX1					IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	1	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	2	1	OUT1	MIX1			IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	3	1	OUT1	MIX1	IN4		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	2	0	0					IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	1	0			IN3		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	2	0	IN4		IN3		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,2	
	2	0	1	OUT1	MIX1			IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	1	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	3	0	0	IN3,2		IN3,1		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
8-チャ	ンネル	୵モート	:		•										•
	1	2	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN1.2	IN3	IN1.1	IN2
	1	3	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN2		IN1.2	IN4	IN1.1	IN3
	1	4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN3		IN2		IN1.2	IN5	IN1.1	IN4
	2	0	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN1.2	IN2.2	IN1.1	IN2.1
	2	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,2		IN2,1		IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
	3	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,2		IN2,1		IN1,2	IN3,2	IN1,1	IN3,1
	4	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,2	IN4,2	IN2,1	IN4,1	IN1,2	IN3,2	IN1,1	IN3,1
Channe	elMax ⁼	モード													
NEW !	2	4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,2	IN6	IN2,1	IN5	IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
NoSp															
2LSM	2	4	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2,2	IN6	IN2,1	IN5	IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
	4	1	1	OUT1	MIX1	IN3,1		IN2,2	IN5	IN2,1	IN4,2	IN1,2	IN4,1	IN1,1	IN3,2
Sp	4	4	0	IN3,2	IN8	IN3,1	IN7	IN2,2	IN6	IN2,1	IN5	IN1,2	IN4,2	IN1,1	IN4,1
	4	0	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2,2	IN4,2	IN2,1	IN4,1	IN1,2	IN3,2	IN1,1	IN3,1



頭に、Spが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでのみ有効です。

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

頭に、2LSMが付加されているコンフィグは、Dual LSMモード(ライセンスコード 116)でも有効です。

Example in 8-Channel Mode (2IN SLSM 2x + 2IN + 2OUT MIX)



Example in 8-Channel Mode (4IN SLSM 2x + 2OUT MIX)



Example in ChannelMax Mode (4IN SLSM 2x + 4IN)





Example in ChannelMax Mode (4IN SLSM 2x + 4OUT)





SLSM 2-Phase Configurations on 3G

				IN6/OU	JT1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM	1		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	3G 2:	ĸ													
6-チャ	ンネル	୵モー⊦	÷				1								
	1	0	0											IN1, 1-2	
	1	1	0									IN2		IN1, 1-2	
	1	2	0							IN3		IN2		IN1, 1–2	
	1	3	0					IN4		IN3		IN2		IN1, 1-2	
	1	4	0			IN5		IN4		IN3		IN2		IN1, 1–2	
	1	0	1	OUT1	MIX1									IN1,	
	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2							IN1,	
	1	0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3					IN1,	
	1	0	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4			IN1,	
	1	1	1	OUT1	MIX1							IN2		IN1,	
	1	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2					IN2		IN1,	
	1	2	1	OUT1	MIX1					IN3		IN2		IN1, 1-2	
	1	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN3		IN2		IN1, 1-2	
	1	3	1	OUT1	MIX1			IN4		IN3		IN2		IN1, 1-2	
	2	0	0									IN2, 1-2		IN1, 1-2	
	2	1	0							IN3		IN2, 1-2		IN1, 1-2	
	2	2	0					IN4		IN3		IN2, 1-2		IN1, 1-2	
	2	0	1	OUT1	MIX1							IN2, 1-2		IN1, 1-2	
	2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2					IN2, 1-2		IN1, 1-2	
	2	1	1	OUT1	MIX1					IN3		IN2,		IN1,	

CONFIC	GURATI	ON MAN		Γ3 Server	15.3			Issue	15.3.C -	Decembe	r 2017			
												1-2	1-2	
	3	0	0							IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
8-チャン	ンネル	モード												•
	1	1	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN2	IN1.	
			-										1-2	
	1	2	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3		IN2	IN1.	
													1-2	
	1	3	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4		IN3		IN2	IN1.	
													1-2	
	2	3	0			IN5		IN4		IN3		IN2,	IN1,	
												1-2	1-2	
	2	4	0	IN6		IN5		IN4		IN3		IN2,	IN1,	
												1-2	1-2	
	2	0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3			IN2,	IN1,	
												1-2	1-2	
	2	0	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN2 ,	IN1,	
												1-2	1-2	
	2	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN3		IN2 ,	IN1,	
												1-2	1-2	
	2	1	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3		IN2 ,	IN1,	
												1-2	1-2	
	2	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4		IN3		IN2 ,	IN1,	
												1-2	1-2	
	3	1	0					IN4		IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
	3	2	0			IN5		IN4		IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
Sp	3	3	0	IN6		IN5		IN4		IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
	3	0	1	OUT1	MIX1					IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
	3	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1–2	1-2	
	3	0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
	3	1	1	OUT1	MIX1			IN4		IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	 1-2	
	3	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4		IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
	3	2	1	OUT1	MIX1	IN5		IN4		IN3,		IN2,	IN1,	
										1-2		1-2	1-2	
	4	0	0					IN4,		IN3,		IN2,	IN1,	
								1-2		1-2		1-2	1-2	
Sp	4	1	0			IN5		IN4,		IN3,		IN2,	IN1,	
								1-2		1-2		1-2	1-2	

CONFIG				[3 Server	153			Issue	153C - I	Decembe	r 2017				
	4	011110/0						10000							
	4	0	1	0011	MIX1			IN4,		IN3,		IN2,		IN1,	
								1-2		1-2		1-2		1-2	
Sp	4	2	0	IN6		IN5		IN4,		IN3,		IN2 ,		IN1,	
								1-2		1-2		1-2		1-2	
	4	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4,		IN3,		IN2,		IN1,	
								1-2		1-2		1-2		1-2	
Channel	Max T														
2LSM	1	5	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	REC4		REC3	REC6	REC2	REC5	IN1,	
														1-2	
NEW !	2	4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	REC4	REC6	REC3	REC5	IN2,		IN1,	
NoSp												1-2		1-2	
2LSM	2	4	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	REC4	REC6	REC3	REC5	IN2,		IN1,	
												1-2		1-2	
2LSM	2	6	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN5	IN8	IN4	IN7	IN3	IN6	IN1,	IN2,
														1-2	1-2
	4	1	1	OUT1	MIX1	REC5		IN4.		IN3,		IN2.		IN1.	
								1-2		1-2		1-2		1-2	
Sp	4	4	0	IN8		IN7		IN6		IN5		IN2.	IN4.	IN1.	IN3.
												1-2	1-2	1-2	1-2
	4	0	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN4.		IN3.		IN2.		IN1.	
								1-2		1-2_		1-2		1-2	
2LSM	4	4	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN6	IN8_	IN5	IN7_	IN2.	IN4.	IN1.	IN3.
												1-2	1-2_	1-2	1-2

頭に、Spが付加されているコンフィグは、Spotboxモード (ライセンスコード 35 Channels Max Spotbox)でのみ有効です。

頭に、2LSMが付加されているコンフィグは、Dual LSMモード(ライセンスコード 116)でも有効です。

Example in 8-Channel Mode (2IN 3G SLSM 2x + 2IN + 2OUT MIX)





Example in 8-Channel Mode (3IN 3G SLSM 2x + 2IN + 10UT)



Example in 8-Channel Mode (4IN 3G SLSM 2x + 2IN)



Example in ChannelMax Mode (2IN 3G SLSM 2x + 4IN + 4OUT)





SLSM 3-Phase Configurations

				IN6/O	UT1	IN5/O	UT2	IN4/O	UT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5		
														IN1/O	UT6
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSN	1		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	3x		*												
6-チャン	ンネル	∕ モ —ł	•												
	1	0	0					70.10		IN1,3		IN1,2			
	1	1	0			70.10		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	2	0			IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	3	0	IN4		IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	1	OUT1	MIX1					IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2			IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	1	OUT1	MIX1			IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	2	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	2	0	0	IN2,3		IN2,2		IN2,1		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
8-チャン	ンネル	⁄モーŀ	*												
	1	1	4	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	OUT4	MIX4	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,3
	1	3	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2		IN1,3		IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
	1	3	3	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	OUT3	MIX3	IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
	1	4	1	OUT1	MIX1	IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	IN4
	2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,1		IN1,3		IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2
	2	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,1	IN4	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2
Channe	IMax ⁻	E—ド													
	1	3	4	OUT1	OUT4	OUT2		OUT3		IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
2LSM	1	5	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2	IN6	IN1,3	IN5	IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
NEW ! NoSp	1	7	2	OUT1	OUT2	IN3	IN8	IN2	IN7	IN1,3	IN6	IN1,2	IN5	IN1,1	IN4
Sp	1	9	0	IN4	IN10	IN3	IN9	IN2	IN8	IN1,3	IN7	IN1,2	IN6	IN1,1	IN5
2LSM	2	2	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2,1	IN4	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2
NEW ! NoSp	2	4	2	OUT1	OUT2	IN2,2	IN6	IN2 ,1	IN5	IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2,3
Sp	2	6	0	IN2,3	IN8	IN2,2	IN7	IN2,1	IN6	IN1,3	IN5	IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
	3	0	1	OUT1	MIX1	IN2,2		IN2,1	IN3,3	IN1,3	IN3,2	IN1,2	IN3,1	IN1,1	IN2,3
	3	1	2	OUT1	OUT2	IN2,2	IN4	IN2,1	IN3,3	IN1,3	IN3,2	IN1,2	IN3,1	IN1,1	IN2,3
Sp	3	3	0	IN2.3	IN6	IN2.2	IN5	IN2.1	IN4	IN1.3	IN3.3	IN1.2	IN3.2	IN1.1	IN3.1

頭に、Spが付加されているコンフィグは、Spotboxモード(ライセンスコード 35 Channels Max Spotbox)でのみ有効です。

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

頭に、2LSMが付加されているコンフィグは、Dual LSMモード(ライセンスコード 116)でも有効です。



Example in 6-Channel Mode (1IN SLSM 3x + 2IN + 10UT MIX)



Example in 8-Channel Mode (1IN SLSM 3x + 3IN + 2OUT)



Example in ChannelMax Mode (2IN SLSM 3x + 2IN + 4OUT)



Example in ChannelMax Mode (2IN SLSM 3x + 6IN)





SLSM 4–Phase Configurations

			IN6/OL	JT1	IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6		
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.										
	SLSM			Ch.	Ch.										
	4x														
6-チャ	マンネノ	レモー	ド	-	-		-			-			-	-	
	1	0	0					IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	0			IN2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	2	0	IN3		IN2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	1	OUT1	MIX1			IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	1	OUT1	MIX1	IN2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
8- 7 +	マンネノ	レモー	ド												
	1	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,4		IN1,3		IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
	1	3	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,4		IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
	2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,4	IN2,4	IN1,3	IN2,3	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1

Example in 8-Channel Mode (1IN SLSM 4x + 3IN + 2OUT)



Example in 8-Channel Mode (2IN SLSM 4x + 2OUT)





SLS	SM 4-	Phas	se Con	figurat	cions o	n 3G									
				IN6/O	UT1	IN5/O	JT2	IN4/O	UT3	IN3,	/OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM	1		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	3G 4x	Σ.													
6-チ	ャンネノ	レモー	-ド												
	1	0	1	OUT1	MIX1							IN1,		IN1,	
												3-4		1-2	
	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2					IN1,		IN1,	
												3-4		1-2	
8-チ	ャンネノ	レモー	ド												
	1	2	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN3		IN2		IN1,		IN1,	
												3-4		1-2	
Char	nnelMax	€—ŀ	÷												
	1	4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN3	IN5	IN2	IN4	IN1,		IN1,	
												3-4		1-2	
	1	6	2	OUT1	OUT2	IN4	IN7	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1,		IN1,	
												3-4		1-2	
	2	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN2,		IN2,		IN1,		IN1,	
								3-4		1-2		3-4		1-2	
	2	2	2	OUT1	OUT2	IN3	IN4	IN2,		IN2,		IN1,		IN1,	
								3-4		1-2		3-4		1-2	
	2	4	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN4	IN6	IN3	IN5	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,
												3-4	3-4	1-2	1-2
	2	6	2	OUT1	OUT2	IN5	IN8	IN4	IN7	IN3	IN6	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,
												3-4	3-4	1-2	1-2

Example in 8-Channel Mode (1IN 3G SLSM 4x + 2IN + 2OUT)





Example in ChannelMax Mode (2IN 3G SLSM 4x + 6IN + 2OUT)





SLSM 6-Phase Configurations

								11N4/ OU	113	1113/0014					
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	6x														
8 - チャ	マンネノ	レモー	۲												
	1	0	1	OUT1		IN1,5		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	IN1,6
	1	0	2	OUT1		OUT2		IN1,4		IN1,3		IN1,2	IN1,6	IN1,1	IN1,5
	1	1	1	OUT1		IN1,5		IN1,4		IN1,3		IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,6
	1	1	2	OUT1		OUT2		IN1,4		IN1,3	IN2	IN1,2	IN1,6	IN1,1	IN1,5
	1	2	1	OUT1		IN1,5		IN1,4		IN1,3	IN3	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,6
Chanr	nelMax ⁻	モード													
NoSp	1	2	3	OUT1	OUT3	OUT2		IN1,4	IN3	IN1,3	IN2	IN1,2	IN1,6	IN1,1	IN1,5
NoSp	1	3	2	OUT1	OUT2	IN1,5		IN1,4	IN4	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,6
Sp	1	6	0	IN1,6	IN7	IN1,5	IN6	IN1,4	IN5	IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
Sp	2	0	0	IN1,6	IN2,6	IN1,5	IN2,5	IN1,4	IN2,4	IN1,3	IN2,3	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1
고모!~	Ma Card	<u> </u>	+++-	\ Z \	J. HI-	+ 0		T	ドナル	自主	+				

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

頭に、**Sp**が付加されているコンフィグは、Spotboxモード(ライセンスコード 35 Channels Max Spotbox)でのみ有効で す。

Example in 8-Channel Mode (1IN SLSM 6x + 1IN + 2OUT)



xample in ChannelMax Mode (1IN SLSM 6x + 3IN + 2OUT)





SLSM 6-Phase Configurations on 3G IN6/OUT1 IN5/OUT2 IN4/OUT3 IN3/OUT4 IN2/OUT5 IN1/OUT6 #IN #IN **#OUT** Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. SLSM Ch. 3G 6x 6-チャンネルモード 1 0 0 IN1, IN1, IN1, 5-6 3-4 1-2 8-チャンネルモード OUT1 MIX1 1 1 0 IN1, IN1, IN1, 5-6 3-4 1-2 OUT2 MIX2 2 OUT1 1 0 IN1. IN1. IN1, 5-6 3–4 1-2 1 0 3 OUT1 OUT2 MIX2 OUT3 MIX3 IN1. IN1, IN1, 5-6 3-4 1-2 1 OUT1 IN2 1 1 IN1, IN1, IN1, 5-6 3-4 1-2 2 OUT1 MIX1 OUT2 MIX2 IN2 IN1, IN1, IN1, 1 1 5-6 3-4 1-2 IN3 1 2 1 OUT1 IN2 IN1, IN1, IN1. 5-6 3-4 1-2 ChannelMaxモード OUT1 OUT3 OUT2 NoSp 1 2 3 IN2 IN3 IN1. IN1, IN1. 5-6 3-4 1-2 1 2 OUT1 OUT2 IN3 IN2 IN4 IN1, NoSp 3 IN1, IN1, 5-6 3-4 1-2 0 IN4 IN3 IN6 Sp 1 6 IN7 IN2 IN5 IN1, IN1, IN1, 5-6 3-4 1-2 0 IN2, IN2, IN1, IN1, IN1, Sp 2 0 IN2, 5-6 3-4 1-2 5-6 3-4 1-2 2 0 1 OUT1 MIX1 IN1, IN2. IN1. IN2. IN1, IN2. 5-6 5-6 3-4 3-4 1-2 1-2 0 2 OUT2 MIX2 2 OUT1 MIX1 IN1, IN2, IN1, IN2, IN1, IN2, 5-6 5-6 3-4 3-4 1-2 1-2 OUT2 MIX2 2 1 2 OUT1 IN3 IN1. IN2. **IN1.** IN2. IN1. IN₂ 5-6 5-6 3-4 1-2 3-4 1-2 2 2 2 OUT1 MIX1 OUT2 MIX2 IN3 IN4 IN1, IN2, IN1, IN2, IN1, IN2, 5-6 5-6 3-4 3-4 1-2 1-2

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

頭に、**Sp**が付加されているコンフィグは、Spotboxモード(ライセンスコード 35 Channels Max Spotbox)でのみ有効で す。



Example in 8-Channel Mode (1IN 3G SLSM 6x + 1IN + 10UT)



Example in ChannelMax Mode (1IN 3G SLSM 6x + 3IN + 2OUT)



Example in ChannelMax Mode (2IN 3G SLSM 6x + 2IN + 2OUT)





SLSM 8-Phase Configurations

			IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6		
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.								
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.								
	8x														
Chanr	nelMax	モード						-		-			-		
NoSp	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,4	IN1,8	IN1,3	IN1,7	IN1,2	IN1,6	IN1,1	IN1,5
NoSp	1	1	2	OUT1	OUT2	IN1,5		IN1,4	IN2	IN1,3	IN1,8	IN1,2	IN1,7	IN1,1	IN1,6
NoSp	1	2	2	OUT1	OUT2	IN1,5	IN3	IN1,4	IN2	IN1,3	IN1,8	IN1,2	IN1,7	IN1,1	IN1,6

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

Example in ChannelMax Mode (1IN SLSM 8x + 2IN + 2OUT)





SLSM 8-Phase Configurations on 3G

		IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6			
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.								
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.								
	3G 8x														
Chanr	nelMax	モード	•												
NoSp	1	0	1	OUT1	MIX1			IN1,		IN1,		IN1,		IN1,	
								7–8		5-6		3-4		1-2	
NoSp	1	0	2	OUT1	MIX1	OUT2	MIX2	IN1,		IN1,		IN1,		IN1,	
								7–8		5-6		3-4		1-2	
NoSp	1	1	2	OUT1	OUT2	IN2		IN1,		IN1,		IN1,		IN1,	
								7–8		5-6		3-4		1-2	
NoSp	1	2	2	OUT1	OUT2	IN2	IN3	IN1,		IN1,		IN1,		IN1,	
								7–8		5-6		3-4		1-2	
NoSp	2	0	1	OUT1	MIX1			IN1,	IN2,	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,
								7–8	7–8	5-6	5-6	3-4	3-4	1-2	1-2
NoSp	2	2	1	OUT1	MIX1	IN3	IN4	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,	IN1,	IN2,
								7–8	7–8	5-6	5-6	3-4	3-4	1-2	1-2

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

Example in ChannelMax Mode (1IN 3G SLSM 8x + 2IN + 2OUT)



xample in ChannelMax Mode (2IN 3G SLSM 8x + 2IN + 1OUT)





SLSM 10-Phase Configurations

			IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6		
	#IN #IN #OUT		Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	10x														
XRec	モード														
	1	0	1	OUT1		IN1,5	IN1,10	IN1,4	IN1,9	IN1,3	IN1,8	IN1,2	IN1,7	IN1,1	IN1,6

Example in XRec Mode (1IN SLSM 10x + 10UT)





SLSM 16-Phase Configurations on 3G

				-											
				IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6	
	#IN #IN #OUT		#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	3G 16x	:													
Char	nelMax	モード													
NoSp	o 1	0	1	OUT1	MIX1			IN1,	IN1,	IN1,	IN1,	IN1,	IN1,	IN1,	IN1,
								7–8	15-16	5-6	13-14	3-4	11-12	1-2	9–10
ㅋㅋ ~	NI-O-	L\$/_++r	+++-	<u>۲ - ۱</u>	コンドリ	+ 0		T	ドナル	- 4	+				

頭に、NoSpが付加されているコンフィグは、SpotboxとServerモードでは無効です。

Example in XRec Mode (1IN 3G SLSM 10x + 10UT)





3.4. 3Dコンフィグ

3.4.1. 3Dコンフィグの一般情報

要件

3Dは、以下のソフトウェアの要件を満たす時利用可能です:

- ライセンスコード23または 24が有効。
- 3Dのパラメーターが、Yesに設定。
- 3G/Dualパラメーターが、適切な値に設定。

接続

リアパネルにおいて、3Dは、以下のインターフェイスのうちの1つで接続されます:

- Dual Linkインターフェース: 2本のケーブル(1つの論理チャネルに該当)を、コーデックモジュールの両方のコネクダ例: №1と№1B)に接続
- 3Gインターフェース: 1本のケーブル(1つの論理チャネルに該当)を、コーデックモジュールのプライマリコネクターに接続。

V3Xボード上では、3D接続は、下記のように接続されます:

● V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリリンク (COD A、COD B) は、背面への接続が 何であろうと使用されます (Dual Link もしくは 3G)。



3.4.2. 3D標準コンフィグ(4U)

		IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4		
#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	
1	0							IN1A	IN1B	
2	0					IN2A	IN2B	IN1A	IN1B	
3	0			IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B	
4	0	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B	
1	1	OUT1A	OUT1B					IN1A	IN1B	
1	2	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B			IN1A	IN1B	
1	3	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	IN1A	IN1B	
2	1	OUT1A	OUT1B			IN2A	IN2B	IN1A	IN1B	
2	2	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B	
3	1	OUT1A	OUT1B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B	
0	1	OUT1A	OUT1B							
0	2	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B					
0	3	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B			
0	4	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	OUT4A	OUT4B	

可能なコンフィグ

Example in 3D Dual Link (2IN + 2OUT)




3.4.3. 3D標準コンフィグ(6U)

可能なコンフィグ

		IN6/Ol	JT1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	ЛТЗ	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
1	0											IN1A	IN1B
2	0									IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
3	0							IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
4	0					IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
5	0			IN5A	IN5B	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
6	0	IN6A	IN6B	IN5A	IN5B	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
1	1	OUT1/	OUT1E	3								IN1A	IN1B
1	2	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B							IN1A	IN1B
1	3	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B					IN1A	IN1B
1	4	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	OUT4A	OUT4E			IN1A	IN1B
1	5	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	OUT4A	OUT4E	OUT5A	OUT5B	IN1A	IN1B
2	1	OUT1/	OUT1E	3						IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
2	2	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B					IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
2	3	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B			IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
2	4	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3E	OUT4A	OUT4E	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
3	1	OUT1/	OUT1E	3				IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
3	2	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B			IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
3	3	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
4	1	OUT1/	OUT1E	3		IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
4	2	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
5	1	OUT1/	OUT1E	IN5A	IN5B	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1A	IN1B
0	1	OUT1/	OUT1E	3									
0	2	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B								
0	3	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B						
0	4	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	OUT4A	OUT4E				
0	5	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	OUT4A	OUT4E	OUT5A	OUT5B		
0	6	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2B	OUT3A	OUT3B	OUT4A	OUT4E	OUT5A	OUT5B	OUT6A	OUT6B

Example in 3D Dual Link (3IN + 10UT)







シングルリンクの3Gインターフェースでは、J8コネクターのみが配線されます。 しかし、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリリンク両方が使われます。



3.4.4. 3D SLSMのチャンネル割り当て原則

3Dの標準とSLSMの組み合わせコンフィグは、以下のリアパネルコネクタ割り当ての個々のルールに従います:

• 3D Dual Link:

最初のケーブルをコーデックモジュールのプライマリコネクタに、2番目のケーブルを同じコーデックモジュールのセカンダリコネクタに、接続します。

• 3D 3G (single link):

1本のケーブルを、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続します。

背面パネルの接続タイプにかかわらず、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリ両方の チャンネルが使用されます。

● SLSM2倍速コンフィグ
 1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、2つの物理チャンネルと同様となります。

● SLSM3倍速コンフィグ
 1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、3つの物理チャンネルと同様となります。

● SLSM4、6、8倍速コンフィグ
 1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、4、6、8つの物理チャンネルと同様となります。



3.4.5. 3D SLSMコンフィグ (4U)

SLSM 2x Configurations

注意

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
2x										
1	0	0					IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	1	0			IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	2	0	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	0	1	OUT1A	OUT1B			IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	0	2	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	1	1	OUT1A	OUT1B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
2	0	0	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B

Example in 3D Dual Link (1IN SLSM 2x + 1IN + 10UT)



3Gインターフェースにおける同様のコンフィグでは、J8コネクタのみが使われます。 しかし、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリリンク両方とも使われます。



SLSM 3x Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
3x										
1	0	0			IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	1	0	IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	0	1	OUT1A	OUT1B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B



3.4.6. 3D SLSMコンフィグ(6U)

SLSM 2x Configurations

				IN6/Ol	JT1	IN5/OL	JT2	IN4/Ol	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
ŧ	ŧΝ	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
S	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
2	2x														
	1	0	0									IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	1	0							IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	2	0					IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	3	0			IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	4	0	IN5A	IN5B	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	0	1	OUT1A	OUT1E							IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	0	2	OUT1A	OUT1E	OUT2A	OUT2E	3				IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	0	3	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2E	BOUT3A	OUT3E	3		IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	0	4	OUT1/	OUT1E	OUT2A	OUT2E	BOUT3A	OUT3E	OUT4A	OUT4E	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	1	1	OUT1A	OUT1E					IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	1	2	OUT1A	OUT1E	OUT2A	OUT2E	8		IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	1	3	OUT1A	OUT1E	OUT2A	OUT2E	BOUT3A	OUT3E	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	2	1	OUT1/	OUT1E			IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	2	2	OUT1A	OUT1E	OUT2A	OUT2E	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	1	3	1	OUT1/	OUT1E	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	2	0	0					IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	2	1	0			IN3A	IN3B	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	2	2	0	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	2	0	1	OUT1A	OUT1E			IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	2	0	2	OUT1A	OUT1E	OUT2A	OUT2E	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	2	1	1	OUT1/	OUT1E	IN3A	IN3B	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
	3	0	0	IN3,2A	IN3,2B	IN3,1A	IN3,1B	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B

Example in 3D Dual Link (1IN SLSM 2x + 1IN + 10UT)







同様のコンフィグで、3Gインターフェースは、J8のコネクタのみ配線される場合があります。 しかし、V3X ボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリリンクは、両方とも使われます。



SLSM 3x Configurations

	IN6/C			JT1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
#IN	#IN	I #OUT	Prim.	Sec.										
SLS	SM		Ch.											
Зx														
1	0	0 0							IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	1	1 0					IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	2	2 0			IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	3	3 0	IN4A	IN4B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	0) 1	OUT1A	OUT1B					IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	0) 2	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2E			IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	0) 3	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2E	OUT3A	OUT3E	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	1	1 1	OUT1A	OUT1B			IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	1	1 2	OUT1A	OUT1B	OUT2A	OUT2E	IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
1	2	2 1	OUT1A	OUT1B	IN3A	IN3B	IN2A	IN2B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B
2	(0 0	IN2,3A	IN2,3B	IN2,2A	IN2,2B	IN2,1A	IN2,1B	IN1,3A	IN1,3B	IN1,2A	IN1,2B	IN1,1A	IN1,1B

Example in 3D Dual Link (1IN SLSM 3x + 10UT)



注意 同様のコンフィグで、3Gインターフェースは、J8のコネクタのみ配線される場合があります。 しかし、V3X ボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリリンクは、両方とも使われます。



3.5. 1080pコンフィグ

3.5.1. 1080pコンフィグの一般情報

序文

1080pで動作しているEVSサーバーは、サーバー上の1つのファイルにフル1080pビデオをネイティブにをエンコー ド/デコードします。

これにより、トランスコードなしで、ファイルの相互運用性を提供します。

要件

1080pは、以下のソフトウェアの要件を満たす時有効です:

- ライセンスコード21 またはもしくは 22が有効。
- 3G/Dualのパラメータが、適切に設定。

制限

コーデックの制限

1080pは、IntraとProxyコーデックのみで利用可能です。 1080pは、LongGOPコーデックでは利用できません 1080pは、AVC-Intra、XAVC-Intra、Avid DNxHD、Apple ProRes 422コーデックをサポート。

コンフィグの制限

6チャネルを超える1080pコンフィグでは、以下の制限があります:

- DNxHDコーデック
- ビットレートの最大値 (XRecコンフィグ)
 242 Mbps : 50Hz(PAL)
 260 Mbps : 60Hz(NTSC)
- ビットレートの最大値(ChannelMaxコンフィグ)
 200Mbps : 50Hz(PAL)、60Hz(NTSC)

特定のSLSMコンフィグでは、下記のビットレートでのご使用をお勧めいたします。

● ビットレートの最大値200Mbps : SLSM 6xの XRecコンフィグ

● ビットレートの最大値180Mbps: SLSM 8xの ChannelMaxコンフィグ

Dual-RECまたはDual-Playでの1080pコンフィグ (6フェーズ以上 : XT3 6U、4フェーズ以上 : XT3 4U)は、3Gモード しかサポートしていません、Dual Linkモードはサポートしていません。

機能の制限

- 1080plよ、Mix on one channel機能はサポートしません。
- 1080pは、Dual-Playが必要なコンフィグで、タイムライン機能をサポートしません。
- 1080pは、Dual LSM機能と互換性がありません。



接続

リアパネルにおいて:

1080pは、以下のインターフェイスのうちの1つで接続されます:

● Dual Linkインターフェース:

2本のケーブル(1つの論理チャンネルとして認能されるが、コーデックモジュールの両方のコネクタ例№1と№1B/に 接続れます。

このインターフェースは、拡張コンフィグでは、サポートされません。

● 3G インターフェース: 1本のケーブル(1つの論理チャンネルとして認識される)が、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続されます。

V3Xボード上では:

1080p接続は、下記のように接続されます:

● 4または6チャンネルコンフィグ: V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリチャンネル(COD A)のみが、使用されます。 フル1080pのビデオは EVS serverに1つのファイルとして保持されるため、セカンダリチャンネルへの接続は、 不要となります。

この場合、V3Xコーデックモジュールの両チャンネルのエンコード/デコードdecording容量は、バンド幅の 制限なしで使用されます。

● 拡張コンフィグ:

V3Xボード上のコーデックモジュールのセカンダリチャンネル(COD B)は、独立した収録チャンネルとして 使用されます。

この場合、上記で述べた、コーデックとバンド幅の制限があります。



3.5.2. 1080p標準コンフィグ(4U)

使用可能なコンフィグ

		IN4/OUT	l	IN3/OUT2	<u>2</u>	IN2/OUT3	3	IN1/OUT4	ļ
#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
4-チャンス	ネルモード								
1	0							IN1	
2	0					IN2		IN1	
3	0			IN3		IN2		IN1	
4	0	IN4		IN3		IN2		IN1	
1	1	OUT1						IN1	
1	2	OUT1		OUT2		IN2		IN1	
1	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN1	
2	1	OUT1				IN2		IN1	
2	2	OUT1		OUT2		IN2		IN1	
3	1	OUT1		IN3		IN2		IN1	
0	1	OUT1							
0	2	OUT1		OUT2					
0	3	OUT1		OUT2		OUT3			
0	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4	
ChannelM	axモード								
2	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN1	IN2
2	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2		IN1	
3	3	OUT1	OUT3	OUT2		IN2		IN1	IN3
4	2	OUT1		OUT2		IN2	IN4	IN1	IN3
4	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN2	IN4	IN1	IN3
5	1	OUT1		IN3		IN2	IN5	IN1	IN4
6	0			IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4
0	6	OUT1	OUT5	OUT2	OUT6	OUT3		OUT4	
6	2	OUT1	OUT2	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4
8	0	IN4	IN8	IN3	IN7	IN2	IN6	IN1	IN5



ChannelMaxモードでのDual Playコンフィグ(1つのコーデックモジュールの両方のリンクに割り当てられた2つの独立したPLAYチャンネルが)では、標準mix機能(PGM/PRVモード経由)は、コーデックモジュール1の1番目のリンク上でのみ可能です。(6 IN - 2 OUTコンフィグ)



Example in 1080p 3G in 4-Channel Mode (2IN + 2OUT)



1 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。

CODEC 2 OUT 2 CODEC 1 CODEC 3 **CODEC 4 IN 4** OUT 1 **IN 3** IN 2 OUT 3 **IN 1** OUT 4 PLAY **PLAY** REC REC 2 2 1 1 J8 J8 .18 J8 IN 4B (J5) IN 3B (J5) IN 2B (J5) IN 1B (J5) CHAR. SD (J1) CHAR. SD (J1) CHAR. SD (J1) CHAR. SD (J1) REC REC 4 3 J6 J6 J6 CHAR. OUT CHAR. OUT CHAR. OUT CHAR. OUT OUT 1B OUT 3B OUT 4B OUT 2B PLAY PLAY 3 4

Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (4IN + 4OUT)



3.5.3. 1080p標準コンフィグ(6U)

使用可能なコンフィグ

			IN6/OL	ЛТ1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	IT3	IN3/0	OUT4	IN2/0	OUT5	IN1/0	OUT6
	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
6-チ+	マンネル	レモード												
	1	0											IN1	
	2	0									IN2		IN1	
	3	0							IN3		IN2		IN1	
	4	0					IN4		IN3		IN2		IN1	
	5	0			IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	
	6	0	IN6		IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	
	1	1	OUT1										IN1	
	1	2	OUT1		OUT2								IN1	
	1	3	OUT1		OUT2		OUT3						IN1	
	1	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4				IN1	
	1	5	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		OUT5		IN1	
	2	1	OUT1								IN2		IN1	
	2	2	OUT1		OUT2						IN2		IN1	
	2	3	OUT1		OUT2		OUT3				IN2		IN1	
	2	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		IN2		IN1	
	3	1	OUT1						IN3		IN2		IN1	
	3	2	OUT1		OUT2				IN3		IN2		IN1	
	3	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN3		IN2		IN1	
	4	1	OUT1				IN4		IN3		IN2		IN1	
	4	2	OUT1		OUT2		IN4		IN3		IN2		IN1	
	5	1	OUT1		IN5		IN4		IN3		IN2		IN1	
	0	1	OUT1											
	0	2	OUT1		OUT2									
	0	3	OUT1		OUT2		OUT3							
	0	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4					
	0	5	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		OUT5			
	0	6	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		OUT5		OUT6	
8-チ +	マンネル	レモード												
	4	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		IN2	IN4	IN1	IN3
	5	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN3		IN2	IN5	IN1	IN4
	6	2	OUT1		OUT2		IN4		IN3		IN2	IN6	IN1	IN5
	8	0	IN6		IN5		IN4		IN3		IN2	IN8	IN1	IN7
Chanr	nelMax ⁻	モード												
	6	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4
	6	6	OUT1	OUT4	OUT2	OUT5	OUT3	OUT6	IN3	IN6	IN2	IN5	IN1	IN4
	8	2	OUT1		OUT2		IN4	IN8	IN3	IN7	IN2	IN6	IN1	IN5
	8	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN4	IN8	IN3	IN7	IN2	IN6	IN1	IN5

IN6

10 2 OUT1 OUT2 IN5 IN10 IN4 IN9 IN3 IN8 IN2 IN7 IN1

~注意

ChannelMaxモードでのDual Playコンフィグ(1つのコーデックモジュールの両方のリンクに割り当てられた2つの独立したPLAYチャンネル)では、標準mix機能PGM/PRVモード経由)は、コーデックモジュール1の1番目の リンク上でのみ可能です。(10 IN - 2 OUTコンフィグ)

CODEC 2 IN 5 OUT 2 CODEC 1 CODEC 3 CODEC 4 CODEC 5 CODEC 6 IN 1 OUT 6 PLAY REC REC REC 3 2 1 IN 5B (J5) CHAR. SD (J1) IN 4B (J5) CHAR. SD (J1) IN 3B (J5) CHAR. SD (J1) IN 2B (J5) CHAR. SD (J1) IN 6B (J5 IN 1B (J5 CHAR. SD (J1) AR SD (J1) CHAR. OUT CHAR. OUT OUT 1B CHAR. OUT OUT 2B CHAR. OUT CHAR. OUT OUT 3B OUT 4B OUT 5B OUT 6B CHAR. OUT

Example in 1080p 3G in 6-Channel Mode (3IN + 10UT)

1 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。

Example in 1080p 3G in 8-Channel Mode (6IN + 2OUT)





Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (8IN + 4OUT)





3.5.4. 1080p SLSMのチャンネル割り当て原則

1080pとSLSMコンフィグの組み合わせでは、背面パネルのコネクタ割り当てに、以下のルールが適用されます:

• 1080p Dual Link:

最初のケーブルをコーデックモジュールのプライマリコネクタに、2番目のケーブルを同じコーデックモジュールのセカンダリコネクタに、接続します。

• 1080p 3G (single link):

1本のケーブルを、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続します。

背面パネルの接続タイプにかかわらず、1080p4チャンネルコンフィグ(4Uサーバー)、6チャンネルコンフィグ (6Uサーバー)では、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリチャンネルのみが使用されます。 しかし、V3Xコーデックの両チャンネルのデコード/エンコード能力を、使用します。

● SLSM2倍速コンフィグ

1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、2つの物理チャンネルと同様となります。

- SLSM3倍速コンフィグ
 1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、3つの物理チャンネルと同様となります。
- SLSM4、6、8倍速コンフィグ
 1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、4、6、8つの物理チャンネルと同様となります。



3.5.5. 1080p SLSMコンフィグ (4U)

			IN4/OUT1		IN3/OUT2	2	IN2/OUT3	}	IN1/OUT4	ļ
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
SLSM										
2x										
4-チャ	ンネル・	モード								
1	0	0					IN1,2		IN1,1	
1	1	0			IN2		IN1,2		IN1,1	
1	2	0	IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
1	0	1	OUT1				IN1,2		IN1,1	
1	0	2	OUT1		OUT2		IN1,2		IN1,1	
1	1	1	OUT1		IN2		IN1,2		IN1,1	
2	0	0	IN2,2		IN2 ,1		IN1,2		IN1,1	
Channe	elMax T	ード		_						
1	2	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
1	4	2	OUT1	OUT2	IN2	IN5	IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
2	0	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1
2	2	2	OUT1	OUT2	IN2,1	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2,2
3	0	2	OUT1	OUT2	IN2 ,1	IN3,2	IN1,2	IN3,1	IN1,1	IN2,2

SLSM 2x Configurations

Example in 1080p 3G in 4-Channel Mode (1IN SLSM 2x + 1IN + 10UT)





注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。

Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (2IN SLSM 2x + 2IN + 2OUT)





SLSM 3x Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
SLSM										
3x										
4-チャ	ンネルヨ	E—K								
1	0	0			IN1,3		IN1,2		IN1,1	
1	1	0	IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
1	0	1	OUT1		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
Channe	Max T	ード								
1	1	4	OUT1	OUT3	OUT2	OUT4	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,3
1	3	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN4	IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
2	0	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN2,3	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1

Example in 1080p 3G in 4-Channel Mode (1IN SLSM 3x + 10UT)



注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (1IN SLSM 3x + 1IN + 4OUT)





SLSN	1 4x C	onfigu	rations ir	n 1080p											
			IN4/OUT1		IN3/OUT2	2	IN2/OUT3		IN1/OUT4	Ļ					
#IN	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.					
SLSM															
4x															
4-チャ	トチャンネルモード														
1	0	0	IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1						
Channe	elMax T	ード													
1	2	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,4					
1	2	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,4					

Example in 1080p 3G in 4-Channel Mode (1IN SLSM 4x)



1 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (1IN SLSM 4x + 2IN + 2OUT)





SLSM 6x Configurations in 1080p

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#IN SLSM 6x	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.						
Channe	elMax T	ード								
1	0	2	OUT1	OUT2	IN1,3	IN1,6	IN1,2	IN1,5	IN1,1	IN1,4

Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (1IN SLSM 6x + 20UT)





3.5.6. 1080p SLSMコンフィグ(6U)

SLSM 2x Configurations

				IN6/OL	JT1	IN5/Ol	JT2	IN4/O	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSN	1		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	2x														
6-チ	ャンネ	ルモー	-ド												
	1	0	0									IN1,2		IN1,1	
	1	1	0							IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	2	0					IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	3	0			IN4		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	4	0	IN5		IN4		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	0	1	OUT1								IN1,2		IN1,1	
	1	0	2	OUT1		OUT2						IN1,2		IN1,1	
	1	0	3	OUT1		OUT2		OUT3				IN1,2		IN1,1	
	1	0	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		IN1,2		IN1,1	
	1	1	1	OUT1						IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	1	2	OUT1		OUT2				IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	1	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	2	1	OUT1				IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	2	2	OUT1		OUT2		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	1	3	1	OUT1		IN4		IN3		IN2		IN1,2		IN1,1	
	2	0	0					IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	1	0			IN3		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	2	0	IN4		IN3		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	0	1	OUT1				IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	0	2	OUT1		OUT2		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	2	1	1	OUT1		IN3		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
	3	0	0	IN3,2		IN3,1		IN2,2		IN2,1		IN1,2		IN1,1	
Char	nelMa	(τ -Η	*												
	1	2	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
	1	4	2	OUT1		OUT2		IN3		IN2		IN1,2	IN5	IN1,1	IN4
	2	2	2	OUT1		OUT2		IN2,2		IN2,1		IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
	2	0	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1
	3	0	2	OUT1		OUT2		IN2,2		IN2,1		IN1,2	IN3,2	IN1,1	IN3,1



Example in 1080p 3G (1IN SLSM 2x + 1IN + 10UT)





Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



SLSM 3x Configurations

				IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6	
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	3x														
6-チャ	ンネル	€—ŀ	:												
	1	0	0							IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	0					IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	2	0			IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	3	0	IN4		IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	1	OUT1						IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	2	OUT1		OUT2				IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	1	OUT1				IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	2	OUT1		OUT2		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	2	1	OUT1		IN3		IN2		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	2	0	0	IN2,3		IN2,2		IN2,1		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
8-チャ	ンネル	€—ŀ	*		-		-		-		-		-		-
	2	0	2	OUT1		OUT2		IN2,1		IN1,3		IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2
Channe	Max T	:ド							-		-				
	1	1	4	OUT1		OUT2		OUT3		OUT4		IN1,2	IN2	IN1,1	IN1,3
NEW !	1	2	3	OUT1		OUT2		OUT3		IN1,3		IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
	1	3	2	OUT1		OUT2		IN2		IN1,3		IN1,2	IN4	IN1,1	IN3
	2	1	2	OUT1		OUT2		IN2,1		IN1,3	IN3	IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2
	2	2	2	OUT1		OUT2		IN2,1	IN4	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2
NEW !	2	2	4	OUT1	OUT	B OUT2	OUT4	IN2,1	IN4	IN1,3	IN3	IN1,2	IN2,3	IN1,1	IN2,2

Example in 1080p 3G in 6-Channel Mode (1IN SLSM 3x + 10UT)





注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。

Example in 1080p 3G in XRec Mode (2IN SLSM 3x + 2OUT)





SLSM 4x Configurations

				IN6/OL	JT1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	4x														
6- チ	6-チャンネルモード														
	1	0	0					IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	0			IN2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	2	0	IN3		IN2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	1	OUT1				IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	0	2	OUT1		OUT2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
	1	1	1	OUT1		IN2		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
8- チ	ャンネノ	レモー	-ド												
	1	2	2	OUT1		OUT2		IN1,4		IN1,3		IN1,2	IN3	IN1,1	IN2
Chan	n elMa x	€—ŀ	*												
	2	0	2	OUT1		OUT2		IN1,4	IN2,4	IN1,3	IN2,3	IN1,2	IN2,2	IN1,1	IN2,1

Example in 1080p 3G in 6-Channel Mode (1IN SLSM 4x + 10UT)



~注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



Example in 1080p 3G in ChannelMax Mode (2IN SLSM 4x + 2OUT)





SLSM 6x Configurations

				IN6/OU	JT1	IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT	
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
	SLSM	l .		Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
	6x														
6-チャンネルモード															
	1	0	0	IN1,6		IN1,5		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	
8- チ	ャンネノ	レモー	-ド												
	1	0	1	OUT1		IN1,5		IN1,4		IN1,3		IN1,2		IN1,1	IN1,6
ChannelMaxモード															
	1	1	2	OUT1		OUT2		IN1,4		IN1,3	IN2	IN1,2	IN1,6	IN1,1	IN1,5
	1	2	2	OUT1		OUT2		IN1,4	IN3	IN1,3	IN2	IN1,2	IN1,6	IN1,1	IN1,5

Example in 6-Channel Mode in 1080p 3G (1IN SLSM 6x)



~ 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



Example in ChannelMax Mode in 1080p 3G (1IN SLSM 6x + 1IN + 2OUT)





SLSM 8x Configurations

			IN6/OUT1		IN5/OUT2		IN4/OUT3		IN3/OUT4		IN2/OUT5		IN1/OUT6		
	#IN	#IN	#OUT	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.								
	SLSM			Ch.	Ch.	Ch.	Ch.								
	6x														
Chan	nelMax	モート	:										-		
	1	0	1	OUT1		IN1,5		IN1,4		IN1,3	IN1,8	IN1,2	IN1,7	IN1,1	IN1,6
	1	2	1	OUT1		IN1,5	IN3	IN1,4	IN2	IN1,3	IN1,8	IN1,2	IN1,7	IN1,1	IN1,6

Example in ChannelMax Mode in 1080p 3G (1IN SLSM 8x + 2IN + 10UT)





3.6. UHD-4Kコンフィグ

3.6.1. UHD-4Kコンフィグの一般情報

説明

EVSサーバーで使われるUHD-4Kフォーマットは、UHDTV (Ultra-High Definition TV)と呼ばれます。 Resolutionパラメータで、UHDTV-4Kの値を設定し、アクティブにします。

UHD-4Kでは、映像の解像度は3840 x 2160です。 UHD-4Kイメージは、4つの1080pのフレームから構成され、3G-SDIリンクで伝送されます。 そのため、各UHD-4Kイメージは、EVSサーバーで4つのチャネルが必要です。

要件

UHD-4Kは、以下のハードウェアの要件を満たす時有効です:

- V3X ボードが、V3Xのモジュールでシリアルナンバーが ≥1300以上である。
- V3X Baseが、リビジョンA4で、シリアルナンバーが ≥ 4130以上である。
- EVSサーバーが、SAS HDDディスクを搭載し、リビジョンが 10K.5。

UHD-4Kは、以下のソフトウェアの要件を満たす時有効です:

- ライセンスコード27が、適用されている。
- Resolution(解象度)のパラメーターが、UHDTV-4Kに設定されている。
- Intra Codecのパラメーターが、DNxHD (強制値)。
- Interfaceパラメーターが、3Gまたは12Gに設定されている。 No が自動的に除外されます。

制限

コーデックの制限

- UHD-4Kは、DNxHD Intraコーデックでのみ利用可能です。
- UHD-4Kは、LongGOP または Proxyコーデックでは利用できません。

コンフィグの制限

- UHD-4Kは、3Dコンフィグをサポートしていません。
- UHD-4K は、制限付きでMix on one channelの機能が利用可能です。
- UHD-4K 2チャンネルコンフィグの最大ビットレート値は、 242Mbps: 50Hz(PAL)
 260Mbps: 60Hz(NTSC) です。
- UHD-4K 3チャンネルコンフィグの最大ビットレート値は、 200Mbps: 50Hz(PAL)、60Hz(NTSC)ともに、です。

オーディオの制限

● UHD-4Kは、最大16エンベデッド音声トラックまでをサポートしています。



操作上の制限

以下の機能は、UHD-4Kでは利用できません:

- Timelines
- Replace External Loop
- グラフィックス: Paint target、Split screen、Offside line (internal、external)

割り当ての原則

UHD-4K映像は、4本の3G-SDIリンクで伝送された、4つの1080pフレームで構成れています。

UHD-4K映像の各1080pフレームは、image quadrant(イメージクアドラント)と呼ばれます。 各イメージクアドラントは、以下のシーケンスで、対応するG-SDIリンクに割り当てられます:

TL =	TR =
Top Left	Top Right
BL =	BR =
Bottom Left	Bottom Right



3.6.2. UHD-4Kコンフィグ(4U)

可能なコンフィグ

		IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4			
	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.							
	2	0	IN1	IN2	IN1	IN2	IN1	IN2	IN1	IN2	
			BR	BR	BL	BL	TR	TR	TL	TL	
	1	1	OUT1	OUT1	OUT1	OUT1	IN1	IN1	IN1	IN1	
			TL	BL	TR	BR	TR	BR	TL	BL	
	0	2	OUT1	OUT2	OUT1	OUT2	OUT1	OUT2	OUT1	OUT2	
			TL	TL	TR	TR	BL	BL	BR	BR	

Example in UHD-4K (1IN + 1OUT)





3.6.3. UHD-4Kコンフィグ(6U)

IN6/OUT1 IN5/OUT2 IN4/OUT3 IN3/OUT4 IN2/OUT5 IN1/OUT6 #IN #OUT Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Prim. Sec. Ch. 1 1 OUT1 OUT1 OUT1 OUT1 IN1 IN1 IN1 IN1 TL TR BL BR TR TL BR BL 1 2 OUT1 OUT2 OUT1 OUT2 OUT1 OUT2 OUT1 OUT2 IN1 IN1 IN1 IN1 TL TR BL BL BR BR TR BR TL BL TL TR 2 0 IN2 IN2 IN1 IN1 IN1 IN2 IN1 IN₂ TR TL BR BL TR BR TL BL 1 OUT1 OUT1 OUT1 IN2 IN1 2 OUT1 IN1 IN2 IN1 IN1 IN₂ IN₂ TL BL TR BR BR BR BL BL TR TR TL TL 0 IN2 IN2 IN1 3 IN₃ IN3 IN1 IN₃ IN1 IN₃ IN2 IN1 IN₂ TR BR TL BL BR TR BL TL TR BR TL BL 2 OUT1 OUT2 OUT1 OUT2 OUT1 OUT1 OUT2 OUT2 0 TL BL TR BR BL BR TL TR OUT2 OUT3 OUT1 OUT2 OUT1 OUT1 OUT1 3 OUT2 OUT3 OUT3 OUT2 OUT3 0 BL BR BL BR TR BL TL TR TL TL TR BR

可能なコンフィグ

Example in UHD-4K (1IN + 10UT)



xample in UHD-4K (2IN + 10UT)


Issue 15.3.C - December 2017



Example in UHD-4K (1IN + 2OUT)





3.6.4. UHD-4K SLSMコンフィグ(6U)

SLSM 原則

この章では、XT3 サーバー上で使用可能なのマルチフェーズSLSMコンフィグについて示します。 SLSMコンフィグでは、2倍速カメラのスーパーモーションは論理的には1チャネルですが、物理的には2チャンネルに該 当します。

UHD-4K SLSMコンフィグでは、2倍速力メラのスーパーモーションは論理的には1チャネルで、コーデックモジュールのプ ライマリリンクに配給されます。

しかし、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリの両方を使用します。

表と例について

この章の以下のテーブルは、XT3 6UサーバーのSLSMコンフィグについて示しています:

● 以下のテーブルは、V3Xボードのコネクタ割り当てについて示しており、背面パネルと V3X ボードの配線が 異なる場合について示しています。

全ての場合において、これは、導入部で指定されています。

● 例では、選択コンフィグでの、BNCコネクタの配線方法を示しています。



XT3 6Uサーバー

可能なコンフィグ

			IN6/Ol	JT1	IN5/OL	JT2	IN4/OL	JT3	IN3/	OUT4	IN2/	OUT5	IN1/	OUT6
#IN SLSM 2x	#IN	#OUT	Prim. Ch.	Sec. Ch.										
1	0	1	OUT1 TL	OUT1 BL	OUT1 TR	out1 Br	IN1,1 BR	IN1,2 BR	IN1,1 BL	IN1,2 BL	IN1,1 TR	IN1,2 TR	IN1,1 TL	IN1,2 TL

Example in UHD-4K SLSM (2IN SLSM2x + 10UT)







4. Multicamコンフィグ

4.1. ユーザーインターフェース概要

4.1.1. 序文

序言

最初のステップとしてのコンフィグ

Miticamを使用する前に、オペレーターは、Multicam Configurationウィンドウ内で、全ての必要なパラメータを設定 すべきです。

クリップが特定のパラメータで保存され、後でパラメータを変更しても、前に作成したクリップとプレイリストは変更 されません。

コンフィグの注意点

大半のパラメータは工場出荷プリセット状態で、EVSスタッフのアドバイスなしに変更しない事をお勧めします。 パラメータの不適切に設定すると、システムの誤作動を招くことがあります。

有効なパラメータ

様々なコンフィグを設定するのに、サーバータイプ/サーバー筐体に有効なパラメータ/パラメータ値と、アクティブな ライセンスコードが必要です。

ユーザーインターフェース比較

EVSサーバーは、以下の3つのインターフェースより設定可能です:

- Multicam Configurationウィンドウ (サーバーベースアプリケーション)
- Multicam Configurationウィンドウ (Webベースインターフェース)
- TechnicalとOperational Setupメニュー (LSMリモコン上、もしあれば)

サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのインターフェース内のMulticam Configurationウィンドウは、ほぼ同等です。

しかし、LSMリモコンのパネル内で、Technical Setupメニュー内では最も使われる設定が利用可能で、Operational Setupメニュー内では全てのオペレーション設定が使用可能です。

Issue 15.3.C - December 2017



以下のテーブルでは、それぞれのインターフェースで有効な機能を示します:

	Configura	Configurationウィンドウ			
	テクニカル設定	オペレーション設定			
サーバーベース	Yes	Yes			
アプリケーション	(タブ1-6)	(タブ7)			
Webベース	Yes	Yes			
インターフェース	(タブ 1-6)	(タブ7)			
LSMリモコン	Yes(部分的に)	Yes			
	(Technical Setup : F0)	(Setup Menu : SHIFT+D)			

コンフィグパラメータ概要

Multicamコンフィグ内の各章の最初のトピックでは、使用可能なパラメータの概要を提供し、パラメータを探す方法を 提供します。

● サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース内のベーシック/アドバンスビュー

● LSMリモコン上のTechnical Setup/Operational Setup内

LSMリモコンとサーバーベースアプリケーションでの同時変更

LSMリモコンでパラメータが変更され、そのパラメータがサーバーベースアプリケーションのConfigurationページ内 で変更したパラメータと競合しない場合、VGA上に以下のメッセージが表示されます。

'The configuration has been modified by another user without any conflict.

Your copy has been updated with these modifications'

LSMリモコンでパラメータが変更され、そのパラメータがサーバーベースアプリケーションのConfigurationページ内 で変更したパラメータと競合する場合、VGAまたはLCD上に以下のメッセージが表示されます。 ユーザーが了承すると、設定は更新されます。

> 'The configuration has been modified by another user. Do you want to load it and lose your modification?'

▲警告

LSMリモコン上でこのメッセージが表示され、ユーザーがNo'(Clearボタン)を選択すると、LSMリモコン上の変更が保存されます。

しかし、VGAでの変更適用は、ユーザーがOperational Setupメニューから抜けるとロードされます。 (例外:メッセージ表示後、VGAで変更したフィールドが、LSMリモコン上で変更/適用された場合)



4.1.2. Multicam Configurationウィンドウ概要

序文

サーバーベース/ウェブベースのインターフェースでは、各コンフィグファイルに関連する全てのサーバー設定が 1つのウィンドウ内にグループ化されています: Multicam Configurationウィンドウ。

指定コンフィグでサーバーが起動していない場合、Multicam Configurationウィンドウでは、Multicam Setupウィンドウ 内のどのコンフィグでも設定可能です。

指定コンフィグでサーバーが起動している場合、Multicam Configurationウィンドウでは、動作中のコンフィグの設定が可能です。

Multicam Configurationウィンドウは、両方のインターフェース内で、同じ方法で構成されています:

- 7つのタブより、構成されています。
- 各タブは、1つ以上のページを持っています (サーバーベースアプリケーション)。
- 各タブは、1つのページ上に、全ての設定を表示します(Webベースインターフェース)。
- ページ/タブ上の設定は、固有の名前を持つフィールドグループで構成されます。

Multicam Configurationウィンドウへのアクセス

サーバーベースアプリケーション内

サーバーが収録開始していない時、Multicam SetupウィンドウからMulticam Configurationウィンドウへアクセスする には、以下を行います:

- 1. コンフィグラインリスト内で、↑(上矢印)または↓(下矢印)キーを押し、選択したいコンフィグがハイライトされるま で上下に動かします。
- 2.F8を押します。

Multicam Configurationウィンドウが閉きます。

サーバー収録中に、Clips/PlaylistウィンドウからMulticam Configurationウィンドウにアクセスするには、SHIFT+F2を 押します。

Webベースインターフェース内

サーバーが収録開始していない時、Multicam SetupウィンドウからMulticam Configurationウィンドウへアクセスする には、設定したいコンフィグラインのEditアイコン \checkmark をクリックします。 Multicam Configurationウィンドウが開きます。

サーバー収録中には、Webベースインターフェースインターフェース上に、Multicam Configurationウィンドウが直接 表示されます。 動作中のコンフィグを、直接変更できます。



表示モード

Multicam Configurationウィンドウ内の設定は、通常使用されるかどうかにより、basic/advanced設定に分類されてい ます。

その結果、2つの表示モードがあります:

- Basic(ベーシック)モード
- Advanced(アドバンスト)モード

ベーシックモードを選択すると、ページ上の一部の設定が表示されなくなる、またはページを表示しなくなります。

サーバーベースアプリケーションで表示モードを変更するには、F3を押します。 Webベースインターフェースで表示モードを変更するには、 表示モードラベル Basic mode Advanced mode

または

をクリックします。

ユーザーインターフェース

サーバーベースアプリケーションのユーザーインターフェース

以下のスクリーンショットは、サーバーベースアプリケーションでの、Multicam Configurationウィンドウの第1タブ、第1 ページを、アドバンストモードで表示しています:

- タイトルバーは、選択されているコンフィグを表示し、コンフィグが立ち上がったか(起動中)、そうでないか(停止中) かを表示します。
- 選択されたタブは、ピンク色に表示されます。
- タブ内の現在のページとページ番号は、右上の隅に表示されます。
- 表示モード (ベーシックかアドバンストか)も、右上の隅に表示されます。

GUNF I	GORHIION	C. 11	tra + Lunyuu	r nui i	ROUNTING		
1.SERVER 2.CHANNELS	3.NETWORK 4.MO	NITORIN	G 5.PROTOCOL	6.GPI	7.0PER	ATION	
					1/2	Advanced	Mode
Video and reference							
Field rate	50.00Hz						
Resolution	1080i		Aspect	ratio	16:9		
LTC timecode	20:49:45:13	OK					
Sync PC time to TC	Yes	every	00h15				
Genlock	Blackburst	OK	Studio				
Codec Intra							
In Use	Yes						
Codec	AVID DN×HD 12	0					
Bitrate (Mbps)	121						
Horizontal res.	1920 pixels						
Codec LongGOP			Proxy				
In Use	Yes		In Use			No	
Codec	XDCAM HD 422		Codec			Mjpeg	
Bitrate (Mbps)	50		Bitrat	e (Mbps	;)	3	
The co	dec used for t	he play	out is the A	UID DN>	(HD 120		
ALT+A:Apply F3:Basic	/Advanced Esc:	Quit Pg	Up/PgDn : Chang	ge page	à	F1:	Help



Webベースインターフェースのユーザーインターフェース

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースの、Multicam Configurationウィンドウの第1タブを、ベーシッ クモードで表示しています:

- 上部ラインは、選択されているコンフィグ名を表示し、コンフィグが立ち上がったか(起動中)、そうでないか(停止中) かを表示します。
- 選択されたタブは、少し薄い灰色で表示されます。
- 表示モード(ベーシックかアドバンスト)は、上部のラインに表示されます。

	SUPPORT	CONFIGURATION
Configuration . 7. Intra + LongGOP Not running Advanced mode		
1. Server 2. Channels 3. Network 4. Monitoring 5. Protocols 6. GPI 7. Operation		
Field rate: 50.00Hz Resolution: 1080i LTC truecode: Vald	~	
Sync PC time to TC: ✓ every 00h15 Genlock: Blackburst ✓ Valid Studio ✓		
Codec Intra In Use: Codec: AVID DhiddD 120 Bitrate (Mbps): 121 Horizontal res.: 1920 pixels V		
Codec Long GOP Proxy In Use: In Use: Codec: XDCAM HD 422 Bitrate (Mbps): 50 Bitrate (Mbps): 3		
The codec used for the playout is the AVID DNxHD 120		
SD: 0 Half pixels (37ns ; -12000 -> 15000) HD to SD SDI: 0 Half pixels (13.5ns ; -1000 -> 1000)		
r Interpolation Vertical interp.:		
PCLAN IP address: 10.129.59.20 Subnet mask: 255.255.00 Default gateway: 10.129.59.1		
Apply Cancel Quit		
Mulsetup is running Multicam 14.		
EVS BROADCAST EQUIPMENT ALL RIGHTS RESERVED 2016		≡vs

4.1.3. Multicam Configurationウィンドウ内の画面操作と編集

サーバーベースアプリケーション内

操作コマンド

以下のテーブルでは、Multicam Configurationウィンドウ内の操作方法を示します:

コマンド説明	コマンドキー
タブの選択	CTRL+tab 番号
あるタブから別のタブに移動する方法	LEFT ARROW / RIGHT ARROW
(タブが選択されると、紫色にハイライトされる)	
有効なタブのページ内を上下に移動	PAGE DOWN または PAGE UP
編集可能な設定リスト内を下に移動	ТАВ
編集可能な設定リスト内を上に移動	SHIFT + TAB
ベーシックとアドバンストの表示モードの切り替え	F3

編集コマンド

以下のテーブルでは、Multicam Configurationウィンドウ内の、フィールドが選択された時の(TABキーを使って行ないます)、コンフィグ設定の編集コマンドを示しています。

テキストフィールド内では、直接値を入力できます。

コマンド説明	コマンドキー
数値を増やす	スペースバー
(もしくはリストの中で、次の値を表示)	
数値を減らす	SHIFT+スペースバー
(もしくはリストの中で、前の値を表示)	
テキストフィールド内で、カーソルを移動	SHIFT+ → /←
選択設定の値をリセット	F5
選択コンフィグの現在のタブの全設定の全値のリセット	CTRL+F5
選択コンフィグの全てのタブの全設定の全値のリセット	CTRL+SHIFT+F5
変更を適用	ALT+A
変更を適用せずコンフィグ画面より出る	ESC, ENTER



リスト内の値の有効化

設定の中には、値を有効にする必要があるものもあります。 例: Operationタブ内のページの選択(receive pages、protect pages)。 有効になったページは青色になり、無効化されたページはハイライトされません。

値のリストを有効にするには、以下を行います:

- 1. 値一覧を、TABキーで選択します。 値一覧が選択されると、有効になった値は青色にハイライト、無効化された値はピンク色にハイライトされます。
- 2. キーボード上では、有効にしたい値数値/文字を打ち込みます。

すると、青色にハイライトされます。

3. 変更をALT+Aで反映し、確定します。

Webベースインターフェース内

操作と編集コマンド

Webベースインターフェースの操作と編集コマンドは、Webベースインターフェースではよく使われるコマンドです。 存むなコマンドボタンは、以下の通りです:

コマンド説明	コマンドキー
アドバンスト表示モードを有効にする	Basic mode
ベーシック表示モードに戻る	Advanced mode
変更を反映	Apply
変更をキャンセル	Cancel

サーバーとWebベースインターフェース内

変更された値の表示と確認

ー度変更されると、変更が反映されない限り、フィールド値は青色で表示されます。 一貫性のないもしくは矛盾するフィールド値のチェックは、この段階では行いません。

変更を反映すると、以下が起きます:

● 変更した値は、チェックされます。

設定値に一貫性がない場合、ここでエラーメッセージが表示されます。

- 確定された値は、元の色に戻ります。
- 一貫性のない箇所は、以下の通り表示されます:
- 一貫性のない値は、赤色表示されます。
- 警告メッセージで、問題のあるフィールド値を示します。
- サーバーベースアプリケーションを使っていると、一貫性のないフィールド値を含んでいるページを表示します。



4.1.4. LSMリモコンのSetupメニュー概要

序文

LSMまたはXSenseモードで操作するとき、LSMリモコン上で使用可能なTechnicalとOperational Setupメニューで、以下 を設定できます:

- よく使われるテクニカル設定(Technical Setupメニュー内)
- 全てのオペレーション設定 (Operational Setupメニュー内)

設定に割り当てられた値は、変更すると、すぐに保存されます。

Technical Setupメニューへのアクセス

Technical Setupメニューにアクセスするには、Main SetupページよりFOを押します。 Technical Setupメニューが、第パページで開きます。 Technical Setupは、セクションとサブセクションに分けられており、Tx.yという名前で、xがセクション番号、 yがサブセクション番号を表します。

このマニュアル内のMulticam Configurationウィンドウの全てのタブに該当するセクションで、Technical Setupメニュー内で 利用可能な設定を一覧表示しているテーブルの概要と各設定を確認できる章を確認できます。

注意

LSMリモコンのSetupメニューは、EVSサーバーのコンフィグと有効なライセンスコードに従って動的に調整されます

従って、LSMリモコン上で利用可能な設定は、Setupメニュー内で固定した位置を持っていません。

Operational Setupメニューへのアクセス

Operational Setupメニューにアクセスするには、以下を行います:

1. Playlistモードにいる場合、まずRECORDを押し、このモードを抜けます。

2. SHIFT + MENU を押して、Mainメニューに移動します:

Split	Paint	Target	Setup
1PGM+PRV	2/3 PGM		

3. SHIFT + Dを押しSetupを選択し、Operational Setupメニューに入ります。

Operational Setupメニューは、セクションとサブセクションに分けられており、x.yという名前で、xがセクション番号、 yがサブセクション番号を表します。



4.1.5. LSMリモコンのSetupメニューの参照と編集

序文

設定の参照及び編集方法は、Technical SetupメニューとOperational Setupメニューで、同じです。 参照と編集コマンドについて、以下で説明します。

参照コマンド

以下のテーブルでは、LSMリモコンのSetupメニュー内の参照コマンドを示します:

コマンド説明	コマンドキー
別セクションへの移動(セクション内にいるとき)	SHIFT+セクションに対応する F_キー
セクション内で、次のページに移動する	F10
セクションの最終ページにいる場合には、次のセクションの最初のペ	
ージに移動します	
セクション内で、前のページに移動する	F9
セクションの最初のページにいる場合には、前のセクションの最終ペ	
ージに移動します	
Setupメニューを出る	Menu
ジョグを使い、セクションページをスクロールする	ENTER(設定が選択されていないとき)+jog

編集コマンド

以下のテーブルでは、LSMリモコンのSetupメニュー内の設定変更コマンドを示します:

コマンド説明	コマンドキー
セクションの中の設定の選択	目的の設定に対応するF_キー
設定値の変更	ジョグホイールを回す
設定値の変更の確定	ENTER
選択設定にデフォルト値をリストア	CLEAR +目的の設定に対応するF_ キー
全Setupメニュー上のデフォルト値をリストア	CLEAR + F0
Setupメニュー内の変更を確定する	MENU
(メニューから出る時メッセージに答える)	
Setupメニュー内の変更をキャンセルする	CLEAR
(メニューから出る時メッセージに答える)	
Setupメニュー内に留まる	ENTER
(メニューから出る時メッセージに答える)	



4.1.6. アプリケーションのリブートが必要な時

序文

アプリケーションのリブート後にのみ、パラメータの変更が有効になる場合があります。 以下のパラメータを変更したら、メッセージにより、Multicamのリブートが必要と告げられます。 パラメータは以下にまとめられていますが、リブートが必要な際にはパラメータの説明が表示されます:

タブ名	設定名
Serverタブ	一部のビデオとリファレンス設定:
	● Field rate: フィールドレート
	● Resolution: 解像度
	● LTC timecode: タイムコード
Serverタブ	全てのcodec: コーデック設定
	■□ F\/S廿―バーでアクティブなつ―デックエッセンスを変更すると クリアビデオディスクを要
	はいろう パー こう ファインなコー アラフェクビンベを変更すると、フラア ビアオアイベクを要 求されます。
Serverタブ	全てのPC LAN設定 (Multicam Setupウィンドウからのみ編集可能)
Channelsタブ	一部の基本設定:
	● Inputs: 入力
	● Outputs: 出力
	● Base config: コンフィグ
Channelsタブ	1つのオーディオ設定:
	● Number of tracks: トラック数
Channelsタブ	1つのレコーダー設定:
	SD Autosense
	● REC capacity: 記録容量
Networkタブ	全てのSDTI設定:
	● Speed: 速度
	● Net name: ネット名
	● Net number: ネット番号
	● Type: タイプ
Networkタブ	全てのGigabit設定:
	● Gigabit connection: 接続
	● Gigabit IP configuration: IP設定
	Gigabit prioritization



4.2. Serverタブ

4.2.1. 概要

サーバータブは、ビデオコーデック/規格、タイムリファレンス、フェーズ設定、補間、PC LANに関連する設定をカバーしています。

以下のテーブルでは、Serverタブについて示しています。

設定が可能なら、対応するカラム内に x印が付いています:

● basic/advancedモード(サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース)

LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内(T1.X)

設定名	Basic	Advanced	Technical Setup	
Video and reference設定				
Field rate	Х	X	_	
Aspect ratio	Х	X	_	
Resolution	Х	Х	_	
HDR Profile	_	Х	_	
NEW! Color Gamut	-	Х	_	
LTC Timecode	Х	Х	_	
Sync PC Time to TC	-	Х	_	
Genlock	Х	Х	_	
Codec設定				
(Intra / LongGOP / Proxy)				
Codec	Х	Х	_	
Bitrate	Х	Х	_	
Horizontal Res. /Recorded Lines	-	Х	_	
Phase definition設定				
SD output phase		Х	Х	
HD offset phase	-	Х	Х	
HD output phase	-	Х	Х	
SD offset phase	-	Х	Х	
Interpolation設定				
Vertical interp.		Х	Х	
Four Lines		Х	Х	
PC LAN設定				
IP Address	Х	Х	-	
Subnet Mask	Х	Х	-	
Default Gateway	Х	Х	_	



4.2.2. ビデオコーデックとリファレンス

Video and reference設定

ユーザーインターフェース

Video and reference設定は、サーバーベースアプリケーション(第1ページ)とWebベースインターフェース内のServerタ ブ上で可能です。 これらの設定は、LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内にはありません。

▲警告

ほとんどのVideo and reference設定(Sync PC time to PCとGenlock以外の全て)は、設定変更を反映させるために、ア プリケーションのリブート(操作画面からALT+Q)が必要です。

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースの、Video and reference設定です:

Video and reference			
Field rate:	50.00Hz 🖍	Aspect ratio:	16:9 👻
Resolution:	1080i 🖍	HDR Profile:	None (SDR)
LTC timecode:	Valid	Color Gamut:	rec.709 💌
Sync PC time to TC:	✓ every 00h15		
Genlock:	Blackburst 🗸 Valid	Studio 🗸	

Field Rate (フィールドレート)

説明	フィールドの周波数 (Hz)。
	フィールドレートと解像度で、ビデオ規格を決定。
値	50.00 Hz (PAL) - デフォルト値
	59.94 Hz (NTSC)
	59.94 Hz (J)

Aspect ratio (アスペクト比)

説明	入力ビデオ信号の素材に対し、アスペクト比を設定します。	
値	以下の値が有効です:	
	SD:	
	• 16:9	
	• 4:3	
	● 4:3 Letterbox: 黒縞が映像の上下に表示され、最大幅を補間します。	
	● 16.9 Pillarbox: 黒縞が映像の左右に表示され、欠けているピクセルを補います。	
	HD:	
	• 16:9	
	16.9 Pillarbox	
デフォルト値	16: 9	



Resolution (解像度)

들었다면	縦士白の殿海中
武明	利止ノフトリのノ月半日家ノ豆
	(映像の上から下へ見える、白から黒及び黒から白へのトランジションの数
	(ピクセル +タイプ)。
	フィールドレートと解像度の両方が、ビデオ規格に該当します。
	XT3サーバーでは、該当するライセンスコードが有効であれば、SDとHDのビデオ規格を利用できます。
値	SD:
	525i
	● 625i
	HD:
	• 720p
	1080i
	● 1080p(コード21 または 22でのみ有効)
	UHD:

HDR Profile (HDRプロファイル)

有効	パラメータは、advancedモードでのみ設定可能です。
説明	High Dynamic Profile (HDR)で使用するコンバージョン機能を指定します。 HDRは、イメージの合成とトーンマッピングのデジタル技術で、画像内の明るさのコントラストを増 加させるため、取り込みデバイスのネイティブ能力を超えたイメージのダイナミックレンジの拡張を 目指しています。
値	 None (SDR = Standard Dynamic Range) HLG (= Hybrid Log-Gamma、BBCとNHKが開発) PQ (= Perceptual Quantizer、Dolby Lab. Inc.開発) S-Log3 (Sony開発) V-Log (Panasonic開発)
デフォルト値	None (SDR)



HDRは、以下のビットレート制限を持ち、HD 10ビットコーデックをサポートしています。 XT3 6U:

- 12チャンネル 最大200 Mbps
- 8チャンネル 200 Mbps~242 Mbps間
- 6チャンネル 242 Mbps越え

XT3 4U:

- 8チャンネル 最大242 Mbps
- 4チャンネル 242 Mbps越え



CONFIGURATION MANUAL	XT3 Server 15.3

NEW! Color Gamut (カラーガマット)		
有効	パラメータは、HDとUHD-4K解像度でのadvancedモードでのみ設定可能です。	
説明	入力信号のカラースペースに対応する規格を指定します。 これは、手動で設定しなければなりません。	
値	 ● rec. 709:通常のHDTVで使用されるカラースペースに対応。 ● rec. 2020:広いカラーレンジを提供するWide Gamutカラースペースに対応。 	
デフォルト値	Rec. 709	



Wide Color Gamut (rec. 2020)は、HDとUHD-4Kで、以下のビットレート制限付きで、10ビットコーデックでサポートされています:

XT3 6U:

- 12チャンネル 最大200 Mbps
- 8チャンネル 200 Mbps~242 Mbps間
- 6チャンネル 242 Mbps越え

XT3 4U:

- 8チャンネル 最大242 Mbps
- 4チャンネル 242 Mbps越え

LTC Timecode (タイムコード)

説明 EVSサーバーに供給されるLongitudinal timecode (ビデオとは別トラックに保存されるタイムコード情報) とタイ ムコードステータス。 値 タイムコードは、hh:mm:ss:frで提供されます。 (サーバーベースアプリケーション上のみ) タイムコードのステータスは、 'OK もしくは Valid'、'BAD'、'LOST'、'DRIFT' (EVSサーバーで設定されます)。

Sync PC Time to PC (PCの時間をTCに同期させる)

説明 PC時間をタイムコードと同期するか、またどの程度の頻度で同期させるかを設定します。
 値 Synchronization (同期): Yes/No
 Frequency (頻度): デフォルトは '00h15'(編集不可)

Genlock

 説明 Genlock信号のタイプ、ステータス、フレームシンクロナイザーモードを指定します。
 値 Type (タイプ): 'Blackburst (ブラックバースト)'または'Tri-Sync (3値)' (SDでは常にBBです)
 Status (ステータス): 'OK または Valid' または 'BAD' (EVS サーバーで設定)
 Mode (モード): 'Studio' (ビデオ信号シフト補正なし)、または'Resync' (ビデオ信号シフト再同期)



マルチエッセンスについて

序文

XT3サーバーは、同時に、レコードトレインを、2つの異なるコーデックタイプにエンコード可能で、これをエッセンスと呼びます。

以下のエッセンスが可能です:

Intra、LongGOP (XDCAM)、Proxy (Lo-Res)

このプロセスは、ユーザーにはシームレスで、以前の EVSサーバーと変わりはありません。

この章では、マルチエッセンス機能の概要について示しており、XT3サーバーをマルチエッセンスに設定したときに考慮すべきルールと制限について、主に記載しています。

エッセンスの組み合わせ

エッセンスは、以下の組み合わせが可能です:

- Intra + LongGOP
- Intra + Proxy
- LongGOP + Proxy
- Intra only
- LongGOP only

一般ルール

- EVSサーバー上にレコードトレインとクリップが複数のエッセンスで存在しても、レコードチャンネル毎に1つの レコードトレイン、LSMID毎に1つのクリップしか見えません。
- クリップは、いずれのエッセンスでも同じです。
- Proxyのエッセンスは、EVSサーバー上で単一のエッセンスとして使用できません。
- LongGOP onlyで動作可能にするには、レコーダ上のMix on one channel機能をonにする必要があります。

収録と編集ルール

- サーバーがマルチエッセンスモードに設定されていると、クリッツプは各アクティブなエッセンス内に作成され ます。
- 一般的には、クリップ上の全ての編集作業は、クリップの全てのアクティブエッセンス上にシームレスに適用されます。

送出ルール

- 一度に送出できるのは、1エッセンスのみです。 送出に使用するコーデックは、Serverタブ内のcodecの後で設定します。
- Intraエッセンスがサーバーで使用されている場合には、このエッセンスが送出されます。 これ以外では、LongGOPエッセンスが送出されます。
- オンエア用エッセンスがない場合には、黒クリップが表示されます。
- Proxyエッセンスは、送出には使われません。



LongGOPコーデックでの制限

SLSMコンフィグ

マルチエッセンス Intra + LongGOPのSLSMコンフィグでは、以下の制限があります:

- Intraコーデックは、全てのフェーズを記録します。
- LongGOPコーデックは、フェーズ1からの通常速度の素材のみ(SLSMでない)記録します。

オーディオ転送

マルチエッセンス Intra + LongGOPのSLSMコンフィグでは、オーディオ転送は、オーディオモノトラックの256転送を超 えることはできません。

もし、設定したコンフィグが、256を超える転送を作成したら、EVSサーバーはエラーメッセージを表示します。

オーディオ転送の計算時に、以下のルールを考慮して下さい:

- Recordチャンネルのオーディオ転送に関して: 全てのHiRes転送を考慮します。
- Playチャンネルのオーディオ転送に関して: 1つのHiresエッセンスの転送を考慮します。

3IN-3OUTコンフィグ (INTRA + XDCAMと32オーディオ)では: 3IN × 2 × 32 + 3OUT ×32 = 288 転送 (256を超えるため、不可能) 6IN-2OUTコンフィグ (INTRA + XDCAMと16オーディオ)では: 6IN × 2 × 16 + 2OUT ×16 = 224 転送 (256を超えないため、可能)

Proxy コーデックでの制限

オーディオ

Proxyエッセンスでは、Dolby Eはサポートしていません。

Proxy含むマルチエッセンスコンフィグにおいて、オーディオチャンネルがDolby Eに設定されたら、Proxy出力には関連するオーディオはありません。

オーディオ設定内のNumber of Tracksパラメータを、32 audio tracksに設定したら、Proxyエッセンス内では16オーディオチャンネルのみが有効です。

オーディオ設定内のNumber of Tracksパラメータを、16 audio tracksに設定したら、Proxyエッセンス内では8オーディオチャンネルのみが有効です。

しかし、16オーディオチャンネルは、6チャンネルモードまで有効です。

Lo-Resオーディオは、Mpeg-1 Layer II、48 kHzサンプリング周波数です。



Codec (コーデック)設定

序文

XT3サーバーは、同時こ、レコードトレインを、1つまたは2つの異なるコーデックタイプでエンコード可能で、これをエッセンスと呼びます。

可能なコーデック

コーデック設定は、3つのコーデック設定でコンフィグされ、これは、XT3サーバー上でアクティブにできるエッセンスに対応しています。

EVSサーバー上で使用可能なエッセンスに対応するコーデック設定のみが、表示されます。

以下のコーデック設定箇所があります:

- Codec Intra: 少なくともIntraコーデックは使用可能なため、常に表示されます。
- Codec LongGOP: LongGOPエッセンスが有効な場合に、表示されます。

● Proxy: Proxyエッセンスが有効な場合に表示されます。 このエッセンスは、常に、Hi-Res Intraコーデックと一緒に使用されます。

ユーザーインターフェース

Codec(コーデック)設定は、サーバーベースアプリケーション(1番目のページ)とWebベースインターフェース内の Serverタブ上にあります。

これらの設定は、LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内にはありません。

▲ 警告

コーデック設定は、変更を有効にするには、アプリケーションのリブートが必要です。 (オペレーションウィンドウから、ALT + Q)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースでの、Serverタブ上のCodec設定を示しています:

Codec Intra			
In Use:	✓		
Codec:	AVID DNxHD 120 🗸		
Bitrate (Mbps):	121		
Horizontal res.:	1920 pixels 🗸		
Codec Long GOP		Proxy	
In lice.	V	In lice.	
Codec:	XDCAM HD 422	Codec:	Minea
Ritrato (Mbns):	50	Ritoto (Mbpc):	2
Diciace (HDps).			
The codec used for the playout is the AVID DNxHD 120			

In Use (使用)

説明	各エッセンス設定内で、そのエッセンスが、エンコードされるか、されないかを設定します
値	Yes
	No
デフォルト値	Yes: Intra Codec
	No: LongGOP Proxy



Codec (Codec Intra)		
説明	ビデオ信号の圧縮/伸張使用するアルゴリズム。	
	Intraコーデックでは、現在のフレームに含まれる情報に関連して、排他的に圧縮されます。	
値	SD:	
	Mjpeg (SD)	
	● IMX	
	DVCPro 50	
	HD:	
	Mjpeg EVS (HD)	
	 Mjpeg Standard (HD) 	
	Mpeg 2 Intra (HD)	
	● Avid DNxHD 120、185、185x (50Hzのみ)	
	● Avid DNxHD 145、220、220x (59.94Hzのみ)	
	Apple ProRes 422、422LT、422 HQ	
	DVCPro HD	
	● AVC-Intra 100	
	XAVC-Intra 100	
デフォルト値	IMX (SD)	
	Avid DNxHD 120 (HD 50Hz)	
	• Avid DNxHD 145 (HD 59.94Hz)	



EVSサーバーがAVC-Intraコーデックで動作するように設定た時には、送出に、XAVC-Intraコーデックも使用可能です。

Codec (Codec LongGOP)

説明	ビデオ信号の圧縮/伸張に使用するアルゴリズムです。
	LongGOPコーデックでは、現在のフレームに含まれる情報に関連して、排他的に圧縮されますが、画像のグ
	ループ(GOP)内の他のフレームに関連した情報でも圧縮します。
値	XDCAM HD 50



XT3サーバーをLongGOP onlyで動作させるには、Mix on one channelをonにする必要があります。

Proxy

説明	ビデオ信号の低解像度での圧縮/伸張に使用するアルゴリズムです。
	これは、リモートでのブラウジング目的で、使用されます。
	Proxyエッセンスのみで、EVSサーバーを動作させることはできません。
値	Mjpeg



Bitrate (ビットレート)

説明	メガビット処理数/秒(Mbps)。
	ビットレートは、コーデックに依存します。
値	関連する章を参照下さい。

Horizontal Res. (HD) (水平解像度)

説明	映像の左から右へ見える、白から黒及び黒から白へのトランジションの数ピクセル)
	設定値は、ビデオ規格とコーデックに依存します。
値	関連する章を参照下さい。

Recorded Lines (SD) (収録ライン数)

説明	映像の上から下まで記録されるライン数。
	設定値は、ビデオ規格とコーデックに依存します。
値	関連する章を参照下さい。



使用可能なコーデック

序文

コーデックが使えるか否かは、主に、該当するライセンスコードが適用されているか否かによります。 LongGOPまたはProxyエッセンスのコーデックが使用可能かどうかは、以下に記載されている追加ハードウェア/ソフ トウェア要件に依存します。

要件概要

Codec Intra

Intraコーデックは、該当するライセンスコードが有効な時に使えます。 XT3サーバー上では、基本サーバーハードウェア上の標準コーデックとして、複数のライセンスコードがあります。

Codec LongGOP

codec LongGOP設定とXDCAM コーデックは、以下の条件下で有効です:

- サーバーが、XDCAMモジュール付のV3Xベースのボードを搭載。
- LongGOPのライセンスコード(14)が、適用されている。
- ビデオ規格が、720p もしくは1080iである。
- LongGOP-onlyコンフィグでは、SLSMは設定できません。
- LongGOP-onlyコンフィグでは、ベースコンフィグは、Server またはSpotbox。

Codec Proxy

Proxy設定、およびMipeg Proxyコーデックは、ライセンスコード32が適用されていると、使用できます。

ライセンスコード

以下のテーブルは、XT3 サーバーで利用可能なコーデックとライセンスコードの関係を示しています。

ライセンスコード10から12に該当するコーデックは、XT3サーバーにデフォルトでインストールされています。

SD コーデック	V3Xコーデックボード
DVCPro 50	⊐—ド9
Mjpeg(SD)	コード10
IMX	⊐—ド11
Mjpeg(Proxyコーデック)	⊐—F32

HD コーデック	V3Xコーデックボード
Avid DNxHD®	コード5
Apple ProRes 422、422 LT、422 HQ	⊐—ド6
DVCPro HD	⊐—ド8
Mjpeg Standard (HD)	⊐ — ド10
Mjpeg EVS (HD)	
Mpeg-2 Intra (HD)	⊐—ド12
AVC-Intra	⊐ − ド13
XAVC-Intra HD	
XDCAM (LongGOPコーデック)	コード14



コーデック関連情報

ビットレートと記録ライン数 (SD 525i)

コーデックタイプ	SD Mjpeg Standard	SD IMX (D10)	DVCPro 50
ビットレート	20-100 Mbps	30; 40; 50 Mbps	50 Mbps
デフォルトビットレート	30 Mbps	30 Mbps	50 Mbps
記録ビデオライン	496 lines	512 lines	480 lines
	(L16–23; L278–525)	(L7–262; L270–525)	(L23–262; L285–524)
	デフォルト		
	480 lines	-	
	(L23–262; L286–525)		
	512 lines		
	(L7–262; L270–525)		

ビットレートと記録ライン数 (SD 625i)

コーデックタイプ	SD Mjpeg Standard	SD IMX (D10)	DVCPro 50	
ビットレート	20-100 Mbps	30;40;50 Mbps	50 Mbps	
デフォルトビットレート	30 Mbps	30 Mbps	50 Mbps	
記録ビデオライン	576 lines	608 lines	576 lines	
	(L23–310; L336–623)	(L7–310; L320–623)	(L23–310; L335–622)	
	デフォルトt			
	592 lines	_		
	(L15–310; L328–623)			
	608 lines	_		
	(L7–310; L320–623)			



ビットレートと水平解像度 (HD 720p 50Hz)

コーデック	HD Mjpeg	HD Mjpeg	HD Mpeg-2	AVC-Intra 100	DVCPro	XDCAM
	EVS	Standard	Intra	XAVC-Intra 100	HD	HD
ビットレート (Mbps)	20-320	20–320	20-260	111	100	50
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100	50
水平解像度	640	640	640	1280	960	1280
	768	768	768			
	960	960	960	-		
	1024	1024	1024	-		
	1280	1280	1280	-		
	(デフォルト)	(デフォルト)	(デフォルト)			

コーデック	AVID DNxHD 115	AVID DNxHD 175	AVID DNxHD 175x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ
ビットレート (Mbps)	1–115	116-175	116-175	85	120	185
デフォルトビットレート	115	175	175	85	120	185
水平解像度	1280	1280	1280	1280	1280	1280

ビットレートと水平解像度 (HD 720p 59.94Hz)

コーデック	HD	HD	HD	AVC-Intra 100	DVCPro	XDCAM
	Mjpeg	Mjpeg	Mpeg- 2	XAVC-Intra 100	HD	HD
	EVS	Standard	Intra			
ビットレート (Mbps)	20-260	20-260	20-260	111	100	50
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100	50
水平解像度	640	640	640	1280	960	1280
	768	768	768	-		
	960	960	960	-		
	1024	1024	1024	-		
	1280	1280	1280	-		
	(デフォルト)	(デフォルト)	(デフォルト)			

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	145	220	220x (10b)	422 LT	422 SQ	422 HQ
ビットレート (Mbps)	1–145	146-220	146-220	102	145	220
デフォルトビットレート	145	220	220	102	145	220
水平解像度	1280	1280	1280	1280	1280	1280



ダイナミックビットレート管理システムは、エンコードされたストリームのビットレートを、極力、目標に近く保持するために、各収録フィールドの圧縮テーブルを変更します。

高ビットレートは、より高画質な映像を意味しますが、ストレージ容量を少なくし、高帯域軸が要求されます。

不適切な値は、ディスクパフォーマンスを低下させ、再生時に、映像をフリーズさせることもあります。



XT3サーバー上で使用可能なビデオ形式で、以前のハードウェアリビジョンと互換生のないクリップを作成するものがあります。 互換生のない形式を選択すると、アプリケーション開始時に、警告が発せられます。

更に、Multicam ConfigurationウィンドウのServerタブ上に表示されるビデオ形式情報は、互換性のない情報を示します。

Issue 15.3.C - December 2017



ビットレートと水平解像度 (HD 1080i 50 Hz)

コーデック	HD	HD	HD	AVC-Intra 100	DVCPro	XDCAM
	Mjpeg	Mjpeg	Mpeg-2	XAVC-Intra 100	HD	HD
	EVS	Standard	Intra			
ビットレート (Mbps)	20-260	20-260	20–260	111	100	50
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100	50
水平解像度	960	960	960	1920	1440	1920
	1152	1152	1152	-		
	1280	1280	1280			
	1372	1372	1372			
	1440	1440	1440			
	1536	1536	1536			
	1600	1600	1600			
	1920	1920	1920	_		
	(デフォルト)	(デフォルト)	(デフォルト)			

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	120	185	185x (10b)	422 LT	422 SQ	422 HQ
ビットレート (Mbps)	1–121	122-185	122-185	85	120	185
デフォルトビットレート	121	184	184	85	120	185
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920

ビットレートと水平解像度 (HD 1080i 59.94 Hz)

コーデック	HD	HD	HD	AVC-Intra 100	DVCPro	XDCAM
	Mjpeg	Mjpeg	Mpeg- 2	XAVC-Intra 100	HD	HD
	EVS	Standard	Intra			
ビットレート (Mbps)	20-260	20-260	20-260	111	100	50
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100	50
水平解像度	960	960	960	1920	1280	1920
	1152	1152	1152			
	1280	1280	1280			
	1372	1372	1372			
	1440	1440	1440	_		
	1536	1536	1536	_		
	1600	1600	1600			
	1920	1920	1920			
	(デフォルト)	(デフォルト)	(デフォルト)			

CONFIGURATION MANUAL XT3 Serve						
コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	145	220	220x (10b)	422 LT	422 SQ	422 HQ
ビットレート (Mbps)	1–145	146-220	146-220	102	145	220
デフォルトビットレート	145	220	220	102	145	220
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920



ビットレートと水平解像度 (HD 1080p 50 Hz)

以下のテーブル内の値は、最大6 x 1080pチャンネルで有効です。

1080p6チャンネルを越えるコンフィグでは、特別な制限事項が適用されます。

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple	AVC-Intra 100
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes	XAVC-Intra 100
	240	365	365x (10b)	422 LT	422 SQ	422 HQ	
ビットレート (Mbps)	1–242	243–367	243-367	170	245	367	222
デフォルトビットレート	242	367	367	170	245	367	222
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920	1920

ビットレートと水平解像度 (HD 1080p 59.94 Hz)

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple	AVC-Intra 100
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes	XAVC-Intra 100
	290	440	440x (10b)	422 LT	422 SQ	422 HQ	
ビットレート (Mbps)	1–291	292-440	292-440	204	293	440	222
デフォルトビットレート	291	440	440	204	293	440	222
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920	1920



ビットレートと水平解像度 (UHD-4K 50と59.94 Hz)

以下のテーブルは、クアドラント(1/4の映像)のビットレートを示しています。

従って、1チャネルの合計ビットレートは、以下のテーブルの数値の4倍となります。

フィールドレート	50 Hz	59.94 Hz
コーデック	AVID DNxHD	AVID DNxHD
ビットレート (Mops)	100-242(x4)	100-260 (x4)
デフォルトビットレート	242 (x4)	260 (x4)
水平解像度	3840	3840



ビットレート (SLSMコンフィグ HD 720p/1080i)

以下のテーブルは、HD 720p/1080iで使用可能なコーデックと対応最大ビットレート(Mbps)/SLSMフェーズを示しています。

合計記録ビットレートは、フェーズ数で掛け合わせたものになります。

下記のテーブル内の値は、SLSMコンフィグの最大12物理チャンネルで有効です。

12チャンネルを越えるSLSMコンフィグでは、特別な制限が適用されます。

コーデック	HD	HD	HD	AVC Intra	DVCPro
	Mjpeg	Mjpeg	Mpeg-2	XAVC-Intra	HD
	EVS	Standard	Intra		
SLSM 4x - 50 または 59.94 Hz	185	185	185	111	100
SLSM 6x - 50 または 59.94 Hz	120	120	120	111	100
SLSM 8x - 50 または 59.94 Hz	120	120	-	111	100
SLSM 10x - 50 または 59.94 Hz	100	100	-	-	
SLSM 16x-50 または 59.94 Hz	_	-	_		_

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	120	185	185x	422 LT	422 SQ	422 HQ
SLSM 4x - 50 Hz	120	185	185	85	120	185
SLSM 6x - 50 Hz	120	-	-	85	120	—
SLSM 8x - 50 Hz	120	-	-	85	120	—
SLSM 10x - 50 Hz	100	-	-	85	-	—
SLSM 16x - 50 Hz	100	_	-	-	-	-

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	145	220	220x	422 LT	422 SQ	422 HQ
SLSM 4x - 59.94 Hz	145	220	220	102	145	220
SLSM 6x - 59.94 Hz	145	-	-	102	145	—
SLSM 8x - 59.94 Hz	145	_	_	102	145	
SLSM 10x - 59.94 Hz	100	_	_	102	_	
SLSM 16x - 59.94 Hz	100	-	-	-	-	_



ビットレート (SLSMコンフィグ HD 1080p)

以下のテーブルは、HD 1080pで使用可能なコーデックと対応最大ビットレート(Mbps)/SLSMフェーズを示しています。

合計記録ビットレートは、フェーズ数で掛け合わせたものになります。

下記のテーブル内の値は、SLSMコンフィグの最大6物理チャンネルで有効です。 6チャンネルを越えるSLSMコンフィグでは、特別な制限が適用されます。

コーデック	AVC-Intra
	XAVC-Intra
SLSM 4x‐50 または 59.94 Hz	222
SLSM 6x‐50 または 59.94 Hz	
SLSM 8x - 50 または 59.94 Hz	

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	240	365	365x	422 LT	422 SQ	422 HQ
SLSM 4x - 50 Hz	242	367	367	170	245	367
SLSM 6x - 50 Hz	200	-	_	170	-	—
SLSM 8x - 50 Hz	180	-	_	170	-	_

コーデック	AVID	AVID	AVID	Apple	Apple	Apple
	DNxHD	DNxHD	DNxHD	ProRes	ProRes	ProRes
	290	440	440x	422 LT	422 SQ	422 HQ
SLSM 4x - 59.94 Hz	291	440	440	204	293	440
SLSM 6x - 59.94 Hz	200	-	-	204	-	—
SLSM 8x - 59.94 Hz	180	_	—	204	—	—



Proxyコーデックのプロパティ

Mipeg Proxyコーデックは、以下のプロパティを持っています:

プロパティ	值
ビットレート (Mbps)	3 または 5
デフォルトビットレート	3
解像度	SD NTSC 352 x 240 ピクセル CIF 352 x 288 ピクセル CIFは、SD NTSC以外の全てのモードで使用されます。



4.2.3. Phase Definition (位相調整)設定

ユーザーインターフェース

Phase definition設定は、サーバーベースアプリケーション(第2ページ)とWebベースインターフェース(アドバンストモード)のServerタブ上にあります。

以下のスクリーンショットは、Blackburst genlockでのPhase definition設定です:

┌ Phase definition ───	
SD output phase:	0 steps of 37ns
HD offset phase:	500 steps of 13.5ns

以下のスクリーンショットは、Tri-Sync genlockでのPhase definition設定です:

I	Fildse definition		
	HD output phase:	0 steps of 13.5ns	
	SD offset phase:	0 steps of 37ns	

SD Output Phase

有効	このパラメータは、Blackburst genlock時のみ有効です。
説明	SD出力用のフェーズを調整できます。
	値は、37nsステップで調整でき、SDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(37ns)単位、-12000 ~ 15000
デフォルト	0

HD Offset Phase

有効	このパラメータは、Blackburst genlock、HDビデオ規格使用時のみ有効です。
説明	SD出力と比較したHD出力のフェーズのシフトを設定できます。
	値は、13.5nsステップで調整でき、HDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(13.5ns)単位、-1000 ~ 1000
デフォルト	0

HD Output Phase

有効	このパラメータは、Tri-Syn genlock時のみ有効です。
説明	HD出力用のフェーズを調整できます。 値は、13.5nsステップで調整でき、HDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(13.5ns)単位、-30000 ~ 32000
デフォルト	0

SD Offset Phase

有効	このパラメータは、Tri-Syn genlock時のみ有効です。
説明	HD出力と比較したSD出力のフェーズのシフトを設定できます。
	値は、37nsステップで調整でき、SDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(37ns)単位、-400 ~ 400
デフォルト	0



▲ 警告

- SDフェーズは、常に、SDI出力に従い調整されます。
 内部CVBS出力は、対応するSDI出力と比較して、48 x 37 nsのディレイがあります。
- 内部CVBS出力は、クロマサブキャリアのフェーズを内部で調整できないため、ビジョンミキサーや ビデオエフェクト実行機器の直接の入力には、使用できません。

4.2.4. Interpolation(補間)設定

ユーザーインターフェース

Interpolationは、サーバーベースアプリケーション(第2ページ)とWebベースインターフェース(アドバンストモード)の Serverタブ上にあります。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのServerタブ上のInterpolation設定です:



一般的な説明

補間プロセスは、スローモーションリプレイ時の映像の縦方向ジッタ低減を目的としています。 この縦方向ジッタは、実際には、100%より低い速度で映像を再生するとき、フレームパリティの違反により起きます。 プロセスは、より透明性のある結果を出すための新しいフレームの再生成によりコンフィグされています。 これらのフレームは補間されなければならず、隣接するラインの最適な加重平均を作成し計算します。

2つの補間モードがあります: 2ライン補正と4ライン補正。

これらは、互いに排他制御はありません。

- 2ライン補間は、縦方向のジッタを減らしますが、縦方向のバンド幅も減らします。
- 4ライン補間は、完全に安定した映像を得られますが、さらに縦方向のバンド幅を減らします。

 注意 全てのVTRは、PLAY VARモード時に、補間を使用します。

Vertical Interp. (Vertical Interpolation)

説明	2ラ・	イン補正をオン/オフします。
値	lacksquare	No(デフォルト)
		Yes

Four Lines

説明	4ライン補正をオン/オフします。
値	● No(デフォルト)
	• Yes


4.2.5. PC LAN設定

ユーザーインターフェース

PC LAN設定は、EVSサーバーのH3XPボードが、他のEVSハードウェアと通信し情報を交換できるように設定できます。 PC LAN設定は、サーバーベースアプリケーション(第2ページ)とWebベースインターフェース(アドバンストモード)の Serverタブ上にあります。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのServerタブ上のPC LAN設定です:

- DC LAN							
IP address:	10.	129.	110.	21	Up	Up	
Subnet mask:	255.	255.	254.				
Default gateway:	10.	129.	111 .	254			



PC LAN設定は、Multicam Configurationウィンドウ内では、読取専用です。 Multicam Setupウィンドウ内で、Set LAN PC addressコマンドで設定できます。

IP Address

説明	サーバー上のH3XPボード上の内部スイッチモジュールのポート #1に接続するIPアドレス。
	PC LAN接続のステータスが、IPアドレスの横に表示されます。
	冗長化がオンの時には、両方のPC LANのステータスが表示されます。
値	IPアドレス 0.0.0.0 と 255.255.255.255 は、許可されません。
	接続ステータスは、up または down です。

Subnet Mask

説明 MTPCボード接続に割り当てられるアドレススペース内の論理アドレス範囲。

Default Gateway

説明 MTPCボードが、外部ネットワークのアクセスポイントとして利用可能なネットワーク上のルーターのIPアドレス



4.3. Channelsタブ

4.3.1. 概要

以下のテーブルでは、Channelsタブの設定を示しています。 設定可能であれば、対応するカラム内に x が表示されています:

● サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェース内のベーシック/アドバンスト表示モード内
 Webベースインターフェース内、設定は1つのページ上に全て表示されます。

LSMリモコンのTechnical Setupメニュー(T2.X)内

Channelタブには、ビデオとオーディオチャンネル、レコーダーのタイプとコンフィグ、オーディオ形式とオーディオービデオ同期パラメータ、に関連する設定があります。

設定名	Basic	Advanced	Technical
			Setup
Base settings			
Inputs	X	X	Х
Outputs	X	X	X
Base config	X	X	X
3D	X	X	Х
TwinRec	X	X	X
Interface	X	X	Х
Dual LSM Mode	X	X	X
SLSM settings			
Number of cameras	X	X	X
SLSM speed	X	X	X
On 3G-SDI	X	X	Х
Parity	X	X	X
Port settings			
RS422 #1-#6		X	X
Channels and control settings			
OUT1-6 / IN1-6	X	X	X
Name	X	X	X
Main ctrl	X	X	X
Sec. ctrl		X	X
Mode		X	X
OSD		X	
Audio I/Os settings			
MADI	X	X	X
Analog	X	X	X
Digital	X	X	X
Audio settings			
Number of tracks	X	X	Х
Audio full scale		X	Х

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3	Issue 15.3.C - Decem	oer 2017	EVS
Ancillary mode		Х	X
Sample rate conv.		Х	X
Audio monitoring settings			
Mon #1-#4	X	Х	X
Advanced audio settings (Inputs)		Х	
Advanced audio settings (Embedded outputs)		X	_
Advanced audio settings (Digital aes/EBU outputs)		Х	
Advanced audio settings (Analog outputs)		X	_
Recorder settings			
Loop recording		X	X
Rec auto start		Х	X
Clip Capacity		X	X
SD Autosense		Х	
4:3 conversion		Х	
Rec capacity		Х	X
SD -> HD conversion		Х	
Mix on one channel setting			
OUT 1–6		Х	X
Timecode settings			
LTC		Х	
User		Х	X
Primary TC		Х	X
SMPTE 334M packets management settings			
Decoding		Х	X
Encoding		Х	X
Custom 1 / 2		Х	
SD OUT Encoding		Х	
Timecode insertion settings			
IN Loop settings		Х	_
SD OUT settings		Х	
HD OUT settings		Х	—



4.3.2. Channels

Base Settings

ユーザーインターフェース

Base設定では、プレイとレコードチャンネルに関するコンフィグの主な特徴を設定できます。



特定のベース設定(Inputs、Outputs、Base config)では、変更を有効にするには、アプリケーションのリブート(オペレーションウィンドウからALT+Qが必要です。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのベーシック/アドバンスト表示モード内、 Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内
- LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのBase設定です:

- Pace cottings	
base securitys	
Inputs:	8 (1 SLSM = 1 Input)
Outputs:	4
Base config:	Multicam LSM 👻
3D:	•
Dual LSM mode:	•

Inputs (1 SLSM = 1 Input)(入力)

説明 設定内の論理レコードチャンネル数、SLSMレコーダを含む。
 チャンネル間のディスクストレージのパーテーション、及びadvanced audio設定が、自動的にレコードチャネルに適用されます。
 1つのSLSMレコーダは、フェーズ数に関わらず、1つの入力と考慮されます。
 サポートチャンネル数は、筐体とモードに依存します:
 XT3 6U: 0-12(Spotbox)、1-12(LSM)
 XT3 4U: 0-8(Spotbox)、1-8(LSM)

Outputs (出力)

説明	設定内の論理プレイチャンネル数。
値	● XT36UとXT34U: 0-6(Spotbox)、1-6(LSM)



Base Confi	Base Config.		
説明	EVSサーバーが動作するモード。		
	使用可能なベースコンフィグは、サーバータイプと有効なライセンスコードに依存します。		
値	Multicam LSM:		
	EVSサーバーが、LSMリモコンまたはMulticam production screensから操作されるモード。		
	ライセンスコード: 103109 + 111 / 112		
	Replay-Only LSM:		
	プレイリスト管理、スプリットオーディオ、ハイパーモーションカメラなしの限定Multicam LSM モード		
	ライセンスコード: 103109		
	● Video Delay:		
	入力をビデオディレイして再生に使用するモード。		
	ライセンスコード: 101 + 127		
	Spotbox:		
	EVSサーバーが、業界標準プロトコル: Sony BVW75、VDCP、Odetics、DD35、EVS' AVSP、IPDP		
	、EditRec、LinX API、Multicam production screens、から制御可能なモード。		
	ライセンスコード: 101 + 127		
	• XSense:		
	EVSサーバーが、XSenseLSMリモコンまたはMulticam production screensから操作されるモード。		
	ライセンスコード: 101 / 103109 + 111 / 112 + 96		
	EVSサーバーが、サポートされた業界標準のフロトコルでのみ制御できますが、		
	Multicam production screensからでは制御できません。		
	ライセンスコード: 101 (127なし)		
	● F&K Dual Spotbox:		
	Fill & Keyサーハーとして使用する場合の特殊モート。		
	O ライセンスコード 97 (F&K Dual)が必要。		
	〇 Base settings内の 3G/Dualフィールトで、Dual (3D) を選択。		
	O このペースコンフィクで、美界標準ノロトコル: Sony BVW/5、VDCP、Odetics、DD35、		
	EVS AVSP、IPDP、EditRec、LinX API、Multicam production screens、から制御可能。		
	● F&K Dual XSense:		
	U base settingsing July July July C. Dual (JD) を選択。		
	し このパー スコノノイグ じ、 XSense、 Multicam production screens から市所即可用に。		
╧┑ェぃぃ┢			
テノオルト1但	IVIUITICAM LOIVI		

TwinRec

有効	パラメータは、特定の条件下と、ライセンスコード33 (TwinRecオプション)でのみ有効です。
説明	TwinRec機能を有効にします。
	この機能でコーデックモジュールあたり2チャンネルの収録が可能となり、6U EVSサーバーでは12チャネル
	収録が可能です。
値	Yes / No (デフォルト)。



3D	
有効	パラメータは、
	ライセンスコード23: 3D Dual Link用
	ライセンスコード24 : 3D 3G用
	でのみ有効です。
説明	Dual Linkもしくは3G-SDI規格を使用して、3Dオプションをアクティブにします。
	このオプションで、サーバーを、3Dビデオのレコード/プレイで使用可能です。
値	Yes / No(デフォルト)。

Interface

有効	パラメータは、3D、1080p、UHD-4K解像度でのみ有効です。
説明	EVSサーバーが、3D、1080p、UHD-4K解像度、またはXIPリアパネルで使用するインターフェースを設
	定します:
	● Dual Linkインターフェース:
	1ペアのHD-SDIシリアルリンク、2.970 Gbit/sのビットレートを提供します。
	● 3G-SDIインターフェース:
	シングルシリアルリンク、2.970 Gbit/sのビットレートを提供します。
値	以下の値が使用可能ですが、サーバーの状態に依存します:
	● No: どんな場合でも有効
	Dual (3D): Dual-Link for 3D
	〇 コード23+3D設定=Yes
	● 3G Level A: 3G-SDI for 1080p in one 3G stream(ネイティブファイル相互運用性)
	○ コード22または27+1080p解像度
	● 3G Level B: 3G-SDI for 1080p in two 3G stream(ネイティブファイル相互運用性)
	○ コード22または27+1080p解像度
	• 3G (3D): 3G-SDI for 3D
	○ コード24+3D設定=Yes
デフォルト値	No



ライセンスコードで許容されたコンフィグのみが、起動できます。

例: コード22(1080p 3G)と23(3D Dual-Link)があっても、Multicam Configurationウィンドウ内で、3G3D Dual-Linkと選択で きますが、3D 3Gでサーバーを起動できません。

3D 3Gコンフィグを起動可能にするには、コード24がアクティブでなければなりません。



3G/Dualパラメータの1つのモード(Level-A、Level-B、Dual)で記録されたクリップは、他のモード(Level-A、Level-B、Dual)でも再生可能です。



Dual LSM mode

有効	パラメータは、特定の状態とライセンスコード116(Dual LSMオプション)でのみ利用可能です。
説明	Dual LSM機能を有効にします。
	この機能では、2人のオペレータが、同じサーバー上で、それぞれのLSMリモコンで独立して作業できます。
値	Yes / No(デフォルト)。

Available Input Op 1

有効	パラメータは、特定の状態、advanced mode内のみ、とライセンスコード116(Dual LSMオプション)での み利用可能です。
説明	Dual LSMモードで操作する時に、オペレータ#1にレコーダを割り当てます。 残りのレコーダは、自動的に、オペレータ#2に割り当てられます。
値	1-7(設定した入力数に依存)
デフォルト値	全入力数の半分(入力数が偶数でない場合には、切り上げられます) ● 4入力の場合: Op.1=2入力(デフォルト) ● 5入力の場合: Op.1=3入力(デフォルト)



TwinRecの機能

序文

TwinRec機能では、各コーデックモジュールの両方のレコードチャンネルの使用が可能になります。

そのため、2つのレコードチャンネル/コーデックモジュールのインジェストが可能で、つまり3つのコーデックボード を持つ6U EVSサーバーでは、12チャンネルです。

この機能は、主に、エンターテインメント番組に適用できます。

TwinRec機能を使うときには、全てのメイン(J8)とセカンダリ(J5)レコードチャンネルを配線しますが、

Multicam Configurationウィンドウ内にはメインチャンネルのみが表示されるため、Inputsの数を6に設定します(12ではない)。

従って、メインチャンネルのコンフィグが、自動的に、対応するセカンドチャンネルに適用されます。

12レコードチャンネルは、10 GbE接続を経由して、Xsquareを使用して、直接、外部ストレージやニアラインにストリーミングできます。

TwinRec機能は、Base設定内のChannelsタブ内のTwinRecパラメータ経由でアクティブにできます。

有効

TwinRec機能と関連するパラメータは、以下の条件下で使用可能で表示されます:

- XT36UサーバーとXT34Uサーバー
- ライセンスコード33 (TwinRec) と 23 (3D Dual)が有効
- Spotboxベースのコンフィグ (Base Settings内)

TwinRecパラメータは、以下の全ての条件が満たされたときのみ、アクティブにできます

- Resolution (解像度) パラメータ: 720pもしくは 1080i (Serverタブ、Video and Reference)。
- Intra onlyもしくは Intra + Proxyモードが有効(Serverタブ、Codec)。
- EVSサーバーが、6 IN 0 OUT もしくは 4 IN 0 OUTのチャンネルコンフィグで動作(Base Settings)。
- 3Dパラメータが、No (Base Settings)。
- 3G/Dualパラメータが、Dual (Base Settings)。
- SLSM設定で、Number of camerasパラメータが、0(Base Settings)。

以上の1つでも満たされていないと、警告メッセージが表示されます。

制限

メインチャンネルのコンフィグが対応するセカンダリチャネルに適用されるため、以下の制限が、TwinRec機能では適用されます:

- TwinRec機能は、intraフレームコーデックでのHDでのみ使用可能です。
- オーディオは、メインチャンネルのみに記録され、セカンダリチャンネルにはありません。 フィードが外部ストレージにエクスポートされるとき、Xsquareはメインチャンネルの音声をセカンダリチャンネル にコピーします。
- エンベデッドオーディオは、メインチャンネルにマップされます。
- オーディオモニタリングは、メインチャンネルに対してのみ行います。
- メインチャンネルのみが、内部マルチビューワで見れます。
- Clip screen内では、セカンダリチャンネルのクリップは、メインチャンネルのクリップの背後に隠れています。
- GPIを使用すると、セカンダリチャンネルの動作は、関連するメインチャンネルと同じになります。



Dual LSMの機能

序文

Dual LSMの機能では、1台のサーバー上で、2人のオペレータが、互いに独立していくつかのOperational設定を行い、 それぞれのLSMリモコンで、独立して作業することが可能です。

Dual LSMモードは、以下に説明している、特定の状態と特定のMulticam LSMまたはReplay-Onlyコンフィグで使用できます。

下記の状態で、Base Settingsの中のDual LSM modeパラメータで、Dual LSMモードを有効にできます。

有効

Dual LSMの機能と関連するパラメータは、以下の状態時に使用できます:

- XT3 6Uサーバー、ライセンスコード34 (ChannelMax)、Multicam LSMまたはReplay-Onlyモード
- ライセンスコード116(Dual LSM)が有効
- 制限された数のコンフィグ (サポートコンフィグ内にリスト表示)
- SD/HDコンフィグ

サポートコンフィグ

Dual LSM機能は、Multicam LSMまたはReplay-Onlyモードでサポートされています。

- 標準コンフィグ (720p/1080i)
- SLSM 2xコンフィグ (720p/1080i)
- SLSM 2x 3Gコンフィグ (720p/1080i)
- SLSM 3xコンフィグ(720p/1080i)

パラメータ Available Inputs Op1 (Base settings)で、オペレータ#1に割り当てるレコーダ数を設定できます。 残りのレコーダは、自動的に、オペレータ#2に割り当てられます。

LSMリモコン組み合わせ

LSMリモコンは、以下で、オペレータへの組み合わせが可能です

	LSMオペレータ#1	LSMオペレータ#2	Hypermotion (LSMオペレータ#2)
2 LSMリモコン	1	1	
3 LSMリモコン	2	1	
3 LSMリモコン	1	1	1
4 LSMリモコン	2	2	
5 LSMリモコン	2	2	1

2台のLSMリモコンにアクセスしている時に、mainメニュー内のリモコン割り当ての変更で(F1またはF2キー)、2番目のLSMリモコンをアイドル/アクティブにできます。

LSMリモコンがアイドルになると、全てのボタンが消灯し、LCDスクリーン上にメッセージが表示されます。



主な特徴

Dual LSMモードは、以下の主な特徴を持っています:

- 両方のオペレータが、クリップとプレイリストのページを共有。
- オペレーションパラメータのセットは、複製されます。 各オペレータは、他方のオペレータに影響を与えることなく、必要に応じて設定を変更できます。 複製されたパラメータは、Multicam Configurationウィンドウ内の別ページ(ページ8)に追加されます。
- LSMリモコン上で、オペレータは、デフォルトで事前設定カメラアングルセットでの作業、または、 カスタムのカメラアングルセットでの作業を決めることができます。 しかし、最初に割り当てられたカメラアングルを超えるカメラアングルでの作業はできません。

Multicam LSMコンフィグでの制限

Multicam LSMコンフィグで使用するDual LSM機能には、以下の制限が適用されます:

- Mix on one channel機能は、サポートされていません。
- PGM/PRVチャンネルを使う標準mix機能は、各オペレータの最初の2つのPGM上で可能です:
- Playlistの機能は、下記のLSMリモコン#2の制限付きで、同時に両方のオペレータが使用可能です: ○ 全てのプレイリストに影響するClear Unavailable機能はありません。
 - O PGM1とLoop INを使うReplace機能はありません。
- Timeline機能は、Multicam LSMモード内でのみ、1人のオペレータ単独でのみ、使用可能です。 Operationページ -> Timeline Settings内のTL Operatorパラメータで、どのオペレータがTimeline機能に アクセスするかを設定できます。
- PaintとTarget機能は、LSMオペレータ#1でのみ使用できます。
- Hypermotion Cameraのコントロールは、LSMオペレータ#2でのみ使用できます。

Replay-Onlyコンフィグでの制限

Replay-Onlyコンフィグで使用するDual LSM機能には、以下の制限が適用されます:

- Mix on one channel機能は、サポートされていません。
- PGM/PRVチャンネルを使う標準mix機能は、各オペレータの最初の2つのPGM上で可能です:
- PaintとTarget機能は、LSMオペレータ#1でのみ使用できます。
- PlaylistとTimeline機能は、使用できません。
- Hypermotion Cameraのコントロールは、サポートされていません。



SLSM Settings

ユーザーインターフェース

SLSM設定では、SLSMレコーダに特別なパラメータを設定できます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります: ● Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、ベーシックとアドバンスト表示モード。 (サーバーとWebベースインターフェース上)

● LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)



SLSM設定は、ライセンスコード110(Supermotion)または26(U-Motion)が有効な場合にのみ使用できます

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのSLSM設定です:

Number of cameras: 2 SLSM speed: 2x	SLSM Settings		
SLSM speed: 🗸 🗸	Number of cameras:	2	
	SLSM speed:	2x	~
On 3G-SDI: No 🗸	On 3G-SDI:	No	~

Number of Cameras

説明	使用するコンフィグでの、SLSMカメラの台数。
	1台のSLSMカメラが、1つの論理レコードチャンネルに対応します。
値	カメラの最大数は、SLSM速度と、レコードチャンネルの全体数に依存します。 値の範囲: 0~4
デフォルト値	0

SLSM Speed

説明	SLSMカメラが入力信号を記録するフレームレート、標準フレームレート(24FPS 50Hz、30FPS 59.95Hz)
	の倍数で表現されます。
値	2x、3x、4x、6x、8x、10x、16x
デフォルト値	2x

On 3G-SDI

有効	この設定は、720pまたは1080iの解像度でのみ使用できます。
説明	2つのSLSMフェーズを、シングルシリアルリンクでコンフィグされる3G-SDIインターフェイスを使ってEVS サーバーと接続するかどうかを設定します。
値	Yes / No (デフォルト)。

Parity

有効	この設定は、SDコンフィグ時に表示されます。
説明	Identical(同一)か、alternate(代替)パリティかを設定します。
値	Identical
	Alternate
デフォルト値	Alternate



Port settings

ユーザーインターフェース

Port設定では、RS422ポートを、EVSサーバーと通言する各種外倍除胸機EVSまたはサードパーティルに割り当てできます。 これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

 Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、ベーシックとアドバンスト表示モード。 (サーバーとWebベースインターフェース上)

● LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのPort settings画面です:

RS422 #1 - #6

記明	EVSサーバーの各RS422ポートに接続される、デバイス/コントローラのタイプを設定します。
値	必要なライセンスコードが有効であれば、以下の値が有効です:
	● EVS Remote: LSMリモコン用 (コード103~109)
	● EVS Remote: XSenseLSMリモコン用 (コード103~109または96)
	● EVS IPDP: (コード120または121)
	● Sony BVW75: (⊐—ド118)
	● XtenDD35: (コード118)
	● Odetics (Odetics FK): (⊐—ド119)
	● VDCP (VDCP FK): (⊐—ド119)
	● EVS AVSP: (コード120または121)
	● Edit Rec: (⊐—ド122)
	● LinX: (コード123)
デフォルト	RS422 #1 (のみ): IPDP



Odetics FKとVDCP FKはポート設定から直接使用できませんが、RS422ポートにOdeticsまたはVDCPプロトコルを 割り当てると、Channels and Control settings内の**Main Ctrl**フィールド上で、Fill and Keyモードが使用可能になります。



Channels and Control settings

ユーザーインターフェース

Channels and Control設定では、主に、どのコントローラが、どのPLAY/RECORDチャンネルをコントロールするか (Main/Secondary)を設定できます。

以下のインターフェース内にあります:

● Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、ベーシックとアドバンスト表示モード。 (サーバーとWebベースインターフェース上)

● LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのChannel and Control settingsです:

		Name	Main ctrl		P	ort	Sec. ctrl		Port	Mode	3	OSD	
OUT1	PGM1	PGM1	EVS IPDP	~	2	~		~			•	Main	•
OUT2	PGM2	PGM2	EVS IPDP	~	2	~		~			~	Main	•
IN1	REC1	REC1	EVS IPDP	~	2	~		~			~		•
IN2	REC2	REC2	EVS IPDP	~	2	~		~			~		×
IN3	REC3	REC3	EVS IPDP	~	2	~		~			~		•
IN4	REC4	REC4	EVS IPDP	~	2	~		~			•		•
IN5	REC5	REC5	EVS IPDP	~	2	~		~			•		•
IN6	REC6	REC6	EVS IPDP	~	2	~		~			•		•
IN7	REC7	REC7	EVS IPDP	~	2	~		~			~		•
IN8	REC8	REC8	EVS IPDP	~	2	~		~			~		•
IN9	REC9	REC9	EVS IPDP	~	2	~		~			~		•
IN10	REC10	REC10	EVS IPDP	~	2	~		~			~		~

Name

説明 PLAY/RECORDチャンネルのユーザー設定名。
 この名前は、OSDとIPDirectorソフトで使われます。
 名前は、最大24文字です。

Main ctrl (Main Controller)

説明	指定PLAY/RECORDチャンネルのコントロールを許可されるメインのデバイス/コントローラーの名前。
値	コントローラがこのリスト内で選択可能になるには、最初に、Port settings内でRS422ポートに割り当てられな
	ければなりません。
	さらに、各コントローラに設定されたルールが、コントローラの割り当てに適用されます。
	(単独または他のコントローラとの組み合わせ)
	間違ったプロトコル選択/プロトコル組み合わせの場合には、エラーメッセージが表示され警告し、エラーを含
	むフィールドは、赤色にハイライト表示されます。

Sec. ctrl (Secondary Controller)

説明	指定PLAY/RECORDチャンネルのコントロールを許可されるセカンダリのデバイス/コントローラーの名前。
値	コントローラがこのリスト内で選択可能になるには、最初に、Port settings内でRS422ポートに割り当てられな
	ければなりません。
	さらに、各コントローラに設定されたルールが、コントローラの割り当てに適用されます。
	(単独または他のコントローラとの組み合わせ)
	間違ったプロトコル選択/プロトコル組み合わせの場合には、エラーメッセージが表示され警告し、エラーを含
	むフィールドは、赤色にハイライト表示されます。



Mode	
説明	指定PLAY/RECORDチャンネルを、メインとセカンダリコントロール間でコントロールする方法を指定します (メインとセカンダリコントローラを設定可能なとき)
値	2つのコントロールモードが可能です:
	● Exclusiveモード: メインコントローラは、いつでも、セカンダリコントローラにコントロールを渡す、セカンダリコントローラ からコントロールを受け取る、かを決定できます。
	● Parallelモード: 他方のコントローラがコマンドを実行していない限り、どちらのコントローラでもコントロール可能です。
	征つし、日田に、コントロール権を受け渡しでさます。

OSD

- 説明 Parallelモード時に、どちらのデバイス(メインまたはセカンダリコントローラ)が、OSD表示文字を管理するかを 指定します。
- 値 2つの値が可能です:
 Main: OSD表示は、メインコントローラで管理されます。
 Sec.: OSD表示は、セカンダリコントローラで管理されます。



コントローラ割り当てのルール

XT3サーバーの主なルール

XT3サーバーでは、以下の主なルールが適用されます:

● Multicam LSMベースコンフィグ:

- ○ 全てのLSMリモコンは、メインコントローラのリスト内の最初でなければなりません(ギャップなし)。

 このリスト内で、別のコントローラを、LSMリモコンより上にすることはできません。
- LSMリモコンは、RECORD/PLAYチャンネルのメインコントローラに割り当てられなければなりません。
- 他のコントローラは、プロトコル固有ルールを考慮して、PGMのセカンダリコントローラーとして割り当てできます
- O RECORDチャンネルは、セカンダリコントローラを持つことはできません。
- 1台のEVSサーバーのPLAYチャンネルで、LSMリモコンに割り当て可能な最大数=4です。
- 1台のLSMリモコンに、割り当て可能な最大チャンネル数=3です。
- SpotboxまたはServerベースコンフィグ:
- O LSMリモコンは、使用できません。
- プロトコル固有ルールを考慮して、LSMリモコン以外のコントローラを、PLAY/RECORDチャンネル に割り当てできます。

プロトコル固有の割り当てルール

スタンドアロンのプロトコル

以下のテーブルは、スタンドアロン(メインコントローラとしてのみ)での、各プロトコルと、PLAY/RECORDチャンネルの組み合わせです。

緑色のセルは割り当て可能で、赤色は不可能を表してします。

IPDP AVSP VDCP Sony EditRec LSM Odetics DD35 VDCP VDCP Odetics LinX リモコン F&K F&K Mix 1 PGM 2 2 PGM 3 > 2 PGM 1 REC >1 REC 1 PGM + 1 REC Several PGM +1 REC Several PGM + Several REC

セル内の番号は、テーブル下の説明に対応しています。

1. 各レコーダー

2. Mix on one channelが有効なときのみ

3. 連続したPGMsのみ



Exclusiveモードで使用するプロトコル

以下のテーブルは、exclusiveモード(メインコントローラまたはセカンダリコントローラ)での、各プロトコルと、 PLAY/RECORDチャンネルの組み合わせです。

緑色のセルは割り当て可能で、赤色は不可能を表してします。

セル内の番号は、テーブル下の説明に対応しています。

	LSM	IPDP	AVSP	VDCP	Sony	EditRec	Odetics	DD35	VDCP	VDCP	Odetics	LinX
	リモコン								Mix	F&K	F&K	
メインコントローラ	,											
1 PGM												
2 PGM												
> 2 PGM												
1 PGM												
+1 REC ¹												
1 REC												
>1 REC												
Several PGM												
+1 REC ¹												
Several PGM												
+Several REC ¹												
セカンダリコントロ	ルーラ											
1 PGM									2			
2 PGM												
> 2 PGM												
1 PGM												
+1 REC ¹												
1 REC												
Several PGM												
+1 REC ¹												
Several PGM												
+ Several REC ¹												
		L & 1 .					4.0%					

1. レコーダーは、セカンダリコントローラーのexclusiveモードでは制御不可です。

この場合には、レコーダーは、スタンドアローンまたはparallelモードである必要があります。

2. Mix on one channelが有効なときのみ。



Parallelモードで使用するプロトコル

以下のテーブルは、parallelモード(メイン、セカンダリ、両方)での、各プロトコルと、PLAY/RECORDチャンネルの組み 合わせです。

緑色のセルは割り当て可能で、赤色は不可能を表してします。

セル内の番号は、テーブル下の説明に対応しています。



1. EditRec. でのみ利用可能です

2. Mix on one channelが有効なときのみ。



コントローラの組み合わせのルール

LSM IPDP AVSP VDCP Sony VDCP Secondary > Odetics DD35 EditRec LinX VDCP Odetics Primary v リモコン F&K F&K Mix LSMリモコン _ **IPDP** ---AVSP VDCP -_ -Sony -Odetics _ _ DD35 _ _ EditRec --LinX -Odetics F&K _ _ VDCP F&K -_ VDCP Mix

Exclusiveモード - PLAYチャンネル

Exclusiveモード - RECORDチャンネル

Secondary >	LSM	IPDP	AVSP	VDCP	Sony	Odetics	DD35	EditRec	LinX	Odetics	VDCP	VDCP
Primary v	リモコン									F&K	F&K	Mix
LSMリモコン												
IPDP		-										
AVSP			-									
VDCP				-								
Sony					-							
Odetics						-						
DD35							-					
EditRec								-				
LinX									-			
Odetics F&K										-		
VDCP F&K											-	
VDCP Mix												-



Parallelモード - PLAYチャンネル

Secondary >	LSM	IPDP	AVSP	VDCP	Sony	Odetics	DD35	EditRec	LinX	Odetics	VDCP	VDCP
Primary v	リモコン									F&K	F&K	Mix
LSMリモコン	-			*		*	*					
IPDP	-	-		*		*	*					
AVSP	-		-									
VDCP	-	*		-								-
Sony	-				-							
Odetics	-	*				-						
DD35	-	*					-					
EditRec	-							-				
LinX	-								-			
Odetics F&K	-									-		
VDCP F&K	-										-	
VDCP Mix	-			-								-

*parallelモードのこれらのプロトコルの組み合わせには、操作上の制限があります。

Parallelモード - RECORDチャンネル

Secondary >	LSM									Odetics	VDCP	VDCP
Primary v	リモコン	IPDP	AVSP	VDCP	Sony	Odetics	DD35	EditRec	LinX	F&K	F&K	Mix
LSMリモコン	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-
IPDP	-	-										
AVSP	-		-									
VDCP	-			-								-
Sony	-				-							
Odetics	-					-						
DD35	-						-					
EditRec	-							-				
LinX	-								-			
Odetics F&K	-									-		
VDCP F&K	-										-	
VDCP Mix	-			-								-



Recorder Settings

ユーザーインターフェース

Recorders設定では、RECORDチャネルに関する設定を行います。 これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります: ● Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスト表示モード。 (サーバーとWebベースインターフェース上)

● LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのRecorder settingsです:

Recorders secting	s
Loop recording:	Yes 🗸
Clip capacity:	Global 🗸
REC auto start:	√
SD autosense:	
REC capacity	
IN1 10 % loop	
IN2 10 % loop	
IN3 10 % loop	
IN4 10 % loop	
INS 10 % loop	
IN6 10 % loop	
IN7 10 % loop	
INS 10 % loop	
IN9 10 % loop	
IN10 10 % loop	

Loop Recording

説明	Loop recording設定は、EVSサーバーの全てのRECORDチャンネルのエンドレス収録をON/OFFします。
値	Yes(デフォルト)/ No
	SpotboxとServerコンフィグ以外では、全てのコンフィグでYes'が強制されます。

Clip Capacity

説明	Clip capacity設定は、RECORDチャンネルの収録モードを設定します。
値	以下の値が使用できます: Global / Per channel
	Global:
	このモードでは、クリップ容量は、異なるレコードトレイン間で共有されます。
	例: 3レコードトレインが使われている場合に、REC1上で30分のクリップを作成すると、
	各レコードトレインから、等しく10分の記録容量を取得します。
	Per channel:
	このモードでは、クリップ容量は、個別のレコードトレインのみに関連します。
	例: 3レコードトレインが使われている場合に、REC1上で30分のクリップを作成すると、
	1番目のレコードトレインから記録容量を取得し、他の2つのレコードトレインの容量に影響を
	与えません。
デフォルト値	デフォルト値は、ベースコンフィグに依存します:
	Global (locked):
	O LSMコンフィグ(固定値)
	O XSenseコンフィグ (固定値)
	O Video delayコンフィグ (固定値)
	O Spotboxコンフィグ
	Per channel:
	O 2-ch VTR
	O Serverコンフィグ

Issue 15.3.C - December 2017



Rec Auto Start

有効	この設定は、SpotboxかServerコンフィグのときに、表示されます。
説明	EVSサーバーのイニシャライズ後に、チャンネルの収録が自動的に開始されます。
値	Yes (デフォルト)/No

SD Autosense



このパラメーターは、変更を有効にするには、アプリケーションのリブートオペレーションウィンドウからALT+Qが必要です。 有効 この設定は、以下の条件で利用可能です: ● 全てのHDコーデック、全てのマルチエッセンスコンフィグ、720p/1080i解像度。 ● オープンコンフィグにて、720p/1080i解像度を選択 SD Autosense設定では、Multicamが自動的こSDフィードを検出/アップスケールし、オープンコンフィグで選 説明 択されたHDコーデックで記録することが可能です。 値 Yes / No(デフォルト) 制限 SD Autosense設定を有効にした時、EVSサーバーは以下の機能はサポートしていません。 ● Replace 機能 (プレイリスト内のinternal loop) SHIFT + LOOP (LSMリモコン上) ● Paint 機能 Target Track 機能 Internal offside line

4: 3 Conversion

有効	この設定は、SD Autosense設定が有効こなっているときのみ、使用可能です。
説明	4: 3 conversion設定では、以下の場合に、Multicamがソースのアスペクト比をコンバートする方法 を指定します:
	● Multicamは、ソースのアスペクト比が、4:3フルフレームであると検出、そして
	● Multicamが目動的にコンバートするようにコンフィクされている
	(SD ->HD conversion設定が、Auto)
値	以下の値が可能です:
	Pillarbox:
	ソースビデオに左右の縞が加えられ、169ピラーボックスアスペクト比で表示します。
	Crop:
	ソースビデオの上下を切り取り、169フルフレームアスペクト比で表示します。
デフォルト値	Pillarbox



REC Capacity

▲警告

このパラメーターは、変更を有効にするには、アプリケーションのリブードオペレーションウィンドウからALT+Qが必要です。

説明	このパラメータは、指定されたレコーダの2タイプの情報を持っています:
	● Recording Capacity: XX%: 各チャネルに割り当てられたディスクスペースのパーセンテージ。
	● Loop / No Loop: Loop Recordingパラメータが「稼かどうかを示します。
値	以下の値が、使用可能です:
	● Recording Capacity: ユーザーが設定します。
	全値の合計が、100%を超えない事。
	デフォルトでは、収録容量は、全てのレコーダチャネルに均等に割り当てられています。
	例: 2 REC 4 PLAYコンフィグでは、収録容量は、各レコーダに対して、デフォルトでは50%です。
	Loop / No Loop:
	値は、Loop Recording設定に依存します:
	O Loop Recodingが存分だと、Loop。
	O Loop Recodingが無対こと、No Loop。

SD => HD Conversion

有効	この設定は、SD Autosense設定が有効な時に、使用可能です。
説明	SD->HD conversion設定では、MulticamがSDソースビデオのアスペクト比をHDビデオ形式にどのよ
	うにコンバートするかを指定できます。
値	このパラメーターで、コンバートモードとタイプを指定します:
	● Conversionモード:
	O Auto: Multicamは、自動的に、AFDまたはWSSで検出したソースアスペクト比に基づく
	アスペクト出こコンバートします。
	O Forced : Multicamは、Conversionタイプ内で指定されたアスペクト比コンバートを、適用します。
	● Conversionタイプ:
	タイプ設定は、常にForcedモードで使用され、ソースのアスペクト比がAFDまたはWSSで検出できな
	い場合にAutoを使用します。
	O Anamorphic: ソースビデオは、16: 9のアスペクト比に変換されます。
	O Pillarbox: ソースビデオに左右の縞が追加され、16:9ピラーボックスのアスペクト比で表示
	されます。
	O Crop: ソースビデオの上下が切り取られ、16:9フルフレームアスペクト比で表示されます。
デフォルト値	Conversionモード: Auto
	Conversionタイプ: Anamorphic



Mix on One Channel 機能

序文

Mix on one channel機能では、コーデックモジュールのセカンドチャネル(J3)の使用を可能にし、1つのコーデックモジュールでMixエフェクトを提供します。

この機能は、各個別のPLAYチャンネルで、使用できます。

有効

Mix on one channel機能は、Spotbox、Multicam LSMコンフィグと全てのコントローラで、プレイリストのみで使用可能です。 機能は、追加で、以下の条件で使用可能です:

- ライセンスコード 31が有効
- 十分な帯域 (XT3 6U: 275 MBytes/sec、XT3 4U: 110 MBytes/sec)

サポートされているモード

1 PGMモード

1PGMモードでは、SpotboxコンフィグでのIPDirectorでの作業において、プレイリストをエフェクト付きで再生するのに、PGM/PRVモードでの2チャンネル使用はもう必要ありません。

mix on one channel機能有効にすると、PGM1のみの使用で、プレイリストをエフェクト付きで再生できます。

Multi PGMモード

Multi PGM モードでは、以下のテーブルに示されるように、Load PL設定がMix on one channel設定の使用と相互に作用します。

以下のテーブルでは、設定に基づき、2PGMモードでプレイリストをロードした時に、PLAYチャンネルがどのように使用されるかを示しています:

モード	Mix on one channel?	Load Playlist?	V3Xモジュール	/ 1	V3Xモジュール 2		
			OUT1	out1	OUT2	OUT2	
			Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	
			link	link	link	link	
2 PGM	No	Conditional	Cut		Cut		
2 PGM	Yes	Conditional	Mix		Mix		
2 PGM	No	Always	Mix		PRV		
2 PGM	Yes	Always	Mix		PRV		

Load PLパラメーターを 'Conditional'に設定し、Mix on one channel設定を有効にすると、両方のPLAYチャネル上にプレイリストをロードでき、両方ともエフェクト付きで再生できます。

(または、PGM1上でのみエフェクト付きのプレイリストを再生し、一方で、PGM2を使用して他の何かを再生できます)



Mix on One Channel 設定

ユーザーインターフェース

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります: ● Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスト表示モード。

- Monucan Configuration フィント、Channes シントリ、フィーンストシスト (サーバーとWebベースインターフェース上)
- LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

浩

Mix on one channel設定は、ライセンスコード 31が有効である時のみ使用可能です。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMix on One Channel設定画面です:



Mix on one channel

=X08	
記でリソ	PLATテキンネルのコーテックモンユールのセカンタッリングJ3/を使用した、「核のコーテックモンユールエ
	でのMixを有効/無効にします。
	この機能は、プレイリスト内にMixを適用し、タイムラインではありません。
	ライセンスコード 31が、Mix on One Channel機能に必要です。
	Mix on One Channelは、全てのコントローラ(LSMリモコンまたはプロトコル)、全てのコーデック、1080pを除く全
	ての解像度で、使用可能です。
値	Yes / No(デフォルト)



4.3.3. オーディオ

Audio I/Os Settings

ユーザーインターフェース

Audio I/Os settingsでは、EVSサーバーの背面パネル上にある物理コネクタに対応するオーディオコネクタ(アナログ、デジタル、MADI)を設定します。

ここで設定されたハードウェアコンフィグを使用し、advanced audio settings内に、デフォルトのオーディオチャンネル 関連付けを提供します。



このパラメータの使用可能な設定と値は、実際のハードウェアコンフィグを自動的に検証したものではありません。 そのため、実際の物理コネクタと同じ設定を、必ず行うようにして下さい。

これらのフィールドは、以下のインターフェースより有効です:

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスト表示モード。
- LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのAudio I/Os settingsです:

Audio I/Os ———			
Madi:	128/128	~	
Analog:	8/8	~	
Digital:	16/16	~	

MADI

有効	このパラメータは、A3Xボード内蔵のEVSサーバーでのみ、有効です。	
	このパラメータは、EVSサーバー上にコネクタが無くても、設定できます。	
説明	サーバーの背面パネル上にあるMADIオーディオモノチャンネルのINとOUT数。	
値	None	
	● 128/128	
	○ 128 INモノオーディオチャンネル	
	○ 128 OUTモノオーディオチャンネル	



Analog

有効	このパラメータは、EVSサーバー上にコネクタが無くても、設定できます。
説明	このパラメータは、XT4KIこは関係ありません。
	サーバーの背面パネル上にあるアナログオーディオモノチャンネルのINとOUT数。
値	None
	• 4/4
	○ 4 INモノオーディオチャンネル
	O 4 OUTモノオーディオチャンネル
	● 8/8
	O 8 INモノオーディオチャンネル
	O 8 OUTモノオーディオチャンネル

Digital

有効	このパラメータは、EVSサーバー上にコネクタが無くても、設定できます。
説明	サーバーの背面パネル上にあるデジタルオーディオモノチャンネルのINとOUT数。
値	None
	● 8/ 8
	O 8 INモノオーディオチャンネル
	○ 8 OUTモノオーディオチャンネル
	• 16/ 16
	○ 16 INモノオーディオチャンネル
	O 16 OUTモノオーディオチャンネル



Audio settings

ユーザーインターフェース

Audio settingsでは、いくつかの一般的なオーディオ設定が可能です。 その他のオーディオ設定は、Audio I/O settingsとAudio Monitoring settings内にあります。

これらのフィールドは、以下のインターフェースより有効です:

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスト表示モード。
- LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース、advancedモードでの、Audio settingsです:

Audio settings			
Number of tracks:	8 monos	~	
Audio full scale:	22	~	
Sample rate conv.:			

Number of Tracks



このパラメーターは、変更を有効にするには、アプリケーションのリブート(オペレーションウィンドウからALT+Q)が 必要です。

説明	各ビデオチャネルに付随するモノオーディオトラック数。
値	4 Monos (デフォルト)、8 Monos、16 Monos、32 Monos

Audio Full Scale

説明	このパラメータは、XT4KIこは関係ありません。
	サーバーのアナログ出力の最大オーディオレベル(dB)。
	オーディオフルスケールはヘッドルームより4dB高いため、間接的に、ヘッドルームを設定します
	オーディオフルスケールのデフォルト値=22 dB、ヘッドルームのデフォルト値=18dB。
値	範囲: [1030] dB
デフォルト値	22 dB

Ancillary Mode

有効	この設定は、SDコンフィグで表示されます。
説明	デジタルオーディオで使われるエンコード方式。
値	20 Bits / 24 Bits (デフォルト)

Sample Rate Conv. (Conversion)

説明	入力サンプルレートが変換されるかを指定します。
	このパラメーターは、デジタルAES/EBUオーディオ形式時のみで使用可能です。
	このパラメーターが 'No'、の場合、信号が適格に同期されているか、確認が必要です。
値	Yes(デフォルト)/No



Audio Monitoring settings

ユーザーインターフェース

Audio Monitoring settingsでは、サーバー背面の右の4つのXLRオーディオモニタリング出力上でモニタリングする信号を設定します。

これらのフィールドは、以下のインターフェースより有効です:

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスト表示モード。
- LSMリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースでの、Audio Monitoring settingsです:

Audio monitoring		
Addio monitornig		
Mon #1:	OUT1 🕶 - 01 🕶 0 dB 🕶	
Mon #2:	OUT1 🕶 - 02 💌 0 dB 💌	
Mon #3:	OUT1 🕶 - 03 💌 0 dB 🛩	
Mon #4:	OUT1 🕶 - 04 💌 0 dB 🛩	

Audio Monitoring: Mon #1 - Mon #4

説明	4つのオーディオモニタリングコネクタ(背面の左から右へ番号付)それぞれに、送られるオーディオ のソースを指定します。
値	各オーディオモニタリングコネクタに対し、モニターするオーディオ信号は、ビデオチャンネル番号と オーディオモノチャンネル番号で指定します。 例: Mon#1の'OUT1-01'は、PGM1の1番目のオーディオモノチャンネルのオーディオ信号が モニタリングコネクタ1に送られることを意味しています。
デフォルト値	デフォルトでは、最初のPLAYチャンネルのオーディオ信号とオーディオモノチャンネル1~4(OUT 1-01 - OUT 1-04)が、それぞれMon #1からMon #4コネクタに割り当てられます。



オーディオトラック数

序文

Audio設定内のNumber of Tracksパラメータでは、各ビデオチャンネル(PLAY/RECORDチャンネル)に関連付けられるオーディオモノチャンネル(Multicam内でTracksと呼ばれます)数を設定します。

各ビデオチャンネルに割り当て可能トラック数は、以下の要素に基づいて変わります:

- EVSサーバーでサポートされているオーディオモノチャンネルの最大数
- Multicamコンフィグで設定された、PLAY/RECORDチャンネル数

ここでは、トラックの最大数の概要と32オーディオトラックのコンフィグの制限を説明します。

トラックの最大数

XT3 4Uサーバー

下記のテーブルは、最大モノオーディオ数/ビデオチャンネルです。

コンフィグモード	Embedded	Embedded	MADI
	(CODA 75)	(A3X)	(A3X)
2チャンネルコンフィグ	2*16 オーディオモノ	2*16 オーディオモノ	2*32 オーディオモノ
	(= 32 トラック)	(= 32 トラック)	(=64 トラック)
4チャンネルコンフィグ	4*16 オーディオモノ	4*16 オーディオモノ	4*32 オーディオモノ
	(= 64 トラック)	(= 64 トラック)	(=128 トラック)
XRecコンフィグ	6*8 オーディオモノ	6*16 オーディオモノ	6*16 オーディオモノ
6チャンネルコンフィグ	(= 48 トラック)	(= 96 トラック)	(=96 トラック)
ChannelMaxコンフィグ	8*8 オーディオモノ	8*16 オーディオモノ	8*16 オーディオモノ
8チャンネルコンフィグ	(= 64 トラック)	(= 128 tトラック)	(=128 トラック)



XT3 6Uサーバー

下記のテーブルは、デフォルトと最大モノオーディオ数/ビデオチャンネルです。

コンフィグモード	Embedded	Embedded	MADI
	(CODA 75)	(A3X)	(A3X)
2チャンネルコンフィグ	-	2*16 オーディオモノ	2*16 オーディオモノ
		(= 32 トラック)	(= 32 トラック)
4チャンネルコンフィグ	4*16 オーディオモノ	4*16 オーディオモノ	4*32 オーディオモノ
	(=64 トラック)	(= 64 トラック)	(= 128 トラック)
			4*16 オーディオモノ
			(= 64 トラック)
6チャンネルコンフィグ	6*16 オーディオモノ	6*16 オーディオモノ	6*32 オーディオモノ
	(=96 トラック)	(= 96 トラック)	(= 192 トラック)
			6*16 オーディオモノ
			(= 96 トラック)
XRecコンフィグ	8*8 オーディオモノ	8*16 オーディオモノ	8*16 オーディオモノ
8チャンネルコンフィグ	(=64 トラック)	(= 128 トラック)	(= 128 トラック)
10チャンネルコンフィグ	N/A	10*16 オーディオモノ	10*16 オーディオモノ
		(= 160 トラック)	(= 160 トラック)
ChannelMax LSM コンフィグ	N/A	12*16 オーディオモノ	12*16 オーディオモノ
または、		(=192 トラック)	(=192 トラック)IN8以下
ChannelMax Spotboxコンフィグ			12*8 オーディオモノ
12チャンネルコンフィグ			(=96 トラック)IN9以上
UHD-4K	3*8 オーディオモノ	3*16 オーディオモノ	3*16 オーディオモノ
	N/A	4*16 オーディオモノ	4*16 オーディオモノ

32オーディオトラックの制限

H3XPとA3Xボードが搭載されているXT3サーバーは、32オーディオトラック/チャンネルで動作します。 32オーディオトラック/チャンネルの使用は、現在、MADIコネクタでのみ可能です。

XT3サーバー上で、32オーディオトラックを有効にすると、以下の制限事項が適用されます:

● embeddedオーディオ: EVSサーバーは、下記を超えるトラック数はサポートしていません:

- HDSDI: 16 embedded オーディオトラック/チャンネル (INまたはOUT)
- 3GSDI: 8 embedded オーディオトラック/チャンネル (INまたはOUT)
- Lo-Res収録: 最大16オーディオトラック/チャンネルまでサポートしています。 もし、EVSサーバーを32トラックで設定したら、トラック17-32は無視されます。
- マルチエッセンスコンフィグ Intra + LongGOP: 1つのRECORDチャンネルのオーディオトラック数は、倍に カウントされます。

● PLAYチャンネル数:オーディオトラック/チャンネルに基づいて制限されます: コンフィグが制限を超えていると、警告メッセージが出ます。

トラック数	PLAYチャンネル最大数
16 トラック/チャンネル	10 PLAYチャンネル
32 トラック/チャンネル	5 PLAYチャンネル

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3

Issue 15.3.C - December 2017



● Mix on one channel機能: 下記のテーブル記載より多いPLAYチャンネルでは使用できません。 コンフィグが制限を超えていると、警告メッセージが出ます。

トラック数	Mix on one channelでの最大PLAYチャンネル
8 トラック/チャンネル	11 PLAYチャンネル
16 トラック/チャンネル	5 PLAYチャンネル
32 トラック/チャンネル	2 PLAYチャンネル

- Audio slow motion: 再生用に96を超えるオーディオトラックを使用するときには、サポートされません。
- Timeline機能: サポートされていません。
- Swap Audio機能: サポートされていません。
- Replace機能: サポートされていません。



Advanced Audio Settingsの概要

序文

Advanced Audio Settingsは、Multicam ConfigurationウィンドウのChannelsタブ内で設定します。 サーバーベースアプリケーションでは、ページ3から表示され、アドバンストモードだけで可能です。 ここでは、オーディオチャンネルのルーティング、ミュート、オーディオゲインの調整が可能です。

InputsのAdvanced Audio Settingsでは、オーディオソースを、各RECORDチャンネルのオーディオモノチャンネルに、どのようにルーティングするかを指定できます。

OutputsのAdvanced Audio Settingsでは、オーディオモノチャンネルを、各PLAYチャンネル(embeddedオーディオ)に、各物理オーディオコネクタ(デジタルとアナログコネクタ)に、どのようにルーティングするかを指定できます。

サーバーベースアプリケーションでは、Advanced Audio Settingsは異なるページ上にあります: Webベースインターフェースでは、オーディオ入力と各オーディオ出力タイプは、Channelsタブ内、 Advanced Audio Settingsに、1つのテーブル内の異なるタブとして表示されます。



デジタル、アナログ、MADI出力の設定は、オーディオハードウェアコンフィグを反映するAudio Connectorsフィールド (Audio Settings内に対応するコネクタが設定されているときのみ有効です。

一般的なテーブル構造

下記のスクリーンショットは、Inputs設定の一部です:

Ir	puts	Embedded ou	tputs	Digital
		IN 1	I	12
		CAM A	CA	M B
1	E	▼ 1-01 ▼	E	
2	E		E	
3	E		E	
4	E		E	
5	Е		E	2-05
6	Е	1-06	Е	2-06
7	E			2-07
8	E	1-08	E	2-08

テーブル内では、入力、出力設定に対して、以下のように情報が整理されています:

- 行は、EVSサーバーに保存されているA/V素材のオーディオモノチャンネルに対応します。 行の数は、Audio settingsフィールドグループ内で設定されているNumber of tracksに割り当てられた値に依存します。
- 列は、RECORDチャンネルまたはPLAYチャンネルに対応します。
- セル内の値は、オーディオモノチャンネルのルーティングを示します:
- ソースから、EVSサーバー上に保存される素材へ(オーディオ入力)
- EVSサーバー上に保存されている素材から、PLAYチャンネルへ(オーディオ出力)



オーディオタイプとチャンネル数

下記のスクリーンショットは、Inputs設定の一部で、RECORDチャンネルからのオーディオ入力が、デフォルトで embeddedオーディオチャンネルにルーティングされる位置です:

Advanced audio settings						
Ir	Inputs Embedded outputs Digital					
		IN 1	I	N 2		
		CAM A	C/	M B		
1	E	▼ 1-01 ▼	E	2-01		
2	E		E	2-02		
3	E		E	2-03		
4	Е		E	2-04		
5	Е	1-05	E	2-05		
6	Е	1-06	Е	2-06		
7	Е	1-07	Е	2-07		
8	E	1-08	E	2-08		

テーブルのセル内の値は、割り当てられたオーディオチャンネルを示し、これは以下のようにコンフィグされます: ● 最初の1文字はオーディオタイプを示します。

(E=embedded, D=digital, A=analog, DY=Dolby Digital, EY=Dolby Embedded, M=MADI, MY=Dolby MADI)

embeddedオーディオ、または MADはオーディオ 例: 1-01:

- ハイフンの前の最初の番号は、PLAYまたはRECORDチャンネルの番号を示します。
- ハイフンの後の番号は、オーディオモノチャンネルを示します。

digitalオーディオ(例: D-05)、analogオーディ(例: A-01)

● 番号は、デジタル/アナログ入力または出力の番号を示します。

<u>=V5</u>

オーディオInputs(入力)設定

序文

Advanced audio settingsでは、以下を設定できます:

- 収録時に、どのタイプのオーディオソースを使用するか。
- ソース素材のオーディオモノチャンネルを、どのように、EVSサーバーの記録素材に振り分けるか。
- 収録時に、オーディオゲイン、ミュートを適用するかどうか。

1 2 3 4	IN 1 CAM A E v 1-01 : 1-02 : 1-03 : 1-04 : 1-05	E E E E E	N 2 AM B 2-01 2-02 2-03	IN 3 CAM E 3-0 E 3-0 E 3-0	C 0 01 E 02 E 03 E	IN 4 CAM D 4-01 4-02	
1 [2 = 3 = 4 =	CAM A E 1-01 E 1-02 E 1-03 E 1-04 E 1-05	C/ E E E E	2-01 2-02 2-03	CAM E 3-0 E 3-0 E 3-0	C 01 E 02 E 03 E	CAM D 4-01 4-02	
1 [2 E 3 E 4 E	E 1-02 1-03 1-04 1-05	E E E E	2-01 2-02 2-03	E 3-0 E 3-0 E 3-0	01 E 02 E 03 E	4-01 4-02	
2 E 3 E 4 E	1-02 1-03 1-04 1-05	E	2-02 2-03	E 3-0 E 3-0)2 E)3 E	4-02	
3 E	1-03 1-04 1-05	E	2-03	E 3-0)3 E	4-02	
4 ^E	1-04 1-05	E	2.04			4-05	
	1-05			E 3-0)4 E	4-04	
5 E		E	2-05	E 3-0)5 E	4-05	
6 E	1-06	E	2-06	E 3-0	16 E	4-06	
7 E	1-07	E	2-07	E 3-0)7 E	4-07	
8 E	1-08	E	2-08	E 3-0	18 E	4-08	
9 E	1-09	E		E 3-0	19 E	4-09	
10 ^E		E		E 3-1	10 E	4-10	
11 ^E		E		E 3-1	11 E	4-11	
12 ^E		E		E 3-1	12 E	4-12	
13 ^E		E		E 3-1	13 E	4-13	
14 ^E		E	2-14	E 3-1	14 E	4-14	
15 ^E	1-15	E	2-15	E 3-1	15 E	4-15	
16 ^E	1-16	E	2-16	E 3-1	16 E	4-16	

例 1:



行:3と列:IN2の交差位置の値 E2-03は、IN2(CAM B)コネクタに接続されているembeddedオーディオソースの3番目の オーディオモノチャンネルは、EVSサーバー上の同じ位置に記録されることを意味しています。

	6	
4/31	r2	
17	4	

In	puts	Embe	dded (outputs	Digital	output
	I	N 1		IN 2		I
	C/	A MA		CAM E	3	CA
1	E					E
2	E					E
3	E					E
4	E					E
5				2-05		E
6				2-05		E
7				2-05		E
8		1-05		2-05		E

上記に表示されるソースオーディオモノチャンネルの割り当ては、以下を意味しています

- RECORDチャンネル(IN1またはIN2)の1番目のモノチャンネルのembeddedオーディオソースは、記録素材の モノチャンネル 1-4に保存されます。
- RECORDチャンネル(IN1またはIN2)の5番目のモノチャンネルのembeddedオーディオソースは、記録素材の モノチャンネル 5-8に保存されます。



例 3:

Inputs Embedded outputs Digital outp							
IN 1				IN 2			
	(A MA		CAM E	3	(
1	D		D			D	
2	D		D			D	
3	D		D			D	
4	D		D			D	

上記に表示されるソースオーディオモノチャンネルの割り当ては、以下を意味しています:

- デジタルコネクタからのオーディオソースが、EVSサーバーに記録される素材に、使用されます。
- デジタルコネクタからのオーディオソース1は、EVSサーバー上の記録素材の1番目のモノチャンネルに割り当て られます。。。。。

個	Λ	
ניען	т.	•

Ir	Inputs Embedded outputs Digital o						
		IN 1		IN 2			
	C	AM A		CAM E	3		
1	E		Е			E	
2	Е		Е			E	
3	E		E			E	
4	E		E			E	
5	E	1-05	E	1-05		E	
6	E	1-06	E	1-06		E	
7		1-07	E			E	
8		1-08	E	1-08		E	
	F	1-09	F	1-09		F	

REC1からのオーディオモノチャンネルを、他の全てのRECORDチャンネルに送りたい時には、ソースオーディオ モノチャンネルを上記のように割り当てます。

Webベースインターフェース内の、コマンド IN 1 on allで、より早く設定できます。



オーディオOutputs(出力)設定

序文

Advanced audio settingsでは、以下を行えます:

- EVSサーバーに保存されている素材のオーディオモノチャンネルを、PLAYチャンネルの出力モノチャンネル に割り当てます。
- 各出カモノチャンネルに適用する、オーディオゲインを設定します。
- 出力モノチャンネルをミュートします。

これは、3つのオーディオタイプに設定可能です: embeddedオーディオ、digitalオーディオ、analogオーディオ (ハードウェアコンフィグ上に対応コネクタがあれば)

ユーザーインターフェース

下記のスクリーンショットは、コンフィグ内の各オーディオタイプのデフォルトオーディオチャンネル割り当ての抜粋を示しています。



Digital outputs

٢	Advanced audio settings						- Advanced au			
In		puts Embedded ou		utputs Digita				puts	Emb	
ŀ			PGM 1		PGM 2			0	UT1	
ſ	1	E	▼ 1-01 ▼	E	2-01	E	1	D	01	
I	2	E		E	2-02	E	2	D	02	
		E		Е	2-03	E	3	D	03	
	4	E	1-04	E	2-04	E	4	D		
	-	F	1.05		2-05					

Analog outputs

-Advanced audio settings									
In	puts	Embedded outputs							
	0	UT1	OUT2						
	PGM 1		PGM 2						
1			None	ľ					
2			None	ľ					
3			None	ľ					
4			None	ľ					
				IJ					

OUT2 PGM 2

- Adv	/ance	d audio	setti	ngs —	
In	puts	Embedded outputs			
	0	UT1		OUT2	
	P	GM 1	F	PGM 2	
1	м		м		
2	м		м		
3	м		м		
4	м		м		
-	м	1-05	м	1-21	


例

以下のスクリーンショットでは、以下の方法で、EVSサーバー上のA/V素材に設定されたオーディオモノチャンネルがPLAYチャンネルに割り当てられます:

オーディオ出力は、Dolby embedded形式です。

デフォルトでは、EVSサーバーに保存されているA/V素材のオーディオモノチャンネルは、PLAYチャンネルの対応するembeddedチャンネルに送られます。

この例では、モノチャンネル3から8の場合です。

モノチャンネル1と2に対して、デフォルトマッピングが以下に変更されました:

- A/V素材のオーディオモノチャンネル1は、PLAYチャンネルのモノチャンネル2に送られ、全ての PLAYチャンネルにも適用されます。
- A/V素材のオーディオモノチャンネル2は、PLAYチャンネルのモノチャンネル1に送られ、全ての PLAYチャンネルにも適用されます。

In	puts	Embedded o	utputs	Digi	al out	puts	Analog outpu	
	OUT1		OUT2 OUT		UT3	C	DUT4	
		PGM 1	PG	M 2	P	GM 3	P	GM 4
1	EY						EY	
2							EY	
3	EY			2-03			EY	
4	EY						EY	
5				2-05		3-05	EY	4-05



オーディオ入力と出力のデフォルトマッピング

序文

以下のテーブルは、以下のコンフィグのオーディオ入力と出力のチャンネルマッピングを表しています

- XT36U 筐体
- レコーダまたはプレイヤーの最大数
- オーディオハードウェアコンフィグ: BNC MADI + 16 BNC Digital + 4 DB15 Analog

レコーダまたはプレイヤーが少ないコンフィグでは、無関係な行/列は、無視して下さい。

オーディオ(embedded)入力

デフォルトでは、ソース素材からのオーディオembeddedモノチャンネルは、以下のテーブルのように、EVSサーバー上に保存されるA/V素材にマップされます。

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4	OUT 5	OUT 6
Mono1	E101	E2-01	E3-01	E4-01	E5-01	E6-01
Mono2	E1-02	E202	E302	E4-02	E5-02	E6-02
Mono3	E1-03	E2-03	E3-03	E4-03	E5-03	E6-03
Mono4	E1-04	E2-04	E3-04	E4-04	E5-04	E6-04
Mono5	E1-05	E2-05	E3-05	E4-05	E5-05	E6-05
Mono6	E1-06	E2-06	E3-06	E4-06	E5-06	E6-06
Mono7	E1-07	E2-07	E3-07	E4-07	E5-07	E6-07
Mono8	E1-08	E2-08	E3-08	E4-08	E5-08	E6-08
Mono9	E1-09	E2-09	E3-09	E4-09	E5-09	E6-09
Mono10	E1-10	E2-10	E3-10	E4-10	E5-10	E6-10
Mono11	E1-11	E2-11	E3-11	E4-11	E5-11	E6-11
Mono12	E1-12	E2-12	E3-12	E4-12	E5-12	E6-12
Mono13	E1-13	E2-13	E3-13	E4-13	E5-13	E6-13
Mono14	E1-14	E2-14	E3-14	E4-14	E5-14	E6-14
Mono15	E1-15	E2-15	E3-15	E4-15	E5-15	E6-15
Mono16	E1-16	E2-16	E3-16	E4-16	E5-16	E6-16



オーディオembedded出力

デフォルトでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのembeddedモノチャンネルにマップされます。

以下のテーブルは、6プレイヤー、オーディオコンフィグ=16トラック(モノチャンネル)です:

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4	OUT 5	OUT 6
Mono1	E1-01	E2-01	E3-01	E4-01	E5-01	E6-01
Mono2	E1-02	E2-02	E3-02	E4-02	E5-02	E6-02
Mono3	E1-03	E2-03	E3-03	E4-03	E5-03	E6-03
Mono4	E1-04	E2-04	E3-04	E4-04	E5-04	E6-04
Mono5	E1-05	E2-05	E3-05	E4-05	E5-05	E6-05
Mono6	E1-06	E2-06	E3-06	E4-06	E5-06	E6-06
Mono7	E1-07	E2-07	E3-07	E4-07	E5-07	E6-07
Mono8	E1-08	E2-08	E3-08	E4-08	E5-08	E6-08
Mono9	E1-09	E2-09	E3-09	E4-09	E5-09	E6-09
Mono10	E1-10	E2-10	E3-10	E4-10	E5-10	E6-10
Mono11	E1-11	E2-11	E3-11	E4-11	E5-11	E6-11
Mono12	E1-12	E2-12	E3-12	E4-12	E5-12	E6-12
Mono13	E1-13	E2-13	E3-13	E4-13	E5-13	E6-13
Mono14	E1-14	E2-14	E3-14	E4-14	E5-14	E6-14
Mono15	E1-15	E2-15	E3-15	E4-15	E5-15	E6-15
Mono16	E1-16	E2-16	E3-16	E4-16	E5-16	E6-16



オーディオDigital出力

オーディオデジタル出カコネクタへのデフォルトマッピングは、設定したトラック(モノチャンネル)数により異なります。

8オーディオトラック

8トラック(モノチャンネル)のオーディオコンフィグでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオ モノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのデジタルオーディオ出力コネクタに送られます。

以下のテーブルは、6プレイヤー、オーディオコンフィグ=8トラック(モノチャンネル)です:

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4	OUT 5	OUT 6
Mono1	D 01	D 09	None	None	None	None
Mono2	D 02	D 10	None	None	None	None
Mono3	D 03	D 11	None	None	None	None
Mono4	D 04	D 12	None	None	None	None
Mono5	D 05	D 13	None	None	None	None
Mono6	D 06	D 14	None	None	None	None
Mono7	D 07	D 15	None	None	None	None
Mono8	D 08	D 16	None	None	None	None

4 または16オーディオトラック

4または16トラック(モノチャンネル)のオーディオコンフィグでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオ ーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのデジタルオーディオ出力コネクタに送られ ます。

以下のナーノルは、6ノレイヤー、オーティオコンノイク=16トラック(モノナヤンベル)で

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4	OUT 5	OUT 6
Mono1	D 01	D 05	D 09	D 13	None	None
Mono2	D 02	D 06	D 10	D 14	None	None
Mono3	D 03	D 07	D 11	D 15	None	None
Mono4	D 04	D 08	D 12	D 16	None	None
Mono5	None	None	None	None	None	None
Mono6	None	None	None	None	None	None
Mono7	None	None	None	None	None	None
Mono8	None	None	None	None	None	None
Mono9	None	None	None	None	None	None
Mono10	None	None	None	None	None	None
Mono11	None	None	None	None	None	None
Mono12	None	None	None	None	None	None
Mono13	None	None	None	None	None	None
Mono14	None	None	None	None	None	None
Mono15	None	None	None	None	None	None
Mono16	None	None	None	None	None	None



オーディオAnalog

デフォルトでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのアナログオーディオ出カコネクタに送られます。

以下のテーブルは、6プレイヤー、オーディオコンフィグ=8トラック(モノチャンネル)です:

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4	OUT 5	OUT 6
Mono1	A 01	A 05	None	None	None	None
Mono2	A 02	A 06	None	None	None	None
Mono3	A 03	A 07	None	None	None	None
Mono4	A 04	A 08	None	None	None	None
Mono5	None	None	None	None	None	None
Mono6	None	None	None	None	None	None
Mono7	None	None	None	None	None	None
Mono8	None	None	None	None	None	None

オーディオMADI出力

デフォルトでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのMADIモノチャンネルにマップされます。

以下のテーブルは、6プレイヤー、オーディオコンフィグ=16トラック(モノチャンネル)です:

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4	OUT 5	OUT 6
Mono1	M1-01	M1-17	M1-33	M1-49	M2-01	M2-17
Mono2	M1-02	M1-18	M1-34	M1-50	M2-02	M2-18
Mono3	M1-03	M1-19	M1-35	M1–51	M2-03	M2-19
Mono4	M1-04	M1-20	M1-36	M1-52	M2-04	M2-20
Mono5	M1-05	M1-21	M1-37	M1-53	M2-05	M2-21
Mono6	M1-06	M1-22	M1-38	M1-54	M2-06	M2-22
Mono7	M1-07	M1-23	M1-39	M1-55	M2-07	M2-23
Mono8	M1-08	M1-24	M1-40	M1-56	M2-08	M2-24
Mono9	M1-09	M1-25	M1-41	M1–57	M2-09	M2-25
Mono10	M1-10	M1-26	M1-42	M1-58	M2-10	M2-26
Mono11	M1-11	M1-27	M1-43	M1–59	M2-11	M2-27
Mono12	M1-12	M1-28	M1-44	M1-60	M2-12	M2-28
Mono13	M1-13	M1-29	M1-45	M1–61	M2-13	M2-29
Mono14	M1-14	M1-30	M1-46	M1-62	M2-14	M2-30
Mono15	M1-15	M1-31	M1-47	M1-63	M2-15	M2-31
Mono16	M1-16	M1-32	M1-48	M1-64	M2-16	M2-32



オーディオルーティングまたはタイプの変更

序文

オーディオルーティング設定は、ChannelsタブのAdvanced Audio Settings内で可能です。 以下の変更が、可能です:

- 以下の方法で、表示されているオーディオチャンネルのオーディオタイプの同時変更が可能です:
 サーバーベースアプリケーションで下部に表示されているショートカットキー
 Webベースインターフェースのテーブルの下部に表示されているボタン
- 個々のチャンネルのオーディオタイプ: 手動で、オーディオタイプ値を変更。
- 個々のオーディオチャンネルのルーティング: advanced audio settingsテーブル内のセル値を変更。

サーバーとWebベースインターフェースでの一括編集

EVSサーバー上で有効/現在のページ上で有効な時、以下のショートカットを使用して、ページの全てのオーディオチャンネルに、以下の編集動作を適用できます:

コマンド説明	コマンドキー	コマンドボタン
	(サーバーベース	(Webベース
	アプリケーション)	インターフェース)
全オーディオチャンネルをエンベデッドに	CTRL+E	all E
全オーディオチャンネルをデジタルに	CTRL+D	all D
全オーディオチャンネルをアナログに	CTRL+A	all A
全オーディオチャンネルをMADIに	CTRL+M	All M
全オーディオチャンネルをDolbyオーディオにトグル	CTRL+Y	Tgl Dolby
全オーディオチャンネルをNone(無音)に	CTRL+N	all None
		一度に、all E、D、A
		に適用可能。
全オーディオ設定をデフォルト値にリセット(他のページも)	F5	-
REC1の全オーディオ入力チャンネルを他のRECORDチャンネルへ	CTRL+0	Rec 1 on all
ルーティング		
(オーディオ入力のみ)		
変更内容を適用	ALT+A	Apply



サーバーベースアプリケーション内の個別編集

サーバーベースアプリケーションでは、EVSサーバー上で有効/現在のページ上で有効な時、以下の編集コマンドを使用して、個々のフィールド/セル値(オーディオタイプまたはオーディオルーティング)を変更できます:

コマンド説明	コマンドキー
フィールド値を選択。	ТАВ
選択したフィールドで、選択可能な値のリストをスクロールダウン。	SPACEBAR
選択したフィールドで、選択可能な値のリストをスクロールアップ。	SHIFT + SPACEBAR
オーディオチャンネル数を、8チャンネルずつ増やす。	CTRL + RIGHT ARROW
(オーディオチャンネル選択時に有効)	
オーディオチャンネル数を8チャンネルずつ減らす。	CTRL + LEFT ARROW
(オーディオチャンネル選択時に有効)	
オーディオソースチャンネルのIDを、1つずつ増やします。	CTRL + ARROW UP
これは、IDを持つオーディオチャンネルーエンベデッドまたはMADI-の場合で、	
チャンネル番号選択時に有効です。	
オーディオソースチャンネルのIDを、1つずつ減らします。	CTRL + ARROW DOWN
これは、IDを持つオーディオチャンネルーエンベデッドまたはMADI-の場合で、	
チャンネル番号選択時に有効です。	

Webベースインターフェース内の個別編集

Webベースインターフェースでは、セルの中で変更したい値をクリックします。 選択可能な値がドロップダウンフィールド内に表示され、個々に必要な値の選択が可能です:

Advanced audio settings							
Ir	iputs	Embe	dded ou	tputs	Digita		
		IN 1		I	2		
		CAM A	١	CA	MB		
1	E	* 1-	01 🗸	E			
2	None A			E	2-02	I	
3	D			E			
4	E			E			
5	M DY			E	2-05		
6	EY			Е	2-06		
7	MY			Е	2-07		
8	E	1-08		Е	2-08		
						46	



オーディオゲインとミュート設定の変更

序文

ChannelsタブのAdvanced Audio Settingsページ(3-6)では、オーディオチャンネルのデフォルトルーティングだけでなく、 以下も変更可能です:

- 各オーディオモノチャンネルのオーディオゲインを個別に調整;
- オーディオチャンネルを個別にミュート。

サーバーベースアプリケーションでは、オーディオゲインとオーディオミュート情報はCTRL+Gコマンドで表示でき、表示をトグルできます。

Webベースインターフェースでは、オーディオゲインは、Advanced audio settings下のShow gainコマンドを選択して表示できます。

オーディオゲインは、0.75dB、3dB、6dB単位で、現在のオーディオレベルの-77.25dB~+23.25dB間の範囲で調整できます。



オーディオ入力が、複数のトラックで使用される場合には、ゲインの値は全てのトラックで等しくなります。 複製されたトラックの1つのゲインが変更されると、全てのトラックのゲインも変更されます。 そうでない場合には、以下のエラーメッセージが表示されます

"Incoherent input audio gains"

以下のスクリーンショットは、オーディオゲインとミュートの設定画面です:



サーバーベースアプリケーション内

以下のテーブルは、サーバーベースアプリケーションのオーディオゲインの調整とオーディオチャンネルのミュート 用のコマンドを示しています。

以下のコマンドは、選択し/オーディオゲイン表示がオンのときに、個々のチャンネルに適用されます。

コマンド説明	コマンドキー
オーディオゲインを表示/隠します。	CTRL+G
選択オーディオチャンネルをミュートします。	CTRL+M
選択オーディオチャンネルのミュートを解除します。	CTRL+U
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、0.75dB単位で増やします。	SPACEBAR
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、0.75dB単位で減らします。	SHIFT + SPACEBAR
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、3dB単位で増やします。	CTRL+ARROW RIGHT
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、3dB単位で減らします。	CTRL+ARROW LEFT
選択オーディオチャンネネルのオーディオレベルを、6dB単位で増やします。	CTRL+ARROW UP
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、6dB単位で減らします。	CTRL+ARROW DOWN

WEBベースインターフェース内

オーディオチャンネルのオーディオゲインを調整したりミュートにするには、以下を行います:

- 1. Channelsタブ内で、Advanced Audio SettingsのInputsタブまたはOutputsタブを選択します。
- 2. Show gain ボタンをクリックします。

オーディオタイプとルーティングデータに替わり、各モノチャンネルに適用されているオーディオゲインが、 表示されます。

3. 目的のセル内で、変更したい値をクリックし、リストからオーディオゲインまたはミュート値を選択します。



Dolbyオーディオ管理

コンセプト

● Dolby Digital または Dolby 5.1 または AC-3は、最大6分離音声チャンネルを持つオーディオコーディング システムです。

(ノーマルレンジスピーカー(20Hz - 20,000Hz)用の5チャンネル: Right front、Center、Left Front、 Right Rear、 Left Rear)と、LFEまたはサブウーファー用の1チャンネル)

● Dolby Eは、2チャンネルポストプロダクションと放送インフラを経由したサラウンドとマルチャンネルオーディオの配布、または、従来のデジタルビデオテープ、ビデオサーバー、コミュニケーションリンク、スイッチャー、ルーターの2オーディオトラック上へのサラウンドオーディオの収録 用に最適化されたプロ用のコーディングシステムです。



Dolby Eは、Proxyエッセンスではサポートされていません。

もし、オーディオチャネルが、Dolby EでProxyを含むマルチエッセンスでコンフィグされたら、Proxy出力には関連するオーディオはありません。

使用可能なDolbyコンフィグ

ケース1: 5.1オーディオ信号が、6つの独立したPCMオーディオチャンネルに符合化される

- XT3サーバーの全コンフィグで有効です。
- オーディオは、コンフィグに依存し、アナログ、デジタル、エンベデッドが可能です。
- AESオーディオでは、オーディオが正しくビデオにゲンロックしていれば、サンプルレートコンバータをオフに できます。

ケース2: 5.1オーディオ信号が、2チャンネルDolby E標準に符合化される

- Dolby E オーバー AES/EBU リンク
 - Channelタブ、Multicam Configurationウィンドウ内で、Dolby E信号を伝えるチャンネルのペアのコンフィグを、 "DY"に設定します。

これは、2つの効果を持ちます:

- 入力チャンネルのサンプルレートコンバータを、無効にします。
- 全てのトランジションを、強制的にハードカットとします。

もし、サンプルレートコンバータがオンでオーディオコンフィグがPCMオーディオオーバーAESと Doby EオーバーAES間のミックスなら、サンプルレートコンバータはPCMオーバーAES信号のみに適用されます。

- Dolby E Embedded (SDI/HD SDIストリーム内)
 - Channelタブ、Multicam Configurationウィンドウ内で、Dolby E信号を伝えるチャンネルのペアのコンフィグを、 "EY"に設定します。

これにより、強制的に、トランジションはハードカットになります。

○ サンプルレートコンバータのパラメータは、エンベデッドオーディオには適用されません。



Dolby Eトランジションは、以下の条件の限り、有効となります:

● コンフィグが、正しい

● Dolby Eを含むAESのストリームが、ビデオに正しく同期している

もし、オーディオタイプを、EYでなくE、DYでなくDに設定したら、Dolby Eトランジションは、正しくありません(トランジションで2フレームのミュート)。

オーディオエフェクト(スクラブ、スローモーション)は、Dolby Eでは不可です。

もし、使用したら、ミュートになります。



4.3.4. タイムコードとデータ挿入

Timecode Settings

ユーザーインターフェース

Timecode Settingsでは、EVSサーバーの指定レコーダ上での作業のリファレンスとして使用したい、タイムコードのタイプを指定できます。

Tmecode Settingsを使用したタイムコードタイプの選択は、2つのタイムコードジャンプテーブルの管理に依存します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、Channelsタブの、アドバンストディスプレイモード内 (サーバーとWebベースインターフェース);
- LSMリモコンのTechnicalメニューの一部(T2.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のChannelsタブ上のTimecode settingsです:

Timecoo	le sei	ttings ———				
	_					
	LTC	User		Primary	TC	
CAM A		ATC-VITC	~	LTC	~	
САМ В		ATC-VITC	•	LTC	~	
САМ С		ATC-VITC	•	LTC	~	
CAM D		ATC-VITC	-	LTC	~	
CAM E		ATC-VITC	*	LTC	*	
CAM F	LTC	ATC-VITC	•	LTC	~	
CAM G		ATC-LTC	•	LTC	*	
САМ Н	LTC	ATC-LTC	~	LTC	¥	
CAM I		ATC-LTC	~	LTC	*	
CAM J		ATC-LTC	•	LTC	*	

LTC

説明	最初のタイムコードジャンプテーブルに自動的に保存されるLongitudinal timecode
	(EVSサーバー上で設定された、または入力されたタイムコード)(LTCテーブル)
	最初のタイムコードジャンプテーブルに保存されたタイムコードタイプを、変更することはできません。
値	LTC(編集不可)

User

説明	2番目のタイムコードジャンプテーブルに保存されたタイムコードタイプ(User TCテーブル)。
値	SD:
	● LTC
	● VITC
	HDとUHD-4K:
	● LTC
	ATC LTC (Ancillary LTC Timecode)
	ATC VITC (Ancillary VITC Timecode)



Primary 1	TC
説明	VGAの下部に表示されているタイムコードタイプで、指定レコーダ上に保存されたビデオ素材での作業 に使用します。 通常、LTCタイムコードは、ライブイベントでのオペレーションで使われます。 VITCタイムコードは、ビデオ信号内タイムコードが内蔵されているため、テープからのビデオ素材のイ ンジェストに使用されます。
値	 ● LTC: LTCタイムコード、自動的にLTCテーブルに保存されます。 LTCフィールド内に指定します。 ● User: ユーザー設定タイムコード、USER TCテーブル内に保存され、Userフィールド内に指定します。
OSD表示	この設定で選択した値に依存し、ユーザーOSDの下部に表示されるタイムコードは、異なる色になります ● LTCタイムコードを選択すると、タイムコードの色は、白色になります。 ● USERタイムコードを選択すると、タイムコードの色は黄色になります。



Timecode Insertion Settings

ユーザーインターフェース

Timecode Insertion settingsでは、チャンネルごとの、VITCまたはアンシラリタイムコードの管理ができます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります

 Multicam Configurationウィンドウ内、Channelsタブの、アドバンストディスプレイモード内 (サーバーとWebベースインターフェース)。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでChannelタブのSDでのTimecode Insertion settingsです:

Timecode ins	ertion settings – Dutputs				4
	CAM A	CAM B	CAM C	CAM D	
IN LOOP					;
D-VITC					J.
Lines	19-21 🗸	19-21 🗸	19-21 🗸	19-21 🕶	



以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでChannelタブのHDでのTimecode Insertion settingsです:

Timecode ins	ertion settings – Dutputs						~
	CAM A	CAM B	CAM C	CAM D	CAM E	CAM F	1
IN LOOP							
D-VITC							
Lines	19-21 💌	19-21 🗸	19-21 🗸	19-21 🗸	19-21 🗸	19-21 🕶	19-z.
<			-				

Time and a increase			
- Timecode inserti	on secongs —		
Inputs Outpu	uts		
	PGM1	PGM2	
HD OUT			
ATC-LTC	No 🗸	No 🗸	
Userbits	√	✓	
ATC-VITC	No 🗸	No 🗸	
Userbits	✓	✓	
SD OUT			
D-VITC	No 🗸	No 🗸	
Lines	19-21 🗸	19-21 🗸	



Inputタブ

In Loop: D-VITC

D-VITC (Digital Vertical Interval Timecode) とユーザービットは、レコードコーデックのモニタリングSD出力上に常に書かれていて、ソースビデオ上と同じです。

In Loop: Lines

説明	VITCが、レコードコーデックの出力コネクタに書き込まれるライン。
値	06-08 ~ 20-22
デフォルト値	14-16(NTSC)
	19-21 (PAL)

Outputタブ

HD OUT (in HD): ATC-LTC / ATC-VITC

説明	HD出力内へのエンベデッドタイムコード(ATC-LTCまたはATC-VITC)の挿入をオン/オフします。
値	ATC-LTCとATC-VITCフィールドに設定する値は、同じでなければなりません。
	値は、以下です:
	● No: 出力に新しいタイムコード挿入はありません。
	● In: 入力と同じタイムコードを、出力に挿入。
	● LTC: LTCテーブルからのタイムコードを、出力に挿入。
	● USER: ユーザー設定タイムコードを、出力に挿入。
	● TC0: 指定PGMからの出力ビデオ信号内で生成された全てのATC-LTCと
	ATC-VITCタイムコードは、スタティックで、00:00:00に固定されます。
デフォルト値	No

HD OUT (in HD): UserBits

説明	HD出力内への、ユーザービットの挿入をオン/オフします。
	ATC-LTCとATC-VITCフィールドに設定する値は、同じでなければなりません。
	ATC-LTCとATC-VITCフィールド内でTCOを選択すると、
	ユーザービット値も、どんな値を選択しても、スタティックで00:00:00:00に固定されます。
値	Yes(デフォルト)/No

SD OUT (in HD/SD): D-VITC

説明	SD出力内へのエンベデッドタイムコード(D-VITC)挿入をオン/オフします。
値	D-VITCに設定する値は、以下です:
	● No: 出力に新しいタイムコード挿入はありません。
	● In: 入力と同じタイムコードを、出力に挿入。
	● LTC: LTCテーブルからのタイムコードを、出力に挿入。
	● USER: ユーザー設定タイムコードを、出力に挿入。
	● TC 0: 指定PGMからの出力ビデオ信号内で生成された全てのD-VITCタイムコードは、
	スタティックで、00:00:00:00に固定されます。
デフォルト値	No



CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3

SD C	JUT	(in	HD/	SD):	Lines
------	-----	-----	-----	----	----	-------

説明	指定タイムコードが、入力のループ上に書き込まれるライン。
値	06-08 ~ 20-22
デフォルト値	• 14-16(NTSC)
	• 19-21 (PAL)

SD OUT (in SD only): UserBits

説明	SD出力内への、ユーザービットの挿入をオン/オフします。
	D-VITCフィールド内でTCOを選択すると、ユーザービット値も、どんな値を選択しても、スタティックで
	00:00:00:00に固定されます。
値	Yes(デフォルト)/No

SD OUT (in SD only): CleanVBI

 説明 出力上で、VBI (Vertical Blanking Interface)情報をクリアするかどうかを指定します。 アクティブビデオライン内に記録されるVITCは、同じフィールド上の補間やパリティ違反のために、バリアブル再生の邪魔をします。 更に、サーバーが出力上にVITCを挿入、一方で既こ別のライン上にVITCが存在すると、問題を引き起こします。
 値 ● No (デフォルト): VBIは、出力内でクリアされていない。
 ● Always: VBIは、出力上で常にクリアされている。
 ● If not OK: VBIは、正しくなければ、出力内でクリアされる。 (play var mode、vertical split screen、等)。



SMPTE 334M Packets management

ユーザーインターフェース

SMPTE Packets Management設定では、HDとSD信号内の垂直アンシラリデータスペース内に保存されたアンシラリ データパケットが、どのように扱われるかを設定します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります

Multicam Configurationウィンドウ内、Channelsタブ、アドバンスト表示モード、

(サーバーとWebベースインターフェース)

● 一部は、LSMリモコンのTechnicalメニュー(T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのSMPTE Packets management設定画面です:

-SMPTE 334M packets management							
Decoding	Encod	ling					
	CAM A	CAM B	CAM C	CAM D	CAM E	CAM F	C/
Decoding	✓	~	~	✓	✓	~	~
Custom 1							
Custom 2							

SMPTE 334M packets management				
Docadiaa	Enco	ding		
Decouning	DCM1	DCMD		
Frank din a	POPIL	POPIZ		
Encoding				
Encouning				

サポートされているパケット

サポートされているアンシラリデータパケットは、SMPTEスタンダード334M、291M(タイプ2 ANCパケット)に準拠している必要があります。

従来、SMPTE 292M信号内のクロミナンス(C)データストリーム上に載っているSMPTE 334M データパケットは、デコードされません。(HD)

SMPTE 334Mスタンダード内に記載されている全てのDIDは、サポートされています:

- 61 => 62
- 40=>5F
- C0 => DF

これらのDIDは、出力チャンネル上のオリジナルライン上に保存、保管されます。

他のDIDは、保存されません。

最大バイト数/フィールドは、2014です。(720p)

保存されたSMPTE 334Mパケットは、ユーザーデータワード(UDW)プラス7コンフィグバイトでコンフィグされます。

保存されたバイト数の計算には、これを考慮すべきです。

特定のアプリケーションへのDIDの割り当てについては、SMPTE RP 291-2006スタンダードを参照下さい。

Decodingタブ

Decoding

説明	各レコードチャンネル上のSMPTE 334M データパケットのデコードをオン/オフします。
値	Yes(デフォルト)/No



Custom 1/2

値 Yes / No(デフォルト)

Encodingタブ

Encoding

説明	各プレイチャンネル(HD)上のSMPTE 334M データのエンコードをオン/オフします。
値	Yes / No(デフォルト)

SD OUT Encoding

説明	各プレイチャンネル上のSDダウンコーンバート出力上
	のSMPTE334M データのエンコードをオン/オフします。
値	Yes / No(デフォルト)

SMPTEデータのデコードのカスタマイズ

必要に応じ、SMPTE 334M データのでデコードのカスタマイズが可能です。

非圧縮の8ビットデータをVANCデータスペース内に保持したければ、2つのライン(LaとLb)を選択可能で、 NaとNbバイト/フィールドを保存できます。(720p)

保存されたデータはSAV (Start of Active Video)後左揃えで、保存されるデータ(Na+Nb+レギュラーSMPTE 334Mパケット)の最大数は、2014を超えてはいけません。

この設定が必要なら、EVS担当と連絡を取り、保持したいバイト数とどのライン上かを指定して下さい。 EVSは、特別にカスタマイズしたファイルを提供します。

このカスタマイズファイルは、Custom 1、Custom 2設定使用時にアクティブになります。

ダウンコンバート出力上のSMPTE 334データエンコード

ダウンコンバートされた出力では、スイッチングラインとして指定されたラインの後の2番目のラインから、1つの SMPTE 334Mパケットがライン毎にエンコードされます。 別の言葉で説明すると、パケット/フィールドの最大数は、以下です:

- 8パケット/フィールド: 525i(ライン12-19 と 275-282)
- 15パケット/フィールド: 625i (ライン8-22 と 321-335)

制限は以下です:

● データはHD内と同じ順序で再エンコードされますが、必ずしも同じライン上ではありません。

● もし、VITCがダウンコンバート出力に挿入されると、SMPTE 334M データはVITCを持つライン上には挿入されません。



4.4. Networkタブ

4.4.1. 概要

Networkタブには、SDTIネットワークとGigabit Ethernetネットワークの設定があり、両方のネットワークはビデオとオーディオデータのバックアップと転送に使用されます。

以下のテーブルは、Networkタブの設定について記載しています。

以下で、設定が可能かを示しています

● サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのベーシックまたはアドバンスト表示モード内

● LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内(T3.X)

設定名	Basic	Advanced	Technical Setup
SDTI設定			
Speed	Х	X	Х
Net name	Х	X	
Net number	Х	X	Х
Туре	Х	X	Х
SDTI Priorities設定			
High priority	—	X	Х
Gigabit Connection設定			
Physical interface	Х	X	Х
Link aggregation	Х	X	Х
Gigabit IP Configuration 設定			
IP address	Х	X	Х
Subnet mask	Х	X	Х
Default gateway	Х	X	Х
Gigabit Prioritization設定			
Configuration mode	Х	X	Х
Connections	Х	X	Х
(Lo-Res/Hi-Res/Unreserved)			



4.4.2. SDTI設定

序文

SDTI設定では、SDTIネットワークに関連する設定を行います。 このネットワークでは、EVS サーバー間の素材をネットワーク越しに見て、簡単に転送できます。



SDTIパラメータの変更には、アプリケーションのリブート(オペレーションウインドウよりALT+Q)が必要です。

ユーザーインターフェース

SDTIとSDTI Priorities設定は、以下にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、Networkタブ、ベーシックとアドバンスト表示モード (サーバーベースアプリケーション(ページ1)とWebベースインターフェース内)
- 一部はLSMリモコンパネル(T3。X)より有効です



SDTI設定は、SDTIボードがEVSサーバーに搭載されており、SDTIライセンスコード(117)が有効な時にのみ表示されます。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでのNetworkタブのSDTLとSDTI priorities設定を表示しています:

SDTI	
Speed:	No relay 1485 💙
Net name:	X _ADL
Net number:	2
Туре:	Server 👻

SDTI priorities PGM1 PGM2 PGM3 PGM4 High Priority

Speed

説明	SDTIオプションのオン/オフとネットワーク帯域の選択を行います。
	XT3サーバーには、1ペアのSDTIコネクタがあります:
	XNet2 Non-Relayコネクタは、2970 Mbpsで使用します。
	SDTIのサーキットは、Multicamソフトウェアが動作中のみ閉じられます。
値	以下の値が選択可能です:
	No Relay 2970 (Mbps)
	• Off
デフォルト値	Off



Net Name

説明	SDTIネットワーク上のマシン名。
	これは、ネットワーク番号がEVSサーバーに割り当てられているため、必須ではありません。
	しかし、XNetに接続されているサーバーの簡単な識別に便利なので、推奨されます。
	Net Namelは、SDTIコードが有効でなくても表示されます。
値	Net Nameは、ユーザー設定で、8文字を超えることはできません。
デフォルト値	デフォルトでは、Net Nameは割り当てられていません。

Net Number

説明	Net Numberパラメータは、ネットワーク上のマシン番号を設定します。
	この番号はユーザー設定で、ネットワーク上の各サーバーに対してユニークでなければなりません。
	番号が既に別のマシンに割り当て済みであれば、エラーメッセージが表示されます。
値	1~29の間
デフォルト値	1

Туре

説明	SDTIネットワーク上のEVSサーバーの権限を、設定します。
値	以下の値を設定できます:
	● Client: 他のEVSサーバー上の素材にアクセスできません。
	● Master: 他のEVSサーバー上の全ての素材にアクセスできます。
	● Server: SDTIネットワークを管理し、他のEVSサーバー上の全ての素材にアクセスできます。
	ネットワーク上の1台のEVSサーバーのみが、Serverlこ設定できます。
	もし、ネットワーク上でServerタイプが設定されていないと、XNetは確立されません。
	もし、複数台のServerタイプが設定されていると、最初に接続したサーバーが実際のServerとなります。
	サーバータイプを何に設定しても、EVSサーバーの素材は、SDTIネットワーク上の他のEVSサーバー
	(タイプMasterまたはServer)から制限を受けるとこなくアクセスできます。
デフォルト値	Server

High Priority

説明	ローカルサーバーのプレイチャンネルに、より高いプライオリティを設定します。
	(ネットワーククリップ/トレインの再生時でも)
	この高いプライオリティは、PLAYにのみ適用され、シャトルモードには適用されません。
値	Yes / No(デフォルト)



このコマンドの使用は、ネットワークが完全に停止したときの、SDTIネットワーク上のフリーズを防ぐものではありません。

これは、ネットワーク越しに素材を再生したいときの、ネットワークステータスのチェックとクリアなネットワーク使用 ルールの設定に常に便利です。



4.4.3. Gigabit Connection

序文

Gigabit connectionでは、SDTIネットワークを経由せずに、オーディオとビデオデータのバックアップと転送を行います。 Gigabit connection設定では、どのインターフェースがEVSサーバー上のGigabit接続を提供するかを、指定します。

Gigabit connectionは、以下のインターフェースのどれかで、以下の特徴を持ち、設定できます:

- 内部10GbEボードには、2つの1GbEポートと2つの10GbEポートがあります。
 - 1GbE または 10GbEポートは、内部Gigabit接続の提供に使用できます。



Gigabit Connection設定を変更すると、適用には、アプリケーションのリブート(オペレーションウインドウより ALT+Q) が必要となります。

ユーザーインターフェース

Gigabit connection設定は、以下にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、Networkタブ、ベーシックとアドバンスト表示モード (サーバーベースアプリケーション(ページ1)とWebベースインターフェース内)
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内(T3.X)

Gigabit connection ——		
Physical interface:	1Gbe (on 10Gbe board	v
Link aggregation:	LACP	~



10GbEボードを使うときには、1GbEまたは10GbEコネクタを使用できますが、同時使用はできません。

チーミング

チーミングは、10GbEボードでのみ、1GbEまたは10GbEインターフェースの両方で使用可能です。 チーミングは、Link Aggregation設定を使用して、有効にできます。

チーミング有効時には、1つのGbEリンクがダウンすると、他方がシームレスに実行中とペンディング中のタスクを引き継ぎます。



Physical Int	Physical Interface					
可用性	この項目は、サーバーが、GbEボード内蔵の場合のみ使用できます。					
説明	Gigabit Ethemet接続を提供する物理インターフェースを指定します。					
値	以下の値を指定できます:					
	None					
	Gigabitインターフェースはありません。					
	 1 GbE (on 10GbE board) 					
	10GbEボード上の1GbE接続の1つまたは2つを使用します。					
	• 10 GbE					
	10GbEボード上の10GbE接続の1つまたは2つを使用します。					
デフォルト値	EVSサーバーにインストールされている最も効率的な物理インターフェイスに対応するデフォルト値					

Link aggregation

説明	10GbEボードの1GbEまたは10GbEポートを使う時のチーミング方法を設定します。
値	以下の値が設定可能です:
	None
	リンクアグリゲーションは使わず、チーミングも行いません。
	チーミングに、Link Aggregation Control Protocolを使用します。
	Adapter Fault Tolerance
	チーミングに、Adapter Fault Tolerance (AFT)方式を使用します。
	Switch Fault Tolerance
	チーミングに、Switch Fault Tolerance (SFT) 方法使用します。
デフォルト値	None



4.4.4. Gigabit IP Configuration

序文

Gigabit IP Configurationでは、Gigabit Connection設定内のPhysical Interfaceパラメータ内にどのGbE接続が設定されているかにより、GbEボード上のGigabit接続のIPアドレスを設定します。



Gigabit settingsの変更を適用するには、アプリケーションのリブート(オペレーションウインドウよりALT+Q)が必要です

ユーザーインターフェース

Gigabit IP Configuration 設定は、以下にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、Networkタブ、ベーシックとアドバンスト表示モード内 (サーバーベースアプリケーション(ページ1)とWebベースインターフェース)
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内(T3.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのNetworkタブのGigabit IP Configuration設定画面です:

Gigabit IP config	uration										
		F	Port	1			P	ort	2		
IP Address	10	129		59	21	192	168		12	10	
Subnet Mask	255	255	•	255	0	255	255		255	0	
Default Gateway	10	129	ŀ	59	1	192	168		12	1	

Gigabit 接続の問題

Gigabitモジュールが存在しない時、または、Gigabit接続がダウンした時には、Gigabit IP Configuration設定の最初の ラインに、以下のメッセージを表示します:

!Not detected!

GbEボードのGigabit接続がダウンすると、Gigabit IP Configuration設定の最後のラインに、以下のメッセージを表示します:

Connection problem

チーミングが有効で、片方の接続のみがダウンすると、2番目の接続が引き継ぎ、Gigabit転送は続きます。 Multicam configurationモジュール内には警告は表示されませんが、XNet MonitorまたはXNet Web Monitor内には 情報が表示されます。

IP Address (Port 1/Port 2)

説明	EVSサーバーのGigabit Etherne接続のport1/port2(もしくはゲートウェイPC)に接続するIPアドレス。
値	IP addresses 0.0.0.2 255.255.255.255は、設定できません。

Subnet Mask (Port 1/Port 2)

説明 Gigabit Ethemet接続に割り当てられるアドレススペース内の論理アドレスの範囲。 両方のGbEポートのPPアドレスは、異なるサブネットマスクに属性さなければなりません。 そうでなければ、Multicamは、エラーメッセージを返します。



Default Gateway (Port 1/Port 2)

説明 Gigabit Ethernetネットワーク上のルータのIPアドレス。 (外部ネットワークへのアクセスポイントとして動作します)



4.4.5. Gigabit Prioritization設定

序文

Gigabit接続は、色々なタスク(ブラウジング、ストリーミング、転送、その他)で使用されます。 そのため、EVSサーバーが、与えられたワークフロー内で、重大とみなされるタスクをスムーズ実行するために、 十分なバンド幅を持つことを確実にするために、prioritizationパラメータを設定できます。

Gigabit prioritization設定では、Gigabit FTPサーバーから/への転送の優先順位を付けられます。



- Gigabit Prioritization設定の変更は、適用するには、アプリケーションのリブート (オペレーションウインドウよりALT+Q)が必要です。
- ワークフロー内でTruck Managerを使用していると、Truck Managerは、ワークフロー内の全てのEVS製品の 接続二一ズを考慮して、自動的にGigabit Prioritization設定を行います。

ユーザーインターフェース

Gigabit Prioritization設定は、以下にあります:

● Multicam Configurationウィンドウ内、Networkタブ、アドバンスト表示モード内 (サーバーベースアプリケーション(ページ2)とWebベースインターフェース)

Gigabit prioritization—				
Configuration mode:	Enabled	~		
Connections	Reserved	Remain./Max.	Bandwith	
Lo-Res	2 ᅌ	17 / 19	4 %	
Unreserved	6 ᅌ	17 / 25	96 %	
Total	8			

概要

Prioritization設定は、Gigabitネットワーク上に接続されているLo-Res(Proxy)の数に優先順位を与えるようになっています。

EVSサーバーのGigabitインターフェイスの有効帯域幅に基づいて、Multicamは優先的に付与することができる、 Lo-Res接続の最大数を計算します。

優先順位を持つ接続の最大数を知ることで、重要なジョブ(例えばLo-Resブラウジング)用にリザーブされた接続の要求数を設定できます。

リザーブされていない接続は、優先順位の低いジョブ(例えばアーカイブ用のクリップバックアップ)に使用できます。

ジョブを処理する時、Multicamは常に、フルに使用可能なGigabit帯域幅を使用します: もし、帯域幅が十分に割り当てられない場合には、残りの帯域幅が自動的に接続に割り当てられます。



Configuration mode

説明	Gigabit接続の優先順位をどのようにするか設定します。				
値 2つのコンフィグレーションモードがあります:					
	Disabled:				
	O パラメータが表示されません: 摘巻リサーブできません。				
	○ リザーブされていない接続の数は、自動的に最大値(25接続)に設定されます。				
	• Enabled:				
	O Lo-Res接続を、設定できます。				
	O リザーブされていない接続の数が自動的に計算され自動的に設定されます。(6以上)				
デフォルト値	Disabled				

Connections (Lo-Res)

使用条件	Configuration modeが有効で、Lo-Resコーデックエッセンスが有効な場合。
説明	EVSサーバーの帯域幅に許容できるLo-Res接続の数を規定します。
	各Lo-Res接続は、他の転送に影響を与えることなく、Lo-Resメディアのスムースなブラウジングを最
	適にする優先順位プロファイルを持っています。
値	値は、Reservedカラム内に設定します。
	サーバーコンフィグのLo-Res接続の残と最大数は、Remain/Maxカラム内に設定します。
デフォルト値	0

Connections (Unreserved)

使用条件	Configuration modeが有効時のみ表示されます。
説明	EVSサーバーのGigabitインターフェイスに許容できる、リザーブされていない接続の数を設定します
値	6-25 フィールド値は変更できません。 最小6のリザーブされていない接続は、以前のMulticamバージョンでの接続と同じ数を提供するため に必要です。
デフォルト値	6



4.5. Monitoringタブ

4.5.1. 概要

Monitoringタブは、マルチビューワ出力設定、OSD情報の表示設定、ダウンコンバート出力コンフィグを含んでいます。 以下の表は、Monitoringタブの設定です。

設定グループがどのページにあるか、各設定が可能かどうかを示しています:

● サーバーとWebベースインターフェース内のベーシックとアドバンスト表示モード内

● LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内(T4.X)

設定名	Basic & Advanced	Technical Setup
Multiviewer設定		
Layout	Х	—
Audio Monitoring from video	Х	_
Audio Monitoring left-right tracks	Х	
DB15 output	Х	_
HD output format	Х	
OSD設定		
Genlock Error	Х	X
Disk Error	Х	X
Network error	Х	X
Clip name	Х	X
Tally	Х	_
Monitoring設定		
J3 Player (Char OUT)	Х	Х
J3 Recorder (Char OUT)	Х	X
Char OUT J4	Х	X
Char OUT J1	Х	X
SD aspect ratio	Х	X
SD edge enhancement	Х	X

4.5.2. Multiviewer設定

序文

MTPCボード上にMV4マルチビューワを備え、内部LANを持つEVSサーバーでは、背面に4つのポートがあり、4つの独立したHD-SDIマルチビューワに接続できます:

- 4つの出カポート: 4つの独立したHD-SDIマルチビューワ
- 2つの入力ポート: マルチビューワ上に外部入力を表示可能

Quad-MTPCマルチビューワを備えたEVSサーバーでは、背面に2つのポートがあり、2つの独立したHD-SDIマル チビューワに接続できます。

● 2つの出カポート: 2つの独立したHD-SDIマルチビューワ

これにより、MV4マルチビューワを備え、内部LANを持つEVSサーバーでは、以下のような使い方ができるようになります:

- 1台のEVSサーバーに対して、4人オペレータが独立して作業できます。
- 2人のオペレータが、1番目のマルチビューワでレコーダ表示、2番目のマルチビューワでプレイヤー表示で、 作業できます。
- 1人のオペレータが、1番目のマルチビューワでUHD-4Kチャンネルのレコーダ表示、2番目のマルチビューワ でUHD-4Kチャンネルのプレイヤー表示で、作業できます。
- オペレータが、Dual LSMモードで、PGM3とPGM4のOSD出力を持つことができます。

Multiviewer設定では、各マルチビューワの設定が可能で、表示するチャネルの組み合わせと数、オーディオとビデオ出力の設定も可能です。

、 注意

EVSサーバーの最新の背面パネルでは、マルチビューワのOUTコネクタは、O1~O2(4U)、または、O1~O4(6U)とラベル付けされています。

EVSサーバーの以前の背面パネルでは、O1->HD-SDI、O2->SD-SDI とラベル付けされています。

MV4マルチビューワでのOSD

MV4マルチビューワのモニタリング出力は、個別のSDI Char OUTモニタリング出力(J3/J4)と比較して、以下のOSD 情報の主な変更/改善を提供します:

- フルスクリーン上にOSDを表示
- Tally情報をOSD内に組み込み
- チャンネル名を外部UMDからコントロール
- 右マージン上にオーディオメータを表示
- クリップIDと名前(最大24文字)を上右端に表示



ユーザーインターフェース

Multiviewer設定は、Multicam Configurationウィンドウ内、Monitoringタブにあります。 Multiviewer設定は、マルチビューワボードがEVSサーバーに搭載されている場合にのみ表示されます。 EVSサーバーにMV4マルチビューワと内部LANが備えられている場合には、4つのMultiviewerセクションが表示されます。 ます。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMonitoringタブ内のMultiviewer設定です:

Multiviewer 1	
8(3+3+2) 🗸	REC4 REC5 REC6 PGM1 PGM2
Audio monitoring from video:	REC1 V left-right tracks: 1/2 V
Multiviewer 2	REC1 REC2
4(2+2) 🗸	PGM1 V PGM2 V
Audio monitoring from video:	REC1 REC1 Ieft-right tracks: 1/2
HD output format:	1080i V DB15 output: RGB V

Multiviewer 1-4

ソースの最大の数

MV4マルチビューワでは、4つのマルチビューワ内に表示されるソースの数の制限はありません。

Quad-MTPCマルチビューワでは、2つのマルチビューワ内に表示されるソースの累積数は、12チャンネルを越えてはなりません。

もし、リクエストしたレイアウトがサポートされていなければ、Multicamはエラーメッセージを表示します。

このため、以下のレイアウトの組み合わせは、Quad-MTPCマルチビューワではサポートされていません:

- 8 (Multviewer 1) + 8 (Multiviewer 2)
- 8 (Multviewer 1) + 6 (Multiviewer 2)
- 6 (Multviewer 1) + 8 (Multiviewer 2)



レイアウト

説明	Multiviewer1からMultiviewer4上に、ソースをどのように表示するかを設定します。
値	以下のレイアウトが有効です:
	• 4 (2+2)
	● 6 (4+2)
	• 6 (3+3)
	● 8(3+3+2)(必ずしも全サーバーで有効ではありません)
	• 1
	8 (3+3+2) のレイアウトは、Quad-MTPCマルチビューワのMultiviewer 2では使用できません。
デフォルト値	● 4(2+2): 4Uサーバー用
	● 6(4+2): 6Uサーバー、4IN-2OUT/4OUT-2INコンフィグ用
	● 6(3+3): 6Uサーバー、その他のコンフィグ用
	● 1:UHD-4K用

有効なレイアウト

有効なレイアウトは、以下の通りです:

● 4(2+2): 4つの同一サイズのイメージ、上に2つ、下に2つ。



● 6(4+2): 4つの小さいサイズのイメージ(上)、2つの大きいイメージ(下)。

REC1 🗸	REC2 ¥	REC3 ¥	REC4 🗸
PGM1	¥	PGM2	¥

● 6(3+3): 6つの同一サイズのイメージ、上に3つ、下に3つ。

REC1 🗸	REC2 ¥	REC3 ¥
PGM1 🗸	PGM2 ¥	PGM3 🗸

● 8(3+3+2): 6つの小さいサイズのイメージが最初の2列、2つの大きいイメージ(下)。 このレイアウトは、全てのサーバーで必ずしも有効ではありません。

REC1 🗸	REC2	Y	REC3 🗸
REC4 🗸	REC5	~	REC6 🗸
PGM1 V PGM2 V			

● 1: UHD-4Kコンフィグで有効で、以下のように、1つのPGMの4つのクアドラントのモニタリングが可能です:

1TL Y	1TR ¥
1BL 👻	1BR ¥

● 1: MV4マルチビューワで、どのコンフィグでも使用可能です。
 Dual LSMコンフィグでの使用に便利です。
 例: OSD出力がないプレイヤーチャンネルのOSD出力に使用します。

```
PGM3 🗸
```



1~12	の表示
説明	選択したレイアウト内の対応する表示にリンクするソースを指定します。
	以下を選択できます:
	● 映像なし (none)
	● PLAYチャンネル (PGM)
	● RECORDチャンネル(REC)
	● 背面パネルのMultiviewer I1と12コネクタへの直接入力(IN)
	直接入力値は、以下でのみ有効です:
	● MV4マルチビューワ
	● UHD-4K以外の解像度
値	レコーダまたはプレイヤーチャンネルに有効な値で、Channelsタブ、Channel and control設定内で割
	り当てられた名前で、以下がデフォルト値です:
	none
	● PGM1~PGM12
	● REC1~REC12
	● IN1とIN2 (IN2 は6Uサーバーのみ)

Audio monitoring from video

説明	SDI出力経由でモニタリングするオーディオのチャンネルを指定します。
	これは、各マルチビューワ用に個別に選択できます。
値	値のリストは、上記のマルチビューワ表示用に選択したチャンネルを含んでいます。
デフォルト値	None

Audio monitoring left-right tracks

説明	モニタリングする選択チャンネルのステレオオーディオトラックのペアを指定します。
	これは、各マルチビューワ用に個別に選択できます。
値	1/2、3/4、5/6、7/8、9/10、11/12、13/14、15/16
デフォルト値	1/2: デフォルトでは、ソースの最初のステレオペアが選起れます。



Multiviewer Format

DB15 output

説明	EVSサーバーの背面パネルのマルチピンマルチビューワ出力に適用する色モデルを設定します。
	マルチピンマルチビューワ出力は、HD-SDI出力1に該当します。
値	RGB HD
デフォルト値	RGB HD

HD output format

説明	マルチビューワのHD出力のフォーマットを指定します。
	両方のマルチビューワは、同じHD出力フォーマットを使います。
値	Quad-MTPC multiviewerまたはMV4 (LANなし)
	• 720p
	1080i
	MV4(内部LANあり)
	1080i
	• 1080p
デフォルト値	● 720p(EVSサーバーが720pコンフィグの時)
	● 1080i(その他のコンフィグ時)



4.5.3. OSD設定

ユーザーインターフェース

OSD設定では、モニタリング画面上に表示されるOSDと情報に関連する設定を指定できます。 これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウインドウ内、Monitoringタブ
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内 (T4.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMonitoringタブのOSD設定を表示しています:

COSD	
Genlock error:	2
Disk error:	2
Network error:	2
Clip name:	Name 🗸
Tally:	Char OUT + MVW 💙

Genlock Error

説明	出力モニター上のGenlock情報表示をオン/オフに設定します。
	Genlockリファレンスが不正の時には、出力モニター上に、 !GkV が表示されます。
数値	Yes(デフォルト)/No

Disk Error

説明	出力モニター上のディスクエラー情報表示をオン/オフに設定します。 サーバーはRAIDディスクアレイを実装しているため、オペレーションはディスクが1台不良の場合でも継 続して行えます。 もしオペレーションの最中に1台のディスクが切り離されると、 !Raid が全出力モニター上に表示され、オ ペレータがアプリケーションをシャットダウンすると別のメッセージが表示され、ディスク交換とRAIDアレ イの東コンフィグを促します
	イの再コンノイクを促します。
値	Yes(デフォルト)/No

Network Error

説明	出力モニター上のネットワークエラー情報表示をオン/オフに設定します。
	もし、ペットワーク接続に問題がのる場合、INELメッセーシが出力モーターに表示されます。 再びネットワークの接続が復旧すると、システムは再接続しようとし →Net メッセージが出力モニター にまテされます
数値	Yes(デフォルト)/No

Clip name

説明	クリップ名が表示される方法を設定します。
数値	VarID / Name
デフォルト	Name



Tally	
説明	Tally信号が表示されるモニタリング出力を設定します。
数値 以下の値が有効です:	
	Char OUT:
	Tally信号は、Char OUTモニタリング出力の個別OSD上に表示されます。
	Multiviewer:
	Tally信号は、Multiviewerモニタリング出力のOSD上に表示されます。
	Char OUT + MVW:
	Tally信号は、MultiviewerとChart OUTモニタリング出力の両方のOSD上に表示されます。
デフォルト	Char OUT + MVW



4.5.4. Monitoring設定

ユーザーインターフェース

Monitoring設定では、モニタリング出力ラインとHD/SDダウンコンバージョンにリンクするパラメータに関連する設定 を行えます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウインドウ内、Monitoringタブ
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内(T4.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMonitoringタブのMonitoring設定を表示しています:

	- Monitoring	
	1 ionicorning	
	J3 player Char OUT, Format:	No Y HD
	J3 recorder Char OUT, Format:	Yes 🕶 HD
I	Char OUT J4, J1:	SD V CVBS V
I	SD Aspect ratio:	4:3 Letterbox 🗸
I	SD edge enh.:	66 %

J3 player (Char OUT + Format)

説明	プレイヤーチャンネルとして使用されるV3Xコーデックモジュール上のJ3Xコネクタの動作を指定し
	ます。
	以下のいずれかが可能です:
	● クリーン (ダウンコンバート) 出力 (初期動作)
	● モニタリング出力 (J4の挙動と同じ)
値	Char OUT設定に、以下の値が可能です:
	● No: J3は、初期動作で使用されます。
	● Yes: J3は、モニタリング出力として使用されます(J4と同じ)
	V3Xボードでは、1つの動作が有効な時には、値は固定になります。
	Format設定の値は読み取り専用で、実際の出力フォーマットと同一となります。
デフォルト値	No

J3 recorder (Char OUT + Format)

説明	レコーダチャンネルとして使用されるV3Xコーデックモジュール上のJ3コネクタの動作を設定しま
	す。
	以下のいずれかの動作が可能です:
	● 入力のループ(初期の動作)
	● モニタリング出力 (J4と同一の動作)
	これは、XRecモードで特に便利です。
値	Char OUT設定に、以下の値が可能です:
	● No: J3は、初期動作で使用されます。
	● Yes: J3は、モニタリング出力として使用されます (J4と同じ)
	V3Xボードでは、1つの動作が有効な時には、値は固定になります。
	Format設定の値は読み取り専用で、実際の出力フォーマットと同一となります。
デフォルト値	No


Char OUT J4

説明	J4コネクタ上のモニタリング出力フォーマットを設定します。
数値	 ● SD ● HD (1080p 3G Level Aではサポートされていません)
	• 3G
デフォルト値	システムに依存します

Char OUT J1

説明	J1コネクタ上のモニタリング出力タイプを設定します。
数値	CVBS

SD aspect ratio

機能	このパラメータは、EVSサーバーがHDでコンフィグされている時有効です。
説明	HDビデオがSDにコンバートされるアスペクト比を指定します。
数値	 ● 4:3 Letterbox: アクティブビデオの上と下に黒のストライプが置かれ、全幅を補償します。 ● 4:3 Crop: アクティブビデオの左と右の端が切り取られ、全高さを補償します。 ● 16:9: HDアスペクト比に対応します。 Anamorphicとも言います。
デフォルト値	4:3 Letterbox

SD edge enhance.

説明	SDダウンコンバート出力ビデオを生成するときに使用する、エッジエンハンサーの強さを設定します。 された映像出力を生成する際に使われるエッジエンハンサー。の強度をコンフィグします
値	0~100
デフォルト値	66



4.5.5. OSD表示設定

概要

この章は、V4XボードとMV4マルチビューワ内蔵のEVSサーバー上のOSD表示関連の設定方法について、説明しています。

		OSD	OSD	OSD	OSD
		Char. OUT	Char. OUT	MV4	MV4
		REC	PGM	REC	PGM
Monit. Char. OUT = YES	OSD on Outputs = YES		Yes		Yes
	OSD on Outputs = NO		No		No
	OSD on Inputs = YES	Yes		Yes	
	OSD on Inputs = NO	No		No	

		OSD Char. OUT REC	OSD Char. OUT PGM	OSD MV4 REC	OSD MV4 PGM
Monit. Char. OUT = NO	OSD on Outputs = YES	No	No		Yes
	OSD on Outputs = NO	No	No		No
	OSD on Inputs = YES	No	No	Yes	
	OSD on Inputs = NO	No	No	No	

ケース 1: OSD表示: Char OUT と Multiviewer上

もし、OSDを、ビデオコネクタとマルチビューワコネクタの両方に表示するなら:

● Monit. Char. OUT設定 = YES に設定

AND

OSD on outputs、OSD on inputs設定 = YESに設定
 (OSDを、入力、出力、または両方に表示するかによる)

ケース 2: クリーン出力: Char OUT と Multiviewer上

もし、OSDを、ビデオコネクタとマルチビューワコネクタの両方に表示しないなら:

● OSD on outputsと OSD on inputs設定 = NOに設定

ケース 3: OSD表示: Multiviewer上 + クリーン出力: Char OUT上

● Monit. Char. OUT設定 = NO に設定 AND

● OSD on outputs、OSD on inputs設定 = YESに設定 (OSDを、入力、出力、または両方に表示するかによる)



4.6. Protocolタブ

4.6.1 概要

Protocolタブは、Sony BVW75プロトコルとEditRec機能で使用する設定を含んでいます。

以下のテーブルは、Protocol タブの設定です。 設定グループがどのページにあるか、各設定が可能かどうかを示しています: ● サーバーとWebベースインターフェース内のベーシックとアドバンスト表示モード内

LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内(T5.X)

設定名	Basic	Advanced	chnical Setup
RS422 Protocols設定			
Id Type	Х	Х	Х
Sony BVW設定			
FFW/REW speed	Х	Х	Х
Use guardband	Х	Х	Х
List Remote CAM	Х	Х	Х
SONY Parallel Status	Х	Х	Х
Edit Rec 1 / 2			
Port#	読取専用	読取専用	
Playlist設定			
Default PL	Х	Х	Х
Time Code設定			
Serial Sony LTC	Х	Х	—
Serial Sony VITC	Х	Х	Х
Insert TC in SDI	—	Х	Х
User TC of created clips	—	Х	Х
OSD設定			
OSD on Output	Х	Х	Х
Display sel	—	Х	Х
TC H-Pos	—	Х	Х
TC V-Pos	_	Х	Х
Name H–Pos	_	Х	Х
Name V–Pos	—	Х	Х
Audio設定			
Edit audio Fade	Х	X	Х
Channel設定			
EE	Х	Х	Х
Stop Behavior	Х	Х	Х
Full EE command 'value'	Х	Х	Х
Tally/UMD設定			
Protocol	X	Х	_
umd o/w	X	Х	—
Display Index	X	Х	—

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3	Issue	15.3.C - December 2017	
RS422 VarID設定			
Uniqueness		読取専用	
Length		読取専用	
Format		読取専用	
VDCP visibility設定			
Port #1···6		読取専用	



4.6.2. RS422 Protocols設定

ユーザーインターフェース

RS422 protocols設定では、ビデオクリップのアクセスに使われるクリップの識別に関連する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

● Multicam Configurationウインドウ内、Protocolタブ、ページ1、ベーシックとアドバンスト表示モード (サーバーとWebベースインターフェース)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのRS422 protocols設定です:

ID type: ID LSM 🗸

Id Type

説明	クリップのアクセスと識別に、プロトコルで使用するクリップDを設定します。
	注意して下さい。
値	ID LSM
	UmID
デフォルト値	ID LSM



4.6.3. クリップ識別子

LSM ID

LSMIDは、EVSビデオサーバーの構造に基づいたクリップ識別子です。 LSMIDは、3桁の数字と1文字、例えば112Bで構成され、数字と文字はサーバー構造の以下の要素を示しています:



Bank Camera

LSMIDの後ろの数字は、クリップが保存されているサーバーのNet Numberに対応しています。 (XNetネットワーク上のEVSビデオサーバーID) これは、LSM IDの一部ではありません。

UmID

UmIDは、固定長の8バイトIDです。 これは、SDTIネットワーク上のユニークなクリップ識別子として使用されます。

VarID

VariDは、可変長とフォーマットの32バイトIDです。 以下のVariDパラメータを、設定する必要があります:

- 髟 (8バイト、32バイト)
- フォーアット (ASCII、バイナリ)
- ユニークレベル (local = サーバーレベル、global = ネットワークレベル)
- プロトコル可視化 (サーバーのNet Number一覧)

~注意

VarDでは、2台の異なるサーバー上で同じであることが可能な冗長構造が可能です。 全てのサーバーは、同じSDTIネットワークに参加可能です。 従って、XNet上では素材コピーが不要です。 UmIDは、XNet network上でユニークである必要があるので、完全なコピーが必要でした。



4.6.4. Sony BVW設定

ユーザーインターフェース

Sony BVW設定では、Sony BVW75プロトコルで使用する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウインドウ内、Protocolタブ、ページ1、ベーシックとアドバンスト表示モード (サーバーとWebベースインターフェースインターフェース)
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内(T5.X)



Sony BVW設定は、ライセンスコード 118(Sonyプロトコルで動作するときに必要)が有効な時のみ有効です。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのSony BVW設定を表示しています:

Sony BVW	
FFW/REW speed:	50 X
Use guardbands:	(Clip Pre/PostRoll)
List remote CAM:	
Sony parallel status:	V

FFW/REW speed

説明	プロトコルで使用する早送り/巻き戻し操作の速度を設定します。
値	標準速度の2~50倍
デフォルト値	50

Use guardband

説明	プロトコルで、OUTのガードバンドを有効こします。
値	● Yes: プロトコルは、INとOUTガードバンドにアクセスします。
	● No: プロトコルは、INガードバンドのみにアクセスします。
デフォルト値	No

List Remote CAM

説明	Xnetフィールド内で指定されたリモートサーバーのCAMレコーダーにアクセスできます。
値	● Yes: ローカルサーバーとリモートサーバーのレコーダーが、使用可能です。
	● No: ローカルサーバーのレコーダーのみが、使用可能です。
デフォルト値	No

SONY Parallel Status

説明	複数のコントローラがパラレルモードで使用されるとき、Sonyシリアルコネクションステータスをアクティ
	ブにします。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes



4.6.5. EditRec

Edit Recについて

Edit Recプロトコル

Edit Recは、サーバーのPLAYチャンネルとRECORDチャンネルに関連するリニア編集エンジンです。 役割は、VTRのエミュレートです。 Edit Recエンジンは、Edit Recプロトコルで動作します。 更に、Edit RecエンジンのPLAYとRECORDチャンネルは、同ごRS422ポートに関連付けられます。

Edit Rec設定の概要

Edit Rec設定では、Edit Rec機能で使用する設定を行います。

Edit Rec設定は、以下のインターフェース内にあります:

● Multicam Configurationウインドウ内、Protocolタブ、ページ2: Edit Rec1用、ページ3: Edit Rec2用、ベーシックとアドバンスト表示モード

- (サーバーとWebベースインターフェース)
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内 (T5.X: Edit Rec1とEdit Rec2用)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのEdit Rec1設定を表示しています:

Luic Kec 1 port #**	
Playlist	Audio
Default PL: 60	Edit audio fade: No 💌
_ Timecode	Channel
Serial Sony LTC: Edit: TC 🗸	EE: 🔽
Serial Sony VITC: Edit: TC 🗸	Stop behavior: EE 🗸
Insert TC in SDI: 🗹 Edit TC 🗸	Full EE command Video + Audio 🗸
User TC of Edit TC created clips:	vaue.
OSD on output: 🗹	
Display sel: TC status name 💌	
TC H-Pos: 4 Name H-Pos: 0	
TC V-Pos: 10 Name V-Pos: 0	

Edit Rec 1/2設定

2つのEdit Recエンジンをサーバー上で設定できるため、2ペアのPLAYとRECORDチャンネルをEdit Recに割り当て可能です。

Edit Recエンジンをサーバー上に設定すると、該当するEdit Rec設定ページ上のPort #パラメーターで、関連するPLAYと RECORDチャンネルのポート番号を指定します。

Edit Recエンジンがコンフィグされていないと、Port #--が表示されます。



対応するEdit Rec PLAYチャンネルが停止時のみ、設定を変更できます。



Edit RecのPlaylist 設定

ユーザーインターフェース

Playlist設定では、Edit Rec開始時にデフォルトでロードされるプレイリストを設定します。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでProtocolタブのEdit Rec用のプレイリスト設定を表示してい ます:



Default PL

説明	Edit Rec開始時に、デフォルトでロードされるプレイリストを設定します。
値	10 ~ 99
デフォルト値	60

Edit RecのAudio設定

ユーザーインターフェース

Audio設定では、クリップの境界で適用されるフェーディングに関連する設定を行います。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでProtocolsタブのEdit RecのAudio設定を表示しています:

Edit audio fade: No 🗸

Edit audio Fade

説明	クリップ領域に適用され、クリップ素材に含まれるオーデイオエフェクトを設定します。
値	No
	● V-Fade
	● µMix
デフォルト値	No



Edit RecのTimeCode設定

ユーザーインターフェース

Time Code設定では、各コミュニケーションプロトコルで使用するタイムコード(TC)タイプを設定します。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのPotocolsタブのEdit Rec用のTimecode設定を表示しています:



Serial Sony LTC

説明	コントローラーがLTCで動作する時に、SonyコントローラーとEdit Recエンジン間のコミュニケーショ ンで使われるタイムコードのタイプを設定します。
値	このフィールドは編集不可です。 値は 常にEdit TC となっていて、開始タイムコードを基ににしたプレイリストのタイムコードを意味し ます。

Serilal Sony VITC

説明	コントローラーがVITCで動作する時に、SonyコントローラーとEdit Recエンジン間のコミュニケーシ
	ョンで使われるタイムコードのタイプを設定します。
値	● Edit TC: 設定された開始TCに基づくプレイリストタイムコード
	● User TC: USER TCテーブルからのクリップタイムコード
デフォルト値	Edit TC

Insert TC in SDI (1または 2フィールド)

説明	プレイリストがEdit Rec PLAYチャンネル上で再生されるときに、HDではHANC、SDではVITCへの
	タイムコード挿入をオン/オフします。
値	● No: タイムコードは挿入されません。
	● Yes: 以下のタイムコードが挿入されます:
	O Edit TC: 設定した開始TCを基にしたプレイリストタイムコード
	O Default: Timecode Insertion設定内のD-VITCフィールド内(SD)、
	HANC VITC / LTCフィールド内(HD)で選択したタイムコード
デフォルト値	Yes – Edit TC

User TC of created clips

説明	作成されたクリップのUser TCに挿入されるTCタイプを指定します。
値	Edit TC
	User
デフォルト値	Edit TC



Edit RecのChannel設定

ユーザーインターフェース

Channel設定では、チャンネルの動作に関連する設定を行います。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのEdit RecのChannel設定を表示しています:



EE

説明	EE (Electronic to Electronic)モードをアクティブにし、収録信号をディレイなしで出力チャンネル上で再 生します。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

Stop Behavior

説明	Stopモード時のチャンネルの動作を設定します。
値	 ● PB (playback): EditRecプレイリストが、Edit Rec出力上に表示されます。 ● EE: EditRec入力が、サーバー内を通過して、Edit Rec出力上に表示されます。
デフォルト値	PB

Full EE command 'value'

説明	FullEEコマンドが、オーディオ/ビデオに適用されるかどうかを設定します。
	FullEEコマンドにより、Edit Recに接続されているソースを、オーディオ/ビデオディレイなしに、Edit
	Rec出力経由で確認できます。
	実用的な観点では、このコマンドにより、オペレーターは、1つのモニタリングウィンドウ(EditRec出
	カ)からソースとレコーダーのINとOUTポイントを選択できます。
値	以下の値を選択できます:
	● Video+Audio: EVSサーバーがFull EEコマンドを受け取ると、ビデオとオーディオフィードに
	適用されます。
	● Audio: EVSサーバーがFull EEコマンドを受け取ると、オーディオフィードのみに適用されます
	これは、Sony plugin Editorに関連しています。
デフォルト値	Video + Audio



Edit RecのOSD設定

ユーザーインターフェース

OSD設定では、モニタリングスクリーン上に表示されるOSDと情報に関連する設定を行います。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolsタブのEdit RecのOSD設定を表示しています:



OSD on Output

説明	OSD機能を、オン/オフにします。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

Display sel

説明	スクリーン上に表示されるフィールドまたはフィールドの組み合わせを設定します。 ● TCは、コントローラがSerial Sony VITCフィールド用に選択されたVITCとUser TCを使用するとき 、Edit TCまたはUser TCです。 ● Nameは、編集されたプレイリスト番号です。
値	 Name TC TC Status TC Status Name TC Name Status Status Name
デフォルト値	TC Status Name

TC H-Pos

説明	スクリーン上のTCの水平位置を設定します。
値	0~9
デフォルト値	4

Name H-Pos

説明	スクリーン上の編集名の水平位置を設定します。
値	0~15
デフォルト値	0



TC V-Pos

説明	スクリーン上のTCの垂直位置を設定します。
値	0~11
デフォルト値	10

Name V-Pos

説明Description	スクリーン上の編集名の垂直位置を設定します。
値	0~11
デフォルト値	0



4.6.6. Tally機能

序文

Tally機能では、プロトコルがEVSサーバーのモニタリング出力上に、Tally情報を送ることが可能です。

Tally機能は、以下の技術特性に依存しています:

- Tally protocol: TSL 5.0 (Tally設定内で設定)
- Listening port (EVSサーバー上): 9800
- Transport protocol: UDP inbound

Tally情報は、以下で使用可能です:

- MV4マルチビューワと内部LAN
- Quad-MTPCマルチビューワ: 制限付き
- SDI Char Outモニタリング出力

Tally情報は、異なるOSD要素に、赤色/緑色/琥珀色が適用されて、構成されています。

表示されるTally情報

モニタリング出力上に表示されるTally情報は、以下の要素に依存します:

- ハードウェアの構成
- モニタリング出力の選択 (Char OUT、MVW): Monitoringタブ、OSDセクション内のTally設定
- チャンネルの選択 (Rec、Play、非表示): Operationタブ、OSDセクション内のTally設定

以下のテーブルは、ハードウェアに依存してどのTally情報が表示されるかと、Monitoringタブ内のTally設定の要約です。

ハードウェア〉	SDI Char Out出力	Quad-MTPCマルチビューワ	MV4マルチビューワ
Tally值V			(内部LAN含む)
Char OUT	チャンネル名ハイライト (上左)	何も表示されません	何も表示されません
Multiviewer	何も表示されません	チャンネルサムネイル周りの色 付きの枠	チャンネルサムネイル周りの色付きの枠 +色付きの長方形 (下左と右)
Char OUT +	チャンネル名ハイライト	チャンネルサムネイル周りの色	チャンネルサムネイル周りの色付きの枠
M∨W	(上左)	付きの枠	+
		+	+色付きの長方形
		チャンネル名ハイライト	(下左と右)
		(上左)	+
			チャンネル名ハイライト
			(上左)

更に、Operationタブ内のTally設定の値は、Tally情報をRECORDチャンネル、PLAYチャンネル、両方、または、まったく表示しないかどうかを決定します。



Quad-MTPCマルチビューワ上のTally情報は、レイアウトの1つのチャンネルにのみ適用できます。



Protocol Tally & GPI Tally

GPI Tallyは、protocol Tallyの独立したもので、同時にprotocol Tallyとして使用する事はできません。 GPI経由で送られたTallyコマンドは、GPIが設定されたチャンネルのモニタリング出力周りの赤色長方形として表されます。



4.6.7. Tally/UMD設定

ユーザインターフェース

Tally/UMD設定では、モニタリング出力(マルチビューワ、個別のOSD)上に表示されるTallyとUMD情報に関する設定を行う事が可能です。

Tally/UMD設定は、サーバーとWEBベースインターフェース内のMulticam Configurationウィンドウ内、Protocolタブ、 basicとadvanced表示モードにあります。

以下のスクリーンショットは、WEBベースインターフェース内のProtocolsタブ上のTally/UMD設定です:

Tany/			_		_	
Protoco	ol:		Off		*	
		UMD O/W		Display Inde	ex (
OUT1	PGM1	-	10			
OUT2	PGM2		11			
IN1	REC1	-				
IN2	REC2					
IN3	REC3					
IN4	REC4		15			
IN5	REC5					
IN6	REC6		17			
IN7	REC7					
IN8	REC8					
1N9	REC9		20			
IN10	REC10		21			
ĐX1	EX1		22			
EX2	EX2					
Enable	Disable	UMD O/W for	r all ch	annels		

Protocol

説明	UMDとTally情報を提供するコントロールシステムとの通信に使用するUMDプロトコルを設定します。
値	 ● Off: 通信プロトコルを設定せず、Tally/UMD機能はオフです。 ● TSL 5.0: Tally/UMD情報を提供するコントロールシステムとの通信にTSLプロトコルを使用します。
デフォルト値	Off

UMD O/W

説明	UMDプロトコルに、対応する外部MVW入力名、REC/PGM(Channelsタブ、Channel and Control設定
	、Nameフィールド)の、コントロールシステム内で設定された名前での上書きを許可します。
	ー旦、チャンネル名が上書きされると、EVSサーバー上で設定されたオリジナルチャンネル名は
	復元できません。
	UMD O/Wフィールドをオフにしたら、再入力しなければなりません。
値	● Yes: チャンネル名は、上書きされます。
	● No: チャンネル名は、保持されます。
デフォルト値	No

Issue 15.3.C - December 2017



Display Index

説明	各EVSサーバー出力(REC/PGM、外部MVW入力)に割り当てられる表示番号。
	これは、コントロールシステム内で設定される表示番号に、論理的に、対応します。
	最初の番号のみ、手動で設定します。
	以降の番号は、インクリメントして割り当てられます。
値	0 ~ 65,535 (TSL 5.0プロトコルでの最大値)
デフォルト値	10 (最初の番号)

Collective Commands

以下のテーブルは、サーバーベースインターフェース内で使用可能な、Collectiveコマンドの名前、説明、キーボー ドショートカットを表しています:

コマンド	説明	ショートカット
Enable	モニタリング出力内に表示可能な全てのチャンネル(Rec/Play)と外部入力用の上書きコ マンドを有効にします。	CTRL+Y
Disable	モニタリング出力内に表示可能な全てのチャンネル(Rec/Play)と外部入力用の上書きコ マンドを無効にします。	CTRL + N



4.6.8. RS422 VarID設定

ユーザーインターフェース

RS422 VarID設定とVDCP visibility設定は、読み取り専用VarID設定を表示します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります: ● Multicam Configurationウィンドウ内、Protocolタブ、アドバンスト表示モード (サーバーとWebベースインターフェース内)

▲警告

VDCP visibility設定は、ライセンスコード119(VDCPプロトコルでの作業に必要)が有効な時に使用可能です。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのRS422 VarIDとVDCP visibilityを表しています:

R5422 VarID	
Uniqueness:	Local
Length:	32
Format:	ASCII
∟ ┌ VDCP visibility ────	
	01.
Port #1:	01,
Port #2:	01;
Port #3:	01;
Port #4:	01;
Port #5:	01;
Port #6:	01;

VarID設定とパラメータ



VarID設定やパラメータを変更する必要がある場合には、EVSサポートにご連絡ください。

VarIDは、可変長とフォーマットを持つ、32バイトDです。 VarID設定では、VDCPプロトコルが、1台のサーバー上またはXnetネットワーク上のクリップIDにアクセスするVarDの 使用を可能こします。

Multicam Configurationメニュー内のこのページは、パラメーター値を表示するのみです。 これらの値は、'varidini'ファイルから抽出され、この外部ファイルを編集することでのみ変更できます。 エラーや不定値の場合には、関連するパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

もし、VarID設定が、XNet上に設定されているネットワーク設定値に対応していなければ、サーバーはネットワークから切断され、ローカルモードで動作します。

この場合には:

- Multicam Configurationウインドウは、明確こ、不正パラメータ横にメッセージ
 Not XNet common value!を表示します。
- SDTIネットワークモニタリングスクリーン上にメッセージが表示され、不正パラメータを示します。



VarIDコンフィグファイル

VarIDパラメータは、コンフィグファイルに記載されています。 このファイル、varid.iniというファイル名のファイルは、C:¥LSMCE¥DATA directory内に保存されています。

ファイルは、以下の構文を持っています:

; VARID settings

;-

:

÷

;Parameter values and [default]

; Uniqueness= [Local] or Global

; Length= [32] or 8

; Format= [ASCII] or Binary

; Visibility= []、 1。。29、*

default= empty is converted to local XT Net number * for all XNet

Uniqueness=Local Length=32 Format=ASCII

1= 2= 3= 4= 5=

5= 6=

U—

Uniqueness

説明	VarIDが、Xnetネットワークレベルなのか、EVSサーバーレベルで、ユニークなのかを設定します。
	このパラメータは、VDCP、AVSP、LinXプロトコルで有効です。
値	● Global: VarIDは、XNetネットワークレベルでユニークです。
	● Local: VarIDは、EVSサーバーレベルでユニークです。
デフォルト値	Local

Length

説明	VarIDが、8 バイトの固定長か、32バイトの可変長かを指定します。
値	● 8: 固定長。
	● 52. 归复丧。
デフォルト値	32



Format

説明	VarIDが、ASCIIか、バイナリのフォーマットを持つかを指定します。
値	● ASCII
	Binary
デフォルト値	ASCII

VDCP visibility

説明	VDCPプロトコルが通信で使用する各コミュニケーションポート上で見えるサーバーのリストを設定し ます
	このパラメータは、VDCPプロトコルに関連するものだけです。 サーバーリストでは、対応するサーバーXNet番号は、セミコロン()で区切られています。 リストの順番は、見える順番に考慮されることに注意して下さい。 これは、システムが、リストの最初のサーバー上で要求されたクリップを検索し、その次に2番目、3番目
	と順次行うことを意味します。
値	 ● (empty): ローカルサーバーが使用されます(ローカルXNet番号に変換されます)。 ● 1 ~ 29: XNet上で有効なサーバー。 ● *: 全てのXNetサーバー上で。
デフォルト値	1



4.7. GPIタブ

4.7.1. 概要

GPIタブは、GPI入力と出力信号の設定を持っています。

以下のテーブルは、GPIタブの設定を表してします。

以下は、設定グループがどこにあるか(ページ)、各設定があるかどうかを表しています:

● サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェース内

● LSMリモコンのTechnical Setupメニュー内(T6.X)上で

設定名	Basic & Advanced	chnical Setup
GPI設定		
TTL GPIs set as GPIs	X	T6.1
GPIs IN		
Channel/Device	X	T6.2 to T6.3
Port	X	T6.2 to T6.3
Function	X	T6.2 to T6.3
Delay	X	T6.4
GPIs OUT		
Function	X	T6.5
Туре	X	T6.5
Advance	X	T6.6
Pulse duration	X	T6.6
Tally Playlist設定		
Tally	X	X
Add Clip to PL	X	X
Clips guardbands	Х	Х



4.7.2. GPI Settings

ユーザーインターフェース

GPI settingsでは、GPI入出力機能に関連する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、GPIタブ
- LSMリモコンのTechnicalメニュー内(T6.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内GPIタブのGPI settingsを表示しています。

	. GPIs set as GPIs: I S IN	In	v					
#	Channel/Devi	ce	Port	Func	tion	D	elay]
1	PGM1	4	*		4	0	s ₀ fr	
2	PGM2	•	*		<	0	s ₀ fr	
3		•	- *		~	0	s ₀ fr	
4		~			v	0	s ₀ fr	
5	RMT1	•	*		•	0	s ₀ fr	
6	RMT1	•		Previous	~		s ₀ fr	
7	RMT1	•		Next			s n fr	
	DMT1			Dby			s o fr	
8	KM I I			Play				
GP #	Is OUT		т	/De	Δd	lance	Pulse	duration
1		•		*		s ₀ fr		s ₀ fr
2		~		~	0	s ₀ fr	0	s ₀ fr
3		•		~		s ₀ fr		s ₀ fr
4		- -				s ₀ fr		s ₀ fr



TTL GPIs set as GPIsパラメータをInに設定すると、表示は上記のように、8 GPIs INと4 GPIs OUTラインを表示します。

Outに設定すると、表示的には4つのGPIs INと、8つのGPIs OUTのラインが表示されます。

GPI Types & Functions

サーバー上では、3タイプのGPIsを使用できます:

- 入力1~4は、フォトカプラ絶縁入力です。
- 出力1~4は、リレー出力です。
- GPIs TTLラインは、4TTL入力または4TTL出力にコンフィグでき、どちらの場合でも番号5~8です。

Issue 15.3.C - December 2017

使っているプロトコル次第では、以下の機能が有効で、下記のFunctionパラメータに記載されているように、GPIsに割り 当て可能です。

- AVSP: Play, Stop, Still, Recue, GotoClipIN, GotoClipOUT, Next, Skip
- Sony: Play, Pause, Recue, Previous, Next, Skip
- DD35: Play, Pause, Recue, Previous, Next, Skip
- Odetics: Play, Pause, Recue, Next
- VDCP: Play, Pause, Recue, Previous, Next, Skip



AVSP以外の全てのプロトコルでは、デバイスプロトコルタイプ (Sony BVW75、Odetics)の替わりに、チャンネル割り 当て(PGM1~PGM6)使用して下さい。

AVSPプロトコルは、特別なシリアルAVSPコマンドで設定するため、このページ内のGPIN設定は、必要ありません。 そのため、特別なAVSPコマンドは、GPIIN用のFunctionパラメータ経由では使用できません。

TTL GPIs set as GPIs

説明	4つの設定可能GPIsを、入力または出力に設定します。
値	In / Out
デフォルト値	In

GPIs IN - Channel/Device

説明	サーバーチャンネル、または対応するGPI入カラインに接続されている外部デバイスを指定、すな
	わち、どのチャンネルまたはデバイスにGPIが送られるかを指定します。
値	下記の値が有効で、Channel and Control設定(Channelタブ、ページ1)内で割り当てられているチャン
	ネルまたはコントローラの1つに対応しています:
	● PGMx: GPIは、指定したPLAYチャンネルに送られます。
	● RECx: GPIは、指定したRECORDチャンネルに送られます。
	● RMTx: GPIは、LSMリモコンに送られます。
	● 〈Protocol Name〉: GPIは、サードパーティーコントロールデバイスに送られます。

GPIs IN - Port

説明	入力信号を受け取るサーバーのRS422ポートを指定します。 この設定は、デバイスがEVSLSMリモコンまたはサードパーティーコントローラーのときに、関係 します。
値	可能な値は、1~16です: これは、Port設定内(Channelsタブ、ページ1)で、Channel/Deviceフィールド内で指定されたコントローラ が割り当てられるRS422ポートに対応しています。



GPIs IN - I	Function
説明	GPI入力ラインに関連付ける機能を指定します。
	設定したプロトコルに依存して、以下に記載された一部または全部の機能を使用できます。
値	● Play: 選択チャンネル上で、100%PLAYコマンドを送ります。
	● Pause: 選択チャンネル上で、PAUSEコマンドを送ります。
	● Recue: 選択チャンネル上で、オンエア素材のINポイントへのJUMPを送ります。
	(プレイリストの場合には、プレイリストの最初のクリップのINポイントにジャンプします)
	● Previous: 選択チャンネル上で、プレイリストの前のクリップにGoToするコマンドを送ります。
	● Next: 選択チャンネル上で、プレイリストの次のクリップにGoToするコマンドを送ります。
	● Skip: 選択チャンネル上で、再生中のクリップをSKIPするコマンドを送ります。
	● Tally: 選択チャンネル上で、オンエアフラグをオン/オフします。
	(このGPIは、IPDirectorでのみ使います)
	● Mark IN: 対応するRECORDチャンネル上に、INポイントを設定します。
	● Mark OUT: 対応するRECORDチャンネル上に、OUTポイントを設定します。
	● Mark Tly: ディレクターズカットのカメラアングル変更に基づいて、レコードトレイン上にINとOUT
	ポイントを設定します。
	ディレクターが切り替えた先のトレイン上にINポイントが設定され、ディレクターが離れるとOUT
	ポイントを設定します。
	● Exit ASP: 現在の素材を最後まで再生せずに、可能な限り早くループを終了して、選択素材に
	JUMPするコマンドを送ります。
	(このGPIは、IPDirectorのプレイリストで使用します)
	● Exit OUT: 現在の素材のOUTポイントに着くと、可能な限り早くループを終了して、選択素材に
	JUMPするコマンドを送ります。
	(このGPIは、IPDirectorのプレイリストで使用します)
	● None: 値を設定しません。
デフォルト値	None

GPIs IN - Delay

説明	サーバーが、入力信号を受けてから、入力に関連する機能を実行するまでの待ち時間(秒/フレ					
	ーム)を設定します。					
値	● 00s00fr ~ 02s00fr					
	Disable					
デフォルト値	Disable					

GPIs OUT - Function

説明	出カラインをアクティブにする機能を設定します。			
値	以下の機能が、GPI OUTIこトリガできます:			
	Replace			



GPIs OU	IT – Type					
説明	指定機能にトリガするGPI出力信号を設定します。					
値	以下の値が使用可能です:					
	● close 」 動作時、レベルがHIGHレベルに替わります。					
	● close pulse 動作時、立ち上がりエッジパルスが作成されます。					
	● open 動作時、レベルがLOWレベルに替わります。					
	● open pulse 動作時、立ち下がりエッジパルスが作成されます。					

GPIs OUT - Advance

説明	出カラインにリンクしたタイムコードより先の出力が作成される時間、秒/フレーム)を指定します。
値	● 00s00fr ~ 02s00fr
	Disable
デフォルト値	Disable

GPIs OUT - Pulse duration

説明	パルスタイプ出カライン用のパルスデュレーション(秒/フレーム)を設定します。
値	 ● 00s00fr ~ 02s00fr(2フレームステップ) ● Disable
デフォルト値	Disable



4.7.3. Tally Playlist設定

序文

TALLY Playlist設定では、タリー機能関連の設定を行います。

この機能は、ディレクターズカットとともに実行され、カメラ映像が切り替わるたびに自動的にクリップを作成し、プレイリストにそれらのクリップを追加します。

ディレクターがカメラアングルを変更するたびに、スィッチャーからGPI IN信号を受け、自動的にクリップを作成します。

ユーザーインターフェース

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、GPIタブ
- LSMリモコンのTechnicalメニュー(T6.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのGPIタブ上のTally設定です:

Tally playlist	
Tally:	
Add clip to PL:	99
Clips guardbands:	0 s

Tally Playlist機能を有効化にする方法

タリー機能を使うには、以下を行います:

- 1. Tallyパラメータを使って有効化します。
- 2. GPIs IN設定エリアに移動し、タリー制御で使用するGPI INを選択します。
- 3. Director'sCutが起動しているREC上のChannel/Deviceを設定します。
- 4. 機能を、Mark Tlyに設定します。

タリー機能が有効になり、以下のように動作します:

サーバーが 'Mark tally' GPI INを受けると、対応するレコードトレイン(例: CAM A)上にINポイントがマークされます。 異なるレコードトレイン上 (例: CAM B)で、2番目の 'Mark Tally' GPI IN を受けると、サーバーは、最初のレコードト レイン(CAM A)上にOUTポイントを、2番目のレコードトレイン(CAM B)上にINポイントをマークします。 この方法で作成された全てのクリップは、指定プレイリストに追加されます。

Tally

説明	タリー機能を有効/無効化します。
値	Yes/No
デフォルト値	Yes

Add clip to PL

説明	プレイリストのLSMIDを選択し、そこにタリーのクリップが追加されます。
値	10~99
デフォルト値	99



Clips guardbands

説明	タリークリップのガードバンドの長さを、秒で設定します。
値	0~ 250
デフォルト値	0



4.8. Operationタブ

4.8.1. 概要

Operationタブ

Operationタブは、オペレーション設定を持つデフォルトタブとして使用可能です。 サーバーベースアプリケーションのベーシックモードで複数のページでコンフィグされています。 このタブには、アドバンストモードはありません。

以下の表は、Operationタブの設定です。

色々な設定が可能かどうかを示しています:

- サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェースイ内のベーシック/アドバンスト表示モード
- LSMリモコンの Operational Setup メニュー

Op-SharedタブとOp-1/2タブ

Dual LSMモードでは、オペレーション設定が2つのグループに分かれるために、標準のOperationタブはありません

● ほとんどのオペレーション設定は、両方のLSMオペレータ用に共通で保持されます。

- Op-Shared タブ内 (サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース内)
- 1番目のLSMオペレータの1番目のLSMリモコンの Operational Setup メニュー内
- いくつかのオペレーション設定は、複製されるため、各LSMオペレータは独自の設定が可能です。
 - Op-1/2 タブ内 (page 8) (サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース内)
 - 各オペレータの1番目のリモコンのOperational Setup メニュー内、標準セクション後のページ内、
 Operator 1 または Operator 2セクション内

以下の表では、Dual LSMで複製される設定は、Duplicated in Dual LSM カラムでチェックされています。

設定名	Basic	Operational Setup	Duplicated in Dual LSM
OSD settings		1.x	
Cue Number on OSD	X	X	—
Keyword info	X	X	—
OSD on outputs	X	X	—
OSD on inputs	X	X	—
Background	X	X	—
Tally	X	X	—
Audio meters OSD settings		1.x	
Audio Meters	X	X	—
DB Adjust	X	X	—
Style	X	X	_
Thickness	X	X	—

OSD Settings



Clips Settings

設定名	Basic	Operational Setup	Duplicated in Dual LSM
Clips settings		2.x	
Automake clip for cam A to L	Х	X	X
Make clips rem. trains	Х	X	—
Guardbands	Х	X	X
Default clip duration	Х	X	X
Autoname clips	Х	X	X
Clip post -r oll	Х	X	—
Mark cue points	Х	X	X
Preroll	Х	X	—
Record trains OUTs	Х	X	—
Freeze on cue points	Х	X	X
Network Copy/Push	Х	X	—
Codec target	Х	X	—
Protocol receive page	Х	X	—
Playlist receive page	Х	X	—
Timeline receive page	Х	X	_

Playlist Settings

設定名	Basic	Operational Setup	Duplicated in Dual LSM
Playlist settings		3.x	
Video effect duration	X	X	X
Audio locked to video	X	X	X
Audio effect duration	X	X	X
Wipe type	X	X	—
Default playlist speed	X	X	X
Insert SLSM native speed	X	X	Х
Insert in playlist	X	X	X
Confirm Ins/Del clips	X	X	—
Advanced audio editing	X	X	X
Extend split transition	X	X	Х
Swap audio tracks	X	X	—
Playlist loop	X	X	Х
Playlist auto fill	X	X	—
Fade to/from color	X	X	—
Load playlist	X	X	X



Miscellaneous Settings

設定名	Basic	Operational Setup	Duplicated in Dual LSM
Timeline settings		4.x	
Mono per group	X	X	—
TL Operator	X	X	—
Protection settings		5.x	—
Protect pages	X	X	—
Clip edit by network	X	X	—
Confirm delete clips/playlists	X	X	X
Keywords settings		6.x	
Keyword files	X	X	—
Keyword mode	X	X	—
Push settings		7.x	
Push target	X	X	—
Codec target	X	X	—
Push target 1/2	X	X	X
Push mode	X	X	—
Push receive page	X	X	—
Push receive slots	X	X	—
Audio settings		8.x	
Audio slow motion	X	X	_
Lipsync value	X	X	_
Aux track output	X	X	

Controller Settings

設定名	Basic	Operational Setup	Duplicated in Dual LSM
Controller settings		9.x	
Effect duration for take	Х	X	X
Fastjog	Х	X	—
PGM Speed/Var max	Х	X	—
Lever engage mode	Х	X	X
Second lever range	Х	X	X
Recall clip toggle	Х	X	X
Record key	Х	X	—
VGA & Remote sync	Х	X	
Call channel VGA	Х	X	—
PGM/PRV mode	Х	X	—
Internal loop mode	Х	X	—
Loop button	Х	X	Х
Browse button	Х	Х	Х



Hypermotion Settings

設定名	Basic	Operational Setup
Hypermotion settings		11.x
Hypermotion	X	X
Recorder	X	X
Remote mode	X	X
Port	X	X
Protocol	X	X
Dial Speed	X	X

Special Effects Settings

設定名	Basic	Operational Setup
Special Effects settings		12.x
Pain/target transition	X	X
Set colour for	X	X
Colour	X	X
Custom Y	X	X
Custom U	X	X
Custom V	X	X
Split screen tracking	X	X
Paint/target OSD mon.	X	X
Internal offside line	X	X
Epsio	X	X
IP address	X	X
Default tool	X	X
Auto mark	X	X



4.8.2. OSD設定

ユーザーインターフェース

OSD設定では、OSD上にどの情報がどのように表示されるかを設定します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、Operationタブ
- LSMリモコンのOperationalメニュー内(1.1)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブのOSD設定です:

1	_ OSD	
I	Cue number on OSD:	
I	Keyword info:	•
	OSD on outputs:	2
	OSD on inputs:	2
	Background:	
	Tally:	Rec + PGM Y
1		

Cue number on OSD

説明	レコードトレイン内のキューポイントを呼び出した時、出力モニター上のOSDのキューポイント番号の表示をオ
	ン/オフします。
値	Yes(デフォルト)/No

Keyword info

説明	クリップがShort IN点でロードされた時、出力モニター上のOSDの設定されたキーワードとランキングの表示
	をオン/オフします。
	オペレータがクリップ内のジョグを開始/リプレイ表示時には、この情報はOSDから消されるため、ビデオ素
	材はクリアに見えます。
値	Yes / No(デフォルト)

OSD on outputs

説明	マルチビューワ(MV4)と個別のモニタリング出力上のPLAYチャンネル上のOSD表示をオン/オフします。
値	Yes(デフォルト)/No

OSD on inputs

説明	マルチビューワ(MV4)と個別のモニタリング入力上のRECORDチャンネル上のOSD表示をオン/オフします。
値	Yes(デフォルト)/No

Background

説明	OSD表示に、濃い灰色背景を適用します。
値	Yes / No(デフォルト)



Tally	
説明	Tally信号が、RECORD、PLAYチャンネル上に表示されるかどうかを設定します。
値	以下の値が、設定可能です:
	• No:
	Tally信号は、全てのモニタリング出力上に表示されません。
	Rec only:
	Tally信号は、RECORDチャンネルのモニタリング出力上に表示されます。
	PGM only:
	Tally信号は、PLAYチャンネルのモニタリング出力上に表示されます。
	• Rec + PGM:
	Tally信号は、RECORDとPLAYチャンネルのモニタリング出力上に表示されます。
デフォルト値	PGM + REC



4.8.3. Audio meters OSD 設定

ユーザーインターフェース

Audio meters OSD設定では、OSD上のオーディオメータ表示のオン/オフ、表示方法を設定します。

これらは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ内、Operationタブ
- LSMリモコンのOperationalメニュー内(1.2)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブ上のAudio meters OSD設定を表示しています:

Audio meters 05D	
Audio meters:	✓
DB adjust:	0.0 🗸
Style:	Light bars 🗸
Thickness:	Thin 🗸

Audio meters

説明	OSD上のオーデメータの表示をオン/オフします。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

DB adjust

説明	表示オーディオメーターの値を調整します。
値	-83.2~0.0 dB、可増。
	(低い値ではより大きく、値が増加するとより小さく)
デフォルト値	0.0

Style

説明	オーディオメーターのスタイルを設定します。
値	Light Bars、Glowing Boxes、Dark Boxes、Light Boxes、Dark Bars
デフォルト値	Light Bars

Thickness

説明	オーディオメーターの厚さを設定します。
値	Thin, Medium, Thick
デフォルト値	Thin



4.8.4. Clips設定

ユーザーインターフェイス

Clips設定は、クリップ管理の様々な要素に関連しています: クリップ定義、ストレージの場所、メタデータ、キューポイント

Clips設定は、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperationalメニュー内(2.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのClips設定です:

-Clinc	
Cilps	
Automake clip for CAM:	
Make clip rem. trains:	Ctrled CAMs 🗸
Guardbands:	5 s 0 fr
Default clip duration:	0 m 4 s 0 fr
Autoname clips:	Disabled v
Clip post-roll:	2 s 0 fr
Mark cue points:	Live 💌
Preroll:	0 s 5 fr
Record trains OUTs:	Play through 🗸
Freeze on cue points:	
Default copy/move:	Gigabit 🗸
Codec target:	Intra + LongGOP 🔽
Protocol receive page:	6 🕶
Playlist receive page:	1 2 3 4 5 6 7 8 9 √0
Timeline receive page:	1 2 3 4 5 6 7 8 9 √0

Automake clip for CAM A to L

有効	このパラメータは、Multicam LSM、 Replay- Only LSM、XSense コンフィグでのみ表示されます。
紹介	クリップ作成時、IN/OUTポイントがマークされたカメラに対応するクリップは常に保存されます。 他のカメラに対しても、自動的に同じ動作を保存することが可能です。 論理チャンネルに適用されているカメラ文字のみが表示されます。
説明	指定カメラ(A~L)上でINまたはOUTポイントがマークされなくても、クリップを作成します。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

Make clip rem. trains

有効	この設定は、ライセンスコード117が有効なときのみ、使用できます。
説明	リモートEVSサーバーの少なくとも1つのレコードトレインがコントロールされていれば、そのサーバ 一の全てのカメラのクリップを作成できます。
値	Ctrled Cams / All cams
デフォルト値	Ctrled Cams

Guardbands

説明	クリップ作成時に、クリップの前後に利用可能で保持するA/V素材(ガードバンド)の量を指定します
値	00s00fr~ 60s00fr
デフォルト値	05s00fr



Default clip duration

説明	1つの基準点(INまたはOUT)で作成されるクリップのデュレーションを設定します。
値	Disable、または、00s01fr~ 4h。
	'Disable'に設定すると、クリップ作成にはINとOUTポイント両方が必要です。
	デュレーションは、以下に設定できます:
	 ● 秒単位で、1分まで
	● 分単位で、1分から4時間まで
デフォルト値	04s00fr

Autoname clips

説明	この機能が有効な場合には、選択フィールドの値が、クリップ作成時の名前付けに自動的に使用
	されます。
値	以下のフィールドからの値が、クリップの自動名前付けに使用されます:
	Disable :
	クリップ作成時に、名前は付けられません。
	• TC IN:
	クリップ作成時に、クリップのINポイントのタイムコードが自動的に割り当てられます。
	CAM Name:
	クリップ作成時に、RECORDチャンネルの名前が自動的に割り当てられます。
	ID Louth:
	クリップ作成時に、クリップのID Louth(XNetネットワーク上のクリップのユニーク識別子)が
	自動的に割り当てられます。
	● VarID 32:
	クリップ作成時に、クリップのVariDが割り当てられます。
	このオプションを選択すると、クリップの名前割り当てに使用するVarIDは、この フィールドの
	最初の8文字に制限されます。
デフォルト値	Disable

Clip post-roll

説明	Secondary clipメニューからpost-roll機能が有効な場合、クリップは、Clip post-rollパラメータで設定さ
	れたデュレーション間OUTポイントを越えて再生します。
	によって規定された期間OUT点以降まで再生します。
	これは、Record Train OUTsパラメータが' Freeze' に設定されている時には、レコードトレイン内でも
	有効です。
値	00s00fr ~ 600s00fr
デフォルト値	02s00fr


Mark cue points

説明	キューポイントタイムコードが、どのように記録されるか設定します。
値	2つの値が、選択できます:
	Live:
	ライブ入力のタイムコードを基に、キューポイントを記録します。
	Playback:
	メインPLAYチャンネル上にロードされているフィールドのタイムコードを基に、キューポイントを
	記録します。
デフォルト値	直 Live

Preroll

説明	キューポイント呼び出し時に使用するプリロールデュレーション。
値	0s01fr ~ 5s00fr
デフォルト値	0s05fr

Record trains OUTs

説明	Multicamが、再生中に、レコードトレイン上にマークされたOUTポイントに到達した時に、フリーズす
	るか、再生し続けるか、を設定します。
値	2つの値が、選択できます:
	Play through:
	MulticamはOUTポイントへのカウントダウンはしますが、その点では停止せず再生を続けます。
	Freeze:
	MulticamはOUTポイントヘカウントダウンし、自動的にフリーズします:
	○ Post-rollがOFFの場合には、そのポイント上でフリーズ
	○ Post-rollがONの場合には、そのポイント+post-rollデュレーション進んでからフリーズ
	クリップ再生時には、Multicamlは、常にOUTポイント上でフリーズします。
	(Post-rollがONの場合には、OUTポイント+post-rollデュレーション)。
デフォルト値	Play through

Freeze on cue points

説明	再生中のクリップまたはレコードトレイン上のキューポイントに到達すると、Multicamがフリーズする
	n、 r 、 r 、 r
	この方法にている、postTollハンノノーンは方思されるとい。
値	No:
	クリップ/レコードトレイン再生時、再生はキューポイントを超えて再生します。
	Clips + Trains:
	キューポイントが設定されたクリップ/レコードトレイン再生時、再生はキューポイント上で
	フリーズします。
	Clips:
	キューポイントが設定されたクリップ再生時、再生はキューポイント上でフリーズします。
	Record Trains:
	キューポイントが設定されたレコードトレイン再生時、再生はキューポイント上でフリーズ
	します。
デフォルト値	No



Network copy/Push ('Default Copy/Move'の替わり)

説明	ネットワークサーバー上に、コピー/Push/クリップ作成を行う時に、ネットワークを選択できます。
	この設定は、目的のマシンが、SDTIとGbEネットワーク両方で見えている場合に、考慮されます。
値	2つの値を選択できます:
	SDTI:
	SDTIネットワーク経由で、操作が実行されます。
	GbEインターフェースへのフェイルオーバーメカニズムはありません。
	Gigabit (SDTI failover):
	最初に、GbEインターフェイス経由でのコピーが実行されます。
	転送が不可能な場合(ポートに接続されない、IPアドレス不明、ポートに空きがない等)で、
	EVSサーバーがモノエッセンスモードの場合には、SDTIを使っての転送を試みます。
	ここでどんな値を設定しても、もし、両方のネットワークが使用可能なら、以下のルールが適用されま
	す。
	● GbEターゲットへの転送は、常に、GbEインターフェース経由で実行されます。
	● メタデータは、常に、SDTIインターフェース経由で転送されます。
	オプションコード117(SDTI)が無効だったり、SDTIネットワークがアクディブでない場合には、強制的に
	Gigabitになります。
デフォルト値	SDTI

Codec target

説明	リモートサーバーにクリップをコピーする場合に、クリップのどちらのエッセンスを使用するかを指定
	します。
値	2つの値を、選択できます:
	● Intra: イントラエッセンスのみがコピーされます。
	● Intra + LongGOP: イントラとLongGOP両方のエッセンスがコピーされます。
	Proxyエッセンスがアクティブな場合には、常にコピーされます。
	その場合、この選択はできません。
デフォルトイ	直 Intra + LongGOP

Protocol Receive page

説明	プロトコルにより作成されたクリップが保存されるページを指定します。 ページが一杯の場合には、クリップは次のページに保存されます。 このページ上に作成されたクリップ(最初のページが一杯の場合には他のページ)のみが、プロトコル から閲覧できます。
値	1 ~ 10(=0)
デフォルト値	6

Playlist Receive page

紹介	この設定は、ローカルまたはネットワークプレイリストのコピー時に、ユーザーに全てのネットワーク
	クリップのローカルコピーの自動的な作成を許可するコピー機能とリンクしています。
有効	ライセンスンコード111または112が有効な場合のみ、設定できます。
説明	PLST+CLIPコピー機能使用時、受け取ったクリップが保存されるページを指定します。
	クリップページは、同時に、PUSHとPLST Receiveページに割り当てられます。
値	1 ~ 10(=0)
デフォルト値	0 (page 10)



Timeline Receive page	
説明	タイムラインモード内で、タイムライン編集プロセスの一部として自動的に作成されたクリップが保存 されるページを指定します。
値	1 ~ 10(=0)
デフォルト値	0 (page 10)



4.8.5. Playlist 設定

ユーザーインターフェース

Playlist設定は、プレイリストの管理とエフェクトのさまざまな側面に関連します。

これらのフィールドは、以下のインターフェイス内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperational setupメニュー内(3.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのPlaylist設定です:

	r Plavlist		
	Video effect duration:	0 s 10 fr	
I	Audio locked to video:	2	
I	Wipe type:	Vert. L>R 💙	
I	Default playlist speed:	Unknown 🖌	
I	Insert SLSM native speed:		
I	Insert in playlist:	Before 🗸	
I	Confirm Ins/Del clips:		
I	Advanced audio editing:		
I	Extend split transition:	Center cut 🗸	
I	Swap audio tracks:	Auto 🖌	
I	Playlist loop:		
I	Playlist auto fill:	All CAMs 👻	
I	Fade to/from color:	Black 🗸	
I	Load playlist:	Always 🗸	

有効

Playlist設定は、ライセンスコード111または112が有効な場合のみ使用できます。

いくつかのプレイリスト設定はコード112に関連するため、ライセンスコードが有効でない場合には使用できません。

プロトコル経由で、排他的に、プレイリストの作成と管理も可能です。

この場合には、Playlist設定は使用できず、プレイリスト関連の全てのパラメータは、制御アプリケーションまたはデ バイスにより設定されます。

Video effect duration

説明	ビデオトランジションエフェクトのデュレーションを設定します。
	設定値は、Playlist Editモードのデフォルト値として使用されます。
	1PGM+PRVモードのTAKEボタン使用時のビデオトランジションのデュレーションは独自のパラメー
	タEffect for takeを持ち、OperationタブのEVS Controllerエリア内で設定します。
値	0s00fr ~ 20s00fr
デフォルト値	00s10fr



Audio locked to video

有効	この設定は、ライセンスコード112が有効な時のみ使用できます。
説明	Advanced Audio Editingパラメータが有効な場合に、プレイリスト内のオーディオとビデオのトランジション用に異なるデュレーションを設定できるかどうかを指定します。 この設定は、Advanced Audio Editingパラメータがdisabledの場合には無関係になります。
値	 有効な値は、以下です: Yes: プレイリスト内のビデオとオーディオトランジションのデュレーションは、 異なる事はできません。(同じです) No: プレイリスト内のビデオとオーディオトランジションのデュレーションは、 異なる事ができます。 Advanced Audio Editing用のライセンスコード112が有効でない場合には、パラメータ値は強制的に 'Yes' になります。
デフォルト値	Yes

Audio effect duration

有効	この設定は、ライセンスコード112が有効なときのみ使用できます。
	この設定は、Audio locked to video設定が Noのときに使用できます。
説明	以下の場合に、オーディオトランジションエフェクトのデュレーションを設定します:
	● Advanced Audio Editing設定が有効
	● Audio locked to video設定が'No'
	設定値は、Playlist Edit modeのデフォルト値として使われます。
	Advanced Audio Editingが無効な場合には、Video Effect Durationに基づき、ビデオとオーディオトランジ
	ションは常に同じデュレーションを持つため、この設定は無関係です。
値	0s00fr ~ 20s00fr
デフォルト値	0s00fr

Wipe type

説明	垂直ワイプエフェクトを設定します。
値	Vert. L>R / Vert. R>L
デフォルト値	Vert L>R

Default playlist speed

説明	プレイリスト内のクリップ再生で使用する、デフォルトスピードを設定します。
値	以下の値が可能です:
	● Unknown: プレイリスト内の前のクリップのスピードを、現在のクリップのリファレンスとして使用
	します。
	● 0%: 各クリップの最後でプレイリストを強制一時停止します。
	● 1% ~ 100%: 設定スピードを、プレイリスト素材用のデフォルトスピードとして適用します。
デフォルト値	Unknown



Insert SLSN	Insert SLSM native speed	
説明	プレイリストに挿入されたSLSMクリップが、自動的にネイティブ速度で再生されるようにセットされ	
	るか、Default playlist speedパラメータで設定された値でセットされるかを設定します。	
値	以下の値が可能です:	
	• No:	
	SLSMクリップの再生速度は、Default playlist speed内で設定されている値に依存します。	
	• Yes:	
	SLSMクリップの再生速度は、自動的に、ネイティブ速度にセットされます。	
デフォルト値	No	

Insert in playlist

説明	クリップをプレイリストに追加する時に、プレイリスト内のアクティブクリップの前/後ろに挿入される かを設定します。
値	After / Before
デフォルト値	Before

Confirm Ins/Del clips

説明	クリップをプレイリストに追加、またはプレイリストからクリップを削除する時に、毎回、確認が必要 かどうかを設定します。
値	Yes / No
デフォルト値	No

Advanced audio editing

有効	この設定は、ライセンスコード112が有効なときのみ使用できます。
説明	Playlist Editモード内での非同期(オーディオ/ビデオ)編集を、オン/オフします。 このパラメータを変更すると、出力上の表示を変え、ビデオとオーディオトラック上に異なるトランジ ションポイントとデュレーションを設定するためのLCDスクリーン上に特別な機能キーを追加します
値	Yes / No
デフォルト値	No

Extend split transition

有効	この設定は、ラインセンスコード112が有効なときのみ使用できます。
説明	オーディオまたはビデオのみのトランジションデュレーションが変更されたとき、トランジションがどのように伸張されるかを設定します。 このパラメータは、スプリットオーディオ編集を行うときのみ有効です。
値	以下の値が可能です: ● Center (on) Cut: トランジションの両端上で、等しく伸張します。 ● End (on) Cut: トランジションの開始を左へ伸ばし、トランジションの終わりは変更なしです。 ● Start (on) Cut: トランジションの終わりを右へ伸ばし、トランジションの開始は変更 なしです。 ● Ask: トランジションのデュレーション編集時に、オペレータは上記オプションのどれでも選択 できます。
デフォルト値	Center Cut



Auto

Swap au	udio tracks
有効	この設定は、ライセンスコード112が有効なときのみ使用できます。
説明	少なくとも4モノオーディオトラック/ビデオでのスプリットオーディオ編集実行時に、スワップするオ ーディオトラックを、自動的または手動で選択するかを設定します。
值	以下の値が可能です: ● Auto: スワップポイント挿入時、スワップするオーディオトラックは、アプリケーションにより自動的に 選択されます。 これが、4オーディオコンフィグの場合のデフォルト値です。 ● Manual:
	スワップポイント挿入時、オペレータは、スワップしたいオーディオトラックを設定できます。

これは、8と16オーディオコンフィグのみで有効です。

Playlist loop

デフォルト値

説明	PLAYモード内のプレイリストを、ループさせ、連続再生させるかどうかを設定します。
値	Yes / No
デフォルト値	No

Playlist auto fill

説明	LSMリモコンのメインメニューからFill Playlist (F9)機能を使うとき、どのカメラアングルがプレイリスト
	に追加されるかを設定します。
値	以下の値が可能です:
	● All Cam: 全てのカメラアングルのクリップが、プレイリストに追加されます。
	● Prim+Sec: プライマリとセカンダリカメラアングルに対応するクリップが、プレイリストに追加
	されます。
	● Primary: プライマリカメラアングルに対応するクリップが、プレイリストに追加されます。
	● Secondary: セカンダリカメラアングルに対応するクリップが、プレイリストに追加されます。
	● Cam A、Cam B、Cam C、Cam D、Cam E、Cam F: 設定されたカメラアングルに対応する
	クリップがプレイリストに追加されます。
デフォルト値	All Cam

Fade to/from color

説明	トランジションエフェクトの「fade to color」、「fade from color」、「fade to/from color」(V fade)で使用され る色を設定します。
値	Black / White
デフォルト値	Black







4.8.6. Timeline設定

ユーザーインターフェース

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperational setupメニュー内(4.1)

Timeline設定は、タイムライン内のオーディオグループに関連しています。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブのTimeline設定を表示しています。

Mono per group: 4 🗸

Mono per group

説明	タイムラインの両方のオーディオトラックのそれぞれに、いくつのオーディオモノトラックを関連付ける かを設定します。		
値	以下の値が可能で、Channelsタブ内のNumber of tracks設定の値に依存します。		
		トラック数	可能值
		4	2
		8	4(デフォルト)、2+6、6+2
		16	8



2+6機能は、Dolby音声で作業中に、タイムライントラックにステレオペアとその他のトラックを、Dolby 5.1オーディオに 関連付ける時に、特に便利です。

TL Operator

有効	このパラメータは、特定の状態でのみ有効で、ライセンスコード 116 (Dual LSMオプション)が必要で
	9 °
説明	Dual LSMモード時に、どのオペレータがTimeline機能を使用でき、Timelineエンジンをコントロール できるかを設定します。
値	1 (オペレータ#1)または2 (オペレータ#2)



4.8.7. Protection設定

ユーザーインターフェース

Protection設定は、EVSサーバー上に保存されているクリップを削除から防ぐ目的です。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperational setupメニュー内(5.1)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのProtection設定を表示しています。

Protection Protect pages: ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ♥ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 0 Clip edit by network: ■ Confirm delete clips/playlist: Off ♥

Protect pages

説明	そのページ上に保存されているクリップを過失による削除から保護するページを指定します。
	これらのページ上に保存されたクリップは、LSMリモコンのメインメニューのClear All Clips (F7)機能使
	用時にも、保護されます。
値	ページ 1~10(=0)。
	複数ページも、選択可能です。



サーバーベースアプリケーションアプリケーションのMulticam Setupウィンドウ内でClear Video Disksを選択すると、 保護クリップを含む、全てのクリップが削除されます。

Clip edit by network

有効	この設定は、ライセンスコード117が有効なときのみ、使用可能です。	
説明	SDTIネットワーク全体上のクリップの編集を許可します。	
値	以下の値が、可能です:	
	• Yes:	
	ネットワーク上の他のユーザーも、あなたのクリップのトリム/名前変更/削除/その他、クリップに	
	関連するキーワード/ランキングの変更が可能です。	
	• No:	
	ローカルオペレータのみが、サーバー上のクリップの変更/削除/メタデータの編集可能です。	
デフォルト値	No	

Confirm delete clips/playlists

説明	クリップ/プレイリスト、または両方を消去するときに、確認要求をするように設定します。
値	以下の値が、可能です:
	Off:
	クリップとプレイリストは、即座に削除されます。
	Clips:
	クリップ削除時に確認要求されますが、プレイしスト削除時にはありません。

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3		Issue 15.3.C – December 2017		
	Playlists:			
	プレイリスト削除に確認要求されますが	が、クリップ削除時にはありません。		
	Clips & Playlists:			
	クリップ/プレイリストいずれの削除でき	し、確認要求されます。		
デフォルト値	Off			



このパラメータは、Clear Video Disksコマンド(サーバーベースアプリケーションアプリケーションのMulticam Setupウィンドウ内)には適用されず、このコマンドは独自の確認メッセージを持っています。



4.8.8. Keywords設定

ユーザーインターフェース

Keywords設定は、EVSサーバー上のキーワードの管理を許可します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります: Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内 OWebベースインターフェースインターフェースのページ1上 LSMリモコンのOperational setupメニュー内(6.1)



Keywords設定は、ライセンスコード124と125が有効な時のみ使用可能です。

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブ上のKeywords設定を表示しています:

-Keywords			
Keyword files:	SERVER	~	
Keyword mode:	List	~	

Keyword files

説明	キーワードのクリップへの割り当て、またはクリップデータベースの検索に使用するキーワードを設
	定します。
値	以下の値が、可能です:
	•:
	キーワードファイルは選択されておらず、キーワード割り当てと関連する検索機能は使用できま
	せん。
	• SERVER:
	アクティブなEVSサーバーからSDTIネットワーク上の全システムに送られたキーワードファイルを
	使用します。
	この値は、SDTIネットワーク使用時のみ、有効です。
	● <キーワードファイル名>:
	○ キーワードファイル(拡張子KWDを持つファイル)が、システムの
	C:¥LSMCE¥DATA¥KWDディレクトリ内にロードされると、ファイル名が表示されます。
	〇 キーワードファイルは、Multicam Setupウィンドウ内のImport/ExportKeyword Files機能を使用
	してインポートできます。
	○ キーワードファイルフォーマットとキーワードに関連する機能の詳細は、
	Multicamオペレーショナルマニュアル内の章"Keyword Management"を参照下さい。
デフォルト値	I(キーワードファイルは選択されていません)



Keyword	Keyword mode		
説明	EVSLSMリモコン上のキーワード割り当て/検索モードを設定します。		
値 以下の値が、可能です:			
	● List:		
	LSMリモコンのLCD上に、8つのキーワードを1グループとして表示し、オペレータは対応する		
	F_keyで選択可能です。		
	Numeric:		
	LCD上にキーワードリストを表示しませんが、オペレータはF_Keyを使って直接、キーワードDを		
	入力できます。		
	Numericモードは、記憶/VGAキーワード画面/キーワードリストの印刷から、オペレータが		
	キーワードファイル内のキーワードの位置を知っている時にはより早いです。		
デフォルト	ie List		



4.8.9. Push設定

ユーザーインターフェース

Push設定は、EVSサーバーのPush機能の管理に関連ます。 Push機能では、ネットワーク上の他のマシンへ、GbEネットワークまたはSDTIネットワーク経由で、クリップのコピーを 簡単に送れます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウインドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンOperational setup内 (7.1)



Pushu設定内の使用可能値は、SDTIハードウェアまたはGbEハードウェアの有無と、Networkタブ内のSpeed設定に依存 します。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブのPush設定です。

Push	
Push target:	Gigabit 🗸
Codec target:	Intra + LongGOP 💌
Push mode:	Short 🗸
Push receive page:	1 2 3 4 7 5 6 7 8 9 0
Push receive slots:	🗸 A 🖌 B 🖌 C 🗸 D 🛛 E 🔤 F 🔤 G 🔤 H 🔤 I 🔤 J 🔤 K 🔤 L

Push target

-	
説明	選択時に、どのEVSサーバーが、プッシュ動作のターゲットとしてリスト表示されるかを設定します:
	● 設定内のデフォルトTarget 1とTarget 2、または
	● デフォルトターゲット未設定時の、指定プッシュ動作用のターゲット
値	以下の値が、可能です:
	● SDTI:
	SDTIターゲットのみが、リスト表示されます。
	サーバーは、ネットワークシステム名と番号で表示されます。
	Gigabit:
	GbEネットワーク経由で到達可能で同じSDTIネットワーク上にないEVSサーバーのみ リスト表示
	されます。
	サーバーは、GbEサーバー名とIPアドレスで表示されます。
	SDTI+Gigabit:
	最初に同じSDTIネットワーク上でSDTI接続されたサーバーがリスト表示され、次に同じ
	SDTIネットワークにないサーバーでGbEネットワーク経由で到達可能なサーバーがリスト表示
	されます。
	GigabitとSDTI+Gigabitは、EVSサーバーがGbEボードを搭載していない場合には、使用できません。
デフォルト値	



Codec target

説明	プッシュ動作時に、クリップのどのエッセンスが使われるかを設定します。
値	2つの値が、可能です:
	● Intra: クリップのIntraエッセンスのみがプッシュされます。
	● Intra + LongGOP: クリップのIntraとLongGOPエッセンス両方が、プッシュされます。
	Proxyエッセンスが有効の時には、常にプッシュされます。
	従って、この値は選択できません。
デフォルト値	Intra + LongGOP

Push Target 1 / 2

有効	これらのパラメータは、サーバーベースアプリケーションでのみ使用可能で、Webベースインターフェ
	一スにはありません。
説明	オペレーターがLSMリモコン上のPUSH機能を使ったとき、クリップが自動的に送られるネットワーク
	上のマシンを設定します。
	この設定内で指定されたマシンは、クリップコピー時のデフォルトターゲットとしても使用あられます。
	ユーザーは、2つのデフォルトターゲットを設定可能です: Target 1/ Target 2。
	クリップは、順番にプッシュされます。
値	値のリストは、Target設定に割り当てられた値に依存して、表示されます:
	•:
	このパラメータ内にターゲットが設定されていないとき、ユーザーはPUSH機能要求時に、目的の
	ターゲットを指定できます。
	Intervention of the system name and number in the system name and number is a system name and number is a system of the syste
	ネットワークシステム名と番号がリスト表示され、SDTIネットワーク上に属するターゲットに割り当て
	できます。
	GbE server name and IP Address>
	GbEサーバー名とIPアドレスがリスト表示され、GbEネットワーク上に属するターゲットに 割り当て
	できます。
デフォルト値	(ターゲットマシン未指定)

Push mode

説明	クリップが、PUSH機能を使いどのように送られるか、つまりオリジナルのガードバンド込みかそうで
	ないか、を設定します。
値	以下の値が、可能です:
	• Short:
	クリップはShort INからShort OUTポイントまで送られ、転送先のサーバーのガードバンドが付加
	されます。
	• Long:
	クリップは、Protect INからProtect OUTまで送られます。
デフォルト値	Short



Push receive page

説明	他のネットワークオペレータがPUSH機能を使って送ったクリップが、最初に保存される自分のマシン のページを指定します。 最初のページの優先スロットが一杯の場合には、次のページの優先スロット上に保存されます。
値	Page1 ~10(=0)。 ひとつのページが選択可能です。
デフォルト値	(Page) 5

Push receive slots

説明	プッシュされたクリップが優先的に保存される、Push Receive Page設定で指定したページ上の開始ク リップ位置(A~1)を指定します。
値	スロットAからL。 複数スロットを選択できます。
デフォルト値	(CAM) A, B, C, D



4.8.10. Audio設定

ユーザーインターフェース

これらは、以下のインターフェース内にあります

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperational setupメニュー内(8.1)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブ上のAudio設定を表示しています:



Audio slow motion

説明	再生速度が100%以外のとき、オーディオトラックを再生するか、ミュートするかを設定します。
値	以下の値が、有効です: ● Yes: 再生中、オーディオトラックはミュートされません。 ● No: 再生中、オーディオトラックはミュートされます。
デフォルト値	No

Lipsync value (ms)

説明	ビデオとオーディオ信号間のディレイ値(ms)を設定します:
	● +値は、ビデオがオーディオより前です。
	● -値は、オーディオがビデオの前です。
値	以下の値が、可能です:
	● PALの範囲: -41,458~14,708 ms → 848 ~3544サンプル、0 ms → 2838サンプル
	● NTSCの範囲: -34,625~12,125 ms → 688~ 2932(サンプル)、0 ms → 2350サンプル
デフォルト値	0 ms



この調整は、収録中行います。

新しいリップシンク値は、次に収録される映像からのみ反映されます。



Aux trac	Aux track output		
説明	プレイリストのオグジュアリトラックが、どのオーディオ出力から再生されるか設定します。		
値	以下の値が、可能です: ● PRV: オグジュアリトラックは、通常、PRVチャンネルに割り当てられているオーディオ出力を使用します。 PRVチャンネルがない場合、Aux Trackはどのオーディオ出力にも割り当てられません。		
	● PRV&/-8/15-16: オグジュアリトラックは、通常、PRVチャンネルが1つなら、PRVチャンネルに割り当てられている オーディオ出力を使用し、さらに他のチャンネルに割り当てられていない 7-8/15-16の全ての オーディオ出力を使用します。		
	このオプションは、PRVチャネルなしでオグジュアリトラックが必要な場合に使用して下さい。 ● PGM: オグジュアリトラックは、通常、PGMチャンネルに割り当てられているオーディオ出力を使用します。		
デフォルト	值 PRV		



4.8.11. EVS controller設定

序文

EVS controller設定は、以下を集めています:

- LSMリモコンのキー/レバー/ジョグの動作に関連する設定
- EVSサーバー自体に関連する設定

ほとんどの設定は、EVSLSMリモコン(LSMリモコン、XSenseLSMリモコン)使用のベースコンフィグでのみ、使用可能/有効です。

ユーザーインターフェース

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

Multicam Configurationウインドウ、Operationタブ内

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのEVS controller設定画面です:

I	- EVE controllor	
I		
I	Effect duration for take:	0 5 5
	Fast jog:	20x 🗸
	PGM speed/Var max (%):	50 🔶
	Lever engage mode:	Direct 🗸
	Second lever range:	-100% <-> +100%
	Recall clip toggle:	
	Record key:	Start REC + Live Y
	VGA & remote sync:	No 🛩
	Call channel VGA:	
	PGM/PRV mode:	2
	Internal loop mode:	Video+Audio 🖍
	Loop button:	Internal loop 👻
	Browse button:	Browse 💌

Effect duration for take

説明	TAKEキーを使用し、2つのシーケンスをPGM+PRVモードでチェーンする時のトランジションのデュレ ーションを設定します。
値	値の範囲: 00s00fr ~ 20s00fr
デフォルト値	00s05fr

Fast jog

説明	LSMリモコンをFast Jogモードで使用するとき、どの程度ジャンプするかを設定します。
値	1 ~20倍の値が可能です。
デフォルト値	20x



. . . .

- - - - -

PGM speed / Var max	
有効	Var Maxオプションは、XSenseコンフィグでは使用できません。
コンテキスト	再生中に、LSMリモコンのセカンダリメニューでPGM SpeedまたはVar Maxが有効になると、レバーレンジが調整され:
	 0以外のレバー位置用の再生値のみが、セットアップ内のこのパラメーターで指定されているものです。 (PGM Spdモード オン)
	または、 ● レバーで設定スピード範囲は、のパラメーターで設定される値となります。 (VarMaxモード オン)
説明	PGM SpeedまたはVar Maxコマンド使用時に、レバーに割り当てられる再生恵安を設定します。
値	値の範囲: 1 ~ 400%
デフォルト値	50%

Lever engage mode





Second lever range

コンテキスト	レバーは、ノーマルモードで使用され、クリップをスローモーション速度0~100%間で再生します。 セカンダリレンジが使用可能で、素材を他の速度範囲で再生します。 LSMリモコンからセカンダリ速度にアクセスするには、SHIFT+LEVER/TAKEを押します。 プレイリストクリップの速度の編集時にも、セカンドレバーレンジが有効です。
説明	LSMリモコン上で、セカンダリスピード範囲を指定します。
値	以下の値が、可能です: $-100\% \rightarrow +100\%$ $0 \rightarrow +200\%$ $-200\% \rightarrow +200\%$ $0 \rightarrow +400\%$ $-400\% \rightarrow +400\%$
デフォルト値	$-100\% \rightarrow +100\%$

Recall clip toggle

説明	ファンクションキーを使用して、クリップのカメラ選択を可能/不可にします:			
	F_キーを複数回押し、CAMA、CAMB、CAMC、CAMD、CAME、CAMFとブラウズします。			
値	Yes / No			
デフォルト値	Yes			

Record key

説明	LSMリモコン上のRECORDキーの機能を変更します。
値	以下の値が、可能です:
	Start REC+Live:
	RECORDキーを押すと、収録プロセスを開始しLIVEモードに切り替えます。
	Live:
	RECORDキーを押すと、最後に収録された映像に切り替わるのみで、もしオペレータにより事前に
	停止されていたら、収録は再開されません。
デフォルト値	Start REC+Live

VGA & remote sync

説明	VGAスクリーンとLSMリモコンの現在のクリップマシン/ページ/バンクが、どのように同期するか設
	定します。
値	以下の値が、可能です:
	• No:
	クリップマシン/ページ/バンクは、VGA画面上とLSMリモコン上で、それぞれ独立して選択できます。
	● Yes:
	クリップマシン/ページ/バンクは、VGA画面とLSMリモコン間で同期します。
	片方で、ネットワークマシンのクリップに接続/ローカルマシンのクリップに戻る/新しいページや
	バンクを選択すると、自動的に、もう一方にも反映されます。
	Server:
	クリップページ/バンクは、VGA画面上とLSMリモコン上で、それぞれ独立して選択できますが、
	ネットワークマシンのクリップに接続/ローカルマシンのクリップに戻ると、自動的に、もう一方にも
	反映されます。
Default value	No



Call channel VGA

説明	VGA Clip画面上のCall Channel機能を可能/不可にします。				
	この機能では、キーボードとVGAから呼び出されたクリップがどのPGMチャンネル上にロードされるか、選択できます。				
値	Yes / No				
デフォルト値	Yes				

PGM/PRV mode

説明	LSMリモコンのメインメニュー上のAボタンからアクセス可能な機能として、LCD画面上でPGM/PRV					
	モードを選択可能です。					
	そうでなければ、PGM/PRVモード選択は、Aボタンからアクセスできません。					
値	以下の値が、可能です:					
	● Yes: PGM/PRVモードは、LSMリモコンのAキーから使用可能です。					
	● No: PGM/PRVモードは、LSMリモコンのAキーから使用できません。					
デフォルト値	Yes					

Internal loop mode

説明	Loopモードがオンになった時に、PGM1出力のどのコンポーネントがサーバーに書き戻されるかを 設定します。
値	以下の値が、可能です: Video + Audio: PGM1のビデオとオーディオ信号の両方が、CAMA入力に書き戻されます。 Video only: PGM1のビデオ信号のみが、CAMA入力に書き戻されます。 これにより、オペレータは、Loop処理中も、ライブオーディオトラックの収録継続が可能です。 これは、例えば、編集に、音楽/ボイス/ライブサウンドを追加する時に便利です。
デフォルト値	Video + Audio



エンベデッドオーディオの場合には、LoopモードがVideo + Audio、Video onlyいずれに設定されても、オーディオは 常にループされます。





Loop butto	n					
説明	SHIFT + LoopでのLoop機能の挙動を設定します。					
値	以下の値が可能です:					
	Internal loop :					
	Loopボタンを押すと、内部ループがオンになり、メイン出力PGM1がCAM A入力に書き戻さ れます。					
	Multicamコンフィグ内で最新のSLSMレコーダが設定されていると、内部ループは、使用で きません。					
	Loop clip:					
	ロードしているクリップのShort INとShort OUTポイント間にいるときに、Loopボタンを押すと、 クリップのShort INとShort OUTポイント間をループします。					
	Loop clip bounce:					
	ロードしているクリップのShort INとShort OUTポイント間にいるときに、Loopボタンを押すと、 クリップのShort INとShort OUTポイント間をバウンスループします。					
	Disable :					
	Loopボタンを押しても、何も影響しません。					
デフォルト値	Internal loop					

Browse button

説明	BROWSEキーの機能を、変更できます。
値	以下の値が有効です:
	Browse:
	○ キューポイントがない場合:
	直接、プレイリストブラウズ機能をアクティブにして、これは、このキーに割り当てられるデフォルト
	の機能です。
	〇 キューポイントがある場合:
	これは、クリップ、またはレコードトレイン上の設定されたキューポイント内のブラウズをアクティブ
	にします。
	• Sort TC:
	システムは、直接、Sort TCを実行します。
	システムは、ユーザーに選択メニューを提示せず、チャンネル上の現在のTCを使用して、最後に
	選択したカテゴリで検索します。
	もし、異なるカテゴリ(Search Net/Local、StartDate、EndDate、CAM/CLIP、その他)
	で検索したいなら、上部メニュー内の通常のSort-TC選択を使用して下さい。
デフォルト値	Browse

EV5

4.8.12. Hypermotion管理

ルール

ハイパーモーションカメラは、LSMリモコンから制作可能です。

カメラは、RS422またはLAN PCコネクタ経由で、制御するLSMリモコンと同じXT3サーバーにリンクします。 ハイパーモーションカメラを含む設定内では、以下のルールが適用されます:

- 1台のXT4Kサーバーは、複数台のハイパーモーションカメラを制御できません。
- ハイパーモーションカメラは、クラシックなチャネルコンフィグで利用可能です。
- 現在のRS422とチャンネルコンフィグの制約により、複数のPGMと複数のLSMリモコンを持つ全てのMulticam LSMコンフィグがサポートされているわけではありません。
- Hypermotion Controller設定内のRemote Mode設定を 'Hypermotion only' に設定すると、LSMリモコンの メインメニュー内に、追加メニューが使用可能になります。

LSMリモコン割り当て

複数のLSMリモコンと1つのハイパーモーションカメラの設定では、以下に依存して、以下のテーブルに示される ように、複数のPGMと1つのハイパーモーションカメラのLSMリモコンへの割り当ては、自動的に実行されます:

- 選択されたチャンネルコンフィグのPGM数
- 選択されたリモートモード (Hypermotion onlyまたはHypermotion + LSM)
- 使用可能なLSMリモコン数

LSMリモコン数		1		2		3		4
Hypermotion	Hyperm.	Hyperm.	Hyperm.	Hyperm.	Hyperm.	Hyperm.	Hyperm.	Hyperm.
モード	Only	+ LSM	Only	+ LSM	Only	+ LSM	Only	+ LSM
1 OUT	N/A	R1:PGM1	R1:PGM1	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
		+hyperm.	R2:hyperm.					
2 OUT	N/A	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	N/A	N/A	N/A
		+PGM2	+PGM2	R2:PGM2	R2:PGM2			
		+hyperm.	R2:hyperm.	+hyperm.	R3:hyperm.			
3 OUT	N/A	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	N/A
		+PGM2	+PGM2	+PGM2	+PGM2	R2:PGM2	R2:PGM2	
		+PGM3	+PGM3	R2:PGM3	R2:PGM3	R3:PGM3	R3:PGM3	
		+hyperm.	R2:hyperm.	+hyperm.	R3:hyperm.	+hyperm.	R4:hyperm.	
4 OUT	N/A	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1	R1:PGM1
		+PGM2	+PGM2	+PGM2	+PGM2	+PGM2	+PGM2	R2:PGM2
		+PGM3	+PGM3	+PGM3	R2:PGM3	R2:PGM3	R2:PGM3	R3:PGM3
		+hyperm.	R2:hyperm.	R2:PGM4	+PGM4	R3:PGM4	R3:PGM4	R4:PGM4
				+hyperm.	R3:hyperm.	+hyperm.	R4:hyperm.	+hyperm.
				OR				
				R1:PGM1				
				+PGM				
				R2:PGM3				
				+PGM4				
				+hyperm.				

以下のテーブルは、可能なコンフィグを表示しています:

'PGM1+PGM2'は、2PGMsモード、またはPGM/PRV モードを表しています。



▲ 警告

'N/A'は、現在の制限を考慮し、不可能なコンフィグです。

この場合、Hypermotion settingを'Yes'に設定しても、オペレーショナルメニュー内で、Hypermotionオプションは使用可能にはなりません。

Dual LSMモードとHypermotion Cameras

ハイパーモーションカメラは、以下の情報を考慮して、Dual LSMモード内で使用可能です:

- ハイパーモーションカメラは、LSMリモコン#2に関連付けられます。
- LSMオペレータ#2のみが、ハイパーモーションカメラをコントロールできます。

オペレータは、ハイパーモーションカメラのみをコントロールするLSMリモコンを使用、または、1台のLSMリモコン でSHIFT+Dを使用して、ハイパーモーションカメラとEVSサーバーの両方をコントロールできます。



4.8.13. Hypermotion controller設定

ユーザーインターフェース

Hypermotion controller設定では、LSMリモコンからのハイパーモーションカメラの制御に関連する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperational setupメニュー内 (P11.X)

ハイパーモーション機能と設定は、ライセンスコード20が有効なときのみ、可能です。 このライセンスコードにより、LSMリモコンからのハイパーモーションカメラの制御が可能になります。

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのHypermotion controller設定を表示しています:

I	- Hypermotion controller	
I	Typermotion conditioner	
	Hypermotion:	
	Recorder:	CAM A 🗸
	Remote mode:	Hypermotion only
	Port:	RS422 #6 🗸
	Protocol:	Sony 9-pin 🗸
	IP address:	192 · 168 · 10 · 60
	Dial speed (X):	10 🔶
1		

Hypermotion

説明	ハイパーモーションカメラ制御機能を、オン/オフします。 この設定がオンになると、オペレーショナルメニュー内のSHIFT+Dキーの組み合わせで、LSMリモコ ン上のhypermotionメニューへのアクセスと使用が可能になります。
値	Yes / No
デフォルト値	No

Recorder

説明	ハイパーモーションカメラからのA/V声素材が送られる、RECORDチャンネルを選択します。
値	CAM A ~ CAM D
デフォルト値	デフォルト値は、チャンネルコンフィグで設定された最後のカメラです。
	(例: 3 IN 3 OUTコンフィグのCAM C)

Remote mode

説明	サーバーで制御するカメラ素材を指定します。
値	Hypermotion only:
	サーバーは、ハイパーモーションカメラのみを制御します。
	追加LSMリモコンは、LSMリモコンのメインメニューから可能で、これは、これは
	ハイパーモーションカメラは追加外部カメラの扱いとなるからです。
	Hypermotion + LSM:
	サーバーは、ハイパーモーションカメラと1つのPGMを、exclusiveモードで制御します。
デフォルト値	Hypermotion only





Port

説明	どのポート(RS422またはLanPC)で、コマンドがハイパーモーションカメラに送られるか設定します。
	(Remote Modeパラメーターで Hypermotion + LSM"を選択たら、PGMへも有効になります)
値	以下の値が、可能です:
	● RS422 #2~RS422 #6
	● Lan PC
	ポート値は、カメラ固有です
デフォルト値	RS422 #6

Protocol

説明	選択ポートでデータ転送に使われるプロトコルタイプを設定します。
値	以下の値が、可能です:
	● TCP/UDP(Portを、Lan PCに設定したとき)。
	● ASCII/Sony 9-pin (Portを、RS422の1つに設定したとき)。
	プロトコル値は、カメラに固有です。
デフォルト値	● TCP (Portを、Lan PCに設定したとき)。
	● Sony 9-pin (Portを、RS422の1つに設定したとき)。

IP address

機能	この設定は、Port設定を、Lan PCに設定したときのみ、有効です。
説明	PCLANのIPアドレスを指定します。
値	XXX.XXX.XXX
デフォルト値	192.168.10.60

Dial speed

説明	ジョグ値に適用する乗去要素を設定します。	
値	値の範囲: 10x ~ 1000x(10の倍数)	
デフォルト値	10x	



4.8.14. Special effects設定

ユーザーインターフェース

Special effects設定では、エフェクトデュレーション/ワイプとスプリットエフェクトに使用する色やツール/オフサイドライン機能、その他に適用されるスペシャルエフェクトを設定します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります:

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- LSMリモコンのOperational setupメニュー内 (P12.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのSpecial effects設定を表示しています:

- Special effects	
Paint/target transition:	0 s 5 fr
Set colour for:	Wipe split 🗸
Colour:	White 🗸
Custom Y:	240
Custom U:	128
Custom V:	128
Split screen tracking:	
Paint/target OSD mon.:	SD 🗸
Internal offside line:	
Epsio:	None 🗸
IP address:	192 · 168 · 10 · 50
Default tool:	Offside 🗸
Auto mark:	•

Paint/target transition

有効	この設定は、ライセンスコード114または115、8-bitコーデック、互換ベースコンフィグで有効です。
説明	PaintingとTarget Trackingモード内のエフェクトのデュレーション(とスピード)を設定します。
値	00s01fr ~ 05s00fr
デフォルト値	00s05fr

Set colour for

有効	この設定は、ライセンスコード113、互換ベースコンフィグで有効です。
説明	デフォルト色を、指定ツールの、カーソル/ワイプエフェクトの境界線/スプリットスクリーンの分割線に
	適用します。
値	Wipe Split
	Cursor
デフォルト値	Wipe Split

Colour

有効	この設定と以下の3つの関連するカスタム設定は、ライセンスコード113で有効です。
説明	Set colour forパラメータ値に従い、カーソル/ワイプ/スプリットエフェクトに適用するデフォルト色を設
	定します。
値	White
	Black
	● Custom (Custom Y、U、V パラメータで設定)
デフォルト値	White



Custom Y

説明	Colourパラメータで使用するカスタム色のY値を設定します。
値	0~255
デフォルト値	240

Custom U

説明	Colourパラメータで使用するカスタム色のU値を設定します。	
値	0~255	
デフォルト値	128	

Custom V

説明	Colourパラメータで使用するカスタム色のV値を設定します。
値	0 ~ 255
デフォルト値	128

Split screen tracking

有効	この設定は、ライセンスコード113、互換ベースコンフィグで有効です。
説明	Split screenモードのオートトラッキングを、有効/無効にします。
値	Yes / No
デフォルト値	No

Paint/target OSD mon.

有効	この設定は、ライセンスコード114または115、8-bitコーデック、互換ベースコンフィグで有効です。
説明	PaintとTarget機能が、SDまたはHDを使用するかを設定します。
値	SD / HD
デフォルト値	HD



この設定は、EpsioLive使用時には、ライセンスコード114または115なしで有効です。 EpsioLiveで、OSD管理するには、設定をHDにしなければなりません。

Internal offside line

有効	Internal offside lineと関連する設定は、ライセンスコード114、8-bitコーデック、互換ベースコンフィグで有
	効です。
説明	Internal offside line機能をオン/オフし、オペレーショナルメニュー内のSHIFT+Dキーで、
	Internal offside lineメニューにアクセスします。
値	● Yes:
	SHIFT+Dで、Internal offside lineメニューにアクセスできます。
	• No:
	SHIFT+Dキーは、通常通りセカンダリコントローラーへのアクセスを可能にします。
デフォルト値	No



Epsio	
説明	Offside lineパラメーターがYesに設定されているとき、LSMリモコンよりEpsioアプリの制御を有効/無効
	にします。
値	None:
	Epsio と互換性はありません。
	Live (offside line):
	Epsio Liveアプリケーション(offside line含む)を有効にします。
	SHIFT+D キーで、Epsio Liveメニューへのアクセスを提供します。
	Zoom:
	Epsio Zoom外部ツールを使ったズームシーケンス作成用のEpsio Zoomへの接続が可能です。
	SHIFT+D キーで、Epsio Zoomメニューへのアクセスを提供します。
	Protocol
	汎用Epsio ServiceのLSMリモコンへの接続を可能にします。
	これにより、Epsioで、LSMリモコン上のインタラクティビティ、ジョグとレバーコントロールへの
	アクセスの設定が可能です。
デフォルト値	None

IP address

有効	この設定は、EpsioフィールドにProtocolを設定すると、使用できません。
説明	Epsio パラメータで、Epsio接続が有効になっているときに、ネットワーク上のEpsioワークステーション のIPアドレスを設定します。
値	XXX.XXX.XXX
デフォルト値	192.168.10.50

Default tool

有効	この設定は、EpsioフィールドにZoomまたはProtocolを設定すると、使用できません。
説明	EpsioパラメータでEpsio Live接続が有効のとき、LSMリモコン上のEpsioLiveメニュー内でデフォルトで使用するツールを選択します。
値	 Offside Arrow Circle Graphics
デフォルト値	Offside

Auto mark

有効	この設定は、EpsioフィールドにProtocolを設定すると、使用できません。
説明	LSMリモコン上で、EpsioオペレータがEpsioメニューに入るたびに、レコードトレイン上にキューポイン
	トを自動的に挿入する機能を有効/無効にします。
値	Yes / No
デフォルト値	No



4.8.15. Split Screen機能

説明

Split Screenモードは、PGM1上で、簡単なスプリットスクリーンエフェクトを可能にするソフトウェアオプションです。 このモードは、2つの出力が画面の左と右部分 (vertical split screen)、上と下部分 (horizontal split screen)、画面全体でミックス (split mix)以外は、2PGMモードととても似た操作です。

Split Screen機能は、XT3で、ライセンスコード113で有効です。

制限事項

XT3サーバー上では、Split Screen機能は、以下の制限付きでサポートされています:

- Split Screenは、HD (720p, 1080i, 1080p)で使用可能です。
- horizontal split screenモードは、HD Supermotion 3x DVCPro HD とMPEG 2 i-frame 1080i では、使用できません。
- Split Screenは、UHD-4Kコンフィグでは使用できません。
- Split Mixモードは、V4Xボード内蔵のサーバーでは使用できません。





5. モニタリング

5.1. サーバーモニタリング

5.1.1. SERVER MONITORINGウインドウの概要

サーバーモニタリング画面は、VGAのオペレーショナルOperationalウインドウから、SHET+F5で表示されます。

注意 このセクションは、サーバーベースアプリケーション内にのみあります。 Webベースインターフェースには、ありません。

5.1.2. General Informationウインドウ

序文

Server Monitoringセクション内のP1、General Informationウィンドウでは、EVSサーバーのシステム情報とメンテナンス コマンドを提供します:

SERVER	MONITORING PAGE 1		. b1
	Sh+F4:Network	Monitoring F9:CLIF	F10:PLS1
System Information Multicam version 15.01 Chassis typeXT3 6U Serial numberSerial number24940 Hardware Edition 4.20 Facility NameA024940 A024940 Net nameNet nameADL XT3 Net Number1 SDTI Type Master Local clipsLocal clips120/10800 0/32000			
Date and Time Date (dd/mm/yy) - time : 14/11	∣/2016 - 05:59:38 (\$yı	nchronized with LTC	:)
MaintenanceReset archive statusResync to TC refCENTER>Delete keyword fileRecord train resetCENTER>	<enter></enter>		
TAB: SELECT	PoDn:Po2	ALT+Q:EXIT	MULTICAM



System Information

フィールド名	説明
Multicam version	EVSサーバー上で動作中のMulticamのバージョン
Chassis type	サーバー筐体のタイプ(関連するサーバー高さ)
Serial number	EVSサーバーのシリアル番号
Hardware edition	EVSサーバーのハードウェアバージョン
Facility name	Multicam setupウィンドウ内、Toolsメニュー、Assign server facility nameオプションで、EVSサーバー
	に割り当てる名前(内部メンテナンス用)。
Net name	SDTIネットワーク上のマシン名。
	必須ではありません。
	しかし、動作中のコンフィグに結ばれているため、指定コンフィグで動作中のサーバーの識別が簡単
	に行えて便利です。
	Net Nameは、SDTロードが無効でも、表示されます。
	これは、Multicam Configurationウィンドウ、Networkタブ、SDTIセクション、Net nameパラメータで設
	定します。
Net number	ネットワーク上のマシン番号(1~29)。
	この番号は、ユーザー設定で、ネットワーク上の各システムでユニークでなければなりません。
SDTI type	SDTIネットワーク上のEVSサーバーの役割と権限。
Local clips	EVSサーバー上にローカル保存されているクリップの数(最大クリップ数に対する)。
Network clips	XNet上に保存されているクリップ数(最大クリップ数に対する)。

Date and Time

このセクションは、EVSサーバーの日付と時刻を表示します。

Maintenance

このセクションは、以下のメンテナンス動作を実行するコマンドを提供します:

コマンド	説明
Reset archive status	LSMリモコンのArchive機能でアーカイブステータスがオンになっている全てのクリップのフ
	ラグをリセットします。
Resync to TC ref	サーバーのタイムコードを、タイムコードリファレンス再同期させます。
Delete keyword file	選択したキーワードファイルを削除します。
	削除するキーワードファイルを選択するまでSPACEBARを押し、ENTERを押します。
Record train reset	フィールドカウンタがオーバフローする前に、レコードトレインをリセットします。
	リセットする前に、動作確認プロセスがあります。
Reconnect PC LAN	PC LAN接続を、再開始します。
	このオプションは、HS870 MTPCボード内蔵のEVSサーバー上でのみ使用可能です。
	これは、PC LANが切断され再接続された時に、EVSサーバーを再起動することを回避しま
	すが、PC LAN接続ステータスは正しく更新されません。



5.1.3. Raid and Disk Statusウィンドウ

序文

2ページ目は、内部/外部ストレージからのディスクまたはRaidの情報を提供します。



RAID type

Raid typeセクションは、Raidの数、Raidのタイプ(4+1または 5+1)、スペアディスクの数を表示します。 この情報は、変更できません。

RAID status

このセクションは、各Raidを番号で表示し、ステータス表示に色コードを使用します。

Raidがリビルド中には、Raid番号の代わりにリビルドパーセントが表示されます。 この値は、リビルドプロセスの進歩状況を表示します。

External Array Status

このセクションは、各外部アレイのステータスと潜在的な警告を表示します:

ステータス	意味
OK	アラートなし。
PSU1!、PSU2!	電源ユニットの問題。
FAN1!、FAN2!、FAN3!	ファンの問題。

Disk Status

このセクションは、外部/内部アレイのディスクの情報(ステータスなど)を提供し、以下です:

色コード	Raidステータス
薄灰色	OK: ディスクは、Raid内で接続されています。
赤色	Disconnected: ディスクは、物理的に存在していますが、ソフトウェアにより切断されています。
オレンジ色	Rebuilding: ディスクは、リビルド中です。
緑色	Spare: ディスクは接続されていますが、Raid内に含まれていません。
灰色	Not present: ディスクは、物理的にハードウェアに接続されていません。



Raidのディスクのハイライト方法

Disk Statusエリア内、Highlight Raidフィールドで、フィールドの右で指定されているRaid番号に属するディスクを、明るい灰色背景でのハイライト表示が可能です。

指定ディスクRaidのハイライトを変更するには:

1. Highlight raid フィールドを選択するまで、TABを押します。

2. ++キー、または↑↓→キーを押し、ハイライトさせたいraidを変更します。

ディスクステータス表示の変更方法

Disk Statusエリア内で、Displayフィールド内での選択により、2つのタイプの表現が可能です: ディスク番号またはRaid番号。

ディスクステータス表示を変更するには:

1. Display フィールドを選択するまで、TABを押します。

2. スペースバー、+++ー、または↑↓→+ーを押し、disksとraids(または逆)をトグルします。

ディスク表示

Disk表示は、各ディスクをアレイ内の番号/もし無ければ灰色の--で表示し、ステータス表示に色コードを使用します。

Disks	s St	tatı	15	Di	spla	av	lis	s		Hid	ml i	iant	t. m	aid	01									
EXT4	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
EXT3	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
EXT2	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
EXT1	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16			19	20	21	22		24
	11			12																				
INT2	07	08	09	10																				
	05	_	_	06																				
INT1	01	02	03	04																				

外部アレイは、最大24、最少 5 ディスクを持っています。 内部アレイは、1または2式の6個のディスクのアレイ構成できます。

Raid表示

Raid表示では、各ディスクをレイド番号/もし無ければ灰色の--で表示し、ステータス表示に色コードを使用します。 スペアディスクは、spで表示されます。

Disks Status	Display	raids	Highlight raid	1 01
EXT4				
EXT3 12 12 1	2 12 13 1	3 13 13 13	14 14 14 14 14	4 15 15 15 15 15 16 16 16 16 16
EXT2 07 07 0	7 08 08 0	8 08 08 09	09 09 09 09 10	0 10 10 10 10 11 11 11 11 11 12
EXT1 03 03 0	3 03 03 0	4 04 04 04	04 05 05 05 05	5 05 06 06 06 06 06 07 07 sp
02 02 0	2 02			
01 02 0	2 02			
INT1 01 01 0	1 01			


ディスクの番号付け

SASディスクは、特別な番号付けに従ったり、保持する必要はありません。

しかし、デフォルトでは、ディスクは、このセクション内のように番号付けされます。

外部アレイ内では、ディスクは、左から右へ、1~24まで、番号付けされます。 EXT1 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

固定ディスクの内部アレイ内:ディスクは、以下のように、1~6または12に番号付けされます:

INT: INT:		1	13	54	Ø6 Ø5
	07			12	
INT2	08	09	10	11	
	01	_	_	06	
INT1	02	03	04	05	

Hot-Swapディスクの内部アレイ内:ディスクは、以下のように、1~6または12に番号付けされます:

INT	05 09 01	06 10 02	and the second se	
	05	06	07	08

1つのRaid内のディスクは、独立して、物理ディスク番号付けで構成されます: 例:

INT2	02 02	02	02	sp sp
INT1	01 01	61	91	92 91



5.1.4. Timecode Statusウインドウ

序文

Server Monitoringセクションのこのページは、EVSサーバーからのgenlock、アナログLTC、タイムコードステータスを表示します。

このページは、タイムコードがタイムコードジャンプテーブル内でどのように管理されるかの設定に使用します。

		SERVER MC	NITO	RING I	AGE	3						
SH+ESC:UO	GA EXPLORER			Sh+F4	Net	work	Moni	tori	ng l	F9:CLI	P F:	LØ:P
Genloc	< status			Anal	log L	TC st	atus					
OK sir	nce 05/03/16 - 07	:26:16		07:3	5:07	:11	<ок		Dri	fts :	000	
TimeCod	le Status					Reco	order	s				
		01	02	03 04	L 05	06	07	08	09	10	11	12
LTC L1 L1 Pe Pe Fr Fr	[C jumps [C threshold eak alerts eak Limit (sec) requency alerts requency:Number requency:Time	001 353 301 313 314 315 315 315 315 315 315 315 315 315 315	01 0 50 3 10 9 10 9 10 9 10 9 10 9 10 9	01 001 50 050 01 001 10 010 10 000 10 000 10 010 50 050	001 350 000 310 000 010 010 050	001 050 000 010 000 010 010 050						
USER US	SER jumps SER threshold	001 050 3	101 0 1510 3	101 001 150 050	001 050	001 959						
TOR-SELEC	T (-/->-CHONCE	Dellas • D)~9 D	In De De	4 0	гт де н	· C	<u> </u>	I T +4	1 - EV I T	MID	TIC

Genlock status

Genlock statusセクションは、以下の情報を提供します:

- Genlockステータス: OK、bad
- Genlockが正しく設定/リストアされた日付と時間

Analog LTC status

Analog LTC statusセクションは、アナログLTCタイムコードの現在のステータスを表示し、Genlockと比較し検出されたドリフト回数も表示します。

使用しているMTPCボードに依存して、可能なステータス値は、以下です:

ステータス	説明
ОК	タイムコードは、通常通り進んでいます。
Drift	受信されたタイムコードとGenlockが、同期していません。
Bad	受信されたタイムコードが、正しくありません。 例: PALタイムコードの代わりに、NTSCタイムコードを受信(freq.error)、 タイムコードの受信に妨害あり(bad signal)。
Lost	タイムコードが、ありません。

TimeCode Status

序文

Timecode Statusセクションは、タイムコードジャンプテーブルの管理とモニタリングの設定を表示します。 収録素材内で、タイムコード内の中断、ジャンプが起きると、このテーブル内に記録されます。 タイムコードジャンプテーブル内の記録は、XT3サーバー上のビデオ素材の検索と計算に使用されます。

2つのタイムコードジャンプテーブルがあります:

- LTCタイムコード用のタイムコードジャンプテーブル
- Multicam Configurationモジュール、Channelsタブ、Timecode Settingsエリア、Userフィールド内で、ユーザーが 指定したタイムコード用のタイムコードジャンプテーブル



LTC Timecode

LTC	説明	デフォルト値
LTC jumps	指定レコーダで、サーバーが最後に開始されてから、LTCタイムコードジャンプ	1
	テーブル内で計算されたタイムコードジャンプの数。	
LTC threshold	LTCタイムコードジャンプテーブル内に新しいテーブルを作成するための、収録	50
	素材内のLTCタイムコード内のブレイク後、受信する連続するタイムコードの数。	
Peak alerts	サーバーが最後に開始して以降のレコーダ用のピーク警告の数。	0
	ピーク警告は、Peak Limitフィールド内に指定したピークリミットに到達するたび	
	に、作成されます。	
	この場合には、このフィールドは、自動的に、1つ増えます。	
Peak limits (sec)	収録素材内のタイムコード内のブレイクがピーク警告を作成するまでの連続す	10
	るタイムコードの時間間隔秒)。	
	ピーク警告が作成されると、Peak Alertsフィールド内の値は1つ増えます。	
Frequency alert	サーバーが最後に開始して以降のレコーダ用の周波数警告の数。	0
	周波数警告は、Xタイムコードジャンプが、Y秒以内に検出されると作成されます	
	X値は、Frequency Numberフィールド内で設定します。	
	Y値は、Frequency Timeフィールド内で設定します。	
	この時、このフィールドは、自動的に、1つ値が増えます。	
Frequency number	周波数警告が作成された以降のレコーダで検出されたタイムコードジャンプの	10
	数。	
Frequency time	周波数警告作成後の、時間間隔(秒)。	50

User Timecode

VITC	説明	デフォルト値
VITC jumps	指定レコーダで、サーバーが最後に開始されてから、VITCタイムコードジャンプテ ーブル内で計算されたタイムコードジャンプの数。	1
VITC threshold	VITCタイムコードジャンプテーブル内に新しいテーブルを作成するための、収録	50
	素材内のVITCタイムコード内のブレイク後、受信する連続するタイムコードの数。	

しきい値を永続的に変更する方法

このモニタリングページ内でThreshold(しきい値)を変更すると、現在のセッション内では保存されますが、EVSサーバーを再起動すると、変更は失われます。

変更を永続させるには、値を変更後、ALT + Sを押します。



5.1.5. Timecode Monitoringウインドウ

序文

Timecode Monitoringウインドウは、動作中のコンフィグ内で使用される各種タイムコードを表示します。 SDまたはHDで作業するかにより、少し異なります。

SDレコーダ上のタイムコード

サーバーがSDコーデックで動作するとき、以下のタイムコード情報が表示されます:

● LTCタイムコード

● 各レコーク	ダ上のVITC	タイムコード		
SH+ESC:UGA EXPLORE	SERVER MON	ITORING PAGE 4 Sh+F4:Network	Monitoring F9:CLIP	Z) F10:PLST
TimeCode Monitor: Analog LTC : 07:4	ing 42:14:18 [ASCEND UTC	INGJ		
Rec1 00:0 Rec2 00:0 Rec3 00:0 Rec4 00:0 Rec5 00:0	00:40;03 LOFF 00:40;03 LOFF 00:40;03 LOFF 00:40;03 LOFF 00:40;03 LOFF 00:40;03 LOFF]]]]		
Rec6 00:0	00:40;03 [OFF]		
TAB:SELECT <-/->:Cl	HANGE PgUp:Pg	3 PgDn:Pg5	ALT+Q:EXIT	MULTICAM

HDレコーダ上のタイムコード

サーバーがHDコーデックで動作するとき、以下のタイムコード情報が表示されます:

- LTCタイムコード
- 各レコーダ上のHANCタイムコード

SH+ESC=UGA	SE	RUER MONITORING PA Sh+F4:	GE 4 Network	Monitoring F	2) 9:CLIP_F10:PLST
TimeCode Analog L Rec1 Rec2 Rec3 Rec4 Rec5 Rec6	Honitoring TC : 07:35:44:09 ATC-UITC 00:58:29:02 00:58:29:02 00:58:29:10 00:69:17:10 00:69:48:20 00:69:48:20 00:69:48:20	IASCENDING] A IASCENDING] B0:: IASCENDING] B0:: IASCENDING] B0:: IASCENDING] B0:: IOFF B0:: IOFF B0:: IOFF B0::	TC-LTC 58:19;04 58:13;1! 58:07;00 09:48;20 09:48;20 09:48;20	I IASCENDING IASCENDING IASCENDING IASCENDING IOFF IOFF	1 1 1 2 2 3
TAB:SELECT	<-/->:CHANGE	PgUp:Pg3 PgDn:Pg5		ALT+Q	EXIT MULTICAM



5.1.6. Log Management

序文

Log Managementウインドウは、ログ管理専用メニューを表示します。

このウィンドウは、ユーザーフレンドリーで簡単なログの管理を可能こし、ログファイルはMulticam動作中にリモートコン ピュータからアクセスできます。

SH+ESC:UGA EXPLORER	SERVER MONITORI	NG PAGE 5 h+F4:Network Monitor	Za ing F9:CLIP F10:PLS
MicroCode Logs	Log Manager	ment Menu Multicam Logs	
0 mC_Boot 1 mC_HAL 3 mC_Seneral 4 mC_GEE_Driver 5 mC_SCS1 6 mC_Cache 7 mC_AvIndex 8 mC_DataTrfSched 9 mC_Cathgr 10 mC_DataSave 11 mC_SystemBackup 12 mC_Audio_Recs 14 mC_Stiller 15 mC_CnLlgRec 15 mC_CnLlgRec	- Gritical - Gritical	64 Mul Gbe 65 Mul General 66 Mul General 67 Mul Renote. 68 Mul General 68 Mul Renote. 79 Mul Renote. 70 Mul Renote. 73 Mul Renote. 73 Mul Renote. 73 Mul Renote. 74 Mul Renote. 74 Mul Renote. 75 Mul Playlist 75 Mul Playlist 76 Mul Playlist 78 Mul Playlist	- Gritical - Gritical
TOR-SELECT (-/-)-CHONCE	Dollas • Dod	Sh+E1 • Menu 1	ALT+O-FYIT MULTICOM

ログファイルのタイプ

左のカラムは、マイクロコードに関連する項目を表示します。 右のカラムは、Multicamに関連する項目を表示します。 各項目は、2つの関連するログファイルを持っています:

- 通常のログファイル
- エラーのみ記録されたログファイル

クリティカリティレベル

各項目は、変更可能なクリティカリティレベルを持っています

- クリティカリティの最も低いデフォルトレベルは Criticalで、クリティカルと重要なコマンドのみ記録します。 これは、全項目のデフォルト値です。
- 中間レベルはNormalです。
- 最高レベルはDebug で、基本的に全コマンドを記録します。 最高レベルは、認定されたEVSスタッフのアドバイスなしに選択してはいけません。

SHIFT+F1 を押すと、このウインドウで使用可能な全コマンドの情報を提供するHelpスクリーンを表示します。



Debugモードに切り替えるときには、まず問題を再現し、ログを抽出し、最後にデフォルトのCriticalモードに戻してください。

ログファイルの抽出

このウインドウでは、Multicamが動作中にログファイルを抽出することができます。

Log Managementウィンドウが開いているときに、E を押しログファイルを即座に採取し、リモートコンピューターから 一般的なFTPクライアントアプリケーション経由でアクセスできます。

抽出されたファイルは、C:¥LSMCE¥DATA¥LOG.内にあります。

ファイル名は下線で始まります:通常のログファイルMulticam_Database.logは、アプリが動作中に抽出されると、 _Multicam_ Database.log.と名前変更されます。





XNetMonitorから、XNetネットワーク上で動作しているサーバーのログを抽出できます。



5.2. SDTI Network Monitoring

5.2.1. SDTI Network Monitoringウィンドウ概要

SDTI Network Monitoringウインドウは、EVSサーバーが指定コンフィグで動作中に、サーバーベースアプリケーションよりアクセス可能です。

SDTI Network Monitoringセクションにアクセスするには、SHIFT+F4を押します。

以下のページでコンフィグされています

- SDTI Network Schema (ページ1)は、SDTIネットワークのスキーマ的構造を表示します。
- Hardware Error Counters (ページ2)は、SDTI関連エラーが返されたハードウェアのリストを提供します。

5.2.2. SDTI Networkスキーマ

概要

このページは、SDTIネットワークのスキーマを表示します。

ここで、SDTIネットワークステータスをチェックでき、ハードウェアデバイスが SDTIネットワーク上でどのように相互接 続されているか見ることができます。



表示データ

全てのマシンは、論理接続順番で表示されます。 (ネットワーク上で効果的に接続される方法) 各マシンに対して、以下の情報が表示されます:

- ネット番号+名前
- シリアル番号
- メインネットワークコンフィグ設定 (server、master、client)、EVSアプリケーションで設定します。

背景色

指定マシンに関連するデータの背景色の意味は:

- 青色: 起動中のサーバー
- 灰色: 起動していないサーバー



テキスト色

テキスト色は、SDTIネットワークメールボックスがいくつ使用されているかに基づき、ビデオネットワークオーバーロードを示します:

● **白色**: (OK)

90% 以下のネットワーク帯域が使われています。

● **赤色**: (警告)

90% 以上のネットワーク帯域が使われていて、ネットワークが過剰であることを意味しています。

リンク色

リンク色は、2つのマシンの物理的なリンクを意味します:

- **緑色**: OK
- 赤色: エラー

可能な動作

- Sを押すと、SDTIネットワークの表示を変更し、シリアル番号またはトポロジーに基づいて表示します。
- ENTERを押すと、ステータス情報をリセットします。
- SPACEBAR を押すと、モニタリングをリセットもしくは再開始します。
- F5 を押すと、SDTIネットワークスキーマをスキーマをリフレッシュします。
- 右矢印を押すと、2番目のSDTIネットワークモニタリングウインドウを表示します。

このウインドウから、EVSサーバーが接続されているXhubブランチの切断もできます。



5.2.3. ハードウェアエラーカウンタ

SDTIモニタリングセクションの2番目のページは、SDTIネットワーク上に存在するハードウェアデバイスのリストを提供します。

(シリアル番号でソートされた、エラーカウンタ情報含む)

				SDTI 1	NETHOR	K MONI	TORING			Zv
SH+ESO	:VGA E	XPLORER				F6:KW1	F7:KW2	F8:SEARCH	F9:CLIPS	F10:PLST
SDTI	Sn	PrvSn	Name	CpLk	Frm	Mb	TimeOu	t		
SØZL	024940	025120	XT ADL	00000	00134	37		0		
MØ1	025120	024940	XT3 PGE	00000	42736	37		0		
Refres	sh time	: 003/03	30 s [+,	/-1 Cha	ange t	ime [F51 Ref	resh	Station	2/2
Ctrl-f	alt−L :	Discom	nect XHul	b brand	ch fro	n netw	ork.		Sci	roll:1/2
1 1 1	Chango	De Della	Dw · Como	11 0	- C . C	-i-1 C	owt Bot	+2 toff : max	t Smaco I	

操作可能状態で、全てのマシンが接続されていると、CpLk (ネットワークの電気的な品質) とFrm (パケットのチェッ クサム)は、一切増えません。

一方、カウンタは、ネットワークの接続/切断中に増えます。

5.2.4. XNet Networkよりサーバーを切断する

序文

モニタリングセクション、ページ2から、EVSサーバーが接続されているXHubブランチを、XNetネットワークから切断 できます。

これは、SDTIネットワークの設定時、またはSDTIネットワークの問題のトラブルシューティング時に有効です。 この機能は、XHubバージョン3.03以降を使用している時のみ、可能です。

XNetネットワークからマシンを切断する方法

サーバーからマシン切り離すには、以下を行います

- 1. SHIFT-F4を押し、SDTI Network Monitoringウィンドウへアクセスします。
- CTRL-ALT-L を押し、XHubブランチをネットワークより切断します。
 以下の警告が表示されます:

'The network branch you are connected on will be disconnected from the network. All network actions will be disabled.'

3. ENTERをクリックし、XHubブランチをネットワークより切り離すこと確定します。

SDTI Network Monitoringウィンドウ上には、以下の赤色フォントのメッセージが、マシンが切り離された事と再接続方法を表示します:

'XHub branch disconnected from the network. Press CTRL-ALT-L to reconnect.'



5.3. プロトコルズ

5.3.1. 概要

EVSサーバーは、色々なプロトコルから制御可能です。 このセクションでは、サポートされているプロトコルについて簡単に述べます。 この説明の目的は、網羅することではなく、プロトコルの能力とサポートされている機能の簡単な概要を提供する 事です。



5.3.2. Sony BVW75

プロトコルの能力

このSonyプロトコルでは、以下が可能です:

- トランスポートコマンドの使用
- チャンネルステータスの取得
- チャンネルTCの取得

特性

ビットレート

38.4K bits/s

コマンドコンフィグ



- CMD-1: コマンドカテゴリー
- DataCount: コマンド内のバイト数
- CMD-2: コマンド数
- Data-x: コマンドパラメータ
- CheckSum: 妥当性チェック

返信

Ack: コマンド受信と実行

名前	CMD-1	Data Count	CMD-2	CheckSum
コマンド	1	1	01	XX

Nack: エラーr					
名前	CMD-1	Data Count	CMD-2	Data-1	CheckSum
コマンド	1	1	12	ZZ	XX



サポートされているコマンド

このテーブルは、サポートされているコマンドの要約です:

コマンド	リターン
00.0C Local Disable	10.01: Ack
00.11 Device Type Request	12.11.20.25 (PAL用)
	12.11.21.25 (NTSC用)
00.0D Local Enable	10.01 : Ack
20.00 Stop	10.01 : Ack
20.01 Play	10.01 : Ack
20.02 Record	10.01: Ack (カスタマイズ)
20.04 StandByOff	10.01 : Ack
20.05 StandByOn	10.01: Ack
20.0F Eject	10.01: Ack (カスタマイズ)
20.10 Forward	10.01 : Ack
2X.11 Jog Fwd	10.01 : Ack
2X.12 Var Fwd	10.01 : Ack
2X.13 Shuttle Fwd	10.01: Ack
20.20 Rewind	10.01: Ack
2X.21 Jog Rew	10.01: Ack
2X.22 Var Rew	10.01: Ack
2X.23 Shuttle Rew	10.01: Ack
20.30 Preroll	10.01: Ack
24.31 CueUp With Data	10.01: Ack
20.54 Anti–Clog Timer Disable	10.01: Ack (動作なし)
20.55 Anti–Clog Timer Enable	10.01: Ack (動作なし)
20.60 Full EE OFF	10.01: Ack (動作なし)
20.61 Full EE ON	10.01: Ack (動作なし)
20.64 Edit OFF	10.01: Ack (動作なし)
20.65 Edit ON	10.01: Ack (動作なし)
40.00 Timer-1 Preset	10.01: Ack
40.08 Timer-1 Reset	10.01: Ack
40.10 Set In	10.01: Ack
40.11 Set Out	10.01: Ack
44.14 IN Preset	10.01: Ack
44.15 OUT Preset	10.01: Ack
40.20 Reset In	10.01: Ack
40.21 Reset Out	10.01: Ack
40.30 Edit Preset	10.01: Ack
44.31 Preroll Preset	10.01: Ack
40.35 Color Frame Select	10.01: Ack (動作なし)
41.36 Set Timer Mode	10.01: Ack
40.40 Set Auto Mode OFF	10.01: Ack
40.41 Set Auto Mode ON	10.01: Ack
40.9E Superimpose	10.01: Ack (動作なし)
61.0A Request TCGen	74.08: GEN TIME DATA

CONFIGURATION MANUAL XT3 Server 15.3	Issue 15.3.C - December 2017	
	74.09: GEN UB DATA	
	78.08: GEN TC & UB DATA	
61.0C Request TimeCode	74.00 TIMER-1 DATA	
	74.04 LTC TIME DATA	
	74.05 LTC UB DATA	
	78.04 LTC TIME & UB DATA	
	74.06 VITC TIME DATA	
	74.07 VITC UB DATA	
	78.06 VITC TIME & UB DATA	
60.10 Request IN	74.10 IN DATA	
60.11 Request OUT	74.11 OUT DATA	
61.20 Request Status	7X.20 STATUS DATA	
60.2E Request Speed	7X.2E COMMAND SPEED DATA	
60.31 Request Preroll	74.31 PREROLL TIME DATA	
60.36 Request Timer Mode	71.36 TIME MODE DATA	



5.3.3. XTENDD35

プロトコルの能力

XTendDD35プロトコルは、Sonyプロトコルの拡張版です。 このプロトコルでは、以下が可能です:

- チェーニングなしでのクリップのプリロード
- クリップ作成
- サーバーデータベースの取得

特徴

Sonyプロトコルと同じ特徴を持っています。

サポートされているコマンド

このプロトコルは、Sonyプロトコルと同じコマンドと、以下のコマンドをサポートしています:

コマンド		リターン
60.81 :	Request current ID	7X.81
60.82 :	Get First ID	7X.82
60.83 :	Get Next ID	7X.82
60.84 :	Get First Delete ID	7X.84
60.85 :	Get Next Delete ID	7X.84
60.86 :	Get First ID Added ID	7X.86
60.87 :	Get Next ID Added ID	7X.86
67.91 :	Request ID duration	7X.91
27.82 :	Open File	10.01

EVSは、サーバーポテンシャルの利点を使用するために、幾つかのカスタムコマンドを追加しています。 これらのコマンドについての詳細は、EVSにご連絡ください。



5.3.4. Odetics

プロトコルの能力

Odeticsプロトコルは、Sonyプロトコルの拡張版です。

- このプロトコルでは、以下が可能です:
- チェーニングなしでのクリップのプリロード
- クリップ作成
- サーバーデータベースの取得

特徴

Sonyプロトコルと同じ特徴を持っています。

サポートされているコマンド

このプロトコルは、Sonyプロトコルと同じコマンドと、以下のコマンドをサポートしています:

コマンド	リターン
00.11 : Device Type Request	12.11 : Device Type
2X.31 CueUp With Data (Odetics extention)	10.01: Ack
44.14 Preset IN (Odetics extention)	10.01: Ack
44.15 Preset OUT (Odetics extention)	10.01: Ack
40.40 Auto Mode Off	10.01: Ack
40.41 Auto Mode ON (Odetics extention)	10.01: Ack
A0.01 Auto Skip	10.01: Ack
AX.02 Record Cue Up With Data。	10.01: Ack
AX.04 Preview In Preset	10.01: Ack
AX.05 Preview Out Preset	10.01: Ack
A0.06 Preview In Reset	10.01: Ack
A0.07 Preview OUT Reset	10.01: Ack
Ax.10 Erase ID	10.01: Ack
A0.14 List First ID	8X.14 ID Listing
A0.15 List Next ID	8X.14 ID Listing
A8.18 ID Status Request	81.18 ID Status
A0.1c Longuest Contiguous Available Storage $_{\circ}$	84.1C Longest Contiguous Available Storage
A0.21 Device ID Request	88.21 Device ID
A8.20 Set Device ID	10.01: Ack

EVSは、サーバーポテンシャルの利点を使用するために、幾つかのカスタムコマンドを追加しています。 これらのコマンドについての詳細は、EVSにご連絡ください。



5.3.5. VDCP

プロトコルの能力

Video Disk Control Protocol(VDCP)は、ビデオサーバー専用のプロトコルで、オートメーション用のデザインです。 このプロトコルでは、以下が可能です:

- 1つのシリアル接続で、複数のチャンネルを制御
- クリップのプリロードとチェーン
- クリップ作成
- サーバーデータベースの取得

特徴

ビットレート

38.4K bits/s

コマンドコンフィグ

		STX	BC	CMD1	CMD2	Data 1		<u>DataN</u>	Check Sum
--	--	-----	----	------	------	--------	--	--------------	-----------

1 byte

- STX: 02
- BC: コマンド内のバイト数
- CMD-1: コマンドタイプ
- CMD-2: コマンド数
- Data: コマンドパラメータ(最大255データ)
- CheckSum: 妥当性チェック

返信

- Ack (0x04)またはNack (0x05)
- データで返信

サポートされているコマンド

このテーブルは、サポートされているコマンドの要約です:

コマンド		リターン	
VarIDモード	8-bytes IDモード		
80.15	00.15 Delete Protect	04 Ack	
80.16	00.16 Undelete Protect	04 Ack	
-	10.00 Stop	04 Ack	
_	10.01 Play	04 Ack	
-	10.02 Record	04 Ack	
_	10.04 Still	04 Ack	
-	10.05 Step	04 Ack	
_	10.06 Continue	04 Ack	

CONFIGURATION M	ANUAL XT3 Server 15.3	Issue 15.3.C - December 2017
-	10.07 Jog	04 Ack
-	10.08 Var Play	04 Ack
A0.1D	20.1D Rename ID	04 Ack
-	20.1E Preset Standard Time	04 Ack
A0.1F	20.1F New Copy	04 Ack
-	20.20 Sort Mode	04 Ack
-	20.21 Close Port	04 Ack
-	20.22 Select Port	04 Ack
A0.23	20.23 Record Init	04 Ack
A0.24	20.24 Play Cue	04 Ack
A0.25	20.25 Cue With Data	04 Ack
A0.26	20.26 Delete ID	04 Ack
-	20.29 Clear	04 Ack
A0.2C	20.2C Record Init With Data	04 Ack
_	20.43 Disk Preroll	04 Ack
_	30.01 Open Port	30.81 Port Opened
B0.02	30.02 Next	B0/30.82 Next ID
B0.03	30.03 Last	B0/30.83 Last ID
-	30.05 Port Status	30.85 Status
-	30.06 Position Request	30.86 Position
B0.07	30.07 Active ID Request	B0/30.87 Active ID
-	30.08 Device Type Request	30.88 Device Type
-	30.10 System Status Request	30.90 System Status
B0.11	30.11 ID List	B0/30.91 ID
B0.14	30.14 ID Size Request	B0/30.94 ID Size
B0.16	30.16 ID Request	B0/30.96 ID Characteristic
B0.18	30.18 ID' s Added List	B0/30.98 Added ID
B0.19	30.19 ID' s Deleted List	B0/30.99 Deleted ID

EVSは、サーバーポテンシャルの利点を使用するために、幾つかのカスタムコマンドを追加しています。 これらのコマンドについての詳細は、EVSにご連絡ください。





6. Truck Managerプラグイン

6.1. 序文

Truck Managerへのプラグインのインテグレーション

この章では、Truck Managerアプリケーション用のMulticamプラグインについてを説明しています。

Multicamプラグインは、Multicamの操作設定に関連するリストからコンフィグされます。 これらの設定は、Truck Managerアプリケーション内の特定エリア内、Configurationペインの下部分内に表示されます。

Multicamプラグインでは、Multicamアプリケーションの操作に必要な設定を、リモートから設定/適用が可能です。

プラグイン配布

プラグインは、Multicamアプリケーションと一緒に提供されます。

Truck Managerアプリケーションは、指定設定で最初にEVSサーバーに接続された時に、正しいプラグインバージョンを自動的にダウンロードします。

このため、Truck Managerのバージョンは、Multicamアプリケーションの指定プラグインのバージョンに関連づけられていません。



6.2. プラグイン概要

序文

Multicamプラグインには、以下のスクリーンショットのハイライトされているエレメントが含まれます:

1				2) (3)	
 Multicam Setting 	s			Арр	ły 🔳	
5 - MulticamLSM DU	AL LSM		, ,	Adv	anced	
Configuration name	Curtom					-(4)
Server	Custom					
Md					—_ 	
<u>video</u> Field rate	50.00Hz 👻	Resolution		1080i	 	-(5)
Codec Intra						U
Codec	Mjpeg Standard (H	HD) 🚽	Bitrate (M	bps) 1	00 🗘	
Channels						
Raco sottings					—_ 	
Inputs	6 🚖	Outputs			2	
Base config	Multicam LSM		L	_		\sim
3G/Dual	No	_	_			-(6)
Dual LSM mode						
SLSM settings						
Number of cameras					0 🗘	
SLSM speed	2x				-	
On 3G-SDI						
Audio settings	0	_				
Number of tracks	8 monos					
Port settings	EVS Remote					
Port #2	EVS Remote	_			— <u> </u>	
Port #3	EVS IPDP	_	_			
Port #4	EVS IPDP	_		_		
Port #5				_		
Port #6		_				
Channel and contro	<mark>l settings</mark> Name	Main	ı ctrl	Port		
OUT1 PGM1	PGM1	EVS Rem	ote 🔻			
OUT2 PGM2	PGM2	EVS Rem	ote 👻			
IN1 REC1	REC1	EVS Rem	iote 👻			
IN2 REC2	REC2	EVS Rem	ote 🔻			
IN3 REC3	REC3	EVS Rem	ote 🔻			
IN4 REC4	REC4	EVS Rem	ote 🔻			
IN5 REC5	REC5	EVS Rem	ote 🔻			
IN6 REC6	REC6	EVS Rem	ote 🔻			
Network						
SDTI						
Speed	No relay 14 👻	Net name	Ļ	XT3_ADL		~
Туре	Server 🔹	Net numb	er		2 😂	-(7)
Gigabit IP configura	ition Port 1			Port 2		\sim
Network	Custom	-	Custom		-	
IP address	10.129.59.21		10.10.10.10	b		
Subnet mask	255.255.255.0		255.255.25	5.0		
Default gateway	10.129.59.1		10.10.10.1			

説明

下記のテーブルは、Multicamプラグインの各エレメントを説明しています:

パート	名前	説明
1.	プラグイン名	プラグインエリアを開いたり、閉じたりします。
2.	Applyボタン	Multicamに、パラメータ値を適用します。
3.	メニュー アイコン	コンテキストメニューを開くアイコンで、一般的なコマンド、またはMulticamに特化
		したコマンドを提供します。
4.	Configurationエリア	コンフィグラインを選択し、アドバンストMulticamパラメータにアクセス可能エリア
5.	Serverエリア	Multicamのメインサーバーパラメータを設定するエリア。
6.	Channelsエリア	Multicamのメインチャンネルパラメータを設定するエリア。
7.	Networkエリア	Multicamのメインネットワークパラメータを設定するエリア。



6.3. コンテキストメニュー

序文

下記のコンテキストメニューは、Truck ManagerのMulticamプラグイン内のコンテキストメニューアイコン目をクリックすることで使用できます。

コンテキストメニューは、一般的なコマンドとMulticamに特化したコマンドを提供します。



コマンドの説明

下記のテーブルは、コンテキストメニューの各コマンドについて説明しています:

コマンド名	コマンドを選択して
Reset	プラグインで設定した値を、Multicamアプリケーション内の現在の設定値にリセットし
	ます。
Export	Multicamアプリケーションに関連する全て設定値を、
	<name>-<productname>.cnfのパターンで名づけられた.cnfファイルでエクスポートし</productname></name>
	ます。
Import	.cnfファイル内に保存されている設定値を、アプリケーションプラグイン内にインポー
	トします。
Сору	Multicamアプリケーションに関連するパラメータを、クリップボードにコピーします。
Paste	クリップボードにコピーされているパラメータを、別のアプリケーションにペーストしま
	す。
Clear video disks	新しいコンフィグを開始するときに、EVSサーバー上の全てのクリップ、プレイリスト、
	レコードトレインを消去します。
Clear only Intra clips	EVSサーバー上のIntraエッセンスのクリップ、プレイリストを全て消去します。
Clear only LongGOP clips	EVSサーバー上のLongGOP エッセンスのクリップ、プレイリストを全て消去します。
Clear only record trains	EVSサーバー上のレコードトレインを消去します。
Cancel clear video disks	前に発行したclaer video disksコマンドをキャンセルします。



6.4. Configurationエリア

序文

この章では、Multicamプラグイン設定の上にあるConfigurationエリアについて説明しています。

7 - test RCP+SDTI

Advanced
Configuration name
test RCP+SDTI

フィールドの説明

以下のテーブルは、Configurationエリア内のフィールドを、左から右、上から下に説明しています:

アイテム	アイテムを使用して
Configuration Selectionフィールド	Truck Managerで編集したいMulticamコンフィグを選択します。
Advancedボタン	Multicam ConfigurationウィンドウのWebベースインターフェースのインター
	フェイスにアクセスし、Truck Manager内にないアドバンストパラメータにア
	クセスします。
Configuration nameフィールド	選択コンフィグの名前を変更します。



6.5. Serverエリア

序文

この章では、Serverエリア内で可能な各設定について説明しています。 各設定に目的の値を設定したら、Applyボタンをクリックして、リモートで、Multicamに値を適用します。

Video

Field rate

説明	使用するフィールド周波数(Hz)。
	フィールドレートとレゾリューションの両方が、ビデオ規格を提供します。
値	50.00 Hz (PAL)-デフォルト
	59.94 Hz (NTSC)
	59.94 Hz (J) (NTSC–J)

Resolution

説明	使用する縦方向の解像度(ピクセル+タイプ)	
	(画像の上から下で見える、白ー黒と黒ー白トランジションの数)	
	フィールドレートと解像度の両方が、ビデオ規格に対応します。	
	XT3サーバーでは、適切なライセンスコードがアクティブであれば、SDとHDビデオ規格を使用可能です	
値	SD:	
	525i	
	625i	
	HD:	
	• 720p	
	1080i	
	● 1080p (コード21または22で有効)	
	UHD:	
	● UHDTV-4K	



Codec Intra

Codec

説明	ビデオ信号の圧縮と伸張に使用されるアルゴリズム。	
	Intraコーデックでは、圧縮は、現フレーム内の情報に関連し排他的に実行されます。	
値	SD:	
	Mjpeg (SD)	
	• IMX	
	DVCPro 50	
	HD:	
	● Mjpeg EVS (HD)	
	Mjpeg Standard (HD)	
	Mpeg 2 Intra (HD)	
	● Avid DNxHD 120、185、185x (50Hzのみ)	
	● Avid DNxHD 145、220、220x (59.94Hzのみ)	
	Apple ProRes 422、422LT、422HQ	
	DVCPro HD	
	AVC-Intra 100	
	● XAVC-Intra 100	

Bitrate

説明	処理されるメガビット数/秒 (Mbps)。
	ビットレートは、コーデックに依存します。
値	コーデックごとのビットレート情報は、'関連する章を参照ください。

Codec LongGOP

Codec

説明	ビデオ信号の圧縮と伸張に使用されるアルゴリズム。	
	圧縮は、現在のフレーム内の情報と、絵のグループ(GOP)の別のフレームの情報に関連してなされま	
	す。	
値	XDCAM HD 50	

Bitrate

上記、Bitrateの項を参照ください。



Codec Proxy

Codec

説明	低解像度ビデオ信号の圧縮と伸張に使用されるアルゴリズム。	
	リモートのブラウジング目的で使用します。	
	Proxyエッセンスのみでは、EVSサーバーは動作できません。	
値	Mjpeg	

Bitrate

上記、Bitrateの項を参照ください。



6.6. Channelsエリア

序文

この章では、Channelsエリア内で使用できる設定にについて説明しています。 各設定に目的の値を設定したら、Applyボタンをクリックして、リモートで、Multicamに値を適用します。

Base Settings

Inputs

説明	SLSMレコーダーを含む、指定コンフィグ内の論理RECORDチャンネル数。	
	チャンネル間のディスク容量分割とアドバンストオーディオ設定は、RECORDチャンネル数に自動的に	
	割付られます。	
値	サポートされているチャンネル数は、シャーシとモードに依存します:	
	● XT3 6U: 0-12 (Spotbox)、1-12 (LSM)	
	● XT3 4U: 0-8 (Spotbox)、1-8 (LSM)	

Outputs

説明	指定コンフィグ内の論理PLAYチャンネル数。
値	● XT3 6Uと4U: 0-6 (Spotbox)、1-6 (LSM)



Base Config

デフォルト値は、Multicamアプリケーション内の設定にのみあてはまり、Truck Managerプラグイン内の設定にではありません。

説明	EVSサーバーの動作モードです。
	ベースコンフィグは、サーバータイプやライセンスコードに依存して、有効になります。
值	Multicam LSM:
	EVSサーバーが、LSMリモコンまたはMulticamプロダクションスクリーンから制御されるモード
	ライセンスコード: 103109 + 111 / 112
	Replay-Only LSM:
	プレイリスト管理、スプリットオーディオ、ハイパーモーションカメラサポートを除く、制限つき
	Multicam LSMモード。
	ライセンスコード: 103109
	● Video Delay:
	ビデオディレイを付加して、入力を再生するモード。
	ライセンスコード: 101 + 127
	Spotbox:
	EVSサーバーが、業界標準プロトコル:Sony BVW75、VDCP、Odetics、DD35、EVS'AVSP、
	IPDP、EDIT Rec、LinX API、またはMulticamプロダクションスクリーンから制御されるモード。
	ライセンスコード: 101 + 127
	• XSense:
	EVSサーバーが、XSenseLSMリモコンまたはMulticamプロダクションスクリーンから制御
	されるモード。
	ライセンスコード: 101 / 103109 + 111 / 112 + 96
	• Server:
	EVSサーバーが、業界標準プロトコルからのみ制御され、Multicamプロダクションスクリーン
	から制御されないモード。
	ライセンスコード: 101 (127なし)
	F&K Dual Spotbox:
	EVSサーバーを、FII&Keyサーバーとして使用する特別なモード。
	ライセンスコード97 (F&K Dual)が必要で、Base設定内の3G/Dualフィールド内でDual (3D)が
	選択されていなければなりません。
	このベース設定内では、EVSサーバーは、業界標準ブロトコル: Sony BVW75、VDCP、Odetics
	、DD35、EVS'AVSP、 IPDP、EDIT Rec、LinX API、またはMulticamブロダクションスクリーン
	から制御できます。
	ライセンスコード: 97
	LVS サーハーを、FIII& Key サーハーとして 使用する特別な モート。
	フィセンスコート9/(F&K Dual)か必要で、Base設定内の3G/Dualノイールト内でDual(3D)か [、] 翌中されていたければたりませく
	医状でれていなければなりません。
	このハース設定内 Cla、EVSサーハーは、XSenseLSMリモコン、または
	iviulucamノログ ソンコンヘソリーンから市街町 Cさま 9 。 ニノナンフョービ、 07
<u></u> #=	
ナノオルト1但	



Interface	
有効	このパラメータは、3D、1080p、UHD-4K解像度の場合のみ有効です。
説明	EVSサーバーが、3D、1080p、UHD-4K解像度、XIP背面パネルで使用するインターフェースを設定し
	ます。
	● Dual Linkインターフェース:
	ペアのHD-SDIシリアルリンク、2.970 Gbit/sのビットレートを提供します。
	● 3G-SDIインターフェース:
	シングルシリアルリンク、2.970 Gbit/sのビットレートを提供します。
値	以下の値が可能ですが、有効は複数の条件に依存します:
	● No: 全ての場合に使用可能です。
	● Dual (3D): 3D用のDual-Link
	○ ライセンスコード23 + 3D設定= Yes の場合に、有効です。
	● 3G Level A: 1080p用の3G-SDI、1つの3Gストリーム(ネイティブファイルの相互運用性)
	○ ライセンスコード22または27 + 1080p解像度の場合に、有効です。
	● 3G Level B: 1080p用の3G-SDI、2つのHDストリーム(ネイティブファイルの相互運用性)
	○ ライセンスコード22または27 + 1080p解像度の場合に、有効です。
	● 3G (3D): 3D用の3G-SDI
	○ ライセンスコード24+3D設定=Yes の場合に、有効です。
デフォルト値	No

Dual LSM

有効	パラメータは、特定の状態とライセンスコード116 (Dual LSMオプション)が有効な場合のみ、使用でき
	ます。
説明	Dual LSM機能を、アクティブにします。
	この機能は、2人のLSMオペレータが、同じサーバー上で、それぞれのLSMリモコンで、独立しての作
	業を可能にします。
値	Yes / No(デフォルト)



SLSM Settings

Number of cameras

有効	指定コンフィグ内のSLSMカメラの数。
	SLSMカメラは、1つの論理RECORDチャンネルに対応します。
値	最大カメラ数は、SLSM速度とRECORDチャンネルのトータル数に依存します。
	値の範囲: 0~4
デフォルト値	0

SLSM speed

有効	SLSMカメラが入力フィードを記録するフレームレート。
	標準フレームレート 24FPS (@50Hz) または 30FPS (@59.95 Hz)の乗数で表現されます。
値	2x, 3x, 4x, 6x, 8x, 10x, 16x
デフォルト値	2x

On 3G-SDI

有効	この設定は、720pまたは1080i解像度でのみ、有効です。
説明	SLSMカメラが、シングルシリアルリンクでコンフィグされる3G-SDIインターフェースを使って、
	EVSサーバーに接続されるかを指定します。
値	Yes / No (デフォルト)

Parity

有効	この設定は、SDコンフィグ時に表示されます。
説明	同一パリティまたは代替パリティ、どちらを適用するかを設定します。
値	Identical
	Alternate
デフォル値	Alternate

Audio settings

Number of tracks

説明	各ビデオチャンネルに関連付けるモノオーディオトラック数。
値	4 Mono (デフォルト)、8 Monos、16 Monos、32Monos



Port Settings

Port # 1 - # 6

デフォルト値は、Multicamアプリケーション内の設定にのみあてはまり、Truck Managerプラグイン内の設定にではありません。

説明	EVSサーバーの各RS422ポートに、どのタイプのデバイス/コントローラが接続されるか、設定しま
	す。
値	必要なライセンスコードがアクティブな場合に、以下の値が可能です:
	● EVS Remote: LSMリモコン (コード103~109)
	● EVS Remote: XSense (コード103~109、またはコード96)
	● EVS IPDP: (コード120または121)
	● Sony BVW75: (⊐—ド118)
	● XtenDD35: (⊐—ド118)
	● OdeticsとOdetics FK: (⊐—ド119)
	● VDCPとVDCP FK: (コード119)
	● EVS AVSP: (コード120、または121)
	● Edit Rec: (⊐—ド122)
	● LinX: (コード123)
デフォルト	ポート#1(のみ): IPDP

Channel and control settings

Name

説明 PLAY/RECORDチャンネルのユーザー設定名。 この名前は、OSDとIPDirectorソフトで使われます。 名前は、最大24文字です。

Main ctrl (Main Controller)

説明	指定PLAY/RECORDチャンネルのコントロールを許可されるメインのデバイス/コントローラーの名前。
値	コントローラがこのリスト内で選択可能になるには、最初に、Port settings内でRS422ポートに割り当てられな
	ければなりません。
	さらに、各コントローラに設定されたルールが、コントローラの割り当てに適用されます。
	(単独または他のコントローラとの組み合わせ)
	間違ったプロトコル選択/プロトコル組み合わせの場合には、エラーメッセージが表示され警告し、エラーを含
	むフィールドは、赤色にハイライト表示されます。



6.7. Networkエリア

序文

この章では、Networkエリア内で使用可能な各設定について説明しています。 各設定に目的の値を設定したら、Applyボタンをクリックして、リモートで、Multicamに値を適用します。

SDTI

Speed

説明	SDTIオプションとXNetネットワークのバンド幅を選択します。
	XT3サーバーでは、1ペアのSDTIコネクタです:
	XNet2 Non-Relayコネクタは、2970Mbpsで使用します。
	SDTI回路は、Multicamソフトウェアが開始された時のみ、閉じられます。
値	下記の値が、可能です:
	No Relay 2970 (Mbps)
	• Off

Net name

説明	SDTIネットワーク上のマシン名。
	EVSサーバーには、ネットワーク番号が割り当てられているため、必須ではありません。
	しかし、XNetネットワークに接続されているサーバーを容易に識別する手助けになるため、推奨されま
	す。
	Net nameは、SDTコードが有効でなくても、表示されます。
値	Net nameはユーザー設定で、8文字を超えることはできません。

Туре

説明	SDTIネットワーク上でのEVSサーバーの役割を設定します。
値	以下の値が、可能です:
	● Client: 他のEVSサーバー上のコンテンツにアクセスできません。
	● Master: 他のEVSサーバー上の全てのコンテンツにアクセスできます。
	● Server: SDTIネットワークを管理し、他のEVSサーバー上の全てのコンテンツにアクセスできます。
	ネットワーク上で、1台のEVSサーバーのみをServerと設定しなければなりません。
	ネットワーク上で、Serverが規定されていない場合には、XNetは確立しません。
	複数のEVSサーバーがServerタイプに設定されていると、最初に接続されたものだけが、実際の
	Serverとなります。
	どのサーバータイプに設定されても、SDTIネットワーク上の他のサーバー(タイプ MasterまたはServer)
	に制限されることなく、EVSサーバーのコンテンツは、アクセスされる事が可能です。

Net number

説明	ネットワーク上のマシン番号を設定するパラメータです。
	この番号は、ユーザー設定で、ネットワーク上の各システムで固有でなければなりません。
	番号が既に別のマシンに割り当て済であれば、エラーメッセージが表示されます。
値	範囲: 1~29



Gigabit IP configuration

IP address (Port 1 / Port 2)

説明	EVSサーバー(またはゲートウェイPC)上のGigabit Ethernet接続のport1/port2のIPアドレス。
値	IPアドレス0.0.0と255.255.255.255は、許可されません。

Subnet mask (Port 1 / Port 2)

説明	Gigabit Ethemet接続に割り当てられるアドレススペース内の論理アドレスの範囲。
	両方のGbEポートのIPアドレスは、異なるサブネットマスクに属さなければなりません。
	同じ場合には、Multicamはエラーメッセージを返します。

Default gateway (Port 1 / Port 2)

説明	Gigabit Ethernetネットワーク上の外部ネットワークへのアクセスポイントとして動作するルータのIPアドレ
	ス。



Configuration Manual Version 15.3 – December 2017

XT3 コンフィグマニュアル

発行年月 2018年 1月 発 行

株式会社フォトロン

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング21階

OC2018.PHOTRON LIMITED, All rights reserved. Printed in Japan.